

06年度以降(春) 03~05年度(春)	英語学入門 英語学概論 a	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 英語学とは英語の言語学であり、言語学は人間の言語を科学的に研究する学問領域である。英語学は英語という言葉のさまざまな面を科学的に研究する分野である。この講義では、英語の歴史を簡単に振り返り、英語の音・語・文・意味・用法がどのような特徴をもつかを概観する。</p> <p>講義概要: 人間がどのような音を用いるか、英語ではどのような音が用いられているかは音声学と音韻論で説明される。文の最小単位である語の内部構造は形態論によって研究される。統語論は、語によって構成される文がどのような語の配列と構造をもつか、どのように説明するのが適切であるかを研究する。意味論は、文がどのような意味内容を表すかを扱う。文の意味内容を理解するためには、語句の文における機能、語の意味や語の結合の意味計算、語の修飾関係などを知る必要がある。文の意味解釈に文を使用する文脈・脈絡がどのような影響を及ぼすかを説明するのは語用論である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語学とは何か:英語の言語学的研究, 言語学の研究領域 2. 英語の歴史的背景:英語の系譜, 英語の時代区分 3. 英語の歴史的特徴:発音・綴り字の変化, 語順の確立 4. 音声学:音声学と音韻論, 子音と母音の特徴と種類 5. 音韻論(1):英語の母音・子音体系, 母音の種類, 子音の種類 6. 音韻論(2):音韻操作・過程, 強勢・リズム・音調 7. 形態論(1):語の基本構造, 形態素の種類と語の構成 8. 形態論(2):語形成の方法, 派生接辞と屈折接辞, 複合語 9. 統語論(1):語句のまとまり, 語順の役割 10. 統語論(2):文法機能の決定, 句構造標識による説明 11. 統語論(3):句構造標識の表す情報, 抽象的構造と派生 12. 意味論(1):意味解釈の諸相, 語彙的曖昧性と非曖昧化, 構造上の曖昧性, 語の意味分析, 意味素性 13. 意味論(2):文の意味分析, 動詞の意味素性による意味解釈, 移動構文の意味解釈 14. 語用論:発話行為, 直示表現, 間接発話行為 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: プリントを配布. 参考書: 安井稔(1987)『英語学概論』, 西光義弘・他(1999)『日英語対照による英語学概論』</p>		<p>出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する. なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる.</p>	

06年度以降(秋) 03~05年度(秋)	英語学入門 英語学概論 a	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 英語学とは英語の言語学であり、言語学は人間の言語を科学的に研究する学問領域である。英語学は英語という言葉のさまざまな面を科学的に研究する分野である。この講義では、英語の歴史を簡単に振り返り、英語の音・語・文・意味・用法がどのような特徴をもつかを概観する。</p> <p>講義概要: 人間がどのような音を用いるか、英語ではどのような音が用いられているかは音声学と音韻論で説明される。文の最小単位である語の内部構造は形態論によって研究される。統語論は、語によって構成される文がどのような語の配列と構造をもつか、どのように説明するのが適切であるかを研究する。意味論は、文がどのような意味内容を表すかを扱う。文の意味内容を理解するためには、語句の文における機能、語の意味や語の結合の意味計算、語の修飾関係などを知る必要がある。文の意味解釈に文を使用する文脈・脈絡がどのような影響を及ぼすかを説明するのは語用論である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語学とは何か:英語の言語学的研究, 言語学の研究領域 2. 英語の歴史的背景:英語の系譜, 英語の時代区分 3. 英語の歴史的特徴:発音・綴り字の変化, 語順の確立 4. 音声学:音声学と音韻論, 子音と母音の特徴と種類 5. 音韻論(1):英語の母音・子音体系, 母音の種類, 子音の種類 6. 音韻論(2):音韻操作・過程, 強勢・リズム・音調 7. 形態論(1):語の基本構造, 形態素の種類と語の構成 8. 形態論(2):語形成の方法, 派生接辞と屈折接辞, 複合語 9. 統語論(1):語句のまとまり, 語順の役割 10. 統語論(2):文法機能の決定, 句構造標識による説明 11. 統語論(3):句構造標識の表す情報, 抽象的構造と派生 12. 意味論(1):意味解釈の諸相, 語彙的曖昧性と非曖昧化, 構造上の曖昧性, 語の意味分析, 意味素性 13. 意味論(2):文の意味分析, 動詞の意味素性による意味解釈, 移動構文の意味解釈 14. 語用論:発話行為, 直示表現, 間接発話行為 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: プリントを配布. 参考書: 安井稔(1987)『英語学概論』, 西光義弘・他(1999)『日英語対照による英語学概論』</p>		<p>出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する. なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる.</p>	

06年度以降(秋) 03~05年度(秋)	英語学入門 英語学概論 a	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>contrastive と demonstrative はともに -ive で終わり、形容詞ですが、アクセント位置は後ろから数えると異なります。では、commemorative の品詞は？アクセント位置は？かなり難しい単語なので「知らない」と答えるかもしれませんが、実は簡単な規則で予測できてしまいます。英語の母国語話者はこの規則を無意識な知識として持っていて、知らない単語、新しく作られた語に出会っても、品詞、アクセント位置などが「分か」ります。日本語の母国語話者としての私たちも同様に無意識の言語知識を持っています。例えば「凧(たこ)」と「凧(かぜ)」の前に「大(おお)」を付けて発音してみてください。違いがあるはずですが、1つ1つ単語の発音を暗記しているからだと思ってしまうかもしれませんが、実はそうではありません。</p> <p>この授業では言語を意識的に分析してみることによって、言語が緻密な構造を持っていること、そして「人間の言語はどれも同じ」と言ってもいいほど共通性があることを見ていきます。扱うデータは英語が中心ですが、日本語に見られる同様の現象も積極的に取り上げていきます。さらに、実際の英文和訳、作文などでも言語を分析的にとらえる能力が非常に役に立つことも実感してもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 無意識の(言語)知識=Human Intelligence 2. 英語の音のしくみ 3. 様々な音韻現象 (クイズ1) 4. 英語の単語の成り立ち (クイズ2) 5. 続き (クイズ3) 6. 英語のアクセント (クイズ4) 7. 中間試験(1~6週の範囲) 8. 英語の文構造 (クイズ5) 9. 続き (クイズ6) 10. 続き (クイズ7) 11. 文構造と意味解釈 (クイズ8) 12. 子供の言語獲得・言語障害 (クイズ9) 13. 私たちにとって言語とは何か (クイズ10) 14. まとめ <p>定期試験(全範囲)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはなし。プリントを配布する。		授業の最初に簡単な復習クイズを行う(上記の授業計画参照)。評価はこのクイズ(10%)、中間試験(40%)、定期試験(50%)による。	

06年度以降(秋) 03~05年度(秋)	英語学入門 英語学概論 b	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>contrastive と demonstrative はともに -ive で終わり、形容詞ですが、アクセント位置は後ろから数えると異なります。では、commemorative の品詞は？アクセント位置は？かなり難しい単語なので「知らない」と答えるかもしれませんが、実は簡単な規則で予測できてしまいます。英語の母国語話者はこの規則を無意識な知識として持っていて、知らない単語、新しく作られた語に出会っても、品詞、アクセント位置などが「分か」ります。日本語の母国語話者としての私たちも同様に無意識の言語知識を持っています。例えば「凧(たこ)」と「凧(かぜ)」の前に「大(おお)」を付けて発音してみてください。違いがあるはずですが、1つ1つ単語の発音を暗記しているからだと思ってしまうかもしれませんが、実はそうではありません。</p> <p>この授業では言語を意識的に分析してみることによって、言語が緻密な構造を持っていること、そして「人間の言語はどれも同じ」と言ってもいいほど共通性があることを見ていきます。扱うデータは英語が中心ですが、日本語に見られる同様の現象も積極的に取り上げていきます。さらに、実際の英文和訳、作文などでも言語を分析的にとらえる能力が非常に役に立つことも実感してもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 無意識の(言語)知識=Human Intelligence 2. 英語の音のしくみ 3. 様々な音韻現象 (クイズ1) 4. 英語の単語の成り立ち (クイズ2) 5. 続き (クイズ3) 6. 英語のアクセント (クイズ4) 7. 中間試験(1~6週の範囲) 8. 英語の文構造 (クイズ5) 9. 続き (クイズ6) 10. 続き (クイズ7) 11. 文構造と意味解釈 (クイズ8) 12. 子供の言語獲得・言語障害 (クイズ9) 13. 私たちにとって言語とは何か (クイズ10) 14. まとめ <p>定期試験(全範囲)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはなし。プリントを配布する。		授業の最初に簡単な復習クイズを行う(上記の授業計画参照)。評価はこのクイズ(10%)、中間試験(40%)、定期試験(50%)による。	

03～05 年度 (春)	英語学概論 b	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、言語学の最近の発展から得られた知見を利用し、英語の特質を探り当てて英語そのものの理解を深め、英語についての知識を増やすことにあります。したがって、高校時代に習ってきた表現が「なぜそう言えるのに、こうは言えないの?」という素朴な疑問に対して、それなりに「なるほど!」と納得のいく理由のあることを説明していきます。</p> <p>この授業を受けると、例えば日本語で「ジョンにタバコをやめるよう説得したけれど、やめなかった」と言えても、“I persuaded John out of smoking, but he didn’ t quit smoking.”と言えない理由や、“I’ m standing () the street.”のカッコに in も on も入るけど、意味が違うことが分かるようになります。役に立つ、本質的知識を身につけ、その過程で、ことばが人間であることの大事な証(あかし)であることを理解してほしいと思っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語と日本語の情報構造 2. 情報の新旧と冠詞 3. 情報構造と書き換え構文 4. 英語受動文 5. GET 受身と BE 受身 6. 動詞的受身と形容詞的受身 5. 自動詞構文と他動詞構文 6. 再帰代名詞の使い方 7. 動詞の意味と構文(結果構文) 8. 動詞の意味と構文(二重目的語構文) 9. 動詞の意味と構文(壁塗り構文) 10. 動詞の意味と構文(tough 構文と中間構文) 11. 動詞の意味ネットワーク 12. 前置詞の意味 13. 続き 14. 前置詞の意味ネットワーク 15. アスペクト(進行相と完了相) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：本学の講義支援ポータルサイトを通じてプリントを配布する。 参考書：授業中に適宜紹介する。</p>		課題と小テストおよび定期試験で決める。	

03～05 年度 (秋)	英語学概論 b	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的と内容は春学期と同じです。</p> <p>もう少し、この授業を受けると分かるようになる例を挙げておきます。</p> <p>(1) 沸くのは「やかん」ではなく「お湯」なのに、英語も日本語も「やかんが沸く」と言う。 a. The kettle is boiling. b. ヤカンが煮えくり返っている。</p> <p>(2) ‘write Mary a letter’ と ‘write a letter to Mary’ は同じ意味だと習ったのに、b は言えない。 a. John wrote a letter to Mary, but later he tore it up. b. *John wrote Mary a letter, but later he tore it up.</p> <p>(3) [疲れている人に向かって]「一所懸命働いたから疲れを感じるのさ」という場合には a のほうがよい。 a. You feel tired because you’ ve worked hard. b. ??Because you’ ve worked hard, you feel tired.</p> <p>(4) 受動文で get と be のどちらを使ったらよいのか。 a. Criminals must {get/?be} arrested to prove their machismo. b. Criminals must {?get/be} arrested to keep the streets safe.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語と日本語の情報構造 2. 情報の新旧と冠詞 3. 情報構造と書き換え構文 4. 英語受動文 5. GET 受身と BE 受身 6. 動詞的受身と形容詞的受身 5. 自動詞構文と他動詞構文 6. 再帰代名詞の使い方 7. 動詞の意味と構文(結果構文) 8. 動詞の意味と構文(二重目的語構文) 9. 動詞の意味と構文(壁塗り構文) 10. 動詞の意味と構文(tough 構文と中間構文) 11. 動詞の意味ネットワーク 12. 前置詞の意味 13. 続き 14. 前置詞の意味ネットワーク 15. アスペクト(進行相と完了相) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：本学の講義支援ポータルサイトを通じてプリントを配布する。 参考書：授業中に適宜紹介する。</p>		課題と小テストおよび定期試験で決める。	

06年度以降(春) 03~05年度(春)	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学・文化概論 a	担当者	前沢浩子・片山亜紀 島田啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ウィリアム・シェイクスピア、チャールズ・ディケンズ、マーク・トウェイン。イギリス文学とアメリカ文学には、世界中の多くの人々はその名を知っているような作家たちが何人もいる。あるいはそれほど一般には知られていないにしろ、第一級の文学作品を書いたと定評のある作家たちも数多い。</p> <p>この講義では、そのすべてを網羅することはできないが、英米の名だたる文学作品のハイライトを授業毎にいくつか紹介し、文学ならではの表現や発想を原文を示しながら解説する。また、背景となった文化、社会、政治についても同時に解説していく。受講者には、個々の文学作品を手がかりとしつつ、イギリスとアメリカの歴史の大きな流れを頭の中で思い描けるようになってほしい。</p> <p>なお、3名の教員で担当し、ほぼ年代順、地域順に講義を進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イギリス文学史、アメリカ文学史(片山) 2. ユニオン・ジャックとシェイクスピア(前沢) 3. 18世紀の市民社会とジャーナリズム(前沢) 4. フランス革命とイギリス・ロマン派(前沢) 5. グローバリゼーションとイギリス文学(前沢) 6. ゴシック小説と『フランケンシュタイン』(片山) 7. ヴィクトリア時代と教養小説(片山) 8. 二つの世界大戦とヴァージニア・ウルフ(片山) 9. 大英帝国の凋落とポストコロニアル文学(片山) 10. 多民族国家アメリカ(島田) 11. アメリカン・ルネッサンスとリアリズム(島田) 12. 自然主義とモダニズム(島田) 13. モダニズムとフォークナー(島田) 14. まとめ:英語文学の広がり(片山) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはハンドアウトを用意する。 参考文献は毎回の授業で適宜紹介する。</p>		<p>定期試験による。詳細は開講時に説明する。</p>	

06年度以降(秋) 03~05年度(秋)	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学・文化概論 b	担当者	前沢浩子・片山亜紀 島田啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ウィリアム・シェイクスピア、チャールズ・ディケンズ、マーク・トウェイン。イギリス文学とアメリカ文学には、世界中の多くの人々はその名を知っているような作家たちが何人もいる。あるいはそれほど一般には知られていないにしろ、第一級の文学作品を書いたと定評のある作家たちも数多い。</p> <p>この講義では、そのすべてを網羅することはできないが、英米の名だたる文学作品のハイライトを授業毎にいくつか紹介し、文学ならではの表現や発想を原文を示しながら解説する。また、背景となった文化、社会、政治についても同時に解説していく。受講者には、個々の文学作品を手がかりとしつつ、イギリスとアメリカの歴史の大きな流れを頭の中で思い描けるようになってほしい。</p> <p>なお、3名の教員で担当し、ほぼ年代順、地域順に講義を進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イギリス文学史、アメリカ文学史(片山) 2. ユニオン・ジャックとシェイクスピア(前沢) 3. 18世紀の市民社会とジャーナリズム(前沢) 4. フランス革命とイギリス・ロマン派(前沢) 5. グローバリゼーションとイギリス文学(前沢) 6. ゴシック小説と『フランケンシュタイン』(片山) 7. ヴィクトリア時代と教養小説(片山) 8. 二つの世界大戦とヴァージニア・ウルフ(片山) 9. 大英帝国の凋落とポストコロニアル文学(片山) 10. 多民族国家アメリカ(島田) 11. アメリカン・ルネッサンスとリアリズム(島田) 12. 自然主義とモダニズム(島田) 13. モダニズムとフォークナー(島田) 14. まとめ:英語文学の広がり(片山) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはハンドアウトを用意する。 参考文献は毎回の授業で適宜紹介する。</p>		<p>定期試験による。詳細は開講時に説明する。</p>	

03～05 年度 (春)	英語圏の文学・文化概論 a	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>イギリスの歴史から 3 つの時代を取り上げ、それぞれの時代の文化について理解を深めることを目指す。3 つの時代はいずれも女王が君主となり、新たな文化が生み出された時代である。それぞれの時代の文化について、文学、宗教、科学の 3 つの視点から論じる。</p> <p>取り上げる 3 つの時代は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エリザベス一世の時代 2. ヴィクトリアの時代 3. エリザベス二世の時代 <p>この 3 人の女王の治世は、初期近代(early-modern)、近代(modern)、ポストモダン(postmodern)と区分される時代にあたっている。それぞれの時代の文化を理解することによって、近代がどのように成立し、変容してきたのかが見えてくる。それぞれの時代の様相を示す英文テキストを読みながら、各時代の文化について考えていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Elizabeth I の時代(1) : 宗教改革と近代の始まり 2. Elizabeth I の時代(2) : Shakespeare と近代英語 3. Elizabeth I の時代(3) : Shakespeare と大衆娯楽 4. Elizabeth I の時代(3) : Bacon と近代科学 5. Victoria の時代(1) : 世界の工場と大英帝国 6. Victoria の時代(2) : Dickens を読んだ中流市民 7. Victoria の時代(3) : Dickens が描いた貧困層 8. Victoria の時代(4) : Darwin と進化論 9. Elizabeth II の時代(1) : Pax Britannica の終焉 10. Elizabeth II の時代(2) : Becket と不条理演劇 11. Elizabeth II の時代(3) : The Beatles と若者文化 12. Elizabeth II の時代(4) : 羊の Dolly と遺伝子の時代 13. Elizabeth II の時代(5) : Bridget Jones と消費文化 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。参考文献は追って知らせる。		学期末試験の成績で評価する。	

06年度以降(春) 03~05年度(春)	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 a	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語を学ぶ皆さんは、「異文化コミュニケーション」というものに少なからず興味があるのではないのでしょうか？しかし、そのことを本格的に勉強する前に、まずは「文化」「コミュニケーション」そして、この2つの関係性について理解を深めておく必要があります。そこで、これまでの自分の考えやイメージを一旦手放していただき、それを見つめ直していただきたいと考えています。なぜなら、大学で学ぶ異文化コミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えや一般的に言われていることの問い直しから始まるからです。</p> <p>使用テキストの目次と授業計画の2~12回目の講義題目が対応しています。該当する章をよく読んでから各講義に出席するようにしてください。</p> <p>なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要、研究チームの編成 2. グローバル社会と異文化コミュニケーション 3. 文化 4. コミュニケーション 5. 言語 6. 非言語 7. 時間・空間 8. 異文化接触 9. 社会的関係性とメディア 10. メディアと文化 11. 文化のポリティクス 12. グローバリゼーションの行方 13. 研究発表 14. フォーラム「現代文化とコミュニケーション」 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：池田理知子編『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房）</p>		<ol style="list-style-type: none"> ①研究発表（講義理解・準備・発表・審査：90%） ②フォーラムへの参加（10%） 	

06年度以降(秋) 03~05年度(秋)	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 b	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語を学ぶ皆さんは、「異文化コミュニケーション」というものに少なからず興味があるのではないのでしょうか？しかし、そのことを本格的に勉強する前に、まずは「文化」「コミュニケーション」そして、この2つの関係性について理解を深めておく必要があります。そこで、これまでの自分の考えやイメージを一旦手放していただき、それを見つめ直していただきたいと考えています。なぜなら、大学で学ぶ異文化コミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えや一般的に言われていることの問い直しから始まるからです。</p> <p>使用テキストの目次と授業計画の2~12回目の講義題目が対応しています。該当する章をよく読んでから各講義に出席するようにしてください。</p> <p>なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要、研究チームの編成 2. グローバル社会と異文化コミュニケーション 3. 文化 4. コミュニケーション 5. 言語 6. 非言語 7. 時間・空間 8. 異文化接触 9. 社会的関係性とメディア 10. メディアと文化 11. 文化のポリティクス 12. グローバリゼーションの行方 13. 研究発表 14. フォーラム「現代文化とコミュニケーション」 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：池田理知子編『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房）</p>		<ol style="list-style-type: none"> ①研究発表（講義理解・準備・発表・審査：90%） ②フォーラムへの参加（10%） 	

06年度以降(春) 03~05年度(春)	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 a	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミックさを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテキストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。</p> <p>表象 (represent) された言語は政治的であり、表象の代理・代用 (re-present) 可能性がゆえに受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏（特にアメリカ）の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなる。</p> <p>講義概要 講義では1テーマを3ないし4回の授業で扱う。テキストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キータムの解説を加えながら講義を進めていく。</p>		<p>1 Course Orientation</p> <p>2 Hollywood and Hypercommercialism</p> <p>3 Hollywood and Hypercommercialism</p> <p>4 Hollywood and Hypercommercialism</p> <p>5 Hollywood and Hypercommercialism</p> <p>6 Advertisement and Public Culture</p> <p>7 Advertisement and Public Culture</p> <p>8 Advertisement and Public Culture</p> <p>9 Advertisement and Public Culture</p> <p>10 Desire, Sexuality and Power in Music Video</p> <p>11 Desire, Sexuality and Power in Music Video</p> <p>12 Desire, Sexuality and Power in Music Video</p> <p>13 Desire, Sexuality and Power in Music Video</p> <p>14 フォーラム (現代文化とコミュニケーション)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示する。		定期試験、不定期に課す課題 (クイズ)、及び出席状況等による総合評価	

06年度以降(秋) 03~05年度(秋)	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 b	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミックさを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテキストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。</p> <p>表象 (represent) された言語は政治的であり、表象の代理・代用 (re-present) 可能性がゆえに受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏（特にアメリカ）の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなる。</p> <p>講義概要 講義では1テーマを3ないし4回の授業で扱う。テキストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キータムの解説を加えながら講義を進めていく。</p>		<p>1 Course Orientation</p> <p>2 Hollywood and Hypercommercialism</p> <p>3 Hollywood and Hypercommercialism</p> <p>4 Hollywood and Hypercommercialism</p> <p>5 Hollywood and Hypercommercialism</p> <p>6 Advertisement and Public Culture</p> <p>7 Advertisement and Public Culture</p> <p>8 Advertisement and Public Culture</p> <p>9 Advertisement and Public Culture</p> <p>10 Desire, Sexuality and Power in Music Video</p> <p>11 Desire, Sexuality and Power in Music Video</p> <p>12 Desire, Sexuality and Power in Music Video</p> <p>13 Desire, Sexuality and Power in Music Video</p> <p>14 フォーラム (現代文化とコミュニケーション)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示する。		定期試験、不定期に課す課題 (クイズ)、及び出席状況等による総合評価	

06年度以降(春) 03～05年度(春)	国際コミュニケーション入門 a 国際コミュニケーション概論 a	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、現代の国際社会で起こっている様々な出来事の構造・背景・影響などを理解し、「国際問題を見る眼」(視点と判断力)を養うことを目指します。そのために、国際社会における代表的な出来事や問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説します。また国際関係研究の基礎的な概念や理論の解説も織り交ぜながら、国際関係についての包括的理解を促します。</p> <p>講義は大きく分けて、「国際関係の歴史と展開」(第2～5週)と「国際社会の構造と変化」(第6～11)「グローバル化の中の国際社会」(第12～第14週)の3つのパートから構成されます(右の授業計画参照)。</p> <p>この授業では、2年次からの専門コースの選択の際に参考にしてもらうために、国際コミュニケーション・コースではどのような勉強をするのかをイメージできるように考慮しながら進めます。</p> <p>なお、授業はすべてプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。</p>		<p>1. イントロダクション(第1週) *国際社会、国際関係論とは何かを概説します。</p> <p>2. 国際関係の歴史と展開(第2～5週) *20世紀後半の国際社会の構造と歴史的展開を説明するとともに、基本的な国際関係論の理論を解説します。具体的には、①冷戦構造、②冷戦下の戦争(朝鮮戦争、ベトナム戦争など)、③冷戦崩壊などを扱います。</p> <p>3. 国際社会の構造と変化(第6～11週) *国際関係の基礎的な理論や思想について、現在起こっている具体的な事例と重ね合わせながら体系的に把握し、さらにそれらの変化について考えます。</p> <p>4. グローバル化の中の国際社会(第12～14週) *1990年代以降急速に進んだグローバル化に伴って顕著となっている事象を取り上げながら、国際社会の構造変化や新しいトレンドを捉えます。具体的には、①国境を越えたヒトの移動、②新しい形の脅威と安全保障、③地球環境問題の展開などを扱います。 (初回の授業時に詳細な授業計画をお伝えします)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を各週の授業の中で適宜紹介します。		学期末試験の成績に基づいて成績をつけます。	

06年度以降(秋) 03～05年度(秋)	国際コミュニケーション入門 b 国際コミュニケーション概論 b	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、現代の国際社会で起こっている様々な出来事の構造・背景・影響などを理解し、「国際問題を見る眼」(視点と判断力)を養うことを目指します。そのために、国際社会における代表的な出来事や問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説します。また国際関係研究の基礎的な概念や理論の解説も織り交ぜながら、国際関係についての包括的理解を促します。</p> <p>講義は大きく分けて、「国際関係の歴史と展開」(第2～5週)と「国際社会の構造と変化」(第6～11)「グローバル化の中の国際社会」(第12～第14週)の3つのパートから構成されます(右の授業計画参照)。</p> <p>この授業では、2年次からの専門コースの選択の際に参考にしてもらうために、国際コミュニケーション・コースではどのような勉強をするのかをイメージしてもらえよう考慮しながら進めます。</p> <p>なお、授業はすべてプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。</p>		<p>1. イントロダクション(第1週) *国際社会、国際関係論とは何かを概説します。</p> <p>2. 国際関係の歴史と展開(第2～5週) *20世紀後半の国際社会の構造と歴史的展開を説明し、同時に基本的な国際関係論の理論を解説します。具体的には、①冷戦構造、②冷戦下の戦争(朝鮮戦争、ベトナム戦争など)、③冷戦崩壊などを扱います。</p> <p>3. 国際社会の構造と変化(第6～11週) *国際関係の基礎的な理論や思想について、現在起こっている具体的な事例と重ね合わせながら体系的に把握し、さらにそれらの変化について考えます。</p> <p>4. グローバル化の中の国際社会(第12～14週) *1990年代以降急速に進んだグローバル化に伴って顕著となっている事象を取り上げながら、国際社会の構造変化や新しいトレンドを捉えます。具体的には、①国境を越えたヒトの移動、②新しい形の脅威と安全保障、③地球環境問題の展開などを扱います。 (初回の授業時に詳細な授業計画をお伝えします)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を各週の授業の中で適宜紹介します。		学期末試験の成績に基づいて成績をつけます。	

06年度以降(春) 03~05年度(春)	国際コミュニケーション入門 国際コミュニケーション概論 a	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>半期の授業を通じて、国際関係研究 (study of international relations) とはどのような学問なのかを「戦争」について考えることを通じて理解してもらう。最終的には、教員による説明をただ受動的に聞くのではなく、授業内容を批判的に聞き、自分なりの「国際関係」のイメージを持つようになることを目指す。</p> <p>毎回の授業の冒頭では、学生諸君に日々変化する国際情勢に関心を持ってもらうために、その週の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を 30 分程度設ける。必要に応じてビデオ映像なども利用して、理解を深めてもらいたい。</p> <p>また授業のなかでは、国際関係研究のうえで重要な理論や用語についても、その都度説明を加えていく。</p> <p>この授業では、携帯メールによる質問を授業中随時受け付け、適宜それらを取り上げているので、疑問に思ったことなどを積極的に教員に伝えて欲しい。</p> <p>なお私語は厳禁、真剣に学ぼうとする学生の邪魔をするものには、即座に退室してもらう。</p>		<p>第1回：国際関係論を学ぶにあたってのガイダンス①</p> <p>第2回：国際関係論を学ぶにあたってのガイダンス②</p> <p>第3回：国際関係論はなぜ生まれたのか</p> <p>第4回：国際関係における個人・国家 ～個人と国家の安全と国際関係の安定</p> <p>第5回：戦争とは何か①その定義</p> <p>第6回：戦争とは何か②国際関係の構造と戦争</p> <p>第7回：戦争とは何か③戦争と国家 ～戦争は何をもたらすのか</p> <p>第8回：戦争とは何か④戦争観の変化 ～正戦論、無差別戦争観、人道的介入</p> <p>第9回：戦争とは何か⑤国際関係における正義と戦争 ～オバマ米大統領のノーベル平和賞受賞スピーチから</p> <p>第10回：戦争とは何か⑥新しい紛争 ～21世紀の紛争の特徴とは何か</p> <p>第11回：戦争とは何か⑦戦争の主体 ～「現代の傭兵」民間軍事会社 (PMC) の登場</p> <p>第12回：戦争とは何か⑧核兵器と国際関係 ～オバマ米大統領の「核なき世界」演説から</p> <p>第13回：戦争とは何か⑨積極的平和と消極的平和 ～構造的暴力のない世界を目指して</p> <p>第14回：戦争とは何か⑩国際秩序と国家</p> <p>第15回：まとめ (質疑応答) & 国際関係をさらに学ぶには</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第一回目の講義で、詳しい参考文献リストを配布する		不定期に実施するリアクションペーパーの提出 (40%) と定期試験 (論述形式、60%) による評価。	

10年度以前(春)	英語音声学	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>講義目的</u> 音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では、英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について少し体系的に見てみる。日本語や他の言語の音声との比較も交えて、英語音声をより深く理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や音声学のさまざまな面について触れることにより、その面白さを紹介し、これ以降の音声関係の科目履修への導入とする。</p> <p><u>講義概要</u> 音声学の基礎の講義であり、指定テキストは初習者のもので基本事項が記してある。各学生は毎回、最低限この指定範囲を読んでもらうことが必須となる。</p> <p><u>メッセージ</u> 第一回目の授業前にテキストを入手し、第1章(pp. 2-7)を読んでもらうこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1章「音声学とは」学際的領域、理論と応用、音声の情報 2. 第2章「発声のメカニズム」器官(発声、共鳴、調音) 3. 第3章「音声表記」IPA、分類(気流、声帯振動、調音位置/方法) 4. 第4章「母音」分類(高低/前後、円唇)、基本母音 5. 母音(2)日本語との比較、スベリングと母音、アクセントと母音 6. 第5章「子音」有声/無声、調音位置/方法、阻害音/共鳴音 7. 子音(2)日本語との比較 8. 第6章「音節」音節構造と強勢(第二アクセント)と母音 9. 音節(2)モーラ/音節、音節の連続によるアクセント/リズム 10. 第7章「語強勢」 11. 語強勢(2) フット/リズム 日本語と英語 12. 第8章「音縮小」第9章「同時調音」 13. 第10章「イントネーション」 14. 音声科学の発展(言語学、心理学、工学・教育・医療・政策・社会学、etc.) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤寧、佐藤努『現代の英語音声学』金星堂(1997) その他 配布資料		出席、クイズや課題、試験の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。単位認定には2/3以上の出席が求められる。出席は厳しい。	

10年度以前(秋)	英語音声学	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>講義目的</u> 音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では、英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について少し体系的に見てみる。日本語や他の言語の音声との比較も交えて、英語音声をより深く理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や音声学のさまざまな面について触れることにより、その面白さを紹介し、これ以降の音声関係の科目履修への導入とする。</p> <p><u>講義概要</u> 音声学の基礎の講義であり、指定テキストは初習者のもので基本事項が記してある。各学生は毎回、最低限この指定範囲を読んでもらうことが必須となる。</p> <p><u>メッセージ</u> 第一回目の授業前にテキストを入手し、第1章(pp. 2-7)を読んでもらうこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1章「音声学とは」学際的領域、理論と応用、音声の情報 2. 第2章「発声のメカニズム」器官(発声、共鳴、調音) 3. 第3章「音声表記」IPA、分類(気流、声帯振動、調音位置/方法) 4. 第4章「母音」分類(高低/前後、円唇)、基本母音 5. 母音(2)日本語との比較、スベリングと母音、アクセントと母音 6. 第5章「子音」有声/無声、調音位置/方法、阻害音/共鳴音 7. 子音(2)日本語との比較 8. 第6章「音節」音節構造と強勢(第二アクセント)と母音 9. 音節(2)モーラ/音節、音節の連続によるアクセント/リズム 10. 第7章「語強勢」 11. 語強勢(2) フット/リズム 日本語と英語 12. 第8章「音縮小」第9章「同時調音」 13. 第10章「イントネーション」 14. 音声科学の発展(言語学、心理学、工学・教育・医療・政策・社会学、etc.) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤寧、佐藤努『現代の英語音声学』金星堂(1997) その他 配布資料		出席、クイズや課題、試験の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。単位認定には2/3以上の出席が求められる。出席は厳しい。	

10年度以前（春）	英語音声学	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>目的</u> 自然な速度で話される言語音を観察し多角的に研究するのが音声学という学問である。このコースではその基礎となる知識の体得を主眼とし、日常に見られる音現象の解明、英語リスニングを困難にしている要因も検討する。英語に見られる様々な音現象を体系的に比較することで発音/リスニング能力の向上も図る。</p> <p><u>概要</u> 前半は主に個別音の分類及び特徴を学習する。後半ではより大きな文脈（単語～文単位）で音がどう変化するかを考察し、日本語の音韻体系との比較検討も試みる。</p> <p>注）発音記号の確認、及び英語での専門用語も頻出するので、授業には英和あるいは英英辞典を持参のこと。携帯電話の辞書機能は使用禁止とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コース概要；音声学とは 言語学としての音声学；関連領域への実用性 2. 発声のメカニズム 音声器官；音の分類 3. 音声表記 IPA；イギリス英語とアメリカ英語；音素と異音 4. 母音の調音 分類；基本母音；前舌母音；後舌母音など 5. 子音の調音（1） 分類（有声/無声；調音点/様式）；鼻子音；閉鎖音 6. 子音の調音（2） 摩擦音；破擦音；接近音 7. 音節（1） 音節を示す現象；聞こえと音節；音節構造など 8. 音節（2）音節とモーラ 9. 語強勢(ストレス)とリズム 10. 音縮小 内容語と機能語；弱形の重要性 11. 同時調音とイントネーション 同化現象；イントネーションの役割 12. 音響音声学 13. 聴覚音声学 14. 科学としての音声学 工学/医療/教育/音楽とのコラボレーション 	
テキストと、参考文献		評価方法	
<u>テキスト</u> 佐藤寧・佐藤努著『現代の英語音声学』 (金星道、1997年)		試験の他に課題提出や出席率を加味して総合評価する。授業回数の3/4以上の出席を単位認定の必須条件とする。	

10年度以前（秋）	英語音声学	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>目的</u> 自然な速度で話される言語音を観察し多角的に研究するのが音声学という学問である。このコースではその基礎となる知識の体得を主眼とし、日常に見られる音現象の解明、英語リスニングを困難にしている要因も検討する。英語に見られる様々な音現象を体系的に比較することで発音/リスニング能力の向上も図る。</p> <p><u>概要</u> 前半は主に個別音の分類及び特徴を学習する。後半ではより大きな文脈（単語～文単位）で音がどう変化するかを考察し、日本語の音韻体系との比較検討も試みる。</p> <p>注）発音記号の確認、及び英語での専門用語も頻出するので、授業には英和あるいは英英辞典を持参のこと。携帯電話の辞書機能は使用禁止とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コース概要；音声学とは 言語学としての音声学；関連領域への実用性 2. 発声のメカニズム 音声器官；音の分類 3. 音声表記 IPA；イギリス英語とアメリカ英語；音素と異音 4. 母音の調音 分類；基本母音；前舌母音；後舌母音など 5. 子音の調音（1） 分類（有声/無声；調音点/様式）；鼻子音；閉鎖音 6. 子音の調音（2） 摩擦音；破擦音；接近音 7. 音節（1） 音節を示す現象；聞こえと音節；音節構造など 8. 音節（2）音節とモーラ 9. 語強勢(ストレス)とリズム 10. 音縮小 内容語と機能語；弱形の重要性 11. 同時調音とイントネーション 同化現象；イントネーションの役割 12. 音響音声学 13. 聴覚音声学 14. 科学としての音声学 工学/医療/教育/音楽とのコラボレーション 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<u>テキスト</u> 佐藤寧・佐藤努著『現代の英語音声学』 (金星道、1997年)		試験の他に課題提出や出席率を加味して総合評価する。授業回数の3/4以上の出席を単位認定の必須条件とする。	

03～05年度（春）	スピーチ・クリニック	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コミュニケーション重視の教育の中で、発音指導は欠かせないものになっており、英語習得の初期段階でしっかりと発音指導をしておかなければならない。そのためにも自分の発音を再確認し、自信をもって教えられるようにすることを目的とする。</p> <p>実践を通して、子音、母音、弱形、音の同化、接続、強勢とリズム、抑揚などについて発音仕方の再確認とその教授法を学ぶ。講義にはプリントを用いるが、中学校・高校の教科書も一部教材として用い、発音指導の実践をする。</p> <p>聞き取りの力をつけるために授業時に Quiz を行い、課外用に dictation の宿題を課す。USB を用意すること。</p> <p>英語教育に関心のある2年生以上を対象とする半期完結科目。免許課程登録者でなくても履修可。</p> <p>受講希望者は、英語音声学の基礎知識があること、発音記号を少なくとも読めることが必要である。</p> <p>定員は25名。受講希望者は春学期の最初の授業に必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Pre-test, 英語の母音の特徴 3. " 4. " (Presentation) 5. 英語の子音の特徴 6. " 7. " (Presentation) 8. まとめ（対話や散文等を用いた練習）、音声提出(1) 9. 英語の強勢とリズム 10. " (Presentation) 11. 英語のイントネーション 12. " (Presentation) 13. 英語の音変化 14. " (Presentation), 音声提出(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリントおよび『5分間 英語発音』南雲堂 参考文献：P. Avery and S. Ehrlich, <i>Teaching American English Pronunciation</i>, OUP. その他、授業中に随時紹介する。</p>		<p>出席状況 2/3 以上出席していること 平常点：Presentation & Quiz 10%、宿題 20% 音声提出：30% 期末試験：40%</p>	

03～05年度（秋）	スピーチ・クリニック	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コミュニケーション重視の教育の中で、発音指導は欠かせないものになっており、英語習得の初期段階でしっかりと発音指導をしておかなければならない。そのためにも自分の発音を再確認し、自信をもって教えられるようにすることを目的とする。</p> <p>実践を通して、子音、母音、弱形、音の同化、接続、強勢とリズム、抑揚などについて発音仕方の再確認とその教授法を学ぶ。講義にはプリントを用いるが、中学校・高校の教科書も一部教材として用い、発音指導の実践をする。</p> <p>聞き取りの力をつけるために授業時に Quiz を行い、課外用に dictation の宿題を課す。USB を用意すること。</p> <p>英語教育に関心のある2年生以上を対象とする半期完結科目。免許課程登録者でなくても履修可。</p> <p>受講希望者は、英語音声学の基礎知識があること、発音記号を少なくとも読めることが必要である。</p> <p>定員は25名。受講希望者は秋学期の最初の授業に必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Pre-test, 英語の母音の特徴 3. " 4. " (Presentation) 5. 英語の子音の特徴 6. " 7. " (Presentation) 8. まとめ（対話や散文等を用いた練習）、音声提出(1) 9. 英語の強勢とリズム 10. " (Presentation) 11. 英語のイントネーション 12. " (Presentation) 13. 英語の音変化 14. " (Presentation), 音声提出(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリントおよび『5分間 英語発音』南雲堂 参考文献：P. Avery and S. Ehrlich, <i>Teaching American English Pronunciation</i>, OUP. その他、授業中に随時紹介する。</p>		<p>出席状況 2/3 以上出席していること 平常点：Presentation & Quiz 10%、宿題 20% 音声提出：30% 期末試験：40%</p>	

06年度以降（春）	Lecture Workshop I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>These classes are a combination of mini-lectures on a variety of topics and task-based activities. The lectures, and all the activities, will be conducted in English.</p> <p>Students will be required to complete weekly assignments and to keep a folder of all work done in and out of class. This folder will be presented to the instructor at the end of each seven-week lecture series, and will be used for assessment purposes at the end of each semester.</p> <p>There are two objectives for the courses 1) to build up students' overall English ability and 2) to help students gain knowledge of the content topics that will be presented.</p> <p>These courses are short seven-week courses and active participation and attendance will be an important part of the overall evaluation.</p>		<p>Lecture topics will be provided by each instructor. Topic examples include "Introduction to narratives", "Introduction to Africa", "Introduction to Asian Englishes", and "Introduction to American History through Music".</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Teachers will mostly use handouts, booklets or prints to be distributed in class.		Evaluation will be based upon participation and the quality of work done for the class. Teachers will combine their grades for a semester grade.	

06年度以降（秋）	Lecture Workshop II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>These classes are a combination of mini-lectures on a variety of topics and task-based activities. The lectures, and all the activities, will be conducted in English.</p> <p>Students will be required to complete weekly assignments and to keep a folder of all work done in and out of class. This folder will be presented to the instructor at the end of each seven-week lecture series, and will be used for assessment purposes at the end of each semester.</p> <p>There are two objectives for these courses 1) to build up students' overall English ability and 2) to help students gain knowledge of the content topics that will be presented.</p> <p>These courses are short seven-week courses and active participation and attendance will be an important part of the overall evaluation.</p>		<p>Lecture topics will be provided by each instructor. Topic examples include "Gender studies", "Introduction to international relations", "Film studies", and "Japanese culture"._____</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Teachers will mostly use handouts, booklets or prints to be distributed in class.		Evaluation will be based upon participation and the quality of work done for the class. Teachers will combine their grades for a semester grade.	

06年度以降	Comprehensive English I (再履修者は秋学期のみ開講)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class develops the range of English language skills (but with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives: The following are the macro-level objectives for this course:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To give students maximum opportunities to communicate (speak, listen, read and write). 2. To build student confidence in interpersonal communication. 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution. 		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Individual instructors are free to select their own text material, including any supplementary teaching material, and to use it in the manner they feel will best complete the above objectives.</p>		<p>Individual instructors are asked to determine a system of grading that is fair and consistent to the students, and best measures the classroom performance and overall improvement of the students' communicative abilities.</p>	

06年度以降	Comprehensive English II (再履修は春学期のみ開講)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class helps students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives: The following are the macro-level objectives for this course:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To develop in the students a good grounding in the organization skills of speech communication and writing. 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills. 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a large group context. 		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Individual instructors are free to select their own text material, including any supplementary teaching material, and to use it in the manner they feel will best complete the above objectives.</p>		<p>Individual instructors are asked to determine a system of grading that is fair and consistent to the students, and best measures the classroom performance and overall improvement of the students' communicative abilities.</p>	

06～09年度（春）	Comprehensive English III（再） Comprehensive English IV（再）	担当者	P. Mckevilly
講義目的、講義概要		授業計画	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	

06～09年度（秋）	Comprehensive English III（再） Comprehensive English IV（再）	担当者	P. Mckevilly
講義目的、講義概要		授業計画	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	

06年度以降（春） 03～05年度（春）	Reading Strategies I 英語リーディング・ストラテジーズ a (再履修は春秋ともに開講)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目標] 英語の語彙を増やしなが、日本語を介さず英語で考える能力を養い、併せて外国の文化や文学を理解する力をつける。将来、英語圏で学習する場合にも役立つような基礎的な読解スキルを学習する。</p> <p>[概要] 各担当教員が選定した教材を用いる。 読解スキルとしては、Previewing and Predicting; Recognizing patterns in paragraphs; Recognizing patterns of text organization などが含まれる。 6月には図書館の利用方法に慣れるため、図書館ガイダンスが行われる。</p>		各担当教員が開講時に説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が開講時に説明する。	

06年度以降（秋） 03～05年度（秋）	Reading Strategies II 英語リーディング・ストラテジーズ b (再履修は春秋ともに開講)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目標] 「Reading Strategies I」に引き続き、英語の語彙力をつけながら、外国の文化や文学を理解する力をつける。また、「Reading Strategies I」で身につけた基礎的な読解スキルを定着させ、発展させる。</p> <p>[概要] 各教員が選定した教材を用いる。 秋学期は、次のような読解スキルを学ぶ。Previewing and Predicting; Recognizing patterns of text organization; Making inferences; Outlining など。</p>		各担当教員が開講時に説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が開講時に説明する。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	Reading Strategies III (再) 英語専門講読入門 a (再)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本の文化、特に神話について書かれた英文を読んで、文章読解力をつけるとともに、自国の文化についての理解を深める。</p> <p>[精読] 以下に詳述するように精読を行い、英文読解力をつける。 1: 論理的接続語(logical connectors)について学び、文章の流れを正確に把握する力を身につける。 2: 語彙数を増やすのは勿論のこと、言葉についての正確な知識を学ぶ。また、文脈から、あるいは接辞から、知らない言葉も推測することのできる力を身につける。 3: 文中の言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読むことができるようになる。</p> <p>[速読] 授業で精読した文章に関連する別の文章を読み、短い時間で、正確にその要旨をつかむ訓練をする。</p>		<p>1: Introduction 2: The country and its creation 3: " 4: " 5: The Historical Survey 6: " 7: " 8: The Beliefs and Deities of Japan 9: " 10: " 11: Creatures and Spirits 12: " 13: " 14: Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席(2/3以上)、提出物、授業態度を総合的に評価	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	Reading Strategies IV (再) 英語専門講読入門 b (再)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に引き続き、日本や世界の文化、特に神話について書かれた英文を読んで、文章読解力をつけるとともに、自国の文化の特色を知る。</p> <p>[精読と表現] 以下に詳述するように精読を行い、文章を正確に理解し、更に、読んだ内容について自分の考えをまとめる力を身につける。 1: 論理的接続語(logical connectors)について学び、文章の流れを正確に把握する。 2: 語彙数を増やすのは勿論のこと、言葉についての正確な知識を学ぶ。また、文脈から、あるいは接辞から、知らない言葉も推測することのできる力を身につける。 3: 文中の言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読むことができるようになる。 4: 要点を正確に把握する。 5: 自分の考えを簡潔に表わす。</p> <p>[速読] 授業で精読した文章に関連する別の文章を読み、短い時間で、正確にその要旨をつかむ訓練をする。</p>		<p>1: Introduction 2: Heroes and Heroines 3: " 4: " 5: " 6: Men and Animals 7: " 8: " 9: " 10: Stories Old and New 11: " 12: " 13: " 14: Review / レポート回収</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席(2/3以上)、提出物、授業態度を総合的に評価	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	Reading StrategiesIV(再) 英語専門講読入門b(再)	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では散文を精読していく。英語学科に所属している者としては「なんとなく分かる」で読み進めるのは不足だろう。ゆっくりでもいいので英語をきちんと分析しながら読み、文脈などを詳細に理解することを授業の目的とする。そのため授業参加前に必ず辞書を引いて予習しておくこと、そして辞書を丹念に読むことは必須。</p> <p>まずは Sandra Cisneros の <i>Woman Hollering Creek and Other Stories</i> より抜粋して読んでいく。</p>		<p>1. イントロダクション 2-14. 小説の精読</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストのプリントを配布。 Sandra Cisneros 著 <i>Woman Hollering Creek and Other Stories</i>. Vintage Contemporaries, 1992.</p>		<p>授業への参加(教室にいるだけではダメ・3回以上の欠席は不可)、学期末試験。</p>	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	Reading StrategiesIII(再) 英語専門講読入門a(再)	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期同様、散文を精読していく。英語学科に所属している者としては「なんとなく分かる」で読み進めるのは不足だろう。ゆっくりでもいいので英語をきちんと分析しながら読み、文脈などを詳細に理解することを授業の目的とする。そのため授業参加前に必ず辞書を引いて予習しておくこと、そして辞書を丹念に読むことは必須。</p> <p>まずは Elizabeth Bishop の <i>The Collected Prose</i> より抜粋して読んでいく。</p>		<p>1. イントロダクション 2-14. 小説の精読</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストのプリントを配布。 Elizabeth Bishop 著 <i>The Collected Prose</i>. New York: FSG, 1984.</p>		<p>授業への参加(教室にいるだけではダメ・3回以上の欠席は不可)、学期末試験。</p>	

06年度以降（春）	Writing Strategies	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one-term-long class in which students work on sentence-level writing so that they can review what they learned in high school and move on to the introductory academic writing. Accuracy is the main focus; however, students should be provided with some free writing exercises where they can practice fluency at the same time.</p> <p>The objectives of this class are to help students:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. to write grammatical sentences. 2. to increase their awareness of the common grammatical problems in writing made by EFL students. 3. to introduce self-help strategies so that they can analyze their problems and revise their writing. (ex. Teachers should use an error awareness sheet in order to help their students become aware of what their errors are and to help them decide which errors to work on first.) 		<p><u>Recommended Topics:</u></p> <p>Verb tenses</p> <p>Sentence structure</p> <p>Modals (necessity, certainty etc.)</p> <p>Conditional</p> <p>Passives</p> <p>Relative Clauses</p> <p>Noun Clauses</p> <p>Free writing/Rush writing</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.		The decision is left to the discretion of individual instructors.	

06年度以降	Paragraph Writing	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The students will be taught how to write a unified, coherent paragraph which is a basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives:</u></p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (ex. topic sentence, supporting sentences). To teach the various patterns of paragraph organizations. To help students write clear and focused structures. To help students analyze their problems and revise their writing. <p>Students should write at least four 150-word-long paragraphs and have a chance to revise them.</p>		<p><u>Recommended Topics:</u></p> <p>What is a paragraph? Planning what they write Topic vs. topic sentence Writing a topic sentence of a paragraph Supporting topic sentences (ex. giving examples, enumeration, giving a definition, cause and effect, comparison and contrast) Revising what they write Free writing/ Rush writing</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.		The decision is left to the discretion of individual instructors.	

06年度以降 03～05年度	Paragraph Writing 英語ライティング・ストラテジーズ b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The students will be taught how to write a unified, coherent paragraph which is a basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives:</u></p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (ex. topic sentence, supporting sentences). To teach the various patterns of paragraph organizations. To help students write clear and focused structures. To help students analyze their problems and revise their writing. <p>Students should write at least four 150-word-long paragraphs and have a chance to revise them.</p>		<p><u>Recommended Topics:</u></p> <p>What is a paragraph? Planning what they write Topic vs. topic sentence Writing a topic sentence of a paragraph Supporting topic sentences (ex. giving examples, enumeration, giving a definition, cause and effect, comparison and contrast) Revising what they write Free writing/ Rush writing</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.		The decision is left to the discretion of individual instructors.	

06年度以降（春）	Basic Essay Writing	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to develop students' writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing about familiar ideas to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives:</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' basic essay (ex. introduction, a thesis statement, supporting details, conclusion). 2. To teach the various patterns of essay organizations. 3. To help students plan and revise an essay. 4. To help students write clear and focused paragraphs. <p>Students should write at least one 5-paragraph-level essay including an introduction and a conclusion and have a chance to revise it.</p>		<p><u>Recommended Topics:</u></p> <p>Brainstorming and narrowing down the topic</p> <p>Writing an introduction</p> <p>Writing cohesive paragraphs</p> <p>Writing a conclusion</p> <p>Narrating (ex. unforgettable event)</p> <p>Describing (ex. a person you admire, a favorite place, a celebration, a process)</p> <p>Explaining (ex. the origin of a name, your learning style)</p> <p>Informing (ex. an event, a famous person)</p> <p>Evaluating (ex. a movie, a story, an event, a person)</p> <p>Summarizing (ex. a movie, a story)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.		The decision is left to the discretion of individual instructors. However, not only the final product but also the process of writing should be evaluated.	

06年度以降（秋）	Basic Essay Writing	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to develop students' writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing about familiar ideas to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives:</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' basic essay (ex. introduction, a thesis statement, supporting details, conclusion). 2. To teach the various patterns of essay organizations. 3. To help students plan and revise an essay. 4. To help students write clear and focused paragraphs. <p>Students should write at least one 5-paragraph-level essay including an introduction and a conclusion and have a chance to revise it.</p>		<p><u>Recommended Topics:</u></p> <p>Brainstorming and narrowing down the topic</p> <p>Writing an introduction</p> <p>Writing cohesive paragraphs</p> <p>Writing a conclusion</p> <p>Narrating (ex. unforgettable event)</p> <p>Describing (ex. a person you admire, a favorite place, a celebration, a process)</p> <p>Explaining (ex. the origin of a name, your learning style)</p> <p>Informing (ex. an event, a famous person)</p> <p>Evaluating (ex. a movie, a story, an event, a person)</p> <p>Summarizing (ex. a movie, a story)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.		The decision is left to the discretion of individual instructors. However, not only the final product but also the process of writing should be evaluated.	

06年度以降（春）	E-learning I	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] 英語学科1年1, 2組と交流文化学科の学生を対象とする。Reading Strategies, Paragraph Writing/Basic Essay Writingなどの対面授業で教員から習ったスキルを自律学習によって定着, 向上させることを目的とする。</p> <p>[概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> 1週目の説明会で, オンライン教材とその使用方法について指示するので指定教室に集合のこと 初回授業後すぐに PC での課題に取りかかることになる。自宅あるいは学内の PC を使用することになるが, 学内の PC を利用するための ID とパスワードを常に携帯すること 通常授業期間中は指定のオンライン教材にアクセスし, 自主的に学習を進めること 4週目以降は隔週で対面授業(確認テスト)を行うので, 指定教室に集合すること 計画的に学習を進めないと単位の取得は難しいので, 十分注意すること 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体ガイダンス, Criterion (1) 2. Criterion ガイダンス, Criterion (2) 3. 自習, Criterion (3) 4. ALC テスト 第1回, Criterion (4) 5. 自習, Criterion (5) 6. ALC テスト 第2回, Criterion (6) 7. 自習, Criterion (7) 8. ALC テスト 第3回, Criterion (8) 9. 自習, Criterion (9) 10. ALC テスト: 中間, Criterion (10) 11. 自習, Criterion (11) 12. ALC テスト 第4回, Criterion (12) 13. 自習, Criterion (13) 14. ALC テスト 第5回, Criterion (14) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
オンライン学習教材 (ALC NetAcademy 2, Criterion)		(a) テストの得点, (b) 課題の提出回数, (c) 課題の評定から総合的に評価する。	

06年度以降（秋）	E-learning II	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] 英語学科1年1, 2組と交流文化学科の学生を対象とする。Reading Strategies, Paragraph Writing/Basic Essay Writingなどの対面授業で教員から習ったスキルを自律学習によって定着, 向上させることを目的とする。</p> <p>[概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> 1週目および2週目の説明会で, オンラインで提出するエッセイ (Criterion) に関する追加課題の説明をするので必ず出席すること 通常授業期間中は指定のオンライン教材にアクセスし, 自主的に学習を進めること 3週目以降は隔週で対面授業(確認テスト)を行うので, 指定教室に集合すること 計画的に学習を進めないと単位の取得は難しいので, 十分注意すること 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体ガイダンス, Criterion (1) 2. Criterion ガイダンス, Criterion (1) review 3. ALC テスト 第1回, Criterion (2) 4. 自習, Criterion (2) review 5. ALC テスト 第2回, Criterion (3) 6. 自習, Criterion (3) review 7. ALC テスト 第3回, Criterion (4) 8. 自習, Criterion (4) review 9. ALC テスト: 中間, Criterion (5) 10. 自習, Criterion (5) review 11. ALC テスト 第4回, Criterion (6) 12. 自習, Criterion (6) review 13. ALC テスト 第5回, Criterion (7) 14. 自習, Criterion (7) review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
オンライン学習教材 (ALC NetAcademy 2, Criterion)		(a) テストの得点, (b) 課題の提出回数, (c) 課題の評定から総合的に評価する。	

06年度以降（春）	E-learning I	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 英語学科1年 Group B と C の学生を対象とする。Reading Strategies, Writing Strategies/Paragraph, Writing などの対面授業で教員から習ったスキルを自律学習によって定着、向上させることを目的とする。</p> <p>【概要】 ・1週目の説明会で、オンライン教材とその使用方法について指示するので全員指定教室に集合のこと ・2週目は PC 教室で教材に実際にアクセスしてもらうので、大学のネットワークへのログインパスワードが分かるようにしておくこと。再履修者は出席しなくてもよい。 ・通常授業期間中は学内もしくは自宅 PC から指定のオンライン教材にアクセスし、自律学習を進める ・4週目以降隔週に対面授業を行うので指定教室に集合すること ・自律学習が捗々しくない場合は、特別対面授業を行う。メールや掲示板等で対象者の呼び出しを行うので注意すること。 ・学習内容は、語彙、リーディング、ライティング</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体説明会, Criterion (1) 2. PC ガイダンス 3. 自習 (教室に来る必要はない。以下同様) 4. ALC テスト(1), Criterion (2) 5. 自習 6. ALC テスト(2), Criterion (3) 7. 自習 8. ALC テスト(3), Criterion (4) 9. 自習 10. 中間試験(テスト(1)-(3)の範囲), Criterion (5) 11. 自習 12. ALC テスト(4), Criterion (6) 13. 自習 14. ALC テスト(5), Criterion (7) <p>定期試験 (全範囲)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはなし。以下のオンライン教材を使用 ALC (語彙、リーディング) Criterion (ライティング)</p>		<p>オンライン学習の履歴とスコア、7回のテストの得点を総合的に評価する</p>	

06年度以降（秋）	E-learning II	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 英語学科1年 Group B と C の学生を対象とする。 Reading Strategies, Paragraph Writing/Basic Essay Writing などの対面授業で教員から習ったスキルを自律学習によって定着、向上させることを目的とする。</p> <p>【概要】 ・1週目の説明会で、オンラインで提出するエッセイ (Criterion) に関する追加課題の説明をするので必ず出席すること ・通常授業期間中は学内もしくは自宅 PC から指定のオンライン教材にアクセスし、自律学習を進める。 ・隔週に対面授業を行うので指定教室に集合する。 ・年明けの最終対面授業でエッセイテストを行う。 ・自律学習が捗々しくない場合は、特別対面授業を行う。メールや掲示板等で対象者の呼び出しを行うので注意すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体説明会, Criterion (1) 2. 自習 3. テスト(1), Criterion (2) 4. 自習 5. テスト(2), Criterion (3) 6. 自習 7. テスト(3), Criterion (4) 8. 自習 9. 中間試験 (テスト(1)-(3)の範囲) , Criterion (5) 10. 自習 11. テスト(4), Criterion (6) 12. 自習 13. テスト(5), Criterion (7) 14. エッセイテスト <p>定期試験 (全範囲)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはなし。以下のオンライン教材を使用 ALC (語彙、リーディング) Criterion (ライティング)</p>		<p>オンライン学習の履歴とスコア、7回のテストの得点およびエッセイテストを総合的に評価する</p>	

06年度以降	Pronunciation Practice	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>講義目的</u> コミュニケーションにおいて、相手の言ったことが聞き取れ、また自分の言ったことが相手に通じることはとても重要である。この授業では、より英語らしい音声について理解し、練習を通して英語の聴解能力と発音技能の向上を目指す。</p> <p><u>講義概要</u> CAL 教室において、聞き取りと発音の演習を行う。日本語音声との比較も交えて英語音声の特徴について学び、特に日本語話者の苦手な点について、練習する。 具体的には、個々の音（母音・子音）、音の連結、ストレス、イントネーションなどの学習をし、語句、短文、または長文を使って発話練習をする。</p>		各担当者による。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当者による。		各担当者による。	

06年度以降	Pronunciation Practice	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>講義目的</u> コミュニケーションにおいて、相手の言ったことが聞き取れ、また自分の言ったことが相手に通じることはとても重要である。この授業では、より英語らしい音声について理解し、練習を通して英語の聴解能力と発音技能の向上を目指す。</p> <p><u>講義概要</u> CAL 教室において、聞き取りと発音の演習を行う。日本語音声との比較も交えて英語音声の特徴について学び、特に日本語話者の苦手な点について、練習する。 具体的には、個々の音（母音・子音）、音の連結、ストレス、イントネーションなどの学習をし、語句、短文、または長文を使って発話練習をする。</p>		各担当者による。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当者による。		各担当者による。	

06年度以降	Introductory Grammar	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基本文法事項の継続的な学習を通して、英語学科の開設科目を受講するのに最低限求められる文法的知識を高めると共に、誤用の少ない英文を作成できる能力を養うことを目的とする。</p> <p>講義は、以下の内容からなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各担当教員による重要ポイントの解説と問題演習を行う。受講生が間違いやすい文法的事項や語句については、特に詳しく扱う。 2. 文法項目毎に重要な英文を各担当教員が選び、受講生は徹底した音読練習によって指定された英文を暗記する。 3. 1と2の方法で重要文法項目を学習した後は、TOEICやTOEFL等の総合問題演習を繰り返し行うことで、文法的誤謬に対する感受性を高める練習を積む。 		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が開講時に説明する。	

06年度以降	Introductory Grammar	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基本文法事項の継続的な学習を通して、英語学科の開設科目を受講するのに最低限求められる文法的知識を高めると共に、誤用の少ない英文を作成できる能力を養うことを目的とする。</p> <p>講義は、以下の内容からなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各担当教員による重要ポイントの解説と問題演習を行う。受講生が間違いやすい文法的事項や語句については、特に詳しく扱う。 2. 文法項目毎に重要な英文を各担当教員が選び、受講生は徹底した音読練習によって指定された英文を暗記する。 3. 1と2の方法で重要文法項目を学習した後は、TOEICやTOEFL等の総合問題演習を繰り返し行うことで、文法的誤謬に対する感受性を高める練習を積む。 		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が開講時に説明する。	

09年度(春)	Comprehensive English III (Honors)	担当者	J.J. Duggan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The stated overall objectives of the Comprehensive English III course are:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) To teach students the skills involved in effective group discussion. 2) To improve reading comprehension skills using topical reading material. 3) To develop verbal reasoning skills. <p>With these goals in mind, in the first semester, we will work on advancing the group discussion skills that have been introduced to you in your freshman year by working on reading, understanding, and discussing content-based material of a topical nature from various media resources. The concept of intercultural communication will also be introduced into our group discussion topics. Your instructor will be selecting the articles and preparing the assigned tasks and activities to be used in this semester.</p> <p>As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Course introduction and explanation. Week 2: Participating in group discussions (text handout) Week 3: Reading & Discussion I. Week 4: Reading & Discussion II. Quiz Week 5: Understanding intercultural communication. (text handout) Week 6: Reading & Discussion III. Week 7: Reading & Discussion IV. Quiz. Week 8: Selected Reading & Discussion. Week 9: Selected Reading & Discussion. Week 10: Selected Reading & Discussion. Week 11: Selected Reading & Discussion. Week 12: Selected Reading & Discussion. Week 13: Selected Reading & Discussion. Week 14: Consolidation & Review.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Selected readings from text, media and online sources.		Grading will be based on class participation, assignments, quizzes and a final assessment.	

09年度(秋)	Comprehensive English IV (Honors)	担当者	J.J. Duggan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The stated overall objectives of the Comprehensive English IV course are:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 2) To teach students how to prepare and lead a class presentation /discussion. 3) To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion. <p>With these goals in mind, in the second semester, students, working individually or in pairs, will research, select, prepare, and then present and lead class discussion in a topic & reading of their choosing. It is the students' responsibility to prepare for this and to be ready to present on their assigned day. It is the responsibility of the other students to do the assigned reading as well as complete the assigned tasks outside of class so as to be ready to participate in discussing and sharing your opinions inside of class.</p> <p>As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Course introduction and presentation schedule setup. Week 2: Outline of presentation techniques. Week 3: Practice of presentation techniques. Week 4: Student presentation(s). Week 5: Student presentation(s). Week 6: Student presentation(s). Week 7: Student presentation(s). Week 8: Student presentation(s). Week 9: Student presentation(s). Week 10: Student presentation(s). Week 11: Student presentation(s). Week 12: Student presentation(s). Week 13: Student presentation(s). Week 14: Consolidation & Review.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Selected readings from text, media and online sources.		Grading will be based on class participation, assignments, and a final assessment.	

09年度 (春)	Comprehensive English III (Honors)	担当者	J.N.Wendel																
講義目的、講義概要		授業計画																	
<p>This course is designed to develop students' communication skills, particularly in the area of discussion and presentation. Throughout the semester, students will prepare for and lead group discussions on a wide range of topics (selected at times by me, at times by the students). Among other things, these discussions will also provide the basis for vocabulary and fluency development. Along the way, we will practice discussion skill strategies for initiating, maintaining, and closing group discussions. Students will also give presentations on each topic, and relevant presentation skills will be examined and practiced. There will be two writing assignments in which students will report on their reactions to a given topic and author's perspective.</p>		<table border="1"> <tr><td>1</td><td>Orientation and syllabus</td></tr> <tr><td>2-3</td><td>The millennial generation</td></tr> <tr><td>4-5</td><td>Cultural encounters</td></tr> <tr><td>6-7</td><td>Consumer lifestyle</td></tr> <tr><td>8-9</td><td>Aging</td></tr> <tr><td>10-11</td><td>Youth in action</td></tr> <tr><td>12-13</td><td>Music</td></tr> <tr><td>14</td><td>Summary</td></tr> </table>		1	Orientation and syllabus	2-3	The millennial generation	4-5	Cultural encounters	6-7	Consumer lifestyle	8-9	Aging	10-11	Youth in action	12-13	Music	14	Summary
1	Orientation and syllabus																		
2-3	The millennial generation																		
4-5	Cultural encounters																		
6-7	Consumer lifestyle																		
8-9	Aging																		
10-11	Youth in action																		
12-13	Music																		
14	Summary																		
テキスト、参考文献		評価方法																	
<p><i>Global Outlook 2: Advanced Reading.</i> (2004). Brenda Dyer & Brenda Bushell. McGraw Hill.</p>		<p>Students will be evaluated on the basis of their participation in class, their preparation for class work, and their writing assignments.</p>																	

09年度 (秋)	Comprehensive English IV (Honors)	担当者	J.N.Wendel																
講義目的、講義概要		授業計画																	
<p>This course is designed to develop students' communication skills, particularly in the area of discussion and presentation. Throughout the semester, students will prepare for and lead group discussions on a wide range of topics (selected at times by me, at times by the students). Among other things, these discussions will also provide the basis for vocabulary and fluency development. Along the way, we will practice discussion skill strategies for initiating, maintaining, and closing group discussions. Students will also give presentations on each topic, and relevant presentation skills will be examined and practiced. There will be two writing assignments in which students will report on their reactions to a given topic and author's perspective.</p>		<table border="1"> <tr><td>1</td><td>Orientation and syllabus</td></tr> <tr><td>2-3</td><td>Value of work</td></tr> <tr><td>4-5</td><td>Inequality</td></tr> <tr><td>6-7</td><td>Wisdom</td></tr> <tr><td>8-9</td><td>Culture and change</td></tr> <tr><td>10-11</td><td>Managing nature</td></tr> <tr><td>12-13</td><td>The final frontier</td></tr> <tr><td>14</td><td>Summary</td></tr> </table>		1	Orientation and syllabus	2-3	Value of work	4-5	Inequality	6-7	Wisdom	8-9	Culture and change	10-11	Managing nature	12-13	The final frontier	14	Summary
1	Orientation and syllabus																		
2-3	Value of work																		
4-5	Inequality																		
6-7	Wisdom																		
8-9	Culture and change																		
10-11	Managing nature																		
12-13	The final frontier																		
14	Summary																		
テキスト、参考文献		評価方法																	
<p><i>Global Outlook 2: Advanced Reading.</i> (2004). Brenda Dyer & Brenda Bushell. McGraw Hill.</p>		<p>Students will be evaluated on the basis of their participation in class, their preparation for class work, and their writing assignments.</p>																	

09年度 (春)	Comprehensive English III	担当者	Andy Maggs
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a topic-based intermediate level course focusing on listening and speaking. The topics are current and interesting. The information comes from the internet and newspapers. There is no textbook.</p> <p>There will be a weekly short vocabulary quiz based on the Academic Word List (AWL). The teacher will give you a copy of the AWL at the start of the course. If you lose it, you must photocopy it from a classmate.</p> <p>There are two poster presentations during this semester. These posters are based on internet research. They are homework and part of your final grade.</p> <p>There is a speaking test at the end of the course.</p> <p>The style of the class is relaxed, fun but hardworking.</p> <p>Attendance policy: 4 absences (without a very good reason) are a FAIL. 3 'lates' means one 'absence' ('late' means you arrive up to 15 minutes after class starts; after 15 minutes is an absence)</p>		<p>Week 1: Introductions</p> <p>Week 2: Foreign countries / intro to basic notetaking</p> <p>Week 3: Foreign countries/ intro to internet research</p> <p>Week 4: Poster presentation</p> <p>Week 5: Technology trends</p> <p>Week 6: Technology trends</p> <p>Week 7: Famous people</p> <p>Week 8: Famous people / internet research techniques</p> <p>Week 9: Poster presentation</p> <p>Week 10: Health</p> <p>Week 11: Health</p> <p>Week 12: Movies</p> <p>Week 13: Practice for the speaking test</p> <p>Week 14: Speaking test</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook. The teacher will provide all materials</p> <p>An electronic dictionary will be helpful</p>		<p>40% attendance & class effort</p> <p>30% homework</p> <p>30% end of semester speaking test</p>	

09年度 (秋)	Comprehensive English IV	担当者	Andy Maggs
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The topics are a little more challenging than semester one. Later in the course, students will be able to choose topics for class themselves.</p> <p>We continue with the weekly vocabulary quiz from the Academic Word List (AWL).</p> <p>Again, there are two poster presentations during this second semester. For the final poster, students are free to choose their own topic (with teacher advice if you need it) The posters are homework and part of your final grade.</p> <p>There is a speaking test at the end of the course.</p> <p>Attendance policy: 4 absences (without a very good reason) are a FAIL. 3 'lates' means one 'absence' ('late' means you arrive up to 15 minutes after class starts; after 15 minutes is an absence)</p>		<p>Week 1: Education</p> <p>Week 2: Education</p> <p>Week 3: Business issues</p> <p>Week 4: Business issues</p> <p>Week 5: Poster presentation</p> <p>Week 6: Media issues</p> <p>Week 7: Media issues</p> <p>Week 8: Environment</p> <p>Week 9: Globalization</p> <p>Week 10: Student selected topic</p> <p>Week 11: Poster presentation</p> <p>Week 12: Student selected topic</p> <p>Week 13: Practice for the speaking test</p> <p>Week 14: Speaking test</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook. The teacher will provide all materials</p> <p>An electronic dictionary will be helpful</p>		<p>40% attendance & class effort</p> <p>30% homework</p> <p>30% end of semester speaking test</p>	

09年度 (春)	Comprehensive English III	担当者	D. L. Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this class: to hone your speaking and analytic skills beyond the level of first-year work. The format will be: (1) role playing based on situations presented in the textbook, followed by (2) exchanging opinions and ideas on the role play scenarios.</p> <p>There is great leeway in choice of situations and role play approach-the textbook is minimalist in its dealings with grammar and rules. The role play can derive from a game, a chart or illustration, even a short poem or tongue twister or joke in the book.</p> <p>Students will give their opinions "in" and "out of" character-they will speak, sometimes as themselves and sometimes as the person whose role they play. There will then be analysis of how/why the roles were chosen and presented.</p> <p>You need to be proficient in spoken English, be interested in a variety of topics, very punctual in your attendance and able to hold your own in an English-only environment in the classroom.</p>		<p>Week 1: Introduction; how to "plot" a role play Week 2: Situation-choosing, role play prepping Week 3: Group/Pair 1-2, Role play 1a Week 4: Group/Pair 3-4, Role play 1b Week 5: Group/Pair 5-6, Role play 1c Week 6: Group/Pair 7-8, Role play 1d Week 7: Critique of methods and procedures Week 8: Group/Pair 1-2, Role play 2a Week 9: Group/Pair 3-4, Role play 2b Week 10: Group/Pair 5-6, Role play 2c Week 11: Group/pair 7-8, Role play 2d Week 12: Supplemental use of text Week 13: Final analysis of materials Week 14: Extra credit Work</p> <p>Handouts will include prints, pamphlets and brochures. Certain prints will concern class methods and procedures.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
None.		Grades will be compiled from weekly oral work, or your "opinions" (50%), oral work in the lead group, or your "role playing" (30%), and occasional Qs&As with the teacher (25%).	

09年度 (秋)	Comprehensive English IV	担当者	D. L. Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this class: to hone your speaking and analytic skills beyond the level of first-year work. The format will be: (1) role playing based on situations presented in the textbook, followed by (2) exchanging opinions and ideas on the role play scenarios.</p> <p>There is great leeway in choice of situations and role play approach-the textbook is minimalist in its dealings with grammar and rules. The role play can derive from a game, a chart or illustration, even a short poem or tongue twister or joke in the book.</p> <p>Students will give their opinions "in" and "out of" character-they will speak, sometimes as themselves and sometimes as the person whose role they play. There will then be analysis of how/why the roles were chosen and presented.</p> <p>You need to be proficient in spoken English, be interested in a variety of topics, very punctual in your attendance and able to hold your own in an English-only environment in the classroom.</p>		<p>Week 1: Introduction; how to "plot" a role play Week 2: Situation-choosing, role play prepping Week 3: Group/Pair 1-2, Role play 1a Week 4: Group/Pair 3-4, Role play 1b Week 5: Group/Pair 5-6, Role play 1c Week 6: Group/Pair 7-8, Role play 1d Week 7: Critique of methods and procedures Week 8: Group/Pair 1-2, Role play 2a Week 9: Group/Pair 3-4, Role play 2b Week 10: Group/Pair 5-6, Role play 2c Week 11: Group/pair 7-8, Role play 2d Week 12: Supplemental use of text Week 13: Final analysis of materials Week 14: Extra credit Work</p> <p>Handouts will include prints, pamphlets and brochures. Certain prints will concern class methods and procedures.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
None.		Grades will be compiled from weekly oral work, or your "opinions" (50%), oral work in the lead group, or your "role playing" (30%), and occasional Qs&As with the teacher (25%).	

09年度(春)	Comprehensive English III	担当者	Ed. Franco
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course seeks to master competency in English fluency improving speaking, and comprehension skills.</p> <p>Students will complete weekly classroom activities using English newspaper articles to study national and international issues of political and social significance.</p> <p>The class aims to provide an English native like environment in reading, listening, writing, pair and group discussion practice. Students will prepare an article and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.</p>		<p>Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements & start article # 1</p> <p>Week 2: Article # 1</p> <p>Week 3: Article # 2</p> <p>Week 4: Article # 2</p> <p>Week 5: Article # 3</p> <p>Week 6: Article # 3</p> <p>Week 7: Article # 4</p> <p>Week 8: Article # 4</p> <p>Week 9: Article # 5</p> <p>Week 10: Article # 5</p> <p>Week 11: Article # 6</p> <p>Week 12: Article # 6</p> <p>Week 13: Article # 7</p> <p>Week 14: Article # 7</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The Daily Yomiuri		Weekly exercises, presentation, attendance and class participation.	

09年度(秋)	Comprehensive English IV	担当者	Ed. Franco
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course seeks to master competency in English fluency improving speaking, and comprehension skills.</p> <p>Students will complete weekly classroom activities using English newspaper articles to study national and international issues of political and social significance.</p> <p>The class aims to provide an English native like environment in reading, listening, writing, pair and group discussion practice. Students will prepare an article and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.</p>		<p>Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements & start article # 1</p> <p>Week 2: Article # 1</p> <p>Week 3: Article # 2</p> <p>Week 4: Article # 2</p> <p>Week 5: Article # 3</p> <p>Week 6: Article # 3</p> <p>Week 7: Article # 4</p> <p>Week 8: Article # 4</p> <p>Week 9: Article # 5</p> <p>Week 10: Article # 5</p> <p>Week 11: Article # 6</p> <p>Week 12: Article # 6</p> <p>Week 13: Article # 7</p> <p>Week 14: Article # 7</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The Daily Yomiuri		Weekly exercises, presentation, attendance and class participation.	

09年度(春)	Comprehensive English III	担当者	J. Gray
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course meets twice a week and is concentrated on the four skills (reading, writing, listening and speaking). Students will be given opportunities to lead presentations and communicate with one another in English on a daily basis in order to build fluency and competence in interpersonal communication. Students will be working in groups and/or pairs in order to increase their individual communication time. Students will choose contemporary topics to base their presentation on and will also introduce appropriate special vocabulary needed for understanding the presentation and discussion in class. There will be daily quizzes, discussions, and presentations.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction / Demonstration/Assignment Choose Topics Today 2. Presentation Demonstration 3. Quiz 1 Student Presentations and Discussions 4. Quiz 2 Student Presentations and Discussions 5. Quiz 3 Student Presentations and Discussions 6. Quiz 4 Student Presentations and Discussions 7. Quiz 5 Student Presentations and Discussions 8. Quiz 6 Student Presentations and Discussions 9. Quiz 7 Student Presentations and Discussions 10. Quiz 8 Student Presentations and Discussions 11. Quiz 9 Student Presentations and Discussions 12. Quiz 10 Student Presentations and Discussions 13. Quiz 11 Student Presentations and Discussions 14. Wrap-up of this semester's work. <p>Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text: Handouts prepared by students Student led presentations		Grading: Students will be graded according to their attendance, quizzes, attitude, participation, homework, and presentations.	

09年度(秋)	Comprehensive English IV	担当者	J. Gray
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course meets twice a week and is concentrated on the four skills (reading, writing, listening and speaking). Students will be given opportunities to lead presentations and communicate with one another in English on a daily basis in order to build fluency and competence in interpersonal communication. Students will be working in groups and/or pairs in order to increase their individual communication time. Students will choose contemporary topics to base their presentation on and will also introduce appropriate special vocabulary needed for understanding the presentation and discussion in class. There will be daily quizzes, discussions, and presentations.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 15. Course Introduction / Demonstration/Assignment Choose Topics Today 16. Presentation Demonstration 17. Quiz 1 Student Presentations and Discussions 18. Quiz 2 Student Presentations and Discussions 19. Quiz 3 Student Presentations and Discussions 20. Quiz 4 Student Presentations and Discussions 21. Quiz 5 Student Presentations and Discussions 22. Quiz 6 Student Presentations and Discussions 23. Quiz 7 Student Presentations and Discussions 24. Quiz 8 Student Presentations and Discussions 25. Quiz 9 Student Presentations and Discussions 26. Quiz 10 Student Presentations and Discussions 27. Quiz 11 Student Presentations and Discussions 28. Wrap-up of this semester's work. <p>Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text: Handouts prepared by students Student led presentations		Grading: Students will be graded according to their attendance, quizzes, attitude, participation, homework, and presentations.	

09年度（春）	Comprehensive English III	担当者	N. Hamilton
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objectives of this course are to train students in the necessary skills for group discussion and presentation. To this end, we will examine a wide range of topical issues taken from everyday life and modern 21st Century culture. Students will select some of these topics themselves, but some will be selected by the Instructor, who will act as a Co-ordinator and Facilitator for the course. Throughout the course, the use of multi media will be used and instruction will be given on how to use mass media to enhance Presentation Skills.</p> <p>In the Spring Semester, the focus will be on developing these skills. The focus will be, as the title of the course suggests, the development of each student's basic English Language Skills.</p> <p>This Instructor believes that English learning should be fun, and enjoyable, and will strive to make the learning atmosphere relaxed and friendly, thereby enhancing learning ability!</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions/Getting to know you. 2. Newspapers and magazines and how to choose a topic for discussion. 3. Presentation Skills 4. Presentation Skills 5. Presentation Skills 6. Presentation Skills 7. Newspaper Presentations 8. Newspaper Presentations 9. Newspaper Presentations 10. Movie Reports 11. Movie Reports 12. Newspaper Presentations 13. Newspaper Presentations 14. Final Presentations 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will either be provided by the Instructor or by the students themselves, in the form of preparation for Presentations..		Students will be graded on a continuous assessment basis. There will be no final examination. Attendance, participation, presentations and general attitudes will determine the students' success or failure.	

09年度（秋）	Comprehensive English IV	担当者	N. Hamilton
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objectives of this course are similar to those of the Spring Semester. However, in the Autumn Semester students will get the chance to demonstrate their skills in the form of multi-media presentations. We will examine together the different ways to use modern mass media in the production of various presentations. Students will have the opportunity to develop their own personal Digital Diaries about some aspect of their own lives, and also to make and present group Digital Presentations, using the media available. Again, the atmosphere of the class will be relaxed and friendly, with the emphasis on the enjoyment of learning a second language.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the Autumn Semester 2. Using multi media in Presentations 3. Brainstorming ideas 4. Scriptwriting 5. Peer revision/editing 6. Using pictures/video clips 7. Use of music in presentations 8. Putting it all together 9. Final Editing 10. Preparing for delivery 11. Individual Presentations 12. Individual Presentations 13. Group Presentations 14. Group Presentations 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will either be provided by the Instructor or by the students themselves, in the form of preparation for Presentations.		Students will be graded on the basis of continuous assessment. There will be no final examination, but attendance, participation, presentation, and general attitudes will determine success or failure in this course.	

09年度(春)	Comprehensive English III	担当者	P.Apps
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is the second year Comprehensive English course.</p> <p>It is designed for students with intermediate level abilities in listening and speaking. Emphasis is placed on the students to motivate themselves in the classroom.</p> <p>The students will be expected to participate in discussions in the classroom and give opinions on a wide variety of topics.</p> <p>The students will select two assignments of a possible</p> <p>Which include</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Recording a radio commercial 2. A Poster presentation 3. A power point Presentation 4. A two page essay 		<p>The topics studied in this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Identity Theft ○ Advertising ○ Endurance ○ The English Language ○ Culture 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Northstar Listening and Speaking Three (New Edition)</p> <p>by Helen S Solorzano and Jennifer P.L. Schmidt</p>		<p>Evaluation</p> <p>1) Class attendance 20% 2) Class Attitude 20%</p> <p>3) Tests and assignments 60%</p>	

09年度(秋)	Comprehensive English IV	担当者	P.Apps
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is the second year Comprehensive English course.</p> <p>It is designed for students with intermediate level abilities in listening and speaking. Emphasis is placed on the students to motivate themselves in the classroom.</p> <p>The students will be expected to participate in discussions in the classroom and give opinions on a wide variety of topics.</p> <p>The students will select two assignments of a possible</p> <p>Which include</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Recording a scary story 2. A Poster presentation 3. A power point Presentation 4. A two page essay 		<p>The topics studied in this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Identity Theft ○ Advertising ○ Endurance ○ The English Language ○ Culture 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Northstar Listening and Speaking Three (New Edition)</p> <p>by Helen S Solorzano and Jennifer P.L. Schmidt</p>		<p>Evaluation</p> <p>1) Class attendance 20% 2) Class Attitude 20%</p> <p>3) Tests and assignments 60%</p>	

09年度 (春)	Reading Strategies III (HONORS)	担当者	Adam Zollinger
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Reading Strategies III (Honors) is an advanced level reading course designed to help students develop effective skills, strategies and practices for improving their reading and vocabulary. Based on a variety of readings selected for their sentiment and humor, as well as for their relevance to present-day society, it is the aim of the instructor that through the course of the semester students come to develop a genuine fondness for and interest in reading English.</p> <p>Focus readings will include essays, memoirs, contemporary fiction, and recently-published newspaper articles from authors/journalists Jon Krakauer, Malcolm Gladwell, Barbara Ehrenreich, David Sedaris, Kathryn Stockett and Nick Hornby, among others.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Quick easy reading – Recalling and retelling what you’ve read 3. Reading 1: Introduction to author and theme / First read 4. Reading 1: Vocabulary and comprehension exercises 5. Reading 1: Group discussion / Final read and review 6. Reading 2: Introduction to author and theme / First read 7. Reading 2: Vocabulary and comprehension exercises 8. Reading 2: Group discussion / Final read and review 9. Reading 3: Introduction to author and theme / First read 10. Reading 3: Vocabulary and comprehension exercises 11. Reading 3: Group discussion / Final read and review 12. Reading 4: Introduction to author and theme / First read 13. Reading 4: Vocabulary and comprehension exercises 14. Reading 4: Group discussion / Final read and review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		Final evaluations will be based on attendance (20%), participation in classroom discussions (20%), the completion of in-class and homework assignments (35%), and achievement on a final report (25%).	

09年度 (秋)	Reading Strategies IV (HONORS)	担当者	Adam Zollinger
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Reading Strategies IV (Honors) is an advanced level reading course designed to help students develop effective skills, strategies and practices for improving their reading and vocabulary. Based on a variety of readings selected for their sentiment and humor, as well as for their relevance to present-day society, it is the aim of the instructor that through the course of the semester students come to develop a genuine fondness for and interest in reading English.</p> <p>Focus readings will include essays, memoirs, contemporary fiction, and recently-published newspaper articles from authors/journalists Jon Krakauer, Malcolm Gladwell, Barbara Ehrenreich, David Sedaris, Kathryn Stockett and Nick Hornby, among others.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Quick easy reading – Recalling and retelling what you’ve read 3. Reading 1: Introduction to author and theme / First read 4. Reading 1: Vocabulary and comprehension exercises 5. Reading 1: Group discussion / Final read and review 6. Reading 2: Introduction to author and theme / First read 7. Reading 2: Vocabulary and comprehension exercises 8. Reading 2: Group discussion / Final read and review 9. Reading 3: Introduction to author and theme / First read 10. Reading 3: Vocabulary and comprehension exercises 11. Reading 3: Group discussion / Final read and review 12. Reading 4: Introduction to author and theme / First read 13. Reading 4: Vocabulary and comprehension exercises 14. Reading 4: Group discussion / Final read and review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		Final evaluations will be based on attendance (20%), participation in classroom discussions (20%), the completion of in-class and homework assignments (35%), and achievement on a final report (25%).	

09年度(春)	Reading Strategies III (HONORS)	担当者	T.Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is for anyone who is interested in Irish Gaelic Folk stories. But it is not an academic course for specialists. In this class we will study each chapter over a two week period. No more than a few pages each. Written in a lively and exciting style the book is a delightful read. Based on various stories from Ireland this book is an attempt to preserve some of the native lore that helped make up the Irish fabric of life during the 1800s. Class time will be divided between mini-lectures, discussions and workshops. Students interested in the course should have a keen interest in learning about folk-lore, particularly the folk-lore in the Irish context.</p>		<p>Week 1: Course Introduction Week 2: The Tailor and the Three Beasts Week 3: Continued Week 4: Bran Week 5: Continued Week 6: The King of Ireland's Son Week 7: Continued Week 8: The Alp-Luachra Week 9: Continued Week 10: Paudyeen O'Kelly and the Weasal Week 11: Continued Week 12: Leeam O'Rooney's Burial Week 13: Continued Week 14: Final Class</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Beside the Fire: A Collection of Irish Folk Stories by Dougal Hype		Evaluation will be based on attendance, participation in class, completion and submission of weekly hand-outs, and a term paper.	

09年度(秋)	Reading Strategies IV (HONORS)	担当者	T.Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is for anyone who is interested in Irish Gaelic Folk stories. But it is not an academic course for specialists. In this class we will study each chapter over a two week period. No more than a few pages each. Written in a lively and exciting style the book is a delightful read. Based on various stories from Ireland this book is an attempt to preserve some of the native lore that helped make up the Irish fabric of life during the 1800s. Class time will be divided between mini-lectures, discussions and workshops. Students interested in the course should have a keen interest in learning about folk-lore, particularly the folk-lore in the Irish context..</p>		<p>Week 1: First Class Week 2: Guleesh na Guss Dhu Week 3: Continued Week 4: The Well of D'Yerree-in-Dowan Week 5: Continued Week 6: The Court of Crinnawn Week 7: Continued Week 8: Neal O'Carre Week 9: Continued Week 10: Trunk without Head Week 11: Continued Week 12: The Hags of Long Teeth Week 13: Continued Week 14: Final Class</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Printed reading materials will be provided by the instructor.		Grades will be based on class participation, attendance, evaluations and class notebooks	

09年度(春)	Reading Strategies III	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 この講義では、語彙を増やすことと精読のスキルを伸ばすことを主な目的とします。</p> <p>講義概要 英語圏の作家の書いた短編小説を読みます。共通テーマは「子ども」ですが、熟練の作家たちによる作品なので、ほのぼの楽しいだけのものではなく、さまざまなひねりが効いています。授業ではそのひねりを一緒に読み解いていきたいと考えています。</p> <p>精読用のテキストですので、英語はそれなりに難しいです。丹念に辞書を引き、文法の知識を動員して、じっくり読みましょう。毎回宿題として4ページほど読み、課題プリント(サマリーなど)を提出してもらいます。授業では細部の表現に注目するほか、担当者から内容に関する質問をします。作品をひとつ読み終わった時点で時間を設け、作品鑑賞のためのさらに突っ込んだディスカッションやライティングをします。</p>		<p>1. イントロダクション *授業の進め方を説明しますので、かならず出席してください。</p> <p>2~4. John Updike, "Should Wizard Hit Mommy?"</p> <p>5~7. Graham Greene, "The End of the Party"</p> <p>8~10. William Boyd, "Killing Lizards"</p> <p>11~12. Saki, "Open Window"</p> <p>13~14. Penelope Lively, "Next Term, We'll Mash You"</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Escott & Bassett eds, <i>The Eye of Childhood</i> (OUP, 2000)		毎回の課題、授業への参加、学期末試験を総合評価 *ただし4回以上の欠席は評価の対象としない。	

09年度(秋)	Reading Strategies IV	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義のおもな目的 春学期と同じ</p> <p>講義概要 春学期と同じテキストを読み進み、比較的長い作品に取り組みます。読み方に慣れてきたら、グループ・ディスカッション形式を取り入れる予定です。</p>		<p>1. イントロダクション</p> <p>2~6. Susan Hill, "Friends of Miss Reece"</p> <p>7~10. Bernard MacLaverty, "Secrets"</p> <p>11~14. Morley Callaghan, "The Runaway"</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		毎回の課題、授業への参加、学期末試験を総合評価 *ただし4回以上の欠席は評価の対象としない。	

09年度(春)	Reading Strategies III	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的に応じた英文の読み方を習得しながら、語彙力や批判的読解力に加えて英語でのプレゼンテーションとライティングのスキルを高めるといふ、欲張りな授業目標を設定しています。これらを達成するために、(1) 徹底した音読練習、(2) 中級レベルの英文の精読、(3) 教材の内容についてのプレゼンテーションとディスカッション、(4) 学習テーマの理解を深めるためのシミュレーション・ゲーム等のホリスティックな学習方法を用意しています。</p> <p>春学期は、年間を通して行われる音読練習の意義と練習方法の説明、スキヤニング、スキミング、メモやノートの取り方等の基本技術を学習(復習?)するところから始まります。次に、平易な文で書かれた伝統的な異文化間コミュニケーション論の教材を用いながら、要旨のまとめ方と英語でのプレゼンテーションの仕方について実践を通して学びます。更に、「異文化間コミュニケーション(論)」に関する様々な誤解を解消しながら、日本の大学生が英語でコミュニケーションする際の問題点や弱点、強みについて考察します。こうした一連の学習の成果は、学期末に教材の書評(book review)を英語で執筆するという形で確認されることとなります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. RS I&II の復習 3. 心を読む/読まれる 4. Culture and communication (pp. 1-7) 5. Intercultural communication (pp.8-16) 6. Verbal messages (pp.17-23) 7. Verbal messages (pp.23-31) 8. Verbal messages (pp.32-36) 9. Nonverbal communication (pp.37-45) 10. Nonverbal communication (pp.45-58) 11. Nonverbal communication (pp.58-67) 12. Becoming more effective (pp.68-76) 13. Becoming more effective (pp.76-83) 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>サマーバー・L・A 他 (2002) 『現代英文テキスト 異文化との出会い』 研究社。</p> <p>国弘正雄、千田潤一 (2004) 『英会話・ぜったい・音読 続挑戦編』 講談社。</p>		<p>英語でのプレゼンテーション (40%)、音読テスト (20%)、書評(英文で 500~1,000 語程度) (30%)、授業参加 (10%)</p>	

09年度(秋)	Reading Strategies IV	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、周囲の環境の変化に伴う戸惑いや葛藤について扱った寓話を異文化適応理論や文化理論の知見を借りながら批判的・分析的に読みます。寓話の精読と内容に関するプレゼンテーションやディスカッション、関連文献の精読、シミュレーション・ゲームへの参加により、留学、仕事、婚姻、或いは紛争や貧困などの理由で国や地域を越えて生活することの意味や、外国語を学んだり国際的(グローバル)な分野の学問をしたりすることの意義についての理解を深めます。秋学期と同様に、学期末には英語で書評を執筆していただきます。</p> <p>授業参加が非常に重視されますので、積極的に発言し意見交換をしながら語学力と思考力を向上させたい人の受講を望みます。また、授業担当者も英語の学習者であり、英語が支配的になっている国際的な場面での倫理的なコミュニケーションの在り方を模索中であること、授業は日英両言語で行われること、4分の1以上の欠席は不可なることを理解のうえ、授業に臨んでください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. <i>Who moved my cheese?</i>を独りで読む 3. あなたの異文化適応能力は? 4. Culture shock and cross-cultural adjustment (Levine & Adelman, 1993) 5. A gathering (pp.21-24) 6. The story of Who Moved My Cheese? (pp. 25-36) 7. The story of Who Moved My Cheese? (pp. 37-46) 8. The story of Who Moved My Cheese? (pp. 47-56) 9. The story of Who Moved My Cheese? (pp. 57-66) 10. The story of Who Moved My Cheese? (pp. 67-76) 11. A discussion (pp. 77-94) 12. The story behind the story (pp.12-18) 13. カルチャーショックという名のプレゼント 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Johnson, S. (1998). <i>Who moved my cheese?</i> London: Vermilion.</p> <p>その他のプリント教材</p>		<p>英語でのプレゼンテーション (40%)、音読テスト (20%)、書評(英文で 500~1,000 語程度) (30%)、授業参加 (10%)</p>	

09年度（春）	Reading Strategies III	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英字新聞からいくつか記事を読んで、vocabulary の増やし方を学びます。続いて英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察しながら、多種多様な会話表現を覚えていこうと思います。また実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してみてください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。</p> <p>教室ではお互いの翻訳を確認しながら、テキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>最初の数回で、英字新聞の記事をもとに vocabulary を増やす読み方を試してみて、次に英米の現代演劇の台本をテキストにして取り組んでいきます。教室で読む演劇テキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにしていますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。</p> <p>レポートに関する事など、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。</p> <p>参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。観劇レポート(500字) 2編で 40%。学期末定期試験はしません。レポートは 2編必修です。未提出者には単位を認めません。</p>	

09年度（秋）	Reading Strategies IV	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英字新聞からいくつか記事を読んで、vocabulary の増やし方を学びます。続いて英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察しながら、多種多様な会話表現を覚えていこうと思います。また実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してみてください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。</p> <p>教室ではお互いの翻訳を確認しながら、テキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>最初の数回で、英字新聞の記事をもとに vocabulary を増やす読み方を試してみて、次に英米の現代演劇の台本をテキストにして取り組んでいきます。教室で読む演劇テキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにしていますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。</p> <p>レポートに関する事など、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。</p> <p>参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。観劇レポート(500字) 2編で 40%。学期末定期試験はしません。レポートは 2編必修です。未提出者には単位を認めません。</p>	

09年度(春)	Reading Strategies III	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、英語の読解力を高めることにある。使用するテキストは、日本語と英語を「らしさ」のレベルで比較対照するものである。これにより、間違いのない英語から英語らしい英語へと意識が高まり、日本語を特徴づける日本語らしさといったものに対する自覚もめばえるであろう。</p> <p>授業では、下記のテキストの第3章 Situation focus, 第9章 Responsibility and situation focus, 第4章 Blending existential and possessive expressions 及び第6章 Transitives, intransitives, and inchoatives をこの順に読んでゆく。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>英語を読む力は、鍛錬とか修練ということばによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする、学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよし、というようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについて学ぶことができるはずである。</p>		<p>春学期14回の授業でテキストの4つの章を読み進める。以下に、進度の目安・目標となる予定をあげておく。</p> <p>第1回(4月7日)オリエンテーション(出席は必須) 第2回(4月14日)第3章1 第3回(4月21日)第3章2 第4回(4月28日)第3章3 第5回(5月12日)第9章1 第6回(5月19日)第9章2 第7回(5月26日)第9章3 第8回(6月2日)第4章1 第9回(6月9日)第4章2 第10回(6月16日)第4章3 第11回(6月23日)第6章1 第12回(6月30日)第6章2 第13回(7月7日)第6章3 第14回(7月14日)春学期の復習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hinds, John (1986) <i>Situation vs. Person Focus.</i> Tokyo: Kuro시오.		評価は定期試験期間中の試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である(ただし、出席そのものが加点の対象となることはない)。	

09年度(秋)	Reading Strategies IV	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、英語の読解力を高めることにある。使用するテキストは、日本語と英語を「らしさ」のレベルで比較対照するものである。これにより、間違いのない英語から英語らしい英語へと意識が高まり、日本語を特徴づける日本語らしさといったものに対する自覚もめばえるであろう。</p> <p>授業では、下記のテキストの第7章 States rather than actions, 第1章 Ellipsis in conversation, 第2章 Referential triggers, 第5章 Avoiding possession marking, 第8章 Required absence of subjects 及び第10章 Ellipsis in situation focus をこの順に読んでゆく。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>英語を読む力は、鍛錬とか修練ということばによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする、学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよし、というようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについて学ぶことができるはずである。</p>		<p>秋学期14回の授業でテキストの6つの章を読み進める。以下に、進度の目安・目標となる予定をあげておく。</p> <p>第1回(9月29日)第7章1 第2回(10月6日)第7章2 第3回(10月13日)第1章1 第4回(10月20日)第1章2 第5回(10月27日)第2章1 第6回(11月3日)第2章2 第7回(11月10日)第5章1 第8回(11月17日)第5章2 第9回(11月24日)第8章1 第10回(12月1日)第8章2 第11回(12月8日)第10章1 第12回(12月15日)第10章2 第13回(12月22日)秋学期の復習1 第14回(1月12日)秋学期の復習2</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hinds, John (1986) <i>Situation vs. Person Focus.</i> Tokyo: Kuro시오.		評価は定期試験期間中の試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である(ただし、出席そのものが加点の対象となることはない)。	

09年度（春）	Reading Strategies III	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>平均的な大学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎、各章毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。</p>		<p>最初の授業で説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米史に関するテキストをコピーして、その都度配布します。</p>		<p>筆記試験をします。平常点も30%ほど考慮します。欠席が授業回数の1/3を超えた場合、単位を与えません。遅刻は3回で欠席1回分にカウントします。</p>	

09年度（秋）	Reading Strategies IV	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ。</p>		<p>最初の授業で説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期と同じ。</p>		<p>春学期と同じ。</p>	

09年度（春）	Reading Strategies III	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>将来の専門分野研究につながる学術語彙を増やし、速読や精読に必要な読解技術の向上を目指すことを本授業の目的とする。</p> <p>本授業では、グローバリゼーションに関する入門書を主たるテキストとして使用し、基礎概念を学び著者の意図を正しく理解し、批評的な読み方を訓練する。</p> <p>授業では、小テストや発表（個人、グループ）を行う予定である。毎週読んできたものを前提に授業を進める。</p> <p>秋学期は春学期と同じテキストを使用する予定ですので、春学期と秋学期の両方の受講が望ましい。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Preface</p> <p>第3～5回 Chapter 1</p> <p>第6回 サマリー・ライティング</p> <p>第7～9回 Chapter 2</p> <p>第10回 サマリー・ライティング</p> <p>第11～13回 Chapter 3</p> <p>第14回 サマリー・ライティング、グループ発表</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>（参考資料）Manfred B. Steger. <i>Globalization: A very Short Introduction</i>, Oxford: Oxford University Press, 2009. テキストは教員が配布する。</p>		<p>出席、授業態度、発表、課題、学期末試験の総合評価とする。3回を超えて欠席したものは、単位修得の権利を失う。</p>	

09年度（秋）	Reading Strategies IV	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>将来の専門分野研究につながる学術語彙を増やし、速読や精読に必要な読解技術の向上を目指すことを本授業の目的とする。</p> <p>本授業では、グローバリゼーションに関する入門書を主たるテキストとして使用し、基礎概念を学び著者の意図を正しく理解し、批評的な読み方を訓練する。</p> <p>授業では、小テストや発表（個人、グループ）を行う予定である。毎週読んできたものを前提に授業を進める。</p> <p>秋学期は春学期と同じテキストを使用する予定ですので、春学期と秋学期の両方の受講が望ましい。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2～4回 Chapter 4</p> <p>第5回 サマリー・ライティング</p> <p>第6～8回 Chapter 5</p> <p>第9回 サマリー・ライティング</p> <p>第10～12回 Chapter 6</p> <p>第13回 サマリー・ライティング</p> <p>第14回 グループ発表</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>（参考資料）Manfred B. Steger. <i>Globalization: A very Short Introduction</i>, Oxford: Oxford University Press, 2009. テキストは教員が配布する。</p>		<p>出席、授業態度、小テスト、課題、発表の総合評価とする。3回を超えて欠席したものは、単位修得の権利を失う。</p>	

09年度(春)	Reading Strategies III	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>まず第一の目的は、1年時に学んだことを基に、更に速読(faster reading)のスキルを実践的に学ぶ。第二に時間が許せば、終わりの10-15分位を使って、直読(direct reading)による読みの訓練を目指す。直読とは、我々が、(日本語の)新聞などを読んで直ぐ分かるように、英文をその場で読んで直ぐ分かることである。第三に自由読書(pleasure reading)として課外で読んでいただく。速読の実践の為である。なお、日程などの詳細は、以下の通り。</p> <p>自由読書、課題と日程</p> <p>A. 課題 指定されたテキストだけでは、読む量に限界もあり、自分の好きな英文を読むというメリットをも活かすため、150頁程度の英文を課外で自由に読んでもらう。 「読んだ英文の内容を2000字程度にまとめ、終わりに原文を読んだ証拠を付け。」</p> <p>B. 日程 a.5月12日(水)指定された用紙にタイトル他を決めて申告する。 b.6月18日(水)中間発表会(タイトル変更可) c.7月14日(水)提出(教室で、直接)</p>		<p>1~14</p> <p>Human Gene Map, Finding Atlantis Meteor Collision with Earth Dark Matter Farthest Supernova Stress and Illness Snow Spider and Silk Ancestor of Humans Bird Brain</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
小西康雄他編『生活の中の科学—四訂版』(朝日出版社)その他適宜プリント使用。		A. 期末テスト 80% B. 自由読書 20%	

09年度(秋)	Reading Strategies IV	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>RSIIIに引き続き、速読のスキルを付けると共に、やや精読に近い学びを心がける。また直読、自由読書も引き続き実践していただく。詳細は以下の通り。</p> <p>自由読書、課題と日程</p> <p>A. 課題 上に同じ。</p> <p>B. 日程 a.10月13日(水)指定された用紙にタイトル他を決めて申告する。 b.11月24日(水)中間発表会(タイトル変更可) c.1月12日(水)提出(直接教室にて)</p>		<p>1~14</p> <p>Stem Cell Research Plate Tectonics Robotic Surgery Tiny Transistor Lying Eyes Designer Antibiotics Bacteria and Stomach Cancer Process of Tumor Growth Dental Health Nobel Science Prizes</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記テキスト続き。		A. 期末テスト 80% B. 自由読書 20%	

09年度（春）	Reading Strategies III	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文法をいくら知識として覚えていても、その応用力がなければ、英語を十分に読みこなせるようにはならない。</p> <p>「なんとなく解かる」という曖昧な読み方をつづけていたのでは、いつまでたっても、細かな内容やニュアンスを読み取れるようにはならないのである。そこで当講座では、<u>英文法の応用力アップを目的</u>として授業を進めていきたい。</p> <p>なお、授業の3分の1以上を欠席した場合、単位は認められない。</p>		<p>当授業では、学生は文法の応用力アップを目的としている。いろいろな英文の解読に取り組むことになる。内容の委細については、今の時点では未定であるが、TOEIC®の文法問題を広く用いたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		平常の授業での評価	

09年度（秋）	Reading Strategies IV	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		出席、平常の授業での評価	

09年度(春)	Reading Strategies III	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Classic Rock の中から代表的な26曲の歌詞を取り上げ、その作品から時代を読む。50年のRockの歴史から生まれた「歌われる現代詩」の言葉の魅力を、いわゆる現代詩とシンクロさせてみたい。CD、DVDなどは担当者が用意する。</p> <p>2人1組のレポーターを中心にディスカッション形式でおこなう。レポーターは、発表前に疑問や問題点をメーリング・リストで受講者に送る。それをもとに各自がそれぞれの解釈を持ちより、クラスでディスカッションする。個々の作品が生まれた政治的・社会的・経済的背景を視野に入れながら、インタラクティブに“Rock Culture”を考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.“America” by Paul Simon 2.“Eleanor Rigby” by the Beatles 3.“The Boxer” by Paul Simon 4.“Across the Universe” by the Beatles 5.“Me and Bobby McGee” by Janis Joplin 6.“Big Yellow Taxi” by Joni Michell 7.“Sweet Baby James” by James Tylar 8.“California” by Joni Michell 9.“Good Night Saigon” by Billy Joel 10.“The River” by Bruce Springsteen 11.“Luka” by Suzanne Vega 12.“At Seventeen” by Janis Ian 13.“The Last Resort” by the Eagles 14.“Heart of Gold” by Neil Young 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは担当者がプリントを用意する。 参考資料: DVD: The History of Rock 'n' Roll (5pc)</p>		<p>プレゼンテーションとレポート(ワープロで約4,000字程度の作品論)によって決める。欠席が授業回数の1/3を超えた場時には、評価の対象とはしない。</p>	

09年度(秋)	Reading Strategies IV	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、Bob Dylan の代表的な15曲の歌詞を取り上げ、その作品から時代を読む。50年のRockの歴史から生まれた「歌われる現代詩」の言葉の魅力を、いわゆる現代詩とシンクロさせてみたい。CD、DVDなどは担当者が用意する。</p> <p>2人1組のレポーターを中心にディスカッション形式でおこなう。レポーターは、発表前に疑問や問題点をメーリング・リストで受講者に送る。それをもとに各自がそれぞれの解釈を持ちより、クラスでディスカッションする。個々の作品が生まれた政治的・社会的・経済的背景を視野に入れながら、インタラクティブにアメリカ文化論を考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Blowin' in the Wind 2. A Hard Rain's A-Gonna Fall 3. Don't Think Twice, It's All Right 4. Masters of War 5. Mr. Tambourine Man 6. My Back Pages 7. Like a Rolling Stone 8. Desolation Row 9. All along the Watchtower 10. Idiot Wind 11. One More a Cup of Coffee (Valley Below) 12. Sara 13. Hurricane 14. Jokerman 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>http://www.bobdylan.com/#/songs よりダウンロード可。</p>		<p>プレゼンテーションとレポート(ワープロで約4,000字程度の作品論)によって決める。欠席が授業回数の1/3を超えた場時には、評価の対象とはしない。</p>	

09年度（春）	Reading Strategies III	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
ヨーロッパの文化について述べた文章を読む。		各時間、各一章ずつ読む。 なお、授業時には、名簿順に席に着いていただく。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Appreciating European Culture</i> また、変更の場合あり。		出席を評価する。また、毎授業時での発表等も評価し、更に定期試験の結果を評価する。	

09年度（秋）	Reading Strategies IV	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準じる		春学期に準じる	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期の続きを読む。		春学期に準じる。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ (Japanese Art & Culture) 英語専門講読a (Japanese Art & Culture)	担当者	A. Zollinger
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. Noh and noh masks will also be discussed.</p> <p>Reading for the course is aimed at preparing students to attend related art exhibitions in the Tokyo metropolitan area during the course of the semester. Drawing from academic articles, museum catalogues, and texts, students will study the profiles and backgrounds of the featured artists; study the artists' characteristic painting styles; study the common themes and iconography of selected paintings; and study the cultural context from which the works of art were produced.</p> <p>Working together in small groups, students will routinely be called upon to summarize their reading, to respond to prepared comprehension questions, and to introduce additional supportive materials (imagery and text) for in-class discussion.</p>		<p>Exhibitions for study during the spring semester will include two from the following:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 根津美術館「新創記念特別展第5部 国宝燕子花図屏風 —琳派コレクション—一挙公開—」 2010年4月24日～4月23日 ● 根津美術館「新創記念特別展第6部 能面の心・装束の華 —物語をうつす姿—」 2010年6月5日～7月4日 — paired with — サントリー美術館「国立能楽堂コレクション展「能の雅 (エレガンス) 狂言の妙 (エスプリ)」」 2010年6月12日～7月25日 ● 出光美術館「日本の美・発見Ⅳ 屏風の世界 —その変遷と展開—」 2010年6月12日～7月25日 <p>Following a general introduction, classes 1 through 7 will comprise reading and discussion exercises directed toward the first exhibition, with classes 8 through 14 directed toward the next.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		Final evaluations will be based on attendance (25%), the completion of homework assignments (25%), and achievement on quizzes (25%) and on a final report (25%).	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ (Japanese Art & Culture) 英語専門講読b (Japanese Art & Culture)	担当者	A. Zollinger
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. Noh and noh masks will also be discussed.</p> <p>Reading for the course is aimed at preparing students to attend related art exhibitions in the Tokyo metropolitan area during the course of the semester. Drawing from academic articles, museum catalogues, and texts, students will study the profiles and backgrounds of the featured artists; study the artists' characteristic painting styles; study the common themes and iconography of selected paintings; and study the cultural context from which the works of art were produced.</p> <p>Working together in small groups, students will routinely be called upon to summarize their reading, to respond to prepared comprehension questions, and to introduce additional supportive materials (imagery and text) for in-class discussion.</p>		<p>Exhibitions for study during the fall semester will include two from the following:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 三井記念美術館「特別展 円山応挙—空間の創造—」 2010年10月9日～11月28日 ● サントリー美術館「歌麿・写楽の仕掛け人 —その名は葛屋重三郎—」 2010年11月3日～12月19日 ● 出光美術館「酒井抱一生誕 250年 琳派芸術 —光悦・宗達から江戸琳派—」 第1部 〈煌めく金の世界〉 2011年1月8日～2月6日 <p>Following a general introduction, classes 1 through 7 will comprise reading and discussion exercises directed toward the first exhibition, with classes 8 through 14 directed toward the next.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		Final evaluations will be based on attendance (25%), the completion of homework assignments (25%), and achievement on quizzes (25%) and on a final report (25%).	

06～09 年度 (春) 03～05 年度 (春)	英語専門講読 I (Language, Culture and Communication) 英語専門講読 a (Language, Culture and Communication)	担当者	C.B. Ikeguchi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to provide a lot of reading opportunity to develop different reading skills. The reading skills in focus range from simple factual comprehension to interpretation and reasoning for implications. Materials will focus on the relation between language and culture.</p> <p>The choice of materials is based on the rationale that students today live in an ever globalizing world. Travel is a necessity. There is a great need to interrelate with diverse people of different language and culture backgrounds. The basic step, awareness of the issue, is the final goal, by reading materials on these and related topics.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course orientation: scope of the lesson, class methods, evaluation, etc. 2. The joys of traveling 3. Various types/experiences of culture travelers (1) 4. Various types/experiences of culture travelers (2) 5. Travel, Tourism & Culture Interaction 6. Culture interaction as a result of traveling 7. Culture interaction as a result of traveling 8. Culture shock experience: how to deal with it(1) 9. Culture shock experience: how to deal with it (2) 10. Foreigners in Japan: what they say! 11. Foreigners in Japan: why they say so!! 12. The Japanese uniqueness (1) 13. The Japanese uniqueness (2) 14. Summary and evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text and references will be announced on the first day of class.		Student grades will be based on a summative evaluation of class participation and end-of-term test or report.	

06～09 年度 (秋) 03～05 年度 (秋)	英語専門講読 II (Language, Culture and Communication) 英語専門講読 b (Language, Culture and Communication)	担当者	C.B. Ikeguchi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of the lessons in the second term continue from those of the first term.</p> <p>This course aims to provide a lot of reading opportunity to develop different reading skills. The reading skills in focus range from simple factual comprehension to interpretation and reasoning for implications. Materials will focus on the relation between language and culture.</p> <p>The choice of materials is based on the rationale that students today live in an ever globalizing world. Travel is a necessity. There is a great need to interrelate with diverse people of different language and culture backgrounds. The basic step, awareness of the issue, is the final goal, by reading materials on these and related topics.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course orientation: scope of the lessons, class methods, evaluation, etc. 2. Culture, language and communication style 3. Sweet interdependence “Amae” 4. Interdependence & culture homogeneity 5. Respectfulness and homogeneity 6. Relational identities 7. Levels of politeness: language honorifics 8. Culture and politeness 9. Masculinity and language use 10. Femininity and language use 11. Back channelling 1: types of back channelling 12. Back channelling 2: psychological use in face-to-face communication 13. Back channelling 3: cultural factors and back channelling 14. Summary and evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text will be announced on the first day of class.		Student grades will be based on a summative evaluation of class participation and end-of-term test or report.	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ (Education&Culture) 英語専門講読a (Education&Culture)	担当者	J.J. Duggan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><i>Learning to Bow</i> is the first-person account of a young American taking part in the JET program in Japan. It offers an instructive, yet amusing, inside look at Japan's educational system as seen by someone from another culture. The author's account of his experiences with his Japanese students, supervisors and colleagues (including such educationally and culturally relevant topics as how boys and girls learn gender roles, or the impact of strict school rules) will form the basis of study for this class.</p> <p>By reading and discussing the observations made by the author, it is hoped that students will achieve a new outlook and understanding of the education system in Japan and of Japanese society and culture in general.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.</p> <p>As participation and attendance are essential for learning from this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Introduction. Week 2: Selected chapter. Week 3: Selected chapter. Week 4: Selected chapter. Week 5: Selected chapter. Week 6: Selected chapter. Week 7: Selected chapter. Week 8: Selected chapter. Week 9: Selected chapter. Week 10: Selected chapter. Week 11: Selected chapter. Week 12: Selected chapter. Week 13: Selected chapter. Week 14: Review.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Feiler, B. <i>Learning to Bow: Inside the Heart of Japan</i> . (Harper Perennial).		Grades are based on in-class participation, assignments, and a final assessment based on the text and lecture.	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ (Education&Culture) 英語専門講読b (Education&Culture)	担当者	J.J. Duggan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><i>Learning to Bow</i> is the first-person account of a young American taking part in the JET program in Japan. It offers an instructive, yet amusing, inside look at Japan's educational system as seen by someone from another culture. The author's account of his experiences with his Japanese students, supervisors and colleagues (including such educationally and culturally relevant topics as how boys and girls learn gender roles, or the impact of strict school rules) will form the basis of study for this class.</p> <p>By reading and discussing the observations made by the author, it is hoped that students will achieve a new outlook and understanding of the education system in Japan and of Japanese society and culture in general.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.</p> <p>As participation and attendance are essential for learning from this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Introduction. Week 2: Selected chapter. Week 3: Selected chapter. Week 4: Selected chapter. Week 5: Selected chapter. Week 6: Selected chapter. Week 7: Selected chapter. Week 8: Selected chapter. Week 9: Selected chapter. Week 10: Selected chapter. Week 11: Selected chapter. Week 12: Selected chapter. Week 13: Selected chapter. Week 14: Review.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Feiler, B. <i>Learning to Bow: Inside the Heart of Japan</i> . (Harper Perennial).		Grades are based on in-class participation, assignments, and a final assessment based on the text and lecture.	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ (Origin and Evolution of Language) 英語専門講読a (Origin and Evolution of Language)	担当者	J.N.Wendel
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Language is the most extraordinary ability that humans possess, and yet, curiously, we seem to know so little about its origins and evolution. In fact, the past 30 years have seen fascinating developments in our understanding of these questions. These developments are found in sciences that range across many disciplines including biology, genetics, archeology, anthropology, psychology, computer modeling, and, of course, linguistics. This course will survey the many perspectives that have enriched our understanding of language and its origin and evolution.</p> <p>A word of advice—This course will require careful reading of a text (<i>The Seeds of Speech</i>) and, possibly, a few short articles. Although the text is written with the general reader in mind, it is not an easy read, and, in order to pass the course, you will need to be able to understand, discuss, and write about the ideas covered in the book. Thus I would recommend this course only to students who are genuinely interested in these questions—the origin and evolution of language—and who are willing to devote the time and effort it takes to acquire an understanding of them.</p>		<p>1 Orientation</p> <p>2-3 How did language begin: A natural curiosity</p> <p>4-5 What is language for: A peculiar habit</p> <p>6-7 Why do languages differ so much? The bother at Babel</p> <p>8-9 Is language an independent skill? Distinct duties</p> <p>10-11 The evolutionary background: The family tree</p> <p>12 Test</p> <p>13-14 Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>The Seeds of Speech: Language origin and evolution.</i> (2000) Jean Aitchison. Cambridge University Press.		Students will be evaluated according to the quality of their contributions to the class discussions, presentations, and a test.	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ (Origin and Evolution of Language) 英語専門講読b (Origin and Evolution of Language)	担当者	J.N.Wendel
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Language is the most extraordinary ability that humans possess, and yet, curiously, we seem to know so little about its origins and evolution. In fact, the past 30 years have seen fascinating developments in our understanding of these questions. These developments are found in sciences that range across many disciplines including biology, genetics, archeology, anthropology, psychology, computer modeling, and, of course, linguistics. This course will survey the many perspectives that have enriched our understanding of language and its origin and evolution.</p> <p>A word of advice—This course will require careful reading of a text (<i>The Seeds of Speech</i>) and, possibly, a few short articles. Although the text is written with the general reader in mind, it is not an easy read, and, in order to pass the course, you will need to be able to understand, discuss, and write about the ideas covered in the book. Thus I would recommend this course only to students who are genuinely interested in these questions—the origin and evolution of language—and who are willing to devote the time and effort it takes to acquire an understanding of them.</p>		<p>1 Orientation</p> <p>2-3 The basic requirements of language: A devious mind</p> <p>4-5 Inherited ingredients: Broken air</p> <p>6-7 First steps in language: Small beginnings</p> <p>8-9 Expansion of language: The tower of speech</p> <p>10-11 Extra attachments: Time travelling</p> <p>12 Test</p> <p>13 Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>The Seeds of Speech: Language origin and evolution.</i> (2000) Jean Aitchison. Cambridge University Press.		Students will be evaluated according to the quality of their contributions to the class discussions, presentations, and a test.	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ (James Joyce) 英語専門講読a (James Joyce)	担当者	M. Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to introduce students of English to the works of the Irish writer, James Joyce.</p> <p>During the spring term, we will focus on Joyce's collection of short stories, <i>Dubliners</i> and begin reading his semi-autobiographical novel <i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i>.</p> <p>Discussions of Joyce's work will focus on his innovative style and technique. More broadly, we will look at Joyce's role in the modernist movement, situating his work and its influence within the canon of English literature.</p> <p>This is a lecture-discussion style class. Students will be expected to complete weekly reading assignments in preparation for discussion.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Week 1: Course Introduction & Discussion</p> <p>Week 2: The Sisters</p> <p>Week 3: Araby</p> <p>Week 4: Araby (video)</p> <p>Week 5: Eveline</p> <p>Week 6: Two Gallants</p> <p>Week 7: A Painful Case</p> <p>Week 8: The Dead</p> <p>Week 9: The Dead (video)</p> <p>Week 10: Review, Nora (video)</p> <p>Week 11: Nora (video)</p> <p>Week 12: Introduction to A Portrait of the Artist</p> <p>Week 13: Portrait, Chapter 1</p> <p>Week 14: Portrait, Chapter 2</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The Portable James Joyce (Penguin)		Grades will be determined based on participation, quizzes, and a final paper.	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ (James Joyce) 英語専門講読b (James Joyce)	担当者	M. Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to introduce students of English to the works of the Irish writer, James Joyce.</p> <p>During the fall term, we will finish <i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i> and read excerpts from Joyce's most important novel, <i>Ulysses</i>. We will finish the course with a short introduction to Joyce's final and most enigmatic work, <i>Finnegans Wake</i>.</p> <p>Discussions of Joyce's work will focus on his innovative style and technique. More broadly, we will look at Joyce's role in the modernist movement, situating his work and its influence within the canon of English literature.</p> <p>This is a lecture-discussion style class. Students will be expected to complete weekly reading assignments in preparation for discussion.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Week 1: Portrait, Chapter 3</p> <p>Week 2: Portrait, Chapters 4</p> <p>Week 3: Portrait 5</p> <p>Week 4: Review of Portrait</p> <p>Week 5: Introduction to Ulysses</p> <p>Week 6: Telemachus, Nestor (video)</p> <p>Week 7: Calypso, Hades (video)</p> <p>Week 8: Cyclops, The Wandering Rocks (video)</p> <p>Week 9: The Sirens, Circe (video)</p> <p>Week 10: Ithaca</p> <p>Week 11: Penelope (video)</p> <p>Week 12: Review of Ulysses</p> <p>Week 13: Finnegans Wake</p> <p>Week 14: Finnegans Wake</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The Portable James Joyce (Penguin)		Grades will be determined based on participation, quizzes, and a final paper.	

06~09 年度 (春) 03~05 年度 (春)	英語専門講読 I (Education) 英語専門講読 a (Education)	担当者	N. H. Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The course book for this class is titled <u>The English You Need to Know</u>. It will provide a foundation for the in-class lectures, workshops, and projects. It is a skill-based textbook. Thus, the course will focus on helping students improve their ability to use English more authentically and to understand the various aspects of language which are normally less emphasized in the communicative classroom. Areas as such narration, description, figures of speech, idiomatic language, persuasion, humor and irony, allusion will all be studied.</p> <p>Textbook is available on-line at amazon.co.jp 1,326 yen</p>		<p>Week 1: Class Introduction Week 2: Narration I Week 3: Narration II Week 4: Description I Week 5: Description II Week 6: Exposition I Week 7: Exposition II Week 8: Topic Sentences Week 9: Repetition Week 10: Using Quotations I Week 11: Figures of Speech I Week 12: Figures of Speech II Week 13: Using Quotations II Week 14: Final Roundup</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The English You Need to Know by Barrons		Grades are based on class participation, attendance, and final debates	

06~09 年度 (秋) 03~05 年度 (秋)	英語専門講読 II (Education) 英語専門講読 b (Education)	担当者	N. H. Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The second semester is a continuation of the first semester.</p> <p>Students considering this class should keep in mind that they will need to read and prepare material for each lesson. Each class will allow for discussion time on the topic covered in class.</p>		<p>Week 1: Class Introduction Week 2: Idioms I Week 3: Idioms II Week 4: Editorial Essays Week 5: Matters of Fact Week 6: Connotations Week 7: Humor and Irony Week 8: Humor and Ironing (joke) Week 9: Allusions Week 10: Allusions Week 11: Dialogue Week 12: Choose a Title Week 13: Open class Week 14: Final roundup</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The English You Need to Know by Barrons		Grades are based on class participation, attendance, and final debates	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読Ⅰ（国際機関とミレニアム開発目標） 英語専門講読a（国際機関とミレニアム開発目標）	担当者	S. Rossitto
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Aims to improve</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Reading skills and specialized vocabulary related to international development 2. Knowledge of global issues related to poverty using the MDGs (ミレニアム開発目標) as a base 3. Understanding about what is being done to tackle these problems 4. Critical understanding of problems and approaches. 5. Develop communication skills <p>Weekly assignments: Each week students will complete short readings, which will form a based for class discussion.</p> <p>Class format Instructor presentation – key issues. Group work – discussion, review of readings and exercises. Participant presentation - present summaries, final project.</p>		<p>* Since we will be focusing on current issues – specific contents may change.</p> <p>Class 1 Introduction to course, Overview of international development and current global issues Class 2 What are the MDGs? Class 3 MDG 1 - poverty Class 4 Case study on poverty Class 5 MDG 2 - universal education Class 6 Case study on girl's education Class 7 Mid-term quiz and discussion “exam” Class 8 MDG 3 – gender equity Class 9 Case study on women and work Class 10 MDG 4 – infant and maternal mortality Class 11 Case study on child health Class 12 Overview of NGO-government collaboration Class 13 Presentation skills Class 14 Wrap up & Final Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Online readings from OXFAM and 2015 Anyone without internet access should tell the instructor in class1		Active class participation, mid-term quiz, final project (paper and presentation) and regular completion of assignments. Attendance of 75% is required to pass.	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（国際機関とミレニアム開発目標） 英語専門講読b（国際機関とミレニアム開発目標）	担当者	S. Rossitto
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Aims to improve</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Reading skills and specialized vocabulary related to international development 2. Knowledge of global issues related to poverty using the MDGs (ミレニアム開発目標) as a base 3. Understanding about what is being done to tackle these problems 4. Critical understanding of problems and approaches. 5. Develop communication skills <p>Weekly assignments: Each week students will complete short readings, which will form a based for class discussion.</p> <p>Class format Instructor presentation – key issues. Group work – discussion, review of readings and exercises. Participant presentation - present summaries, final project.</p>		<p>* Since we will be focusing on current issues – specific contents may change.</p> <p>Class 1 Introduction to course, Overview of international development and current global issues Class 2 Why the MDGs? Class 3 MDG 1 - hunger Class 4 Case study on food security Class 5 MDG 5 & 6 – maternal health and infectious diseases Class 6 Case study on reproductive health issues Class 7 Mid-term quiz and discussion “exam” Class 8 MDG 7 – environmental sustainability Class 9 Case study on water Class 10 Case study on housing Class 11 MDG 8 – international aid Class 12 Overview of what governments are doing Class 13 Presentation skills Class 14 Wrap up & Final Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Online readings from OXFAM and 2015 Anyone without internet access should tell the instructor in class1		Active class participation, mid-term quiz, final project (paper and presentation) and regular completion of assignments. Attendance of 75% is required to pass.	

06～09 年度(春) 03～05 年度(春)	英語専門講読 I (Linguistics) 英語専門講読 a (Linguistics)	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is intended to provide students with a basic introduction to most of the topics dealt with in the field of sociolinguistics. It will include such topics as language and communities, languages and dialects, varieties of language, pidgins and creoles, codes, bilingualism and multilingualism, speech communities, and language variation. Students interested in class should keep in mind that we will cover 10 to 12 pages each lesson, and will have discussions based on the topics covered. The first class will provide a detailed-overview of the course.</p>		<p>Week 1: Course introduction Week 2: Unit one Week 3: Continued Week 4: Continued Week 5: Unit Two Week 6: Continued Week 7: Continued Week 8: United Three Week 9: Continued Week 10: Continued Week 11: Unit Four Week 12: Continued Week 13: Continued Week 14: Final Class</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Introduction to Sociolinguistics by Peter Trudgill		Evaluation will be based on attendance, participation in class, completion and submission of weekly hand-outs, and a term paper	

06～09 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語専門講読 II (Linguistics) 英語専門講読 b (Linguistics)	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is intended to provide students with a basic introduction to most of the topics dealt with in the field of sociolinguistics. It will include such topics as language and communities, languages and dialects, varieties of language, pidgins and creoles, codes, bilingualism and multilingualism, speech communities, and language variation. Students interested in class should keep in mind that we will cover 10 to 12 pages each lesson, and will have discussions based on the topics covered. The first class will provide a detailed-overview of the course.</p>		<p>Week 1: Course introduction Week 2: Unit Five Week 3: Continued Week 4: Continued Week 5: Unit Six Week 6: Continued Week 7: Continued Week 8: Unit Seven Week 9: Continued Week 10: Continued Week 11: Unit Eight Week 12: Continued Week 13: Continued Week 14: Final Class</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Introduction to Sociolinguistics by Peter Trudgill		Evaluation will be based on attendance, participation in class, completion and submission of weekly hand-outs, and a term paper	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(音声知覚のしくみと発達入門) 英語専門講読a(音声知覚のしくみと発達入門)	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 音声知覚について、つまり、ヒトがことばの音を「聞いてわかる」ということはどういうことなのか、ということについてその基礎を学び、またその習得・発達に関連して読んでいく。 音声と言語に対する興味を開拓し、また乳児や動物の音声認知について知ることによりヒトの知能活動としての言語の面白さに触れる。 テキストは比較的やさしい入門書ではあるが、専門的な内容についてある程度まとまった分量を継続して読み進めることにより、正確な読解力と分析的な視点を養う。</p> <p>講義概要 音声知覚入門(子どもの音声獲得・発達、動物による知覚も含む) その他音声(発話・認知)に関するトピック 各学生は毎回の指定範囲の予習が前提となり、小テストで確認する。英文の構造とその内容を正確に理解するよう精読の練習をする。各章の後に担当者がハンドアウト(配布資料)を使用して内容のまとめを発表する。これについて教員が補足、解説をし、また質疑応答・議論を行う。</p> <p>メッセージ Ryalls(1996)は入門書の中でも最も平易で簡潔明瞭に書かれているものである。英語も易しく、各章も文字の大きいわずかなページからなり、後ろに確認exerciseがついていて初心者にとっても親切である。 例年の受講者を見ていても、読み課題(質・量)は少しずつ慣れていくはずで、地道に努力を重ねることで、年度末には読解力向上が実感できると思われる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction /Preliminary reading サルの顔認知 2. Ch-1 Sounds of Speech 音とは 3. Ch-1 (2) 4. Ch-2 Basic Speech Acoustics 音響の基礎 5. Review exercises 6. Ch-3 Perception of Consonants 子音を聴く 7. Ch-3 (2) 8. Ch-3 (3) 9. Ch-4 Categorical Perception 微細であり大雑把であること 10. Ch-4 (2) 11. Ch-4 (3) 12. Review exercises 13. Ch-8 A theory of Acoustic Invariance 音の手がかりは何? 14. Ch-8 (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ryalls, Jack. (1996) <i>A Basic Introduction to Speech Perception</i> . Singular Publishing Group Inc. (ISBN: 1-56593-617-5) その他 配布資料		授業参加(準備・参加)、小テスト、発表、試験の総合評価による。各項で最低限をクリアすること。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(音声知覚のしくみと発達入門) 英語専門講読b(音声知覚のしくみと発達入門)	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 春学期に引き続き読み進め、さらなる読解力を養う。</p> <p>講義概要 春学期に同じ</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Ch-9 Dichotic Listening 右脳と左脳の話 2. Ch-9 (2) 3. Ch-9 (2) 4. Ch-11 Studies of Infant Speech Perception 乳児の音声知覚 5. Ch-11 (2) 6. Ch-11 (3) 7. Review exercises 8. Ch-12 Development of Speech Perception 乳児の能力の不思議とその後の展開 9. Ch-12 (2) 10. Ch-12 (3) 11. Ch-13 Speech Perception in Animals 動物は同じ?違う? 12. Ch-13 (2) 13. Ch-13 (3) 14. Review exercises 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ryalls, Jack. (1996) <i>A Basic Introduction to Speech Perception</i> . Singular Publishing Group Inc. (ISBN: 1-56593-617-5) その他 配布資料		授業参加(準備・参加)、小テスト、発表、試験の総合評価による。各項で最低限をクリアすること。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ (Exploring Language Teaching) 英語専門講読a (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, you will learn practical ideas and techniques in materials development for language teaching and integrating “global issues” into language learning classes.</p> <p>All the coursework will be conducted in English. You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is strongly recommended for students who are in the teacher-training course.</p> <p><i>Please refer to <u>Kogi-shien System</u> whenever you miss a class which will be updated with the latest information.</i></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Global issues and language learning 1 3. Global issues and language teaching 2 4. Finding and selecting materials 5. Adapting materials 6. Content-rich songs 7. Developing activities 1 8. Developing activities 2 9. Presentations 1 10. Presentations 2 11. Presentations 3 12. Presentations 4 13. Presentations 5 14. Evaluating your materials 	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システム使用 参考文献: <u>Materials Development in Language Teaching</u> (B. Tomlinson, Cambridge Univ. Press), <u>Global Issues</u> (Sampedro & Hillyard, Oxford)		class participation, reading assignments and projects	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ (Exploring Language Teaching) 英語専門講読b (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, you will learn practical ideas and techniques in materials development for language teaching and integrating “global issues” into language learning classes.</p> <p>All the coursework will be conducted in English. You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is strongly recommended for students who are in the teacher-training course.</p> <p><i>Please refer to <u>Kogi-shien System</u> whenever you miss a class which will be updated with the latest information.</i></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Global issues and language learning 1 3. Global issues and language teaching 2 4. Using authentic materials 5. Using films as a teaching material 6. Using media as a teaching material 7. Developing activities 8. Developing activities 9. Presentations 1 10. Presentations 2 11. Presentations 3 12. Presentations 4 13. Presentations 5 14. Evaluating your materials 	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システム使用 参考文献: <u>Materials Development in Language Teaching</u> (B. Tomlinson, Cambridge Univ. Press), <u>Global Issues</u> (Sampedro & Hillyard, Oxford)		class participation, reading assignments and projects	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読Ⅰ（米国の東アジア政策） 英語専門講読a（米国の東アジア政策）	担当者	阿部 純一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済、外交とも厳しい国際環境の中で、オバマ政権は2年目を迎えた。秋には、政権の業績評価ともなる中間選挙が控える。国内の景気浮揚、失業率低下に決め手はなく、アフガン戦争も打開策が見当たらない。こうした情勢下で、東アジアとの関係も困難の度合いを深めている。安保条約改訂から50年目を迎えた日米同盟は、米海兵隊の普天間基地移設問題をめぐって迷走し、米中関係では台湾への武器供与問題で利害の相反関係を露呈した。さらに、いまだ再開の目処が立たない北朝鮮の核問題をめぐる6者協議など、東アジア情勢では様々な課題に直面している。オバマ大統領は昨年11月の訪日時のアジア政策スピーチで、太平洋国家として東アジアへのコミットメントを確認したが、それが米国の東アジア政策のなかでどのように具体的に展開されるかが注目される。授業では、このような問題意識に立って、リアルタイムに米国の政策を追いかけ、分析する。</p>		<p>授業では、事前に配布した教材をもとに報告を担当する学生がレジュメ（A4で2枚厳守）を用意し、それに基づき教材の内容についてプレゼンテーションを行う。</p> <p>プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事項や問題につき、討論する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
シンクタンクのレポート、新聞記事など、最新のトピックを扱ったものから教材を選択し、毎回配布する。		学生のプレゼンテーション、授業における気論への積極的参加、出席を基に評価する。理由の如何を問わず3回連続の欠席はドロップアウト。	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読Ⅱ（米国の東アジア政策） 英語専門講読b（米国の東アジア政策）	担当者	阿部 純一
講義目的、講義概要		授業計画	
（春学期に同じ）		（春学期に同じ）	
テキスト、参考文献		評価方法	
（春学期に同じ）		（春学期に同じ）	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読 I (ポピュラー・カルチャー入門 1) 英語専門講読 a (ポピュラー・カルチャー入門 1)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ポピュラーな文化」の複眼的理解が、このクラスにおける今年度のテーマです。</p> <p>講読テキスト：人々が日常的に親しんでいるものを、消費や娯楽の対象としてではなく、深く考える対象として理解していくための理論と方法を解説した専門書を読みます。</p> <p>各章の理解を確認していくために、グループに分かれ、全体のディスカッションの舵取りをしていただきます。</p> <p>学期末には、読書内容と関連のある発表をグループごとに行っていただきます。</p> <p>なお、履修登録が完了したら、指定テキストを amazon.co.jp などで各自注文することを勧めますが、初回の授業で共同購入手続きをする方法もあります。ただし、共同購入の場合、入手が遅れることが予想されます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Overview of the semester 2. Group formation 3. What is popular culture? 1 4. What is popular culture? 2 5. The 'culture and civilization' tradition 1 6. The 'culture and civilization' tradition 2 7. Culturalism 1 8. Culturalism 2 9. Marxisms 1 10. Marxisms 2 11. Psychoanalysis 1 12. Psychoanalysis 2 13. Preparation and consultation 14. Presentations 	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Storey, <i>Cultural Theory and Popular Culture: An Introduction</i> , 4th Edition (University of Georgia Press, 2006)		出席状況と授業への参加・貢献度 (50%)、課題読書の理解度 (20%)、および学期末発表 (30%)	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読 II (ポピュラー・カルチャー入門 2) 英語専門講読 b (ポピュラー・カルチャー入門 2)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>上述の春学期の続きです。授業の進め方も同じです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Overview of the course 2. Structuralism and post-structuralism 1 3. Structuralism and post-structuralism 2 4. Gender and sexuality 1 5. Gender and sexuality 2 6. Postmodernism 1 7. Postmodernism 2 8. The politics of the popular 1 9. The politics of the popular 2 10. Case Analysis (実例研究：ディズニー映画) 11. Case Analysis (実例研究：アメリカのCM) 12. Case Analysis (実例研究：アメリカの映画) 13. Preparation and consultation 14. Presentations 	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Storey, <i>Cultural Theory and Popular Culture: An Introduction</i> , 4th Edition (University of Georgia Press, 2006)		出席状況と授業への参加・貢献度 (50%)、課題読書の理解度 (20%)、および学期末発表 (30%)	

06～09 年度 (春) 03～05 年度 (春)	英語専門講読 I (時空を越えるエズラ・パウンド) 英語専門講読 a (時空を越えるエズラ・パウンド)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>タイトル通り、時空を越えるエズラ・パウンドの詩作品を読む。</p> <p>日々刻々と流れる時間。時間のありようは、それだけだろうか？ 否、「共時的な時間」というものもある。その「共時的な時間」を探るにあたって、20 世紀になって初めてその概念を打ち出したパウンドが、いかに「共時的」の対概念である「通時的」を越えたか、それをパウンドの詩作において探る。</p> <p>「時空」とは、「時間」と「空間」のことである。詩という言語芸術において時空を越えるとは、古今(時間)東西(空間)を越える、ということでもある。このふたつは、厳密に分けられるものではないが、パウンドは、「翻訳」という手法で時空を越えようとした。古(いにしえ)の作品を翻訳すれば、「時間」を越えたものになり、英語とは別言語のものを翻訳すれば(パウンドは、もちろん、古今東西の文学を英語に「翻訳」した)、「空間」を越えるものになる。この授業では、新たな、「共時的時間感覚」がいかんして生まれるのか、それを、パウンドの「翻訳」という作業において、探っていく。</p>		<p>第 1 回 : introduction</p> <p>第 2～4 回 : Imagism と Vorticism の原理。</p> <p>第 5～8 回 : “Homage to Sextus Propertius” からの翻訳。</p> <p>第 9～14 回 : <i>Cathay</i> から、“The River-Merchant’s Wife: A Letter,” “The Beautiful Toilet,” “Four Poems of Departure,” “Poem by the Bridge of Ten-Shin” など。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Personae</i> (New Directions)、および、プリント。		2000 字以上のレポート、及びプレゼンテーションと授業への参加度。	

06～09 年度 (秋) 03～05 年度 (秋)	英語専門講読 II (時空を越えるエズラ・パウンド) 英語専門講読 b (時空を越えるエズラ・パウンド)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期は、パウンドが、おもに、いかに「時間」を越えたかを検証した。秋学期は、パウンドがいかに同時代で「空間」を越えたかを見てみたい。つまり、同時代の詩人に対して、どれほどの影響をパウンドが与えたか、それを検証する。</p> <p>「空間」を越えるわけであるから、扱う詩人は、英米の詩人たちに限らない。Gary Snyder, Allen Ginsberg、西脇順三郎、北園克衛、田村隆一、吉増剛造、Bob Marley といった詩人たちである。目指すべき到達地点は、古今と東西の交錯点には、「翻訳」という行為があるのではないか、というところだ。</p>		<p>第 1 回 : introduction</p> <p>第 2～4 回 : Gary Snyder の “The Hump-Backed Flute Player” などの詩。</p> <p>第 5～7 回 : Allen Ginsberg の俳句的な詩 (“Sad Dust Glories” など)。</p> <p>第 8～14 回 : 西脇、「京都の 1 月」、北園、「単調な空間」など、田村の初期詩篇、吉増、「赤馬 “Be Quiet America”」、Bob Marley, “Talkin’ Blues” など。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
おもにプリント。		2000 字以上のレポート、及びプレゼンテーションと、授業への参加度。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(ディズニー・アニメの歴史をたどる) 英語専門講読a(ディズニー・アニメの歴史をたどる)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Walt Disney 研究の第一人者 Bob Thomas の著作を通じ、『白雪姫』から『ジャングル・ブック』まで、Walt Disney 存命中の長編アニメーション映画を中心に、Disney 映画の軌跡をたどります。Disney 映画と、それを核として広がる壮大な Disney 文化の世界は、いまやアメリカの(そして日本を含めた世界の)ポップカルチャーを語る上では避けて通ることのできないものです。受講者のみなさんには、テキストの内容を理解した上で、時代背景や、社会情勢を含め、20世紀のアメリカ文化に広く目を向け、あらゆる文化研究の礎となる歴史観を築いて欲しいと考えています。</p> <p>授業は、担当者によるプレゼンテーションを中心として進めます。担当者には、事前に必ずレジュメを用意すること、また、適宜プラスアルファの資料を用意し、パワーポイントなどのプレゼンテーションのツールを利用するなどして、効果的な発表を計画・実施することが求められます。</p> <p>全員予習必須。なお、授業で扱われる作品は、授業外の時間を利用し、各自(skepticalな観かたで)視聴してから出席すること。入手困難なものについては、用意した資料を、授業内に視聴することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期コース・オリエンテーション 2. Launching the Animated Feature 3. Seven Dwarfs for Snow White 4. New Tools 1 5. New Tools 2 6. Disney's Folly 7. Pinocchio 8. Fantasia 9. Bambi 10. Economizing: Dumbo 11. The New Studio, The Strike, and the War 1 12. The New Studio, The Strike, and the War 2 13. Cinderella Restores the Glory 14. 春学期の総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Thomas, Bob, <i>Disney's Art of Animation: From Mickey Mouse to Beauty and the Beast</i>, Hyperion, New York, 1991.</p> <p>他の参考文献等については、授業中に随時紹介。</p>		出席、授業への貢献度、プレゼンテーションの内容、学期末に提出するペーパーなどから、総合的に評価します。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(ディズニー・アニメの歴史をたどる) 英語専門講読b(ディズニー・アニメの歴史をたどる)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期から引き続き、Walt Disney 研究の第一人者 Bob Thomas の著作を通じて、Disney 映画の軌跡をたどります。</p> <p>秋学期は、Walt の存命中の作品だけでなく、Walt 亡き後のスタジオの作品(『リトル・マーメイド』まで)も扱います。受講者の皆さんには、引き続きテキストの内容を理解した上で、時代背景や、社会情勢を含め、20世紀のアメリカ文化に広く目を向け、あらゆる文化研究の礎となる歴史観を築いて欲しいと考えています。</p> <p>春学期と同じく、授業は、担当者によるプレゼンテーションを中心として進めます。担当者には、事前に必ずレジュメを用意すること、また、適宜プラスアルファの資料を用意し、パワーポイントなどのプレゼンテーションのツールを利用するなどして、効果的な発表を計画・実施することが求められます。</p> <p>全員予習必須。なお、授業で扱われる作品は、授業外の時間を利用し、各自(skepticalな観かたで)視聴してから出席すること。入手困難なものについては、用意した資料を、授業内に視聴することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. The Anthology Features 2. Alice, Peter, Lady and the Tramp 1 (Alice) 3. Alice, Peter, Lady and the Tramp 2 (Peter Pan) 4. Alice, Peter, Lady and the Tramp 3 (L&T) 5. Sleeping Beauty Awakens 6. Walt Disney's Last Films 7. Carrying on the Tradition 8. The Black Cauldron 9. A New Regime and a Rebirth 10. A New Regime and a Rebirth 11. Who Framed Roger Rabbit 12. Triumph: The Little Mermaid 13. The Rescuers Down Under 14. 秋学期の総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Thomas, Bob, <i>Disney's Art of Animation: From Mickey Mouse to Beauty and the Beast</i>, Hyperion, New York, 1991.</p> <p>他の参考文献等については、授業中に随時紹介。</p>		出席、授業への貢献度、プレゼンテーションの内容、学期末に提出するペーパーなどから、総合的に評価します。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(アメリカ黒人の歴史) 英語専門講読a(アメリカ黒人の歴史)	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカ黒人文化の流れを学ぶのが、この授業の一つの目標である。絵、風刺画、写真、新聞雑誌記事などが豊富に掲載されている本をテキストに使う予定。</p> <p>今年度は、アメリカに奴隷として連れてこられた黒人が、どのように生きていくことになるかを学ぶ。</p> <p>また、英文をじっくり読むことにより、将来必ず役立つであろうような英語力を培うのが、この授業のもう一つの目標である。</p> <p>なお、アメリカ黒人文化を知るための一助として、年間数本、黒人に関する映画を鑑賞する予定である。</p> <p>この授業を受けるには、アメリカ黒人について興味を抱いていることが必要条件。</p> <p>テキストにはいわゆる原書を使うので、真面目に予習をして授業に臨むならば、一年間で驚くほどの読解力を身につけることができよう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・黒人はどのようにしてアメリカに連れてこられたか。 ・「黒い黄金」 ・新世界における奴隷 ・コットン・ジンとは何か ・キング・コットン ・奴隷の職人たち ・家の中で働く奴隷 ・独立宣言と奴隷 <p>などについて学んでいく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>A Pictorial History of Blackamericans</i> の抜粋(プリント)を使用する。</p> <p>参考文献は授業中適宜指示する。</p>		<p>出席状況、予習して授業に臨んだか否か、期末の試験、などにより評価が決定される。</p>	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(アメリカ黒人の歴史) 英語専門講読b(アメリカ黒人の歴史)	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカ黒人文化の流れを学ぶのが、この授業の一つの目標である。絵、風刺画、写真、新聞雑誌記事などが豊富に掲載されている本をテキストに使う予定。</p> <p>今年度は、アメリカに奴隷として連れてこられた黒人が、どのように生きていくことになるかを学ぶ。</p> <p>また、英文をじっくり読むことにより、将来必ず役立つであろうような英語力を培うのが、この授業のもう一つの目標である。</p> <p>なお、アメリカ黒人文化を知るための一助として、年間数本、黒人に関する映画を鑑賞する予定である。</p> <p>この授業を受けるには、アメリカ黒人について興味を抱いていることが必要条件。</p> <p>テキストにはいわゆる原書を使うので、真面目に予習をして授業に臨むならば、一年間で驚くほどの読解力を身につけることができよう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・財産としての奴隷と合衆国憲法 ・奴隷小屋と疫病 ・奴隷の反乱 ・逃亡奴隷とインディアン ・教育と奴隷 ・有名な奴隷たち ・ジム・クロウとは何か <p>などについて学ぶ予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>A Pictorial History of Blackamericans</i> の抜粋(プリント)を使用する。</p> <p>参考文献は授業中適宜指示する。</p>		<p>出席状況、予習して授業に臨んだか否か、期末の試験、などにより評価が決定される。</p>	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(ヒッチコック映画の精神分析) 英語専門講読a(ヒッチコック映画の精神分析)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画(予定)	
<p>講義目的 ヒッチコック映画をテキストとし、それらを精神分析の視座から批評した論文を精読する。それら複数の論文の精読を通して映像テキストの精神分析とはいかなるものであるかを思考する。講義においては以下の3点が探求のテーマとなる: 1) 理論とは何か、2) 批評とは何か、3) 精神分析及びクイアー理論とは何か。これら3点のテーマについて綿密なテキスト分析の実践にその可能性を迫っていく。</p> <p>講義概要 映像という表象手段によって観客にコミュニケーションされるヒッチコック監督作品をテキストとして、精神分析批評とクイアー理論、及びコミュニケーション理論の基礎を学んでいく。映像というレトリックの手段によるテキストの構成過程を、映画作品と批評を綿密に読み込むことで、その理論的背景を加味しながら理解していく。この講義の目標はあくまでもレトリック理論の探求であり、映画をエンターテインメントとして楽しむことではない。如何にして理論的な「読み」の楽しみを映画というテキストを通じて見いだしていくのかが、講義と活発な討論を通じて学生が探求していく主題となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コース・オリエンテーション 2. 精神分析批評とクイアー理論-Introduction, (1) 3. 精神分析批評とクイアー理論-Introduction, (2) 4. <i>The Lady Vanishes, but the Letter Remains: Julia Kristeva and the Maternal Real(m)</i>, (1) 5. <i>The Lady Vanishes, but the Letter Remains: Julia Kristeva and the Maternal Real(m)</i>, (2) 6. <i>The Fear of Women and Writing in Spellbound: Kaja Silverman and the Question of Castration</i>, (1) 7. <i>The Fear of Women and Writing in Spellbound: Kaja Silverman and the Question of Castration</i>, (2) 8. <i>Rebecca, Repetition, and the Circulation of Feminine Desire: Judith Butler and the Materiality of the Letter</i>, (1) 9. <i>Rebecca, Repetition, and the Circulation of Feminine Desire: Judith Butler and the Materiality of the Letter</i>, (2) 10. <i>Notorious: Luce Irigaray, Feminine Fluids, and Masculine (Be)Hind-Sight</i>, (1) 11. <i>Notorious: Luce Irigaray, Feminine Fluids, and Masculine (Be)Hind-Sight</i>, (2) 12. <i>Vertigo: Sexual Dis-Orientation and the En-Gendering of the Real</i>, (1) 13. <i>Vertigo: Sexual Dis-Orientation and the En-Gendering of the Real</i>, (2) 14. 前期総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Robert Samuels. <u>Hitchcock's Bi-Textuality: Lacan, Feminisms, and Queer Theory</u> . SUNY U. Press. 1998.		定期試験又はレポート、授業への参加度(発表・発言等)、出席状況(一定以上の欠席は不合格、遅刻2回は欠席1回に相当)等から総合的に評価する。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(ヒッチコック映画の精神分析) 英語専門講読b(ヒッチコック映画の精神分析)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画(予定)	
同上		<ol style="list-style-type: none"> 1. 後期オリエンテーション 2. <i>Marnie: Abjection, Marking, and Feminine Subjectivity</i>, (1) 3. <i>Marnie: Abjection, Marking, and Feminine Subjectivity</i>, (2) 4. <i>Rear Window Ethics: Laura Mulvey and the Inverted Gaze</i>, (1) 5. <i>Rear Window Ethics: Laura Mulvey and the Inverted Gaze</i>, (2) 6. <i>The Birds: Zizek, Ideology, and the Horror of the Real</i>, (1) 7. <i>The Birds: Zizek, Ideology, and the Horror of the Real</i>, (2) 8. Epilogue: <i>Psycho</i> and the Horror of the Bi-Textual Unconscious, (1) 9. Epilogue: <i>Psycho</i> and the Horror of the Bi-Textual Unconscious, (2) 10. Spatial Systems in North by Northwest by F. Jameson (From S. Zizek, <u>Everything You Always Wanted to Know about Lacan (But Were Afraid to Ask Hitchcock)</u>), (1) 11. Spatial Systems in North by Northwest by F. Jameson (From S. Zizek, <u>Everything You Always Wanted to Know about Lacan (But Were Afraid to Ask Hitchcock)</u>), (2) 12. The Spectator Who Knew Too Much by M. Dolar (From S. Zizek, <u>Everything You Always Wanted to Know about Lacan (But Were Afraid to Ask Hitchcock)</u>), (1) 13. The Spectator Who Knew Too Much by M. Dolar (From S. Zizek, <u>Everything You Always Wanted to Know about Lacan (But Were Afraid to Ask Hitchcock)</u>), (2) 14. 総括: レトリック、精神分析、批評理論 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Robert Samuels. <u>Hitchcock's Bi-Textuality: Lacan, Feminisms, and Queer Theory</u> . SUNY U. Press. 1998.		定期試験又はレポート、授業への参加度(発表・発言等)、出席状況(一定以上の欠席は不合格、遅刻2回は欠席1回に相当)等から総合的に評価する。	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読Ⅰ（短編小説を読みこなす） 英語専門講読a（短編小説を読みこなす）	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>20世紀以降のメジャーな作家による短編小説を読みこなします。共通テーマは「恋愛」ですが、腕利きの作家たちのこと、幸せな恋愛を謳い上げるといよりは、それぞれ独自の工夫を凝らし、思いがけない展開を仕掛けています。各作品をできるだけ正確に読み解き、作品の余韻をみんなで味わいましょう。</p> <p>講義概要</p> <p>この授業で扱う作品は、もともとネイティブの大人向けに書かれたものなので、英語はそれなりに難しいです。しかし「小説の神は細部に宿る」ものなので、無駄な言葉はないという前提で、丹念に辞書を引いて読み進めましょう。毎回、課題として4ページ前後の英文を読み、課題プリント（サマリーなど）を埋めてきてもらいます。授業では細部の表現に注目するほか、担当者から内容についての質問をします。また、作品をひとつ読み終わった段階で時間を設け、ディスカッションやライティングをとおして作品鑑賞をします。</p>		<p>1、イントロダクション</p> <p>2～4、Maeve Binchy, “The Garden Party”</p> <p>5～7、Virginia Woolf, “The Legacy”</p> <p>8～10、Graham Greene, “A Shocking Accident”</p> <p>11～13、Fay Weldon, “Horrors of the Road”</p> <p>14、まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Mowat & Bassett eds, <i>And All for Love</i> (OUP 2001) *DUOで各自購入のこと		課題提出、授業への参加、学期末試験を総合評価 *ただし4回を越えての欠席は評価対象としない	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（短編小説を読みこなす） 英語専門講読b（短編小説を読みこなす）	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>春学期と同じ</p> <p>講義概要</p> <p>春学期と同じテキストを使い、比較的長い作品に取り組みます。授業のやり方に慣れてきたら、一部グループ・ディスカッションを取り入れる予定です。</p>		<p>1、イントロダクション</p> <p>2～7、H.E. Bates, “The Kimono”</p> <p>8～11、James Joyce, “A Painful Case”</p> <p>12～14、Somerset Maugham, “Mabel”</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		課題提出、授業への参加、学期末試験を総合評価 *ただし4回を越えての欠席は評価対象としない	

06～09 年度 (春) 03～05 年度 (春)	英語専門講読 I (アメリカ文学: John Steinbeck の文学を読む) 英語専門講読 a (アメリカ文学: John Steinbeck の文学を読む)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『怒りの葡萄』(The Grapes of Wrath, 1939)の著者であり、1962年にノーベル文学賞を受賞した John Steinbeck (1902-1968) は、20 世紀のアメリカ文学を語る際に忘れてはならない作家と言えよう。彼は、多様なジャンルにわたる数多くの作品を創作したが、この授業では、ジェームズ ディーン主演で映画化され、話題をよんだ長編作『エデンの東』(East of Eden, 1952)を読む。</p> <p>毎回作品を精読し、ストーリー展開を把握しながら、作品のテーマ、個々の文章表現や技巧、作家の視点、作品の時代背景等にも注意を払って、作品から多くのものを読み取ってゆきたい。更に、映画や、作品についての主要な評論も幾つか紹介し、読解を深めてゆく。</p> <p>尚、この作品は全部で 55 章 600 頁にもわたる長編ゆえに、一年間の授業中に全てを読解するのは困難であるため、前期には主に Part 1 を精読し、夏期休暇中の課題として、2, 3 の読解を課す(もし原文の読解が無理であったなら、日本語訳か rewrite 版でも可)。</p>		<p>1: Introduction: 作家 John Steinbeck と代表作品を紹介</p> <p>2: East of Eden の精読 Part 1/ Chapter 1</p> <p>3: " Chapter 2</p> <p>4: " Chapter 3</p> <p>5: " Chapter 4</p> <p>6: " Chapter 5</p> <p>7: " Chapter 6</p> <p>8: " Chapter 7</p> <p>9: " Chapter 8</p> <p>10: " Chapter 9</p> <p>11: " Chapter 10</p> <p>12: " Chapter 11</p> <p>13: East of Eden の映画鑑賞</p> <p>14: Review / レポート回収</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>John Steinbeck, <i>East of Eden</i>, Penguin <i>East of Eden: Level 6 (Penguin Readers Simplified Text)</i>, Pearson Longman 参考文献:『エデンの東』新訳版 (1~4) (ハヤカワ epi 文庫) (文庫)ジョン・スタインベック (著), 土屋 政雄 (翻訳)</p>		出席 (30%)、授業中の発表、提出物(30%)、期末レポート (40%)を総合的に評価。	

06～09 年度 (秋) 03～05 年度 (秋)	英語専門講読 II (アメリカ文学: John Steinbeck の文学を読む) 英語専門講読 b (アメリカ文学: John Steinbeck の文学を読む)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的と概要は前期と同様。</p> <p>後期は、開講時まで Part 3 まで読み終えてあるという前提で、映画の基となった Part 4 を中心に読解する。</p> <p>尚、後期の初回授業時に Part 3 までのストーリーと要点確認の小テストを実施するので、受講者は初回に必ず出席のこと。</p>		<p>1: 前期レポートの返却、Part 2,3 のあらすじ確認 East of Eden, Part 2, Chapter 22 読解</p> <p>2: East of Eden 精読 Part 4, Chapter 34,35</p> <p>3: East of Eden 精読 Part 4, Chapter 36,37</p> <p>4: East of Eden 精読 Part 4, Chapter 38,39</p> <p>5: East of Eden 精読 Part 4, Chapter 40,41</p> <p>6: East of Eden 精読 Part 4, Chapter 42,43</p> <p>7: East of Eden 精読 Part 4, Chapter 44,45</p> <p>8: East of Eden 精読 Part 4, Chapter 46,47</p> <p>9: East of Eden 精読 Part 4, Chapter 48,49</p> <p>10: East of Eden 精読 Part 4, Chapter 50,51</p> <p>11: East of Eden 精読 Part 4, Chapter 52,53</p> <p>12: East of Eden 精読 Part 4, Chapter 54,55</p> <p>13: East of Eden 映画鑑賞</p> <p>14: Review / レポート回収</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>John Steinbeck, <i>East of Eden</i>, Penguin <i>East of Eden: Level 6 (Penguin Readers Simplified Text)</i>, Pearson Longman 参考文献:『エデンの東』新訳版 (1~4) (ハヤカワ epi 文庫) (文庫)ジョン・スタインベック (著), 土屋 政雄 (翻訳)</p>		出席 (30%)、授業中の発表、提出物 (30%)、期末レポート (40%)を総合的に評価。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係) 英語専門講読a(アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的は3つあります。第1に、国際関係論や地域研究(area studies)にとって不可欠な概念や表現を英語で理解すること、第2に、アジア太平洋地域の国際関係、政治、経済の基本的知識、および各国・地域の現状分析に必要な視点や手法を習得すること、第3に、効果的なプレゼンテーションのスキルを身につけ、磨くことです。</p> <p>テキストに基づき各国の状況や同地域に横たわる諸問題を取り扱います。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。</p> <p>なお、金子担当の英語専門講読Ⅰ(春)とⅡ(秋)は継続して履修することを条件とします。また、本授業の受講者数には上限があります。初回の授業で1時間程度の英文読解力を計るためのテスト(国際政治経済の時事問題に関する英文和訳)を実施します。</p>		<p>第1回:イントロダクション:シラバスを配布するとともに、第2回目以降の担当を決めます。</p> <p>第2回～第14回:テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。</p> <p>テキスト: Institute of Southeast Asian Studies, <i>Regional Outlook: Southeast Asia 2010-2011</i>, ISEAS, 2010(近刊)。(150ページ前後、価格は2000円程度)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。 ・テキストは担当者が履修者決定後に一括注文します。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
右の授業計画参照。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はない。		出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。理由の如何を問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外する。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係) 英語専門講読b(アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的および進め方については、英語専門講読Ⅰと同様です。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。</p> <p>なお、金子担当の英語専門講読Ⅰ(春)とⅡ(秋)は継続性が強いいため、本授業の履修については英語専門講読Ⅰ(春学期:金子担当)を履修していることを条件にします。また、本授業の受講者数には上限があります。</p>		<p>第1回:イントロダクション:シラバスを配布するとともに、第2回目以降の担当を決めます。</p> <p>第2回～第14回:テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。</p> <p>テキスト: Institute of Southeast Asian Studies, <i>Southeast Asian Affairs 2011</i>, ISEAS, 2010(予定)。(350ページ前後、価格は2300円程度)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。(内容の概略は以下のWebサイトで検索が可能:http://bookshop.iseas.edu.sg) ・テキストは担当者が履修者決定後に一括注文します。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
右の授業計画参照。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はありません。		出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外します。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ (生成文法入門) 英語専門講読a (生成文法入門)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Noam Chomsky が提唱する理論、生成文法について読む授業です。現在もなおその構築が進行中である最新の言語理論ミニマリスト・プログラムへの橋渡しとなった統率束縛理論について読んでいきます。人間の脳内に生得的にそなわっており母語の獲得に大きな役割を果たすと説かれている生成文法の1つのモデルを理解することに主眼をおきます。統率束縛理論で提唱された文法モデルの特徴を簡潔に述べるならば、それ以前の理論では種々雑多な規則の集合といった印象の強かった文法のモデルに対し、限られた少数の理論で可能な限り多くの言語現象を説明するという目標に向って具体的な提案が成され始めたということです。</p> <p>読み解いていく文献はその理解のための入門的位置づけになっているものを複数選ぶ予定ではありますが、理論の内容そのものを理解するのはいささか難しいと言っても過言ではありません。また角度を変えた視点からの考察により検討すべき課題も残されている点で更なる議論の必要にせまられる部分もあります。毎回それなりの量を読み進んでいくこととなりますので予習を欠かさずに授業参加することを希望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction 2 Overview 3 Overview 4 Overview 5 Phrase Structure 6 Phrase Structure 7 Phrase Structure 8 Binding 9 Binding 10 Binding 11 Empty Pronoun PRO 12 Empty Pronoun PRO 13 Review 14 Review <p>※ 上記の授業進度は大体の目安として考えていますので、理解度に応じて変更を加えたりするなど柔軟性をもたせるつもりです。</p> <p>※ 本講義の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p> <p>※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。</p> <p>参考文献：『チョムスキー理論辞典』研究社</p>		<p>出席&授業参加率(30%)、レポート&試験(70%)の総合評価とします。出席は全体の1/3以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ (生成文法入門) 英語専門講読b (生成文法入門)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Noam Chomsky が提唱する理論、生成文法について読む授業です。現在もなおその構築が進行中である最新の言語理論ミニマリスト・プログラムへの橋渡しとなった統率束縛理論について読んでいきます。人間の脳内に生得的にそなわっており母語の獲得に大きな役割を果たすと説かれている生成文法の1つのモデルを理解することに主眼をおきます。統率束縛理論で提唱された文法モデルの特徴を簡潔に述べるならば、それ以前の理論では種々雑多な規則の集合といった印象の強かった文法のモデルに対し、限られた少数の理論で可能な限り多くの言語現象を説明するという目標に向って具体的な提案が成され始めたということです。</p> <p>読み解いていく文献はその理解のための入門的位置づけになっているものを複数選ぶ予定ではありますが、理論の内容そのものを理解するのはいささか難しいと言っても過言ではありません。また角度を変えた視点からの考察により検討すべき課題も残されている点で更なる議論の必要にせまられる部分もあります。毎回それなりの量を読み進んでいくこととなりますので予習を欠かさずに授業参加することを希望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Anaphors 2 Anaphors 3 Anaphors 4 Government 5 Government 6 Types of Subject 7 Types of Subject 8 Types of Subject 9 Pronouns 10 Pronouns 11 Referential Expressions 12 Referential Expressions 13 Review 14 Review <p>※ 上記の授業進度は大体の目安として考えていますので、理解度に応じて変更を加えたりするなど柔軟性をもたせるつもりです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。</p> <p>参考文献：『チョムスキー理論辞典』研究社</p>		<p>出席&授業参加率(30%)、レポート&試験(70%)の総合評価とします。出席は全体の1/3以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(グリーン・ツーリズムと持続可能な地域づくり) 英語専門講読a(グリーン・ツーリズムと持続可能な地域づくり)	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>農村の景観や環境を保全しながら、地域社会や経済を活性化していることは、世界中の多くの地域での懸案事項となっています。しかし実際にその方策は容易ではありません。なぜなら都市や村々は、グローバル化が進む中、常に競争を強いられ「不均等」に発展していくからです。また、地域の文化や景観を観光資源とする戦略を以上、そこには常に、消費者である都市住民≒観光客の「まなざし」が反映されます。さまざまな「不均等」な条件のなか、各地域では地域の発展のための努力と模索が展開されているのです。</p> <p>このようななか、日本においても、1990年代以降、グリーン・ツーリズムという観光形態が、地域活性化の特効薬として紹介され、各地で様々な取組みが展開されています。日本のグリーン・ツーリズムの先駆的事例なかから群馬県の村々を訪ね、調査取材した結果を皆で著者ととも輪読し、説明を加えながら理解を深めます。</p> <p>現場からグローバル化を考えるという姿勢は、これからの地球市民に不可欠な資質だと思われるので、国内の身近な話題について英文講読することにより、問題意識を深めていただきたいと思います。</p>		<p>通常、事前に配布した文献をもとに担当する学生がレジメを用意し、それに基づき文献の内容に関するプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、ディスカッションを行う。最後に、教員が講評とアドバイスをを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の説明、グループづくり 2. 本テキストの背景、問題意識についての講義 3. Rural areas in a globalized urban world 4. The context of Japanese national development 5. Gunma Prefecture and rural villages 6. Mapping social and economic trends 7. A cooperative as an engine for local economic vitalization? 8. An amenity village for urban people 9. Gunma's Colonial Williamsburg 10. The road to a ghost village, or...? 11. Suburbanization or an eco-welfare village? 12. From mulberry field and cattle barns to a bedroom town with shopping malls and fast food restaurants 13. Summary and reflections 14. 教員によるレクチャーと討論 15. 全体のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Shu Kitano, <i>Space, Planning, and Rurality: Uneven Rural Development in Japan</i> (Trafford Publishing, 2009) ※各自で購入して下さい。</p>		出席点(30%)、レジメの内容(20%)、発表態度(20%)、期末まとめレポート(30%)。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(食と農からみたアメリカ社会とコミュニティ) 英語専門講読b(食と農からみたアメリカ社会とコミュニティ)	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ローカル(=地域)という視点からグローバルな問題を考えることを念頭に、食・農と市民社会というテーマを勉強します。アメリカの農村社会学者 Lyson (2004)の <i>Civic Agriculture</i> を教材として、グローバル企業の手に乗ねられた私達の食と農を市民社会につなぎ直す(reconnecting) ための方途を考えます。</p> <p>提起されている問題は、日本においても全く同様であり、食と農を題材として、グローバル化にどう向き合っていくかは地球市民にとっての大切な素養です。講義を進めるにあたっては2つのことを念頭におきます。第1は、ネイティブの研究者が著した比較的専門性のある単行本を読むための基礎的なスキルについて学びます。第2は、食料や農業問題の基礎的知識がない学生を念頭に、教員からの補足的なレクチャーを適宜織り込み、こうした問題領域に興味を持ってもらえるよう配慮します。進捗の速度は、実際のクラスのメンバーのレベルに合わせて、柔軟に設定していきます。</p> <p>スローフード運動、グリーン・ツーリズム、食の安全性、産直運動などに興味がある人なら関心が持てるテーマです。</p>		<p>通常、事前に配布した文献をもとに担当する学生がレジメを用意し、それに基づき文献の内容に関するプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、ディスカッションを行う。最後に、教員が講評とアドバイスをを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の説明、グループづくり 2. Community Agriculture and Local Food Systems 3. How American Agriculture Was Made Modern (1) 4. How American Agriculture Was Made Modern (2) 5. The Industrialization and Consolidation of Agriculture and Food Production in the United States 6. The Global Supply Chain 7. ビデオと討論 8. Toward a Civic Agriculture (1) 9. Toward a Civic Agriculture (2) 10. Toward a Civic Agriculture (3) 11. Civic Agriculture and Community Agriculture Development 12. From Commodity Agriculture and Civic Agriculture 13. ビデオと討論 14. 教員によるレクチャーと討論(食と農の今日的問題) 15. 全体のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Thomas A. Lyson, <i>Civic Agriculture: Reconnecting Farm, Food, and Community</i> (Tufts University Press, 2004) ※各自で購入して下さい。</p>		出席点(30%)、レジメの内容(20%)、発表態度(20%)、期末まとめレポート(30%)。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(地球市民のためのフェアトレード入門) 英語専門講読a(地球市民のためのフェアトレード入門)	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ローカルな視点から地球全体の課題を考えることを念頭に、先進国と途上国のフェアトレード(公正貿易)というテーマを春秋連続して学習します。フェアトレードとは、途上国の生産者(コーヒー、農産物、工芸品等)と先進国の消費者が、環境や文化に関する一定の理解に基づいて取引する地球版「産直」ともいえる活動です。私達も、ODAなどの援助とは別なやり方で、貧困や地球環境の問題の解決・緩和に参加することができるのです。</p> <p>大切なのは身の回りのことから、グローバルな問題について考えていくという「発想」です。そして、英語を活用して、こうした事柄に対する「学び」を深めることの喜びを知っていただきたいと思います。</p> <p>授業の進め方は、テキストの章(節)ごとの分担を事前に決め、該当部分を担当する学生がレジメを用意し、それに基づき担当章(節)の内容に関するプレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、ディスカッションをします。最後に教員が講評します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方について 2. Fair Trade: Why it's not just for coffee farmers anymore? 3. Fish don't know they are wet or how trading influences our lives 4. Why is Fair Trade so popular? 5. Fair Trade principles and practices 6. Fair Trade histories 7. ビデオと討論『おいしいコーヒーの真実』 8. Yes, but does it work? 9. Ordinary people making Fair Trade extraordinary 10. Will free trade ever be fair? 11. The future of Fair Trade 12. Daily life with Fair Trade 13. 教員によるレクチャーと討論(予定) 14. 教員によるレクチャーと討論(予定) 15. 全体のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Jacqueline Decarlo, <i>Fair Trade: A Beginner's Guide</i> (Oneworld Publications, 2007) ※各自で購入して下さい。		出席点(30%)、レジメの内容(20%)、発表態度(20%)、期末まとめレポート(30%)。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(地球市民のためのフェアトレード入門) 英語専門講読b(地球市民のためのフェアトレード入門)	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の学習を踏まえ、さらに専門的な文献の輪読を行います。取り上げる文献は、フェアトレードに関する社会科学分野の雑誌論文、報告書、欧米NGOホームページ等です。受講生が当該分野の興味ある文献を検索し、持ち寄り、輪読、発表、議論に発展させます。</p> <p>秋学期の授業の進め方としては、グループごとに教員と相談の上、フェアトレードに関する文献を選定し、報告テーマを設定します。分担してレジメを作成、それに基づき文献の内容に関するプレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、担当グループが中心となって、教室内ディスカッションに発展させます。最後に、教員が講評とアドバイスを行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方について 2. (プレゼンテーションと議論) 3. (プレゼンテーションと議論) 4. (プレゼンテーションと議論) 5. (プレゼンテーションと議論) 6. (プレゼンテーションと議論) 7. (プレゼンテーションと議論) 8. (プレゼンテーションと議論) 9. (プレゼンテーションと議論) 10. (プレゼンテーションと議論) 11. (プレゼンテーションと議論) 12. (プレゼンテーションと議論) 13. (プレゼンテーションと議論) 14. 教員によるレクチャーと討論 15. 全体のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
グループごとに教員と相談の上で選定する。		出席点(30%)、レジメの内容(20%)、発表態度(20%)、期末まとめレポート(30%)。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読 I (SLA 実証研究論文) 英語専門講読 a (SLA 実証研究論文)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 第二言語習得(SLA: second language acquisition)研究の中の、特に「実証的研究」を扱う英語論文を講読する。それにより、SLA に関する知識を得るとともに、研究論文で用いられる英語表現を知ることが目的とする。加えて、複雑ではあっても論理的な研究デザインを読み解くために繰り返し対象論文を読み、ロジカルな思考の訓練、さらなる英語力増強をも目指していく。</p> <p>【概要】 「人間はどのようにして自分の母語以外の言語（第二言語）を身に付けていくのか？」ということは、自身英語学習者であるわれわれにとって非常に身近なテーマである。また、より良い英語学習法・教育法を追い求めるなかで、教師や研究者たちはさまざまな「実証研究」を行っている。たとえば、「A という教え方と B という教え方のどちらが効果的なのか?」、「日本人の英語語彙力を正確に測るテストはどのように作ったらよいのか?」といったものである。本授業では、そのような実証研究論文を講読する。さらに、それらの研究結果、方法論について批評・議論も行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 【ガイダンス】、実証研究とは何か 2. 実証研究論文の一例 3. 論文(1): 内容理解の確認 4. 論文(1): 内容理解の確認 5. 論文(1): ディスカッション 6. 論文(2): 内容理解の確認 7. 論文(2): 内容理解の確認 8. 論文(2): ディスカッション 9. 論文(3): 内容理解の確認 10. 論文(3): 内容理解の確認 11. 論文(3): ディスカッション 12. 論文(4): 内容理解の確認 13. 論文(4): 内容理解の確認 14. 論文(4): ディスカッション, 【まとめ】 	
テキスト、参考文献		評価方法	
日本国内で出版された、日本人英語学習について取り扱った英語論文。その都度コピーを配布する。		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読 II (SLA 実証研究論文) 英語専門講読 b (SLA 実証研究論文)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 春学期同様、SLA 研究の中の、特に「実証的研究」を行う研究論文を講読する。 秋学期は、より広い視野をもって SLA 研究を考えることを目指し、海外で出版された論文を取り入れる。</p> <p>【概要】 1) 論文を読み、その内容について理解の確認を行う 2) その研究結果、方法論について批評・議論を行う 3) 議論をもとに、より良い研究方法を提案する</p> <p>秋学期はディスカッションを英語で行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 【ガイダンス】 2. 論文(1): 内容理解の確認 3. 論文(1): 内容理解の確認 4. 論文(1): 内容理解の確認 5. 論文(1): ディスカッション 6. 論文(2): 内容理解の確認 7. 論文(2): 内容理解の確認 8. 論文(2): 内容理解の確認 9. 論文(2): ディスカッション 10. 論文(3): 内容理解の確認 11. 論文(3): 内容理解の確認 12. 論文(3): 内容理解の確認 13. 論文(3): ディスカッション 14. 最終レポート練習, 【まとめ】 	
テキスト、参考文献		評価方法	
日本国外で出版された、第二言語学習について取り扱った英語論文。その都度コピーを配布する。		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(対人コミュニケーション理論) 英語専門講読a(対人コミュニケーション理論)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This subject is aimed at helping students to understand key concepts and theories of interpersonal and intercultural communication, explore their assumptive foundations and applicability in different sociocultural and historical contexts and develop an (inter)active attitude towards 'cultural difference(s)'. Towards these objectives, students will be asked to read at least 7,000 words every week, give short summary presentations, participate in discussions, write a term paper and take a written examination. All the coursework will be done in English.</p> <p>This subject is recommended for students who wish to practice English for academic and professional purposes, undertake research into interpersonal and intercultural communication, and most importantly, pursue the ethical dimensions of communication for intercultural harmony and personal/social development.</p> <p>*内容がかなり専門的なので、「異文化間コミュニケーション論 a, b」を履修済みであることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course 2. Defining intercultural communication (pp. 1-16) 3. Why study intercultural communication? (pp. 16-27) 4. A layered approach (pp. 28-34) 5. Four layers of intercultural communication (pp. 35-54) 6. Characteristics of identity (pp. 55-66) 7. Explaining cultural identities (pp. 66-87) 8. Attributions (pp. 88-98) 9. Attitude (pp. 98-118) 10. Types of initial intercultural interactions (pp. 119-134) 11. Explaining initial intercultural interactions (pp. 134-148) 12. Friendships (pp. 149-159) 13. Romantic relationships (pp. 159-178) 14. Wrap-up <p>[Recommended reading] Sugimoto Y. (Ed.). (2009). <i>The Cambridge companion to modern Japanese culture</i>. Cambridge University Press.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Oetzel, J. G. (2009). <i>Intercultural communication: A layered approach</i> . New York: Vango Books. (400 pages)		Oral presentations (40%), term paper (30%), exam (30%)	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(対人コミュニケーション理論) 英語専門講読b(対人コミュニケーション理論)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This subject is aimed at helping students to understand key concepts and theories of interpersonal and intercultural communication, explore their assumptive foundations and applicability in different sociocultural and historical contexts and develop an (inter)active attitude towards 'cultural difference(s)'. Towards these objectives, students will be asked to read at least 7,000 words every week, give short summary presentations, participate in discussions, write a term paper and take a written examination. All the coursework will be done in English.</p> <p>This subject is recommended for students who wish to practice English for academic and professional purposes, undertake research into interpersonal and intercultural communication, and most importantly, pursue the ethical dimensions of communication for intercultural harmony and personal/social development.</p> <p>*内容がかなり専門的なので、「異文化間コミュニケーション論 a, b」を履修済みであることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the autumn semester 2. Disparities in educational outcomes (pp. 179-197) 3. Layered perspective of educational contexts (pp. 197-207) 4. Workplace as a context for cultural diversity (pp. 208-219) 5. Intercultural communication in the workplace (pp. 220-239) 6. Health disparities (pp. 240-262) 7. Layers of health care contexts (pp. 263-276) 8. Community and culture (pp. 277-296) 9. Layers of intercultural communities (pp. 297-309) 10. Media production (pp. 310-324) 11. Media perception (pp. 324-336) 12. Why does history matter (pp. 337-351) 13. Layered perspective of history(ies) and the future(s) (pp. 351-364) 14. Wrap-up <p>[Recommended reading] Sugimoto Y. (Ed.). (2009). <i>The Cambridge companion to modern Japanese culture</i>. Cambridge University Press.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Oetzel, J. G. (2009). <i>Intercultural communication: A layered approach</i> . New York: Vango Books. (400 pages)		Oral presentations (40%), term paper (30%), exam (30%)	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(オーストラリアの詩) 英語専門講読a(オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
講義目的・講義概要		授業計画	
<p>巷では、2008年秋以降の世界同時不況のことを「100年に一度の不況」「戦後最大の不況」という言葉で表現することがあります。それに対し「騒ぎすぎ」「大げさ」という批判も出ますが、実際に就職活動を体験している学生の方や、これから卒業後の身の振り方の準備にかかる学生の方は、表現はなんであれ、今の時代にリアルに不安を抱えているのではないのでしょうか。</p> <p>そんな状況の中で、「詩を学ぶ」ことは時代にそぐわないと感じる方もいらっしゃるかもしれません。もっと実用的な知識を身につけるべきだと。確かに資格等の実用的な知識をつけることは必要です。その方が幾分不安も少なくなるでしょう。しかし、詩を学ぶことも、ある意味、実用的だと言えると思います。なぜかと言うと、詩を丁寧に読むと、「言葉の力」を体感することになるからです。そしてこの言葉の力は私たちの生き方に大きな影響を与えているからです。「詩を学ぶ＝生き方を学ぶ」と言えるかもしれません。</p> <p>詩は娯楽だとか、生きる上で必須ではない、といった浮世離れたイメージが詩にあるとしたら、詩を一面的にしか見ていないように感じます。詩って、案外、もっと生活に密接しているものなのですよ。(↓に続く)</p>		<p>私が解説する講義形式になるときもありますが、基本的に、グループ発表形式で進めていきます(便宜上、グループ発表となりますが、評価はグループ単位ではなく、個人単位です)。発表者は授業前にあらかじめ担当箇所を調べ、どのように発表したらうまく伝えられるか、他の学生を眠らせないためにはどうしたらいいか等、発表の仕方も工夫してみてくださいね。過去に受講して下さった学生達は、パワーポイントやyoutube等のサイトをスクリーンで見せながら解説したり、自作の紙芝居や演劇で再現したり、クイズ形式で他の学生に答えさせたり(賞品つきの時もありました)、黒板に美しくまとめて書いてくれたり等、いろいろ楽しい授業を創り出してくれました。今年も皆さんの創作力を見るのを大変楽しみにしております!</p> <p>春学期では、最初の4回で、「オーストラリアの歴史」「アボリジニの歴史」「アボリジニの神話・伝説」の概略を学びます。オーストラリア関連の映像も紹介します。背景を知った上で、アボリジニの人たちが、アボリジニ独自の言語で書いた詩(英訳されたものを配布します。CDでアボリジニ独自の言語の音声を聴きます)、それから最初から英語で書いた詩を読んでいきます。(第一回目の授業でグループを作ります。必ず参加してくださいね。)</p>	
テキスト、参考文献&サイト		評価方法	
<p>テキストはプリントして配布。参考文献は授業で随時紹介。 www.leafandletters.com www.australianpoetry.net</p>		<p>学期末レポート(提出しなかった場合不可)、授業での参加度(発表&発言)、出席状況(欠席は4回以内。30分以内の遅刻の場合、3分の1の欠席として計算します。)</p>	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(オーストラリアの詩) 英語専門講読b(オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
講義目的・講義概要		授業計画	
<p>(↑からの続きです)</p> <p>「オーストラリアを学ぶ」意義は何でしょう。まず、交流が深い国なのに研究や知識がまだ少ないこと。今でも表面的なイメージのみが流布している感があります。オーストラリアに旅行や留学する機会が昔よりも多くなったにもかかわらず、歴史や精神史などを知らないのでは、真の意味での交流が難しくなると思います。</p> <p>それから、私たちは案外自分について理解していません。比較対象があって、初めて己が見えてくるものです。オーストラリアを学ぶことによって、改めて自分について考える良い機会になったらいいですね。(例えば「オーストラリア人とは誰を指すか?」といった問いは、そのまま日本に当てはめた場合どうなるのか、など)</p> <p>講義目的をまとめて書くと、「言葉の力を体感する」「オーストラリアをより知ることで真の交流を目指す」「オーストラリアを通して己を考える」また、発表形式の授業です。「自分の言葉で考え、語る」こととなります。授業時間だけでなく、生きている間ずっと、皆さんのお役に立つことができたら最高に嬉しく思います。</p> <p>それでは、熱意のある方、お待ちしております!</p>		<p>春学期ではアボリジニの詩を読みましたが、秋学期では入植者の血を引くものたちの詩を読みます。</p> <p>春学期では「詩」よりもむしろ「オーストラリア」に焦点を当てた授業となりますが、秋学期ではいよいよ「詩」そのものを味わう機会が多くなります。決して多くはない言葉のなかに、膨大な思い(思考、時空間、知識 etc)を垣間見ることになるでしょう。私はいい詩を読むと、もう単に「・・・すごい」という気持ちになってしまいます。それはもう、鳥肌ものです。皆さんとこの思いを共有できたら、とても嬉しく思います。</p> <p><春学期の講義概要> アボリジニの歴史や神話を踏まえた上で、彼らの詩を読んでいきます。CD、ビデオ、DVDを使用して、授業を進めることもあります。</p> <p><秋学期の講義概要> 入植者の血を引くものたちの詩を読んでいきます。詩人本人が朗読している詩もありますので、その場合は、CDを利用して授業を進めます。</p>	
テキスト、参考文献&サイト		評価方法	
<p>テキストはプリントして配布。参考文献は授業で随時紹介。 www.leafandletters.com www.australianpoetry.net</p>		<p>学期末レポート(提出しなかった場合不可)、授業での参加度(発表&発言)、出席状況(欠席は4回以内。30分以内の遅刻の場合、3分の1の欠席として計算します。)</p>	

06～09 年度 (春) 03～05 年度 (春)	英語専門講読 I (英語圏の現代演劇) 英語専門講読 a (英語圏の現代演劇)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として、理由の如何を問わず、単位を認めません。</p>		<p>教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。</p> <p>レポートに関する事など、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。Reading Strategies I・II・III・IVのクラスよりも英語や内容が多少難しい作品がテキストとなっています。参考文献は授業中に言及する予定です</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。観劇レポート(500字程度) 2編で 40%。学期末定期試験はしません。レポートは2編必修です。未提出者には単位を認めません。</p>	

06～09 年度 (秋) 03～05 年度 (秋)	英語専門講読 II (英語圏の現代演劇) 英語専門講読 b (英語圏の現代演劇)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として、理由の如何を問わず、単位を認めません。</p>		<p>教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。</p> <p>レポートに関する事など、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。Reading Strategies I・II・III・IVのクラスよりも英語や内容が多少難しい作品がテキストとなっています。参考文献は授業中に言及する予定です</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。観劇レポート(500字程度) 2編で 40%。学期末定期試験はしません。レポートは2編必修です。未提出者には単位を認めません。</p>	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読 I (Critically thinking things through) 英語専門講読 a (Critically thinking things through)	担当者	小西 卓三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>価値や意見の多様性を求めていく時代においては、論争的な話題について考えていくことが大事になります。この授業では、議論の評価・作成をおこなうことによって、議論とは何か、論争にかかわるとは何かといったことを考えていきます。具体的には議論の分析、解釈、構成スキルの育成、議論にかかわる際の望ましい態度の醸成を目指します。</p> <p>授業形式は講義、ケーススタディ、グループワーク、発表が中心になります。まず重要な概念を学びそれを用いて考えていくという流れをとるため、学期が進むにつれて授業参加の重要性が増していきます。</p>		<p>1 Course Overview</p> <p>2 What is argument?</p> <p>3 What is argument?</p> <p>4 Argument structure</p> <p>5 Argument structure</p> <p>6 Argument structure</p> <p>7 Argument evaluation</p> <p>8 Argument evaluation</p> <p>9 Argument evaluation</p> <p>10 Evaluating extended argument</p> <p>11 Workshop</p> <p>12 Presentations</p> <p>13 Presentations</p> <p>14 Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
読書課題は配布する。		授業参加、小テスト、発表、試験の総合評価による。	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	英語専門講読 II (Critically thinking things through) 英語専門講読 b (Critically thinking things through)	担当者	小西 卓三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の続きです。目的や授業形態は春学期と同じです。この学期では視覚的議論に関して検討した後、さまざまな社会的論争について実際考えてみます。</p> <p>授業形式は講義、ケーススタディ、グループワーク、発表が中心になりますが、本学期はグループワークの比重が前期よりも高くなります。</p>		<p>1 Retrospect and Prospect</p> <p>2 Visual argument</p> <p>3 Visual argument</p> <p>4 Visual argument</p> <p>5 Contemporary Issue 1</p> <p>6 Contemporary Issue 1</p> <p>7 Contemporary Issue 1</p> <p>8 Contemporary Issue 2</p> <p>9 Contemporary Issue 2</p> <p>10 Contemporary Issue 2</p> <p>11 Workshop</p> <p>12 Presentation</p> <p>13 Presentation</p> <p>14 Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
読書課題は配布する。		授業参加、小テスト、発表、試験の総合評価による。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(認知英文法) 英語専門講読a(認知英文法)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、英語の読解力を高めることにある。使用するテキストは、認知言語学の立場から書かれた英文法の書である。これにより、認知言語学の考え方を知らることができるだけでなく、英語そのものに対する理解も深められるはずである。</p> <p>授業では、下記のテキストの第2部 Things: Nouns and noun phrases を読んでゆく(プリントを配布する。テキスト購入は要しない)。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>英語を読む力は、鍛錬とか修練ということによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする、学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよし、というようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。</p>		<p>春学期14回の授業でテキストの第2部を読み進める。以下に、進度の目安・目標となる予定をあげておく。</p> <p>第1回(4月6日)オリエンテーション(出席は必須) 第2回(4月13日) Nouns 1 第3回(4月20日) Nouns 2 第4回(4月27日) Nouns 3 第5回(5月11日) Reference 1 第6回(5月18日) Reference 2 第7回(5月25日) Reference 3 第8回(6月1日) Quantifiers 1 第9回(6月8日) Quantifiers 2 第10回(6月15日) Quantifiers 3 第11回(6月22日) Modifiers 1 第12回(6月29日) Modifiers 2 第13回(7月6日) Modifiers 3 第14回(7月13日) 春学期の復習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Radden, Günter and René Dirven (2007) <i>Cognitive English Grammar</i> . Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.		評価は定期試験期間中の試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である(ただし、出席そのものが加点の対象となることはない)。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(認知英文法) 英語専門講読b(認知英文法)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、英語の読解力を高めることにある。使用するテキストは、認知言語学の立場から書かれた英文法の書である。これにより、認知言語学の考え方を知らることができるだけでなく、英語そのものに対する理解も深められるはずである。</p> <p>授業では、下記のテキストの第3部 Situations as temporal units: Aspect, tense, and modality を読んでゆく(プリントを配布する。テキスト購入は要しない)。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>英語を読む力は、鍛錬とか修練ということによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする、学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよし、というようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。</p>		<p>秋学期14回の授業でテキストの第3部を読み進める。以下に、進度の目安・目標となる予定をあげておく。</p> <p>第1回(9月28日) Aspect 1 第2回(10月5日) Aspect 2 第3回(10月12日) Aspect 3 第4回(10月19日) Aspect 4 第5回(10月26日) Tense 1 第6回(11月2日) Tense 2 第7回(11月9日) Tense 3 第8回(11月16日) Tense 4 第9回(11月23日) Modality 1 第10回(11月30日) Modality 2 第11回(12月7日) Modality 3 第12回(12月14日) Modality 4 第13回(12月21日) 秋学期の復習 1 第14回(1月11日) 秋学期の復習 2</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Radden, Günter and René Dirven (2007) <i>Cognitive English Grammar</i> . Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.		評価は定期試験期間中の試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である(ただし、出席そのものが加点の対象となることはない)。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(シルヴィア・プラスの短編集を読む) 英語専門講読a(シルヴィア・プラスの短編集を読む)	担当者	小林 愛明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカの「告白派」を代表する詩人、シルヴィア・プラス(Sylvia Plath, 1932-63)の短編を詩と併せて読んでいく。</p> <p>彼女のコトバはとても難しい。履修する学生にはそれなりの語学力と忍耐が必要である。</p> <p>また、彼女の作品から「答え」を得ることは出来ない。むしろ読者は作品からの「問い」に絶えず自己を曝け出すことになる。</p> <p>だから、容易に「分かる」ことだけを学び、この先の人生を順調に、真っ直ぐに歩いていきたい人にはまず向いていない(因みにプラスは最期に自殺した)。</p> <p>発表はグループ形式で行う(A、B、C、Dの合計四班)。和訳の作成は勿論だが、文化的背景についてもしっかりと調べてきてもらう。</p> <p>なお、発表を無断で欠席したり、同じ班の人に対して無責任な行動を取ったりした場合には評価対象外となるので要注意。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. A班(“Day of Success”) 3. B班(〃) 4. C班(〃) 5. D班(〃) 6. A班(詩) 7. B班(〃) 8. C班(〃) 9. D班(〃) 10. A班(〃) 11. B班(詩) 12. C班(“The Daughters of Blossom Street”) 13. D班(〃) 14. A班(〃) 15. B班(〃)(レポート提出日) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>詩：授業でコピーを配布。</p> <p>短編：『成功の日』(東京：南雲堂, 2004)を購入すること。</p>		<p>プレゼンテーションとワープロによる4,000字程度の作品論を総合して決める。4回以上欠席した場合やレポートに不備がある場合に関しては評価対象外となる。</p>	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(シルヴィア・プラスの短編集を読む) 英語専門講読b(シルヴィア・プラスの短編集を読む)	担当者	小林 愛明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカの「告白派」を代表する詩人、シルヴィア・プラス(Sylvia Plath, 1932-63)の短編を詩と併せて読んでいく。</p> <p>彼女のコトバはとても難しい。履修する学生にはそれなりの語学力と忍耐が必要である。</p> <p>また、彼女の作品から「答え」を得ることは出来ない。むしろ読者は作品からの「問い」に絶えず自己を曝け出すことになる。</p> <p>だから、容易に「分かる」ことだけを学び、この先の人生を順調に、真っ直ぐに歩いていきたい人にはまず向いていない(因みにプラスは最期に自殺した)。</p> <p>発表はグループ形式で行う(A、B、C、Dの合計四班)。和訳の作成は勿論だが、文化的背景についてもしっかりと調べてきてもらう。</p> <p>なお、発表を無断で欠席したり、同じ班の人に対して無責任な行動を取ったりした場合には評価対象外となるので要注意。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. C班(〃) 3. D班(〃) 4. A班(〃) 5. B班(〃) 6. C班(詩) 7. D班(“Johnny Panic and the Bible of Dreams”) 8. A班(〃) 9. B班(〃) 10. C班(〃) 11. D班(詩) 12. A班(〃) 13. B班(〃) 14. C班(〃) 15. D班(〃) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>詩：授業でコピーを配布。</p> <p>短編：『成功の日』(東京：南雲堂, 2004)を購入すること。</p>		<p>プレゼンテーションとワープロによる4,000字程度の作品論を総合して決める。4回以上欠席した場合やレポートに不備がある場合に関しては評価対象外となる。</p>	

06～09 年度 (春) 03～05 年度 (春)	英語専門講読 I (米国ユダヤ人史) 英語専門講読 a (米国ユダヤ人史)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。</p> <p>使用するテキストはアメリカユダヤ人史の概説書です。</p>		<p>最初の授業で説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
高価なため、コピーを配布します。		毎回出席をとります。授業日数の1/3以上欠席された方は単位をあげません。遅刻3回で欠席1回にカウント。	

06～09 年度 (秋) 03～05 年度 (秋)	英語専門講読 II (米国ユダヤ人史) 英語専門講読 b (米国ユダヤ人史)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		最初の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(物語を読んで楽しむ) 英語専門講読a(物語を読んで楽しむ)	担当者	佐藤 勉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>優れた現代英米の物語(短編小説と呼んでもかまわない)を読んで、作品の構造や語りの技巧や物語内容などに触れ、文学の読み方はどのようなものか、という点に焦点を当てて考えてみる。</p> <p>物語の面白さを感じ取りながら、読むための技術を身につけることを目指す。そのためいろいろな物語を取り上げたいのだが、時間の都合で数編ということになるかも知れない。今年度はテキストを購入してそれを中心に読んでいく。読む物語の特徴が理解できるように読み進める積もりであるが、受講生に順番に読んでもらうので毎回出席すること大切である。</p> <p>言葉のもつ表面的な意味や隠されている意味を掘り起こしたりして、作者が物語の語りにどんな技巧を駆使しているかを見極めていく。物語の面白さがどこからくるのかを理解してもらえることを期待している。授業では読み進める物語の解説とともに、右に掲げた授業計画のメイン・トピックスを取り上げて解説をしながら読んでいくので、番号は必ずしも授業時間の回数ではない。</p>		<p>物語の面白さへの誘い</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. F. Kafka の <i>The Helmsman</i> とシュールレアリズム 2. J. Thurber の <i>The Unicorn in the Garden</i> と寓話 3. J. Carol Oates の <i>Embrace</i> と精神分析 4. L. Cooper の <i>Genie-us</i> とアイロニー 5. L. Pirandello の <i>War</i> と社会と人間 6. J.M. Synge の <i>Shadow of the Glen</i> の語りの面白さ 7. D. Defoe の <i>Journal of the Plague Year</i> の鋭い視点 8. O. Henry の <i>Last Leaf</i> における逆説的語り 9. 前に授業の続き 10. O. Wilde の <i>Happy Prince</i> の大人の童話とは 11. 前の授業の続き 12. E. Hemingway の <i>The End of Something</i> と <i>A Very Short Stories</i> におけるある愛の破局 13. L. Newlin の <i>Our Last Day in Venice</i> における親と子の関係 14. A.C. Clarke の <i>The Curse</i> と I. Asimov の <i>Silly Asses</i> における人間の愚かさ 15. 前に授業の続き <p>注意：この授業に参加したい学生は予習の分担ができないと次の予習予定者に迷惑がかかります。この分担約束が果たせない学生は受講しないでください。もし一回でも果たせなかった場合は不可とします。それだけ重要なのです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはすべてプリント教材を使います。		出席点と期末テストによります。平常点は順番制で当たりますので、その時やらなかった場合にはマイナス点として点数化します。3分の2以上の出席がないと単位は出ない。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(物語を読んで楽しむ) 英語専門講読b(物語を読んで楽しむ)	担当者	佐藤 勉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>優れた現代英米の物語(短編小説と呼んでもかまわない)を読んで、作品の構造や語りの技巧や物語内容などに触れ、文学の読み方はどのようなものか、という点に焦点を当てて考えてみる。</p> <p>物語の面白さを感じ取りながら、読むための技術を身につけることを目指す。そのためいろいろな物語を取り上げたいのだが、時間の都合で数編ということになるかも知れない。今年度はテキストを購入してそれを中心に読んでいく。読む物語の特徴が理解できるように読み進める積もりであるが、受講生に順番に読んでもらうので毎回出席することが大切である。</p> <p>言葉のもつ表面的な意味や隠されている意味を掘り起こしたりして、作者が物語の語りにどんな技巧を駆使しているかを見極めていく。物語の面白さがどこからくるのかを理解してもらえることを期待している。授業では読み進める物語の解説とともに、右に掲げた授業計画のメイン・トピックスを取り上げて解説をしながら読んでいくので、番号は必ずしも授業時間の回数ではない。</p>		<p>物語の語りの技巧を学ぶとともに、さまざまな人生における物語の重要性を理解します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. F. Stockton の <i>The Lady or the Tiger</i> の語りの基本 2. 前の授業の続き 3. 前の授業の続き 4. S.V. Benet の <i>By the Waters of Babylon</i> における教訓 5. 前の授業の続き 6. 前の授業の続き 7. J. Steinbeck の <i>The Murder</i> における <i>Surprise Ending</i> 8. 前の授業の続き 9. 前の授業の続き 10. Bali Rai の <i>the White Towel</i> の問題点とは 11. 前の授業の続き 12. 前の授業の続き 13. M. Burgess の <i>Whose face do you see?</i> における人間の尊厳とは 14. 前の授業の続き 15. 前の授業の続き <p>注意：この授業に参加したい学生は予習の分担ができないと次の予習予定者に迷惑がかかります。この分担約束が果たせない学生は受講しないでください。もし一回でも果たせなかった場合は不可とします。それだけ重要なのです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはすべてプリント教材を使います。		出席点と期末テストによります。平常点は順番制で当たりますので、その時やらなかった場合にはマイナス点として点数化します。3分の2以上の出席がないと単位は出ない。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(現代国際関係論) 英語専門講読a(現代国際関係論)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、国際関係論の中でも貧困、人口問題、グローバル化、紛争、民主主義などのイシューを扱う。教材としては、<i>Foreign Affairs</i>、<i>Current History</i>、<i>The New York Times</i>、<i>Foreign Policy</i>などに掲載された記事や論文を使用する。内容の濃い論文を通じて、国際社会の争点を理解し、分析する姿勢を身につける。</p> <p>基本的には発表とその後のディスカッションによって進める。受講者が多い場合には、2～3名で1つのグループを形成し、グループ発表をしてもらう。</p> <p>授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んだ上で授業に臨んでもらいたい。必要に応じて映像資料を用い、理解の向上に努める。</p> <p>なお、第一回目の授業で授業内容の詳細を説明し、また発表者を決めるので必ず出席すること。春学期と秋学期の両方の履修が望ましい。</p>		<p>第1週目 オリエンテーション、発表者決め 第2～14週目 発表、ディスカッション</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Friedman, Thomas L. 'It's a Flat World, After All,' <i>The New York Times</i>, April 3, 2005. ・Sachs, Jeffery D. 'Can Extreme Poverty Be Eliminated,' <i>Scientific American</i>, September 2005. ・Easterly, William. 'The Poor Man's Burden,' <i>Foreign Policy</i>, January/February 2009 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教員が用意し、適宜配布する。		出席、授業への参加状況、発表、学期末レポートの総合評価とする。欠席は4回までとする。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(現代国際関係論) 英語専門講読b(現代国際関係論)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、国際関係論の中でも貧困、人口問題、グローバル化、紛争、民主主義などのイシューを扱う。教材としては、<i>Foreign Affairs</i>、<i>Current History</i>、<i>The New York Times</i>、<i>Foreign Policy</i>などに掲載された記事や論文を使用する。内容の濃い論文を通じて、国際社会の争点を理解し、分析する姿勢を身につける。</p> <p>基本的には発表とその後のディスカッションによって進める。受講者が多い場合には、2～3名で1つのグループを形成し、グループによる発表をしてもらう。</p> <p>授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んだ上で授業に臨んでもらいたい。必要に応じて映像資料を用い、理解の向上に努める。</p> <p>なお、第一回目の授業で授業内容の詳細を説明し、また発表者を決めるので必ず出席すること。春学期と秋学期の両方の履修が望ましい。</p>		<p>第1週目 オリエンテーション、発表者決め 第2～14週目 発表、ディスカッション</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Collier, Paul. 'The Politics of Hunger,' <i>Foreign Affairs</i>, November/December 2008. ・Lancaster, Carol. 'The New Face of Development,' <i>Current History</i>, January 2008. ・Gettleman, Jeffrey. 'The Most Dangerous Place in the World,' <i>Foreign Policy</i>, March/April 2009. ・Brown, Lester. 'Emerging Water Shortages,' <i>The Humanist</i>, March/April 2008. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教員が用意し、適宜配布する。		出席、授業への参加状況、発表、学期末レポートの総合評価とする。欠席は4回までとする。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(アメリカ小説) 英語専門講読a(アメリカ小説)	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>まず第一に「英語で」原書を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に討論による作品理解を深めることを目的とする。</p> <p>1951年に出版されたJ. D.サリンジャーの<i>The Catcher in the Rye</i>は50年以上経った今も若者達に愛読され、アメリカ戦後小説の古典となっている。その一方でアメリカの公立図書館や教育員会で最も検閲の対象となった小説でもあり、John Lennonの暗殺者、Mark Chapmanの愛読書として物議をかもしている。80年代には映画、<i>The Field of Dreams</i>の原作本であるShoeless Joeのインスピレーションの源泉として、最近では村上春樹が翻訳を試みたことでも話題になった。私立の有名進学校(<i>prep school</i>)からはみ出た16歳の少年Holden Caulfieldの大人になれない悩みを扱ったこの小説の魅力を下記のような質問表に基づく討論を通じて考えていきたい。</p> <p>春学期は、この小説の前半を読む。</p>		<p>第1週 授業の進め方などについての説明と「第1週の質問表」にもとづく討論による体験授業。従って、左下の欄にある「第1週の質問表」に答えられるよう最初の1, 2ページを読んでくる必要がある。</p> <p>第2週 前週に配布した質問表による討論。第1章を終了する予定。</p> <p>第3週以降、同様な方法で毎週平均ほぼ1章ずつ読んでいく予定。本書は26章あるので、徐々に速度を上げ、中盤からは各週1章以上読んでいく予定。</p> <p>質問表は全章分を教師が用意し、教師が討論の司会をするが、途中から、学生諸君にプレゼンテーションや司会をしてもらうかもしれない。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
J.D. Salinger, <i>The Catcher in the Rye</i>		学期末の定期試験、および平常点(授業・討論への貢献度で、「出席点」ではない)	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(アメリカ小説) 英語専門講読b(アメリカ小説)	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の項を参照。この小説の後半を読む。</p> <p>春学期 第1週の質問表 <i>The Catcher in the Rye</i>, Chapter 1. Why doesn't the narrator want to tell us "all that David Copperfield kind of crap"? What does he say he is going to tell us about in this novel? Where do you think he is now, narrating his story? What kind of person is D. B.? What does he do? Where is he now and what do you think he is doing there? What kind of school is Pency Prep? Describe the narrator's attitude toward Pency. (Does he like it? If not, why not?)</p>		<p>春学期の項を参照。</p> <p>春学期と同様な方法で<i>The Catcher in the Rye</i>の後半を読んでいく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
J.D. Salinger, <i>The Catcher in the Rye</i>		学期末の定期試験、および平常点(授業・討論への貢献度で、「出席点」ではない)	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読 I (Applied Linguistics) 英語専門講読 a (Applied Linguistics)	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>外国語としての英語教育に係わるテーマを取り上げ、関連した論文を読む。学習方略(learning strategies)や動機付けなどのテーマに沿って指導方法として提唱されている方法の理論的背景とその方法を実践し検証してみる。</p> <p>また、毎回授業時間の一部で speed reading の訓練を行う。Skimming, scanning も含め、読む目的に合った読み方に慣れることを目指す。</p> <p>速読用のテキストは、受講者が決まってからテストを行い、そのレベルに合わせた教材を用いる。テキストはその後に指示する。課外に何冊かの本を読んで、発表してもらう予定。</p> <p>英語教育に関心があり、英語での読書が好きな人向き。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. What is applied linguistics? 3. " 4. The Nature of Language Teaching 5. " 6. " 7. Book Report (1) 8. Second Language Acquisition and Bilingualism 9. " 10. Method: Approach, Design, and Procedure 11. " 12. Error Correction 13. " 14. Book Report (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントを使用する。 速読用テキストは授業時に指示する。 参考文献は授業時に紹介する。</p>		<p>研究発表 (Presentation) 20% Book Report 20% 期末テスト 60%</p>	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読 II (Applied Linguistics) 英語専門講読 b (Applied Linguistics)	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に続いて、英語教育に関する論文を読み、現在どのようなことが研究されているか、理論と実践面から考え、その中から各自がテーマを決めて調べ、発表することを含める。</p> <p>速読の訓練も引き続き行っていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Listening 3. " 4. Speaking 5. " 6. Reading 7. " 8. Book Report (3) 9. Writing 10. " 11. Grammar 12. " 13. Vocabulary 14. Book Report (4) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントを使用する。 参考文献は授業時に紹介する。</p>		<p>研究発表 (Presentation) 20% Book Report 20% 期末テストとレポート 60%</p>	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(イギリス児童文学) 英語専門講読a(イギリス児童文学)	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「習うより慣れよ。」(Use makes perfect.)の観点より、面白くて易しい英語を多読することを、目的とする。(昨年の実績は、課外のレポートも含めて585頁であった。)</p> <p>Lang (Andrew,1844-1922)の『色分け昔話集』(全12巻)の内、『イエロー-昔話集』を読む。ラングはグリム同様編者に過ぎないが、中には翻訳・再話で少し変えているところもある。今回もなじみの話は少ないが、基本は同じ、夢とヒューマーとペイソスである。(1回20頁相当を2人の共同責任で読んでもらう。)</p> <p>参考文献 キャサリン・ブリグス編著 『妖精辞典』 平野敬一他訳 富山房 1992年</p>		<p>1~14</p> <p>Cat and the Mouse in Partnership The Six Swans The Dragon of the North Story of the Emperor's New Clothes The Golden Crab The Iron Stove The Dragon and his Grandmother The Donkey Cabbage The Little Green Frog The Seven Headed Serpent The Grateful Beasts The Giant and the Herd-boy The Invisible Prince The Crow How Six Men travelled through the Wide World</p>	
テキスト		評価方法	
Lang,Andrew, <i>The Yellow Fairy Book</i> . 1st World Library, 2007		期末試験をする。それとは別に課外に20頁程度のものを読んでいただく。詳細は教室で指示する。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(イギリス児童文学) 英語専門講読b(イギリス児童文学)	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<p>1~14</p> <p>The Wizard King The Nixy The Grass Mountain Alphege, or the Green Monkey Fairer-than-a-Fairy The Three Brothers The Boy and the Wolves, or the Broken Promise The Grass Axe The Dead Wife In the Land of Souls The White Duck The Witch and her Servants The Magic Ring The Flower Queen's Daughter The Flying Ship</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(生成英語統語論への誘い) 英語専門講読a(生成英語統語論への誘い)	担当者	鈴木 英一
講義目的・講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 英語をはじめ人間言語で最も重要な特徴は、言語要素が線状的に配列されていることと線状的に配列されている言語要素が構造をもつということである。この授業では、この線状性と構造化という特徴と両者の関係を気鋭の言語学者 Colin Phillips の論文を読みながら理解するとともに、英語の読解力を伸ばすことを目的とする。</p> <p>講義概要: 英語のデータに基づいて議論されている Colin Phillips (2003) “Linear Order and Constituency” という論文の前半部を精読しながら、人間言語の線状的順序(linear order)と構成素性(constituency)に関する特徴、特にPhillipsの提案する「文構造が左から右へ建て増し構築される」というIncrementality Hypothesisと構成素性テストの矛盾を理解する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Incrementality Hypothesis 2. Constituency Conflicts(1): Constituency Tests 3. Constituency Conflicts(2): Results of Constituency Tests 4. Constituency Conflicts(3): Understanding the Conflicts 5. Incremental Structure Building(1): Incremental Manner 6. Incremental Structure Building(2): Derivational Steps 7. Incremental Structure Building(3): Supporting Arguments 8. Specific Predictions(1): Coordination 9. Specific Predictions(2): Deletion/Ellipsis 10. Explaining Constituency Conflicts(1) 11. Explaining Constituency Conflicts(2) 12. Vanishing Constituents(1): Ellipsis vs. Movement 13. Vanishing Constituents(2): Comparative Ellipsis(1) 14. Vanishing Constituents(3): Comparative Ellipsis(2) 	
テキスト・参考文献		評価方法	
<p>テキスト: Colin Phillips (2003) “Linear Order and Constituency,” <i>Linguistic Inquiry</i> 34-1, pp.37-90.</p>		<p>出席状況、授業の予習、授業中の発表、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。</p>	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(生成英語統語論への誘い) 英語専門講読b(生成英語統語論への誘い)	担当者	鈴木 英一
講義目的・講義概要		授業計画	
<p>講義目的:(春学期と同じ) 英語をはじめ人間言語で最も重要な特徴は、言語要素が線状的に配列されていることと線状的に配列されている言語要素が構造をもつということである。この授業では、この線状性と構造化という特徴と両者の関係を気鋭の言語学者 Colin Phillips の論文を読みながら理解するとともに、英語の読解力を伸ばすことを目的とする。</p> <p>講義概要:(春学期の続き) 英語のデータに基づいて議論されている Colin Phillips (2003) “Linear Order and Constituency” という論文の前半部を精読しながら、人間言語の線状的順序(linear order)と構成素性(constituency)に関する特徴、特にPhillipsの提案する「文構造が左から右へ建て増し構築される」というIncrementality Hypothesisに関連する、右方節点繰り上げ構文(Right Node Raising)や移動操作による構成素の消失に関する現象やその説明方法を理解する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Vanishing Constituents: Loss-of-Scope Effects 2. Right Node Raising and Movement(1) 3. Right Node Raising and Movement(2) 4. Right Node Raising and Movement(3) 5. Constituency vs. Hierarchy Tests(1) 6. Constituency vs. Hierarchy Tests(2) 7. Argument Stranding in Right Node Raising, Movement, and Ellipsis 8. Prediction 9. Potential Complete VP Constraint 10. VP-Ellipsis 11. VP-Fronting 12. Alternative Approaches: Flexible Constituency 13. Combinatory Categorical Grammar 14. Parallel Structure 	
テキスト・参考文献		評価方法	
<p>テキスト: Colin Phillips (2003) “Linear Order and Constituency,” <i>Linguistic Inquiry</i> 34-1, pp.37-90.</p>		<p>出席状況、授業の予習、授業中の発表、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。</p>	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(Deconstructing 'Japaneseness') 英語専門講読a(Deconstructing 'Japaneseness')	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバリゼーションやポスト植民地主義的状况という視点から、現代日本について書かれた英語論文の読解・議論を通じて、現代日本の多民族・多文化的状况についての検討を行なう。受講者は複数のグループに分かれ、指定されたトピックのなかから研究テーマを設定する。それぞれのグループは、個別の研究テーマに関連する文献の読解・議論を行い、年度末に報告書を作成する。扱う題材は、アイヌ、在日コリアン、在日ムスリム、在日ブラジル人、チャイナタウン、国際結婚などを予定している。</p> <p>本講義は、グループ作業を基本とした演習形式で行なわれるため、グループ作業に積極的に参加できる者のみ履修を認める。また、英語文献を教材資料として扱うが、「英語文献の購読」にとどまらず、グローバリゼーションと呼ばれる今日の状況を「文化」という視点から考えるための方法論的視座(文化人類学的・社会学的思考)を養うことを目的とする。</p> <p>なお、週末等を利用して、本講義に関連した学外実習等を行なう可能性があるため注意されたい。</p>		<p>1. 趣旨説明・グループ分け (初回の授業でグループ分けを行なうので、履修希望者は必ず出席すること。)</p> <p>2. 各課題についての解説(1~2回)</p> <p>3. 基礎文献の購読・議論 個別の研究プロジェクトに取りかかる前の準備作業として、多文化・多民族という視点から日本社会を論じた文献の購読・議論を行なう。具体的には、テキスト欄に紹介した本のなかから、いくつかのチャプターを読んでいく。それゆえ、履修希望者はテキストを初回授業時まで用意しておくこと。なお扱う予定のチャプターは以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Geographical and Generational Variations ・ Varieties in Work and Labor ・ Gender Stratification and the Family System ・ Minority Groups: Ethnicity and Discrimination ・ Popular Culture and Everyday Life 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Sugimoto, Yoshio 2003. <i>An Introduction to Japanese Society (Second Edition)</i>. Cambridge and New York: Cambridge University Press.</p>		<p>授業における発表・議論(70%)、期末レポート(30%)</p>	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(Deconstructing 'Japaneseness') 英語専門講読b(Deconstructing 'Japaneseness')	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバリゼーションやポスト植民地主義的状况という視点から、現代日本について書かれた英語論文の読解・議論を通じて、現代日本の多民族・多文化的状况についての検討を行なう。受講者は複数のグループに分かれ、指定されたトピックのなかから研究テーマを設定する。それぞれのグループは、個別の研究テーマに関連する文献の読解・議論を行い、年度末に報告書を作成する。扱う題材は、アイヌ、在日コリアン、在日ムスリム、在日ブラジル人、国際結婚などを予定している。</p> <p>本講義は、グループ作業を基本とした演習形式で行なわれるため、グループ作業に積極的に参加できる者のみ履修を認める。また、英語文献を教材資料として扱うが、「英語文献の購読」にとどまらず、グローバリゼーションと呼ばれる今日の状況を「文化」という視点から考えるための方法論的視座(文化人類学的・社会学的思考)を養うことを目的とする。</p> <p>なお、週末等を利用して、本講義に関連した学外実習等を行なう可能性があるため注意されたい。</p>		<p>春学期の英語専門講読Ⅰの成果を踏まえた上で、各グループごとに個々の研究プロジェクトに取りかかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループごとに、指定された英語論文等を読み込みながら、議論を行なう。 ・中間発表 学期半ばに各グループごとに中間発表をしてもらう。 ・最終発表 学期末に各グループごとに最終発表をもらい、その成果をもとに年度末レポートを作成する。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>初回の授業で、論文リスト(基本的には学術雑誌所収論文)を配布するので、担当グループは各自図書館等でコピーすること。なお入手困難なものについては、担当者が配布する。</p>		<p>授業における発表・議論(70%)、期末レポート(30%)</p>	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(異文化理解の視点) 英語専門講読a(異文化理解の視点)	担当者	瀬戸 千尋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、コミュニケーション論における専門的な文献(書籍・論文)を読むのに必要な能力と知識を養うことを目的としています。すなわち、より専門的な内容について書かれた英文を読む能力と専門書に見られる書き方のルールについて知り、研究方法や関連分野との関わりから知っておかなければならない知識についても学習します。春学期は特に、文献に書かれている内容を具体化する(日常生活の例を挙げる)ことを最大の目的にします。</p> <p>授業は、グループワークが中心です。担当箇所についてのグループ発表の後、内容に関する質疑応答やディスカッション、担当者による補足説明と解説という形で進めていきます。グループ発表では、文献の内容を具体的に説明することが求められます。人は「コミュニケーションしないことはできない(cannot NOT communicate)」と言われるように、コミュニケーション論で扱うことは日常生活と密接に関連し、その経験の中にあふれていて、学生諸君も必ず体験していることです。このことを念頭に置いて、受講するすべての学生による活発な議論によって活気あふれる教室にし、毎週の授業が楽しみになるようなものにして欲しいと思っています。目指すのは「学生の、学生による、学生のための授業」です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション① 2. 授業オリエンテーション②, 教材配布 3. グループ分け 4. 異文化コミュニケーションの研究意義① 5. 異文化コミュニケーションの研究意義② 6. 異文化コミュニケーションとは何か① 7. 異文化コミュニケーションとは何か② 8. 中間総括および補足説明 9. 重要な文化的価値のパターン① 10. 重要な文化的価値のパターン② 11. 文化(民族)アイデンティティー理解のカギ① 12. 文化(民族)アイデンティティー理解のカギ② 13. 二元論の源泉:デカルトの世界観 14. 学期のまとめ, レポート課題配布 <p>※ 理解度等により、授業進度が変わることもあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>コピー教材を配布します。 心理学, 社会学, 物理学, 統計学などの関連する分野の基本書や用語辞典など。</p>		<p>グループワーク(準備, 発表の仕方, 発表内容), 授業への貢献度(質疑応答, 議論への参加), 学期末レポートまたは試験により評価します。</p>	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(異文化理解の視点) 英語専門講読b(異文化理解の視点)	担当者	瀬戸 千尋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、コミュニケーション論における専門的な文献(書籍・論文)を読むのに必要な能力と知識を養うことを目的としています。すなわち、より専門的な内容について書かれた英文を読む能力と専門書に見られる書き方のルールについて知り、研究方法や関連分野との関わりから知っておかなければならない知識についても学習します。秋学期では、特にいくつかの理論について書かれた文献を読むため、文献中に見られるそれぞれに概念やそれらの違い、およびその関連性を正しく理解しながら読み進めていくことを最大の目的にします。</p> <p>授業は、グループワークが中心です。担当箇所についてのグループ発表の後、内容に関する質疑応答やディスカッション、担当者による補足説明と解説という形で進めていきます。グループ発表では、文献の内容を具体的に説明することが求められます。人は「コミュニケーションしないことはできない(cannot NOT communicate)」と言われるように、コミュニケーション論で扱うことは日常生活と密接に関連し、その経験の中にあふれていて、学生諸君も必ず体験していることです。このことを念頭に置いて、受講するすべての学生による活発な議論によって活気あふれる教室にし、毎週の授業が楽しみになるようなものにして欲しいと思っています。目指すのは「学生の、学生による、学生のための授業」です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 秋学期の授業計画, 教材配布など 2. 春学期の復習 3. 文化アイデンティティーの次元 4. 自己開示における欧米と日本の違い 5. 定量的研究方法論と基本的な概念について 6. Face-Negotiation Theory ① 7. Face-Negotiation Theory ② 8. Anxiety-Uncertainty Management Theory ① 9. Anxiety-Uncertainty Management Theory ② 10. Anxiety-Uncertainty Management Theory ③ 11. Expectancy Violation Theory ① 12. Expectancy Violation Theory ② 13. Expectancy Violation Theory ③ 14. 学期のまとめ, レポート課題配布 <p>※ 理解度により、授業進度が変わることもあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>コピー教材を配布します。 心理学, 社会学, 物理学, 統計学などの関連する分野の基本書や用語辞典など。</p>		<p>グループワーク(準備, 発表の仕方, 発表内容), 授業への貢献度(質疑応答, 議論への参加), 学期末レポートまたは試験により評価します。</p>	

06～09 年度 (春) 03～05 年度 (春)	英語専門講読 I (20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人) 英語専門講読 a (20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人)	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、20世紀後半のアメリカの女性作家・詩人たちの作品(エッセイ、短篇小説、詩)を、精読あるいは多読しながら、行動する女性たちの目に映ったアメリカ社会について探る。		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 日系アメリカ人の歴史と文化 3. 映像や音楽に見られる日系アメリカ人 4. Hisaye Yamamoto (小説) 5. Janice Mirikitani (詩) 6. Janice Mirikitani (インタビュー) 7. 日系からアジア系へ 8. まとめ 復習テスト 9. アフリカ系アメリカ人の文化と歴史 10. Alice Walker (小説) 11. Alice Walker (詩) 12. 映像や音楽に見られるアフリカ系アメリカ人 13. 関連テーマの評論を読む 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。 参考文献については開講時に紹介。		小テスト、プレゼンテーションおよびレポートによる。 なお、4回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。	

06～09 年度 (秋) 03～05 年度 (秋)	英語専門講読 II (20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人) 英語専門講読 b (20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人)	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
前期に続き、20世紀アメリカの有色系女性作家・詩人たちの作品(エッセイ、短篇小説、詩)を精読あるいは多読することで、行動する女性たちの目に映ったアメリカ社会について探る。		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ネイティブ・アメリカンの歴史と文化 3. Leslie Marmon Silko (小説) 4. Leslie Marmon Silko (詩) 5. 映像に見られるネイティブ・アメリカン 6. 関連テーマの評論を読む 7. まとめ 復習テスト 8. 境界からの声—チカーナという生き方 9. Sandra Cisneros (小説) 10. Sandra Cisneros (詩) 11. 映像に見られるチカーナ 12. Sandra Cisneros (インタビュー) 13. 関連テーマの評論を読む 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。 参考文献については開講時に紹介。		小テスト、プレゼンテーションおよびレポートによる。 なお、4回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(グローバルな眼でアジアを読む) 英語専門講読a(グローバルな眼でアジアを読む)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、アジアの国々を一つずつ丁寧に取 り上げ、最新の国際情報を獲得していきたいと思 います。</p> <p>グループごとにプレゼンテーションを行ないま す。4人～5人でひとつのグループを作り、プレゼ ンの準備を一緒に行ないます。</p> <p>グループは2週間で担当し、次のグループに交代 します。</p> <p>第1週目には、グループごとにプレゼン資料(レ ジュメ)を作成して、プレゼンテーションを行いま す。その際に、新聞や雑誌なども活用してみましょ う。</p> <p>第2週目では、テキストの英文に注目して英語力 のアップを目指したいと思います。</p>		<p>1. オリエンテーション テキストの説明 テーマの選択 「6つ」のグループを編成 グループ発表の日程を調整</p> <p>2. グループ発表のテーマ候補 以下の中から、グループごとに選びます。</p> <p>アジア動向の総論 北東アジア地域 日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシアなど</p> <p>南アジア地域 インド、パキスタン、アフガニスタン、スリランカ、 バングラデシュ、ネパールなど</p> <p>東南アジア地域 タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、 フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオス、 ミャンマー(ビルマ)など</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Asian Survey</i> (A Bimonthly Review of Contemporary Asian Affairs), University of California Press, January / February, 2010.		プレゼン資料、プレゼンテーション、出席回数、質疑応答 への貢献度などによって評価します。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(グローバルな眼でアジアを読む) 英語専門講読b(グローバルな眼でアジアを読む)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、アジアの国々を一つずつ丁寧に取 り上げ、最新の国際情報を獲得していきたいと思 います。</p> <p>グループごとにプレゼンテーションを行ないま す。4人～5人でひとつのグループを作り、プレゼ ンの準備を一緒に行ないます。</p> <p>グループは2週間で担当し、次のグループに交代 します。</p> <p>第1週目には、グループごとにプレゼン資料(レ ジュメ)を作成して、プレゼンテーションを行いま す。その際に、新聞や雑誌なども活用してみましょ う。</p> <p>第2週目では、テキストの英文に注目して英語力 のアップを目指したいと思います。</p>		<p>1. オリエンテーション テキストの説明 テーマの選択 「7つ」のグループを編成 グループ発表の日程を調整</p> <p>2. グループ発表のテーマ候補 春学期に扱っていない国を、以下の中から選びます。</p> <p>アジア動向の総論 北東アジア地域 日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシアなど</p> <p>南アジア地域 インド、パキスタン、アフガニスタン、スリランカ、 バングラデシュ、ネパールなど</p> <p>東南アジア地域 タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、 フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオス、 ミャンマー(ビルマ)など</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Asian Survey</i> (A Bimonthly Review of Contemporary Asian Affairs), University of California Press, January / February, 2010.		プレゼン資料、プレゼンテーション、出席回数、質疑応答 への貢献度などによって評価します。	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読 I（現代イギリス小説） 英語専門講読 a（現代イギリス小説）	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、英国の作家ジョージ・オーエルの小説 <i>Nineteen Eighty-four</i>（1948年作品）を読む。</p> <p>ここで描かれているのは、ビッグ・ブラザーと呼ばれる独裁者が君臨する極度に非人間的な全体主義的管理社会である。世界は3つの超大国によって分割され、いつ終わるとも知れない戦争が続いている。人々の私生活は細部まで当局に監視され、思想は管理され、愛情を持つことすら禁止されている。歴史は権力者の都合に合わせて常に改ざんされ続ける。当局に背いた者は拷問により洗脳された後に、公衆の面前で自らの罪を告白したうえで処刑される。</p> <p>人間の肉体的精神的自由を否定し過去も未来も自在にコントロールしようとする権力の出現に対してオーエルが鳴らした警鐘は決して今でも色あせていない。オーエルを読み解くキーワードは、「人間らしさ(“decency”）」である。この20世紀を代表する問題作を読みながら、「人間らしく」あるとはどういうことかを考えたい。</p>		<p>毎回、講読を行う。講読の実際のやり方、進度については、参加者の様子を見て決定、調整する。折をみて、映画化された作品も授業内で紹介したい。学期末にレポートを課す。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
George Orwell <i>Nineteen Eighty-four</i> Penguin		出席、授業参加、課題の内容などから総合的に評価する。	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	英語専門講読 II（現代イギリス小説） 英語専門講読 b（現代イギリス小説）	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続き。		春学期の続き。	
テキスト、参考文献		評価方法	
George Orwell <i>Nineteen Eighty-four</i> Penguin		出席、授業参加、課題の内容などから総合的に評価する。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(国際政治史) 英語専門講読a(国際政治史)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際政治史(第二次世界大戦後の国際関係の歴史)に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する基礎知識を習得することを目指す。</p> <p>毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠となる。なお授業終了後には、英文和訳の小テストを毎週行う。</p> <p>使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。必要部分を各自コピーして欲しい。テキストをすべて読み終わることを目指すが、おそらく無理であろう。</p> <p>テキストの英文は平易であるが、国際政治史についての基礎知識がないと読み進めることはできないだろう。自信のない学生は、受講を諦めるか、さもなくば毎週しっかりと予習をしてから出席する覚悟が必要である。特に2年生は要注意せよ。</p> <p>*なお、第一回目から授業を開始するので、少なくとも数ページは読んでおくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> この授業の進め方に関するオリエンテーション、ならびに授業開始(第1週) 各章、各セクション、各パラグラフの内容確認(第2～第14週) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Robert J. McMahon, <i>The Cold War: A Very Short Introduction</i> , Oxford: Oxford University Press, 2003.		評価は次の3点による。①出欠(35%)、②授業の参加度・貢献度(30%)、③学期末試験(35%)。欠席が4回になった時点で不可。遅刻は2回で欠席とみなす。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(国際関係論) 英語専門講読b(国際関係論)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代国際関係論に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。</p> <p>毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠になる。なお授業終了後には、和文英訳の小テストを毎週行う。</p> <p>使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。必要部分を各自コピーせよ。テキストをすべて読み終わることを目指すが、おそらく難しくであろう。</p> <p>テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと、読み進めることは難しいであろう。自信がない学生は、受講を諦めるか、さもなくば毎週しっかりと予習をしてから出席する覚悟が必要である。特に2年生は要注意。</p> <p>*なお、第一回目から授業を開始するので、少なくとも数ページは読んでおくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> この授業の進め方に関するオリエンテーション、ならびに授業開始(第1週) 各章、各セクション、各パラグラフの内容確認(第2～第14週) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Paul Wilkinson, <i>International Relations: A Very Short Introduction</i> , Oxford: Oxford University Press, 2007.		評価は次の3点による。①出欠(35%)、②授業の参加度・貢献度(30%)、③学期末試験(35%)。欠席が4回になった時点で不可。遅刻は2回で欠席とみなす。	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読 I（インタビューやニュースのスク립トを読む） 英語専門講読 a（インタビューやニュースのスク립トを読む）	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>読んで理解できない英語は、当然、聴いても理解できない。 ただこのことは、往々にして忘れられがちである。</p> <p>当講座は、“英会話”以上の英語（ニュース・インタビュー・スピーチ・レクチャー e t c）を聴いて理解できるようにするためにはどうしたらよいのか、そのスキルを会得するためのものである。このため、授業では、さまざまなジャンルのスク립トを使って、聴解力アップのためのいろいろな読み方を体験してもらう。当講座は、いわば異文化間コミュニケーション実践のスキル・アップを目的としたものであると考えて欲しい。</p> <p>なお、授業の3分の1以上を欠席した場合、単位は認められない。</p>		<p>聴解能力には、読解能力だけでなく、スピードもまた重要となってくる。そこで、学生には、文頭からの読み、予測読み、速読など（英語を聴いて理解するための読みの技術）を教えていきたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回ごとにスク립トのプリントを使用		出席、平常授業での評価による	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	英語専門講読 II（インタビューやニュースのスク립トを読む） 英語専門講読 b（インタビューやニュースのスク립トを読む）	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回ごとにスク립トのプリントを使用		出席、平常授業での評価による	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(アメリカ現代詩) 英語専門講読a(アメリカ現代詩)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Gary Snyder (b.1930)の詩集 <i>Riprap and Cold Mountain Poems</i> をテキストに、自然、仏教、ネイティブ・アメリカン、そしてエコロジーの視点から、「環太平洋文化圏」について考える。授業は、レポーターによる作品解釈、質疑応答を中心に進める。スナイダーについては、 http://en.wikipedia.org/wiki/Gary_Snyder を参照。</p>		<ol style="list-style-type: none"> (1) Introduction (2) "Mid-August at Sourdough Mountai Look out" (3) "The Late Snow & Lumber Strike of the Summer of Fifty-four" (4) "Praise for Sick Women" (5) "Piute Creek" (6) "Milton by Firelight" (7) "Above Pate Valley" (8) "Water" (9) "For a Far-out Friend" (10) "Hay for the Horses" (11) "Thin Ice" (12) "Nooksack Valley" (13) "All through the Rains" (14) "Migration of Birds" 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト Gary Snyder, <i>Riprap and Cold Mountain Poems</i>. Berkeley: Counterpoint, 2009. (50th Anniversary Edition) テキストは、各自 amazon.co.jp などを通して購入のこと。</p> <p>参考文献 Timothy Gray, <i>Gary Snyder and the Pacific Rim: Creating Counter-Cultural Community</i>. Iowa City: U. of Iowa P, 2006. Patric D. Murphy, <i>A Place for Wayfaring: The Poetry and Prose of Gary Snyder</i>. Corvallis, OR: Oregon State UP, 2000. 山里勝己『場所を生きるーゲーリー・スナイダーの世界』(山と溪谷社, 2006年)</p>		<p>プレゼンテーションとタームペーパー (MLA のスタイルに準じた 4,000 字程度の作品論) を総合して決める。ただし欠席が3分の1を超えた場合は評価の対象としない。</p>	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(アメリカ現代詩) 英語専門講読b(アメリカ現代詩)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Gary Snyder (b.1930)の詩集 <i>The Back Country</i> をテキストに、自然、仏教、ネイティブ・アメリカン、そしてエコロジーの視点から、「環太平洋文化圏」について考える。授業は、レポーターによる作品解釈、質疑応答を中心に進める。スナイダーについては、 http://en.wikipedia.org/wiki/Gary_Snyder を参照。</p>		<ol style="list-style-type: none"> (1) "Tōji" (2) "Higashi Hongwanji" (3) "Kyoto: March" (4) "A Stone Garden" (5) "The Sappa Creek" (6) "At five a.m. off the North Coast of Sumatra . . ." (7) "Goofing again . . ." (8) "T-2 Tanker Blues" (9) "Cartagena" (10) "Riprap" (11) "Cold Mountain Poems" (1) (12) "Cold Mountain Poems" (2) (13) "Cold Mountain Poems" (3) (14) "Cold Mountain Poems" (4) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト Gary Snyder, <i>Riprap and Cold Mountain Poems</i>. Berkeley: Counterpoint, 2009. (50th Anniversary Edition) テキストは、各自 amazon.co.jp などを通して購入のこと。</p> <p>参考文献 Timothy Gray, <i>Gary Snyder and the Pacific Rim: Creating Counter-Cultural Community</i>. Iowa City: U. of Iowa P, 2006. Patric D. Murphy, <i>A Place for Wayfaring: The Poetry and Prose of Gary Snyder</i>. Corvallis, OR: Oregon State UP, 2000. 山里勝己『場所を生きるーゲーリー・スナイダーの世界』(山と溪谷社, 2006年)</p>		<p>プレゼンテーションとタームペーパー (MLA のスタイルに準じた 4,000 字程度の作品論) を総合して決める。ただし欠席が3分の1を超えた場合は評価の対象としない。</p>	

06～09 年度 (春) 03～05 年度 (春)	英語専門講読 I (欽定訳聖書を読む) 英語専門講読 a (欽定訳聖書を読む)	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1611 年発行の King James Version 「欽定訳聖書」の中からルカ福音書を読む。 学生諸君には、17 世紀初頭の英文と接し、マルコ福音書が読者に伝えようとしている内容に興味を持つ必要がある。 勿論素手で理解できるものではないので、講師による新約聖書学による説明がある。テキストはプリント。</p>		<p>テキストの文章の難易度と、学生の予習能力に応じて授業を進めていく。 授業時には、名簿に従って席に着いていただく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>The Gospel According to ST.Luke</i>		授業への出席、発表、テストの結果で評価する。	

06～09 年度 (秋) 03～05 年度 (秋)	英語専門講読 II (欽定訳聖書を読む) 英語専門講読 b (欽定訳聖書を読む)	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に続く箇所を読む		春学期に準じる	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に準じる		春学期に準じる	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(シェイクスピア入門) 英語専門講読a(シェイクスピア入門)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>シェイクスピアの悲劇 <i>Macbeth</i> (『マクベス』) を精読しながら、シェイクスピアの詩や作劇法に触れる。シェイクスピアを原文で読むおもしろさとむずかしさを実際に経験することを目的とする。</p> <p><i>Macbeth</i> はシェイクスピアが書いた戯曲の中でも最も短いものである。凝縮された詩の言葉の中で、自らの野心に気づき、おびえながら罪をおかし、取り返しのつかない人生を歩み続ける人間の内面が描かれている。シェイクスピアの詩の言葉を丹念に読みながら、ドラマティックなアクションと内省的な心理表現とが結びつくシェイクスピアの作劇法を理解する。</p> <p>近代初期の英語の韻文に初めて触れるという人も多いと思うので、現代の日常的な英語との語義や語法の違いなどを少しずつ説明しながら読みなれていく。またいろいろな音声テープを聞き、またセリフを音読して、韻文の音のパターンに慣れる。作品への理解を深めるために、シェイクスピア時代の劇場や社会的背景、あるいはシェイクスピアの他の作品についても、必要に応じて説明する。また日本で翻訳上演のビデオなども見て、現代における文化を超えたシェイクスピア受容についても考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. シェイクスピアについての概説と授業の進め方の説明 2. 精読 3. 精読 4. 精読 5. 精読 6. 精読 7. 小テスト 8. 精読 9. 精読 10. 精読 11. 精読 12. 精読 13. 精読 14. 精読 	
テキスト、参考文献		評価方法	
大修館シェイクスピア双書 <i>Macbeth</i>		小テスト、学期末試験、平常点を総合して評価する。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(シェイクスピア入門) 英語専門講読b(シェイクスピア入門)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
上に同じ。		春学期の続きを読む。 第7回目に小テストを行う。	
テキスト、参考文献		評価方法	
上に同じ。		上に同じ。	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読Ⅰ（国際連合の組織と機能） 英語専門講読a（国際連合の組織と機能）	担当者	光辻 克馬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、国際連合についての基礎的文献をテキストとして、（1）国際連合について知り、（2）国際関係分野に必要な英語能力を向上させ、（3）プレゼンテーション能力を身につけることを目指します。</p> <p>履修者は、毎週テキストの指定された部分を読んでくることが求められます。テキストの理解を深めるために、講義では関連する内容について、プレゼンテーションしたり、討論したりしましょう。</p>		<p>第1回： イントロダクション：国際連合&心得解説</p> <p>第2回-第14回： 履修者による報告と討論</p> <p>履修者がテキストを読むことを重視します。読めるペースで講義は進めたいと思います。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>MJPeterson, The UN General Assembly テキストの入手方法については初回に説明します。</p>		<p>出席状況、プレゼンテーションの内容、討論への貢献度などにより評価します。単位取得のためには、2/3以上の出席が必要です。</p>	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（国際連合の組織と機能） 英語専門講読b（国際連合の組織と機能）	担当者	光辻 克馬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、国際連合についての基礎的文献をテキストとして、（1）国際連合について知り、（2）国際関係分野に必要な英語能力を向上させ、（3）プレゼンテーション能力を身につけることを目指します。</p> <p>履修者は、毎週テキストの指定された部分を読んでくることが求められます。テキストの理解を深めるために、講義では関連する内容について、プレゼンテーションしたり、討論したりしましょう。</p>		<p>第1回： イントロダクション：国際連合&心得解説</p> <p>第2回-第13回： 履修者による報告と討論</p> <p>第14回： みんなで総括</p> <p>履修者がテキストを読むことを重視します。読めるペースで講義は進めたいと思います。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ECLuck, UN Security Council: Practics and Promise テキストの入手方法については初回に説明します。</p>		<p>出席状況、プレゼンテーションの内容、討論への貢献度などにより評価します。単位取得のためには、2/3以上の出席が必要です。</p>	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(米国とカリブのブラックカルチャー) 英語専門講読a(米国とカリブのブラックカルチャー)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コンテンポラリーな黒人表現の多様性を確認した上で、短編小説、雑誌記事、ブログ、映画、音楽、ダンス、絵画など、さまざまなアートフォームにおいて描かれる彼/彼女の日常を考察していく。</p> <p>一つのトピックがいろんな場でどのように語られているのかを議論しながら、授業をすすめていく。</p> <p>米国のブラックスタディーズで扱われているテキストを本授業でもできるだけ使用していきたい。視聴覚教材も多用する。</p> <p>日本にいる私たちが黒人文化や社会について知ることについて、また、どうその知識を自らの社会、生活、人間関係のなかで捉えるのか、活かしていけるのか、などいろんなことを考えてみたい。</p>		<p>・グループワークとプレゼンテーションもとりいれる。教材と関連することがらについて、グループ内で統一テーマを決め、各自さらに細かく担当テーマについて調べてくる。具体的には授業内で指示する。</p> <p>1 Intro. 2 黒人表現文化の概観 3 <i>Ebony</i> 4 ードルショップとユーモア 5 ードルショップとサスペンス 6 ミステリー1 7 ミステリー2 8 ミステリー3 9 反抗的態度について1 ヒップホップ 10 反抗的態度について2 メディアのなかの黒人像 11 反抗的態度について3 12 プレゼン 13 Wrap-Up</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		平常点(予習、授業への参加度)、小テスト	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(米国とカリブのブラックカルチャー) 英語専門講読b(米国とカリブのブラックカルチャー)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
春の続き		<p>春のつづき</p> <p>1 Intro. 2 移動するということ 3 カリブ系によるショートストーリー 4 カリブ系によるショートストーリー 5 カリブ系によるショートストーリー 6 身体1 踊る身体 7 身体2 見られる身体 8 身体3 強い身体 9 プレゼン 10 過去との縛り 11 過去との縛り 12 プレゼン 13 Wrap-Up</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Junot Diaz など講読予定。		平常点(予習、授業への参加度)、小テスト	

06～09年度 (春) 03～05年度 (春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	Andy Maggs
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a once a week one-semester intermediate level course to improve students' ability to write academic essays using internet and library sources.</p> <p><u>Final end of course aim:</u> to write a good quality academic essay of between 1,000 to 1,300 words.</p> <p><u>Classroom activities:</u> you will work in small teams of 2 or 3 every week to build writing skills; to share and discuss your ideas; to plan your essay; and to assess your own draft essays and your partner's drafts.</p> <p><u>Classroom style:</u> Relaxed, fun but hardworking</p> <p><u>Attendance policy:</u> 4 absences (without a very good reason) are a FAIL. 3 'lates' means one 'absence' ('late' means you arrive up to 15 minutes after class starts; after 15 minutes is an absence)</p> <p>Please note: you cannot use Wikipedia as a source</p>		<p>Week 1: Introductions & review of essay parts</p> <p>Week 2: Selecting a topic</p> <p>Week 3: Selecting sources</p> <p>Week 4: Analysing student-selected sources /plagiarism</p> <p>Week 5: Outlining skills</p> <p>Week 6: The introduction; body paragraph skills #1</p> <p>Week 7: Body paragraph skills #2; the conclusion</p> <p>Week 8: Referencing skills (how to refer to your sources)</p> <p>Week 9: FIRST DRAFT analysis</p> <p>Week 10: Punctuation, spelling, connectors review</p> <p>Week 11: Using additional sources / referencing review</p> <p>Week 11: SECOND DRAFT analysis</p> <p>Week 12: Fixing any remaining "trouble" areas</p> <p>Week 13: FINAL DRAFT</p> <p>Week 14: Review of partners' essays</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook. The teacher will provide all materials</p> <p>An electronic dictionary will be helpful</p>		<p>20% attendance 30% class effort 50% final essay</p>	

06～09年度 (秋) 03～05年度 (秋)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	Andy Maggs
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a once a week one-semester intermediate level course to improve students' ability to write academic essays using internet and library sources.</p> <p><u>Final end of course aim:</u> to write a good quality academic essay of between 1,000 to 1,300 words.</p> <p><u>Classroom activities:</u> you will work in small teams of 2 or 3 every week to build writing skills; to share and discuss your ideas; to plan your essay; and to assess your own draft essays and your partner's drafts.</p> <p><u>Classroom style:</u> Relaxed, fun but hardworking</p> <p><u>Attendance policy:</u> 4 absences (without a very good reason) are a FAIL. 3 'lates' means one 'absence' ('late' means you arrive up to 15 minutes after class starts; after 15 minutes is an absence)</p> <p>Please note: you cannot use Wikipedia as a source</p>		<p>Week 1: Introductions & review of essay parts</p> <p>Week 2: Selecting a topic</p> <p>Week 3: Selecting sources</p> <p>Week 4: Analysing student-selected sources /plagiarism</p> <p>Week 5: Outlining skills</p> <p>Week 6: The introduction; body paragraph skills #1</p> <p>Week 7: Body paragraph skills #2; the conclusion</p> <p>Week 8: Referencing skills</p> <p>Week 9: FIRST DRAFT analysis</p> <p>Week 10: Punctuation, spelling, connectors review</p> <p>Week 11: Using additional sources / referencing review</p> <p>Week 11: SECOND DRAFT analysis</p> <p>Week 12: Fixing any remaining "trouble" areas</p> <p>Week 13: FINAL DRAFT</p> <p>Week 14: Review of partners' essays</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook. The teacher will provide all materials</p> <p>An electronic dictionary will be helpful</p>		<p>20% attendance 30% class effort 50% final essay</p>	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	D. Kennedy
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one-semester course to improve students' ability to write academic essays in English. Students will learn how to focus a topic, develop a thesis statement, collect and synthesize data, cite sources, and organize a clear and persuasive academic essay. The instructor will lead students step by step through the academic writing process, providing feedback along the way, toward multiple drafts of a 1,000 to 1,300-word final essay.</p> <p>Class time will include lectures, brainstorming, discussion, short writing activities, and feedback.</p> <p>Students are expected to spend lots of time for assignments outside class, and to be prepared, attentive, and active during class hours.</p>		<p>Tentative schedule:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course introduction 2. Choosing and focusing a topic 3. Research skills 4. Writing a thesis statement and outline 5. Revising the thesis statement and outline 6. Writing the first draft 7. Revising organization: introduction, body, conclusion 8. Revising details: support, accuracy, and logic 9. Avoiding plagiarism: citing and quoting sources 10. Writing the second draft 11. Peer evaluation 12. Common problems with punctuation, grammar, and vocabulary 13. Editing for clarity and conciseness 14. Sharing final drafts 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Basic Steps to Writing Research Papers, by David E. Kluge and Matthew A. Taylor. 2007, Cengage Learning. ISBN 978-4-902902-89-1 (¥2,300)		Students will be graded according to their preparation outside class, participation in class, and the progress and quality of their academic essay.	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	D. Kennedy
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one-semester course to improve students' ability to write academic essays in English. Students will learn how to focus a topic, develop a thesis statement, collect and synthesize data, cite sources, and organize a clear and persuasive academic essay. The instructor will lead students step by step through the academic writing process, providing feedback along the way, toward multiple drafts of a 1,000 to 1,300-word final essay.</p> <p>Class time will include lectures, brainstorming, discussion, short writing activities, and feedback.</p> <p>Students are expected to spend lots of time for assignments outside class, and to be prepared, attentive, and active during class hours.</p>		<p>Tentative schedule:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course introduction 2. Choosing and focusing a topic 3. Research skills 4. Writing a thesis statement and outline 5. Revising the thesis statement and outline 6. Writing the first draft 7. Revising organization: introduction, body, conclusion 8. Revising details: support, accuracy, and logic 9. Avoiding plagiarism: citing and quoting sources 10. Writing the second draft 11. Peer evaluation 12. Common problems with punctuation, grammar, and vocabulary 13. Editing for clarity and conciseness 14. Sharing final drafts 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Basic Steps to Writing Research Papers, by David E. Kluge and Matthew A. Taylor. 2007, Cengage Learning. ISBN 978-4-902902-89-1 (¥2,300)		Students will be graded according to their preparation outside class, participation in class, and the progress and quality of their academic essay.	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	D.Bradley
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of this course is to refine students' ability to write academic essays. We will work on reviewing and expanding the skills acquired in the Basic Essay Writing course.		Week 1 Introduction to the course Week 2 Getting Ready to Write Week 3 The Structure of a Paragraph Week 4 The Development of a Paragraph Week 5 Descriptive and Process Paragraphs Week 6 Opinion Paragraphs Week 7 Comparison / Contrast Paragraphs Week 8 Problem / Solution Paragraphs Week 9 The Structure of an Essay Week 10 Outlining an Essay Week 11 Introductions and Conclusions Week 12 Unity and Coherence Week 13 Essays for Examinations Week 14 Timed essay	
テキスト、参考文献		評価方法	
Success With College Writing by Dorothy E. Zemach and Lisa A.Rumisek, published by Macmillan Language House.		Grades will be based on class participation (25%), homework writing activities (25%), final essay assignment (25%) and final timed essay (25%).	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	D.Bradley
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of this course is to refine students' ability to write academic essays. We will work through a step-by-step process of research and writing needed for academic writing. By the end of the course you will have completed a research paper.		Week 1 Introduction to the course Week 2 Model Research Papers Week 3 Selecting and Narrowing a Topic Week 4 Resources: Searching and Recording Week 5 Taking Notes Week 6 Plagiarism Week 7 In-text Citations Week 8 Main Ideas and Supporting Ideas Week 9 Planning and Writing an Outline Week 10 Introductions and Conclusions Week 11 Topic Sentences and Paragraphs Week 12 Developing Supporting Ideas and Details Week 13 Graphs and Tables Week 14 Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
Developing Academic Writing Skills by Robyn Najar and Lesley Riley, published by Macmillan Language House.		Grades will be based on class participation (50%) and the final paper (50%).	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	Academic Writing (火 1) 英語エッセイ・ライティング a (火 1)	担当者	E.J.ナオウミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Learning to write in a foreign language takes time and effort, but it is very satisfying to be able to communicate your ideas in writing. The purpose of this course is to refine the skills acquired in the Basic Essay Writing course. Each student has a different level of skill in writing, but the only way to improve writing skills is to write. The course will introduce and give practice in collecting, organizing and presenting information in a written format in an academic environment. There will be a number of short assignments that students are encouraged to resubmit after receiving feedback and one final short paper.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course 2. Review of writing basics 1 3. Review of writing basics 2 4. Critical reading 5. Summary 1 6. Summary 2 7. Book reports 8. Academic vocabulary 9. Choosing a topic – Outlining 10. Academic patterns 11. Introductions and conclusions 12. Citations and references 13. Sharing the final product 14. Wrap up <p>This syllabus may be modified to better suit student needs.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
All materials will be provided by the instructor. Dictionaries will be discussed on the first day.		Attendance, preparation and participation in class 35%; Assignments and final paper 65%.	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	Academic Writing (火 1) 英語エッセイ・ライティング b (火 1)	担当者	E.J. ナオウミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to further refine academic writing skills. The more students practice, the more enjoyable writing will become. There will be a number of short assignments designed to reinforce class content and to give students detailed feedback from the instructor. Students are encouraged to resubmit these assignments because it is common practice in academic writing to revise drafts before final submission. Students will also write one final paper on a topic of their choice.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course 2. Writing workshop 3. Writing workshop 4. Library research skills 5. Avoiding plagiarism 1 – summary and paraphrase 6. Topics, outlines and academic writing patterns 7. Topics, outlines and academic writing patterns 8. Avoiding plagiarism 2 – citations and references 9. Topics, outlines and academic writing patterns 10. Topics, outlines and academic writing patterns 11. Topics for the final paper 12. Questionnaires, graphs and tables 13. Sharing the final product 14. Wrap-up <p>This syllabus may be modified to better suit student needs.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
All materials will be provided by the instructor. Dictionaries will be discussed on the first day.		Attendance, preparation and participation in class 35%; Assignments and final paper 65%.	

06~09 年度 (春) 03~05 年度 (春)	Academic Writing (火 2) 英語エッセイ・ライティング a (火 2)	担当者	E.J. ナオウミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to give students an opportunity to improve their academic writing skills by working towards producing a short paper on the topic of their choice by the end of the end of the semester. There will be a number of short assignments to reinforce the skills necessary in each section of the paper. There will also be an emphasis on raising awareness of common errors in second language writing through a series of short tasks. This course is aimed at students who enjoy writing and who have had some experience in writing in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course 2. Review of the basics of academic writing 3. From essays to short papers 4. Research skills 5. Critical summary 1 6. Critical summary 2 7. Avoiding plagiarism 8. References and citations 9. Narrowing topics and outlining 10. Academic writing patterns and vocabulary 11. Introductions and conclusions 12. Visuals 13. Proofreading, editing and revising 14. Sharing the final product <p>This syllabus may be modified to better meet student needs.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the instructor. Dictionaries will be introduced on the first day.		Attendance, preparation and participation in class 35%; Assignments and final paper 65%.	

06~09 年度 (秋) 03~05 年度 (秋)	Academic Writing (火 2) 英語エッセイ・ライティング b (火 2)	担当者	E.J. ナオウミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to give students an opportunity to further refine their academic writing skills by working towards producing a short paper on the topic of their choice by the end of the end of the semester. There will be a number of short assignments to reinforce the skills necessary in each section of the final paper. There will also be an emphasis on raising awareness of common errors in second language writing through a series of short tasks. This course is aimed at students who enjoy writing and who have had some experience in writing in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course 2. Review of the basics of academic writing 3. The structure of academic papers 4. Research skills 5. Critical summary 1 6. Critical summary 2 7. Avoiding plagiarism 8. References and citations 9. Narrowing topics and outlining 10. Academic writing patterns and vocabulary 11. Introductions and conclusions 12. Visuals 13. Proofreading, editing and revising 14. Sharing the final product <p>This syllabus may be modified to better meet student needs.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the instructor. Dictionaries will be introduced on the first day.		Attendance, preparation and participation in class 35%; Assignments and final paper 65%.	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	Ed. Franco
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to refine academic writing skills in order to help build the confidence and knowledge necessary for academic life.</p> <p>Students will review basic structures, analyze writing models, improve library research skills, and practice referencing and quoting from external sources. Learn to collect ideas, organize and synthesize information to produce clear and coherent discourse.</p> <p>Students will complete weekly classroom activities, working on self-expression and looking for self-improvement. Most importantly, we hope to have fun improving our writing skills.</p>		<p>Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements & start Chapter # 1</p> <p>Week 2: Chapter # 1</p> <p>Week 3: Chapter # 2</p> <p>Week 4: Chapter # 2</p> <p>Week 5: Chapter # 3</p> <p>Week 6: Chapter # 3</p> <p>Week 7: Chapter # 4</p> <p>Week 8: Chapter # 4</p> <p>Week 9: Chapter # 5</p> <p>Week 10: Chapter # 5</p> <p>Week 11: Chapter # 6</p> <p>Week 12: Chapter # 6</p> <p>Week 13: Article # 7</p> <p>Week 14: Article # 7</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hogue & Oshima, Writing Academic English Level 4, 4th Edition, Pearson Education.		Assessment will be based on attendance, class participation and the writing of a number of papers.	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	Ed. Franco
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to refine academic writing skills in order to help build the confidence and knowledge necessary for academic life.</p> <p>Students will review basic structures, analyze writing models, improve library research skills, and practice referencing and quoting from external sources. Learn to collect ideas, organize and synthesize information to produce clear and coherent discourse.</p> <p>Students will complete weekly classroom activities, working on self-expression and looking for self-improvement. Most importantly, we hope to have fun improving our writing skills.</p>		<p>Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements & start Chapter # 7</p> <p>Week 2: Chapter # 7</p> <p>Week 3: Chapter # 8</p> <p>Week 4: Chapter # 8</p> <p>Week 5: Chapter # 9</p> <p>Week 6: Chapter # 9</p> <p>Week 7: Chapter # 10</p> <p>Week 8: Chapter # 10</p> <p>Week 9: Chapter # Appendix A</p> <p>Week 10: Chapter # Appendix A</p> <p>Week 11: Chapter # Appendix B</p> <p>Week 12: Chapter # Appendix B</p> <p>Week 13: Chapter # Appendix C</p> <p>Week 14: Chapter # Appendix C</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hogue & Oshima, Writing Academic English Level 4, 4th Edition, Pearson Education.		Assessment will be based on attendance, class participation and the writing of a number of papers.	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	J.N.Wendel
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>As the saying goes, “Writing is thinking.”—and this is never truer than when it refers to academic writing. Competence in academic writing promotes clarity and precision, and enables you to present your ideas logically and persuasively. It invites you to broaden your perspectives and deepen your understanding of your subject and its underlying issues. Developing your academic writing skills takes time and practice, but it’s well worth the effort as these skills can be applied to other forms of communication.</p> <p>The prerequisites for this course are <u>Paragraph Writing</u> and <u>Basic Essay Writing</u>. After a review of academic paragraph structure and the five-paragraph essay, you will undertake a longer piece of writing, a 1000-word essay. You will begin by collecting ideas and background information and developing perspectives on your chosen subject. You will prepare a detailed outline and have it evaluated by your peers. Finally, you will write at least two drafts of your extended essay, revising as appropriate. Outside sources will be noted and duly cited. You will not only be writing extended essays, but you will also do writing practices and exercises from the textbook. You will also analyze models of writing—successful essays that illustrate the fine-tuned integration of form and function.</p> <p>(N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Paragraph structure (Chapt 1) 3. Unity and coherence (Chapt 2) 4. Supporting Details (Chapt 3) 5. From paragraph to essay (Chapt 4) 6. The process of academic writing (Appendix A) 7. The extended essay—Cause and effect (Chapt 6) 8. Gathering ideas and background information 9. Developing an outline; thesis statement 10. First draft of extended essay due 11. Research and documentation of sources (Appendix E) 12. Revision 13. Revision 14. Final draft of extended essay due 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Writing Academic English (4th Edition)</i>. 2006. Alice Oshima & Ann Hogue. Pearson Education.</p>		Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises and written homework, and their essays.	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	J.N.Wendel
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>As the saying goes, “Writing is thinking.”—and this is never truer than when it refers to academic writing. Competence in academic writing promotes clarity and precision, and enables you to present your ideas logically and persuasively. It invites you to broaden your perspectives and deepen your understanding of your subject and its underlying issues. Developing your academic writing skills takes time and practice, but it’s well worth the effort as these skills can be applied to other forms of communication.</p> <p>The prerequisites for this course are <u>Paragraph Writing</u> and <u>Basic Essay Writing</u>. After a review of academic paragraph structure and the five-paragraph essay, you will undertake a longer piece of writing, a 1000-word essay. You will begin by collecting ideas and background information and developing perspectives on your chosen subject. You will prepare a detailed outline and have it evaluated by your peers. Finally, you will write at least two drafts of your extended essay, revising as appropriate. Outside sources will be noted and duly cited. You will not only be writing extended essays, but you will also do writing practices and exercises from the textbook. You will also analyze models of writing—successful essays that illustrate the fine-tuned integration of form and function.</p> <p>(N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Paragraph structure (Chapt 1) 3. Unity and coherence (Chapt 2) 4. Supporting Details (Chapt 3) 5. From paragraph to essay (Chapt 4) 6. The process of academic writing (Appendix A) 7. The extended essay—Cause and effect (Chapt 6) 8. Gathering ideas and background information 9. Developing an outline; thesis statement 10. First draft of extended essay due 11. Research and documentation of sources (Appendix E) 12. Revision 13. Revision 14. Final draft of extended essay due 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Writing Academic English (4th Edition)</i>. 2006. Alice Oshima & Ann Hogue. Pearson Education.</p>		Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises and written homework, and their essays.	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	J.Waldman
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will enable students to become more proficient writers by encouraging them to explore and organize their ideas in writing.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation with explanation of grading system and student requirements. 2. In-class diagnostic writing and Chapter 1 3. Chapter 2: Review of paragraph basics. 4. Organizing paragraphs. Finish chapter 2. 5. Chapter 3. Revising and editing. 6. Quiz covering the first 3 Chapters of the textbook. 7. Chapter 4: The five-paragraph essay. 8. The process essay. 9. The division and classification essay. 10. In-class timed division and classification essay. 11. Causes and effects essay. 12. Finish chapter 7 13. The comparison/contrast essay. 14. Final in-class essay. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Title: <i>Ready To Write More</i> Author: Blanchard and Root Publisher: Longman		Students will be graded on attendance, quizzes and in-class essays..	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	J. Waldman
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will enable students to become more proficient writers by encouraging them to explore and organize their ideas in writing.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation with explanation of grading system and student requirements. 2. In-class diagnostic writing and Chapter 1 3. Chapter 2: Review of paragraph basics. 4. Organizing paragraphs. Finish chapter 2. 5. Chapter 3. Revising and editing. 6. Quiz covering the first 3 Chapters of the textbook. 7. Chapter 4: The five-paragraph essay. 8. The process essay. 9. The division and classification essay. 10. In-class timed division and classification essay. 11. Causes and effects essay. 12. Finish chapter 7 13. The comparison/contrast essay. 14. Final in-class essay. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Title: <i>Ready To Write More</i> Author: Blanchard and Root Publisher: Longman		Students will be graded on attendance, quizzes and in-class essays.	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	K. Meehan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to refine students' ability to write academic essays (e.g. persuasive,informative or analytical) and to synthesize information from multiple sources to produce clear and coherent discourse. Students will also learn how to collect and organize information,synthesize this,and quote from sources. Students will have ample chances to practice drafting and re-drafting essays for academic purposes.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Brainstorming and topic selection 3. Organization 4. Collecting and synthesizing information 5 Paragraph to short essay 6. Descriptive essay 7. Narrative essay 8. Opinion essay 9. Peer evaluation 10. writing final draft 11. Comparison and contrast essay 12. Paraphrasing 13. Bibliography 14. Final Examination 	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook is to be announced		Evaluation will be based on attendance, assignments, and final examination.	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	L.K. Hawkins
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, we will strive to provide the students will the fundamentals necessary to construct a well-organized, well-structured, persuasive essay in English. The students will also be taught the basics of how to document their research. The students will be asked to write persuasive essays on topics about which they have strong opinions (complete with additional information gleaned through research). After this course, it is hoped that the students will feel confident in writing short, well-constructed essays in English.</p>		<p>The students will work according to their own speed on a series of essays after consultation with the instructor.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There will be no text for this course. All handouts will be provided by the instructor.		The students will be graded on attendance, participation and the quality of their essays.	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	M.Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to introduce students of English to the fundamental skills of academic writing and to internalize those skills through extensive practice.</p> <p>Assuming that students have already mastered basic sentence-level clarity and paragraph writing, our unit of composition will be the essay. As we learn how to write several different types of essays for academic purposes, we will practice the macro skills of development, organization, coherence, and micro skills of diction, style, and mechanics. At all levels and at all times, we will attend to audience analysis.</p> <p>One of our goals is to understand the reading/writing connection, using the writing of others as both sources for our own writing and as models of both good and bad writing. We will proceed to peer review activities, in which classmates help each other identify strengths and weaknesses. The ultimate goal is to create independent, self-critical writers.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Week 1: Course Introduction & Discussion Week 2: Summarizing Week 3: Summary Workshop Week 4: Responding Week 5: Responding Week 6: Response Workshop Week 7: Textual Analysis Week 8: Textual Analysis Week 9: Textual Analysis Workshop Week 10: Comparison & Contrast Week 11: Comparison & Contrast Week 12: Comparison & Contrast Week 13: Comparison & Contrast Workshop Week 14: Review & Final Workshop</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no text for this class, but students should bring a dictionary each week.		Grades will be based on participation and written assignments.	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	M.Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to introduce students of English to the fundamental skills of academic writing and to internalize those skills through extensive practice.</p> <p>Assuming that students have already mastered basic sentence-level clarity and paragraph writing, our unit of composition will be the essay. As we learn how to write several different types of essays for academic purposes, we will practice the macro skills of development, organization, coherence, and micro skills of diction, style, and mechanics. At all levels and at all times, we will attend to audience analysis.</p> <p>One of our goals is to understand the reading/writing connection, using the writing of others as both sources for our own writing and as models of both good and bad writing. We will proceed to peer review activities, in which classmates help each other identify strengths and weaknesses. The ultimate goal is to create independent, self-critical writers.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Week 1: Course Introduction & Discussion Week 2: Cause & Effect Week 3: Cause & Effect Week 4: Cause & Effect Workshop Week 5: Cause & Effect Workshop Week 6: Research Skills Week 7: Documentation & Plagiarism Week 8: Evaluating Sources Week 9: Problem Solving Week 10: Problem Solving Week 11: Problem Solving Week 12: Problem Solving Workshop Week 13: Problem Solving Workshop Week 14: Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no text for this class, but students should bring a dictionary to class each week.		Grades will be determined based on participation and written assignments.	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	P. Dore
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of the 1st semester is to revise and improve the basic skills that the students already have. Various topics and exercises will be used during the semester to introduce basic academic writing skills.</p> <p>Students will be involved in peer evaluation and read each others writing and offer constructive feedback.</p> <p>Students thinking about this course should be prepared to share ideas and work together as a group with a common goal - making learning as interesting and as enjoyable as possible by taking their work seriously and meeting the challenge.</p>		<p>Week 1: Course Introduction Weeks 2-14: Below are topics to be covered during the semester. Conjunctions Sentence structure Paragraph structure Idea coherence</p> <p>Supporting the main points of your essay Research and documentation of sources</p> <p>Other topics covered during the semester will be announced in the first class. 14. Revision</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced in the first class		Assessment details will be announced in the first class.	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	R.Durham
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to learn to:</p> <p>a) write grammatically-correct English sentences;</p> <p>b) communicate and explain, verbally and also in written English, about a variety of International topics, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>c) write English paragraphs that effectively explain/discuss a wide range of topics, from an International point of view;</p> <p>d) (depending on student abilities & desires) research and write compositions about academic (university level) topics; and</p> <p>e) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively in English writing (and in English conversations as well).</p>		<p>(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Introductions, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Writing about your part-time job.</p> <p>Week 2: Review/practice of Introductions. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to International communication)</i>. English re-writing exercises (changing 'Wasei Eigo' sentences to correct English grammar and sentences.)</p> <p>Week 3: Writing about your plans for Golden Week (including elaborating (explaining) about your plans.</p> <p>Week 4: "How was your Golden Week?" writing about what you did, during Golden Week. English re-writing exercises. Continuous assessments.</p> <p>Week 5: Writing and explaining about your plans for Mother's Day. Writing about your mother...in English paragraph format.</p> <p>Week 6: Writing to express your opinions, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?" (Discussion and writing about News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.)</p> <p>Week 7: Writing to expressing your opinions, part two. Ongoing assessments. Re-writing exercises.</p> <p>Week 8: Writing (and talking) about your hobbies, with elaboration thereof.</p> <p>Week 9: (Perhaps Student research/writing/discussion about a variety of themes which they choose, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'), 'International Relations', 'GM Food', 'Pros & Cons of the Internet; and many more student-suggested topics of interest.) Continuous assessment.</p> <p>Week 10: "What kind of _____ do you like?" Discussing and writing about music, movies, magazines, TV shows, books, food, etc., in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance.</p> <p>Week 11: International News exercise, and/or video exercise, with writing & discussion about that. Re-writing exercises.</p> <p>Week 12: Writing, discussing, and elaborating about future plans/career goals. Continuous assessments.</p> <p>Week 14: Discussing, writing, and explaining about plans for your Summer Break. Re-writing exercises.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>To stimulate our writing and imagination, we may be using some videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, some songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.</p>		<p>You will be assessed often- the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you participate in class; how well you write/speak/elaborate (explain/communicate in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p>Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes for any reason. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) lateness will also greatly affect your grade in this course (One late = 1/2 absence);</p> <p>c) if you are late/absent, and somehow miss submitting and assignment/homework, please make sure to e-mail that assignment/homework to your teacher, <u>before</u> the deadline.</p>	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	R.Durham
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to learn to:</p> <p>a) write grammatically-correct English sentences;</p> <p>b) communicate and explain, verbally and also in written English, about a variety of International topics, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>c) write English paragraphs that effectively explain/discuss a wide range of topics, from an International point of view;</p> <p>d) (depending on student abilities & desires) research and write compositions about academic (university level) topics; and</p> <p>e) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively in English writing (and in English conversations as well).</p>		<p>(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Discussing/communicating/writing/elaborating about your Summer Break, using correct modern English. Continuous assessment.</p> <p>Week 2: "What do you usually do ...?" discussing, communicating, and writing about your usual activities. English re-writing exercises (changing 'Wasei Eigo' sentences to grammatically- & culturally-correct English sentences.)</p> <p>Week 3: "What do you usually do...?", part two. Writing about your usual practices on holidays/weekends/weeknights. Perhaps selecting a research topic for writing.</p> <p>Week 4: "What's it like?" discussing and writing, to describe places, people, and things in grammatically-correct English. Re-writing exercises.</p> <p>Week 5: Halloween: researching, discussing, and writing about this international 'festival'. Parts of a Halloween video might be shown, to stimulate the imagination. Ongoing assessments.</p> <p>Week 6: "If you went to a Halloween party, what would you dress up as?" using your imaginative abilities to write about a possible Halloween costume, and what you would do at such a party.</p> <p>Week 7: Choosing a country and Fall/Winter festival about which to write. Re-writing exercises.</p> <p>Week 8: Research, discussion, and writing about Thanksgiving. (A Song-listening exercise may be used, to stimulate discussion & writing). Writing to answer the question, "What are you thankful for?"</p> <p>Week 9: Thanksgiving, part two: continuing to write about what you are thankful for. Continuous assessments.</p> <p>Week 10: Editing your composition about a Fall/Winter festival. Re-writing exercises.</p> <p>Week 11: "What are your plans for Christmas?" discussing and writing about your plans for Christmas. (A Christmas song exercise may be introduced, in order to stimulate thinking/discussion/writing.)</p> <p>Week 12: Christmas writing & discussion, part two. (Parts of a Christmas video may be shown, in order to assist students to imagine Christmas possibilities.) Continuous assessments.</p> <p>Week 13: Finalizing your composition about a Fall/Winter festival. Re-writing exercises.</p> <p>Week 14: Discussion & writing about plans for 'O Shō Gatsu'. Continuous assessment, and final submission of Fall/Winter festival composition.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>To stimulate our writing and imagination, we may be using some videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, some songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.</p>		<p>You will be assessed often- the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you participate in class; how well you write/speak/elaborate (explain/communicate in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p>Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes for any reason. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) lateness will also greatly affect your grade in this course (One late = 1/2 absence);</p> <p>c) if you are late/absent, and somehow miss submitting and assignment/homework, please make sure to e-mail that assignment/homework to your teacher, <u>before</u> the deadline.</p>	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	Martin Darling
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this class is to help students develop the skill of academic writing by learning how to construct an essay. The focus will be on the organization and presentation of ideas, and the clarity and intelligibility of the English itself. The typical class will usually consist of a short lecture, followed by the presentation and analysis of a model writing.</p> <p>The class will be taught entirely in English. Students will be expected to use English to discuss their own writing and model essays which will be analyzed in the class. Ample opportunities will be provided for students to revise their writings and for sharing them in class with their peers.</p> <p>By the end of this course, students will be more competent writers and better understand the process of writing academic essays.</p>		<p>Week1: Course Introduction Week 2: Analyzing sources Week 3: Prewriting activities Week 4: Brainstorming and narrowing the topic Week 5: Writing a thesis statement Week 6: Organizing ideas; writing task Week 7: Writing an essay outline Week 8: Revising the outline Week 9: Writing the draft Week 10: Quoting other sources; writing task Week 11: Using statistics; writing task Week 12: Revising and Editing Week 13: Final draft due Week 14: Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies will be provided by the instructor.		Students will be evaluated on their writing assignments, adherence to deadlines, attendance, and their progress in writing.	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	Martin Darling
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Points for further consideration:</p> <ul style="list-style-type: none"> Students will need an English-English dictionary Students will be required to have a notebook 		<p>Week1: Course Introduction Week 2: Analyzing sources Week 3: Prewriting activities Week 4: Brainstorming and narrowing the topic Week 5: Writing a thesis statement Week 6: Organizing ideas; writing task Week 7: Writing an essay outline Week 8: Revising the outline Week 9: Writing the draft Week 10: Quoting other sources; writing task Week 11: Using statistics; writing task Week 12: Revising and Editing Week 13: Final draft due Week 14: Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies will be provided by the instructor.		Students will be evaluated on their writing assignments, adherence to deadlines, attendance, and their progress in writing.	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	翻訳 翻訳 a	担当者	P. Narum
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course during the first semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on English to Japanese translations. Particular attention will be given to common mistranslations and translation strategies. The materials used will include newspaper and magazine articles, along with movies (subtitles).</p> <p>The format of the course will consist of lectures presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will be expected to compare and discuss their translations with each other. Midterm and final examinations will be given to test students' knowledge.</p> <p>It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.</p>		<p>1 Introduction, Student Selection</p> <p>2 Class</p> <p>3 Class</p> <p>4 Class</p> <p>5 Class</p> <p>6 Class</p> <p>7 Midterm Quiz/Paper</p> <p>8 Class</p> <p>9 Class</p> <p>10 Class</p> <p>11 Class</p> <p>12 Class</p> <p>13 Class</p> <p>14 Final Examination/Presentation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Midterm examination 25%, Final examination 25%	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	翻訳 翻訳 b	担当者	P. Narum
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course during the second semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on Japanese to English translations. Particular attention will be given to vocabulary nuance and word order. The materials used will include novels/essays by famous Japanese authors, along with animated movies (subtitles).</p> <p>The format of the course will consist of lectures presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will be expected to compare and discuss their translations with each other. Midterm and final examinations will be given to test students' knowledge.</p> <p>It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.</p>		<p>1 Introduction</p> <p>2 Class</p> <p>3 Class</p> <p>4 Class</p> <p>5 Class</p> <p>6 Class</p> <p>7 Midterm Quiz/Paper</p> <p>8 Class</p> <p>9 Class</p> <p>10 Class</p> <p>11 Class</p> <p>12 Class</p> <p>13 Class</p> <p>14 Final Presentation/Examination</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Midterm examination 25%, Final examination 25%	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	翻訳 (木3) 翻訳 a (木3)	担当者	柴田 耕太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は、社会人の翻訳家志望者を実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。</p> <p>(1)掛かり方を示す構文分析 (2)一語一句おろそかにしない解説 (3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」(4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」 (5)一般的受講生の答案添削例、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。</p> <p>英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。</p> <p>また英検 1 級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。</p> <p>2年(春、秋×2)かけて全 100 題を終了します。今・春学期は 1 番から 25 番を扱います。</p> <p>翻訳家、国家試験の通訳案内士(ガイド)志望者は、併せて「通訳案内士の英語(英語で説明する日本史・日本文化・地理)」(日野教授)、「翻訳(主に和文英訳)」(白川講師)「College Grammar」(府川教授)を計画的に受講されることをお勧めします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、翻訳に必要なこと 2、試練に立つ文明 3、文体と内容 4、技師の親指 5、過激の効用 6、精確さへの偏愛 7、己の道を歩むということ 8、詩人の仕事 9、家庭から文化が伝わる 10、若者が学ぶべき教訓 11、外国との付き合い方 12、歴史の皮肉 13、自分の好みを知ること 14、孤独の楽しみ <p>*各回とも、上記ほか 1 編を扱う</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは講師の手作り。初回に渡します。 参考文献はありません。</p>		<p>期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。</p>	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	翻訳 (木3) 翻訳 b (木3)	担当者	柴田 耕太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は、社会人の翻訳家志望者を実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。</p> <p>(1)掛かり方を示す構文分析 (2)一語一句おろそかにしない解説 (3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」(4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」 (5)一般的受講生の答案添削例、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。</p> <p>英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。</p> <p>また英検 1 級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。</p> <p>2年(春、秋×2)かけて全 100 題を終了します。今・秋・学期は 26 番から 50 番を扱います。</p> <p>翻訳家、国家試験の通訳案内士(ガイド)志望者は、併せて「通訳案内士の英語(英語で説明する日本史・日本文化・地理)」(日野教授)、「翻訳(主に和文英訳)」(白川講師)「College Grammar」(府川教授)を計画的に受講されることをお勧めします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、誤訳と悪訳 2、人間のこころ 3、ヨーロッパ文明 4、独裁制の原因 5、親になる喜び 6、隣人論 7、民主国家の政治 8、イギリス社会 9、努力の意味 10、赤ずきん 11、人を判断する難しさ 12、書くことと話すこと 13、日本人論 14、大都市交通 <p>*各回とも上記ほか 1 編を扱う</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>教材は講師の手作り。初回に渡します。 参考文献はありません。</p>		<p>期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。</p>	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	翻訳 (木4) 翻訳 a (木4)	担当者	柴田 耕太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は初心者向きに、文法の根幹をおさらいしたあと、さまざまなジャンルの比較的やさしい英文を丁寧に読み解いてゆきます。「翻訳は日本語力の問題」といわれますが、それは原文を正確に理解した上でのこと。原文の正確な理解には、文法力だけでなく、論理力・調査力・教養力も必要です。これらを養う訓練を、翻訳を通じて行ないます。最終的には、原文と等価の読みやすい日本語をつくることを目指します。</p> <p>木曜3時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。英語と表現力の基礎を固めたい人は、ここから入って下さい。</p> <p>秋学期同時限(木4)の、出版翻訳の実践クラスにつながります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、英語の規則 「日英語の誤差」 2、児童文学「幸福の王子」Ⅰ 3、児童文学「幸福の王子」Ⅱ 4、詩「メリーちゃんのひつじ」 5、詩「虹のうた」 6、ミュージカルⅠ「オクラホマ」 7、ミュージカルⅡ「レベッカ」 8、ロマンス小説「サラの冒険」Ⅰ 9、ロマンス小説「サラの冒険」Ⅱ 10、伝記「ブレヒト」 11、映画Ⅰ字幕「ロミオとジュリエット」 12、映画Ⅱ吹き替え「ロミオとジュリエット」 13、小説「武器よさらば」 14、評論「サミング・アップ」 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは講師の手作り。初回時に渡します。 参考文献はありません。</p>		<p>期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤よみやすい日本語か、をみます。</p>	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	翻訳 (木4) 翻訳 b (木4)	担当者	柴田 耕太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座では、さまざまな分野の書籍の冒頭部分(600ワード程度)を精読したうえで、「商品として通用する訳文」づくりを訓練します。英文読解と表現力に自信のある学生の聴講を期待します。全25題のうち今・秋学期は14から25題目を扱います。</p> <p>木曜3時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。翻訳現場の厳しさを実感したい人の受講を期待します。</p> <p>抽選に落ちても、単位にならなくても、他学部・他大学の学生でも、大学院生でも、もぐりの社会人でも、大学教員でも、意欲のある人は受講歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、古代の芸術 2、二都物語 3、アニマル・ヒーリング 4、パープラー・ストライサンド 5、欲望の科学 6、重力の話 7、出版ビジネス 8、ロング・ブーム 9、ジャック・ニコラウス自伝 10、インカ帝国 11、ルイス・キャロル 12、サバイバー 13、スターバックス成功物語 14、翻訳の秘訣 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは講師の手作り。初回時に渡します。 参考文献はありません。</p>		<p>期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤よみやすい日本語か、をみます。</p>	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	翻訳 翻訳 a	担当者	白川 貴子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>翻訳は、言葉の置き換え作業ではありません。原文を正しく読み取り、いったんその意味を咀嚼してから、適切な表現を探さなくてはなりません。外国語を使いこなす能力は、最終的には母語（第一言語）の理解力・表現力に比例します。このクラスでは、演習や代表的な翻訳作品の解析を通じて翻訳と英文和訳とはどう違うのかを学び、実践の場で役に立つ「翻訳力」の基礎的なスキルを身につけます。</p>		<p>各週に予定している内容は、受講生の要望や理解度に応じ、もう少し詳しく取り上げたり、必要なテーマに差し替えたりすることもあります。和英・英和辞典は毎回持参してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要・翻訳とは 2 文化の違いと意味のずれ 3 意味を伝えるとは 4 日本語の発想と英語の発想 (1) 5 日本語の発想と英語の発想 (2) 6 演習 7 演習 8 演習 9 演習 10 演習 11 演習 12 演習 13 いろいろな翻訳 14 まとめ・翻訳の要諦 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト： 適宜プリントを配布する。 参考書： 授業中に適宜紹介する。</p>		<p>課題・レポートの取り組み方、授業への能動性および出席日数を総合的に評価する。</p>	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	翻訳 翻訳 b	担当者	白川 貴子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に続き、演習や代表的な翻訳作品の解析を通じて翻訳と英文和訳とはどう違うのかを学び、将来実践の場で役に立つ「翻訳力」の基礎的なスキルを身につけます。</p>		<p>後期は、短文演習も交えながら、代表的な翻訳作品の購読を主体にします。 取り上げる教材、進め方については、受講生の要望と理解度に応じて決定します。和英・英和辞典は毎回持参してください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト： 適宜プリントを配布する。 参考書： 授業中に適宜紹介する。</p>		<p>課題・レポートの取り組み方、授業への能動性および出席日数を総合的に評価する。</p>	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	翻訳 翻訳 a	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、さまざまな分野の英文あるいは和文の翻訳に関する問題点を明らかにし、翻訳の限界と可能性について実践的に探ります。</p> <p>翻訳では、原文を的確な英語あるいは日本語に置き換える際に、目的や状況などを考慮する必要があります。また、翻訳語の字数やリズムについても工夫が求められる場合もあります。</p> <p>授業では、主として文系英文および和文（新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品）などの一部を取り上げながら、具体的に比較検討します。また、各学生の関心領域に沿った翻訳プレゼンテーションを行ってもらうことで、自分の翻訳した文章を、客観的に捉える訓練も行います。</p> <p>コトバの意味と音に関心のある学生を求めます。</p>		<p>第1回 ガイダンス 辞書について</p> <p>第2回 翻訳の難しさと面白さについて</p> <p>第3回 機械翻訳の可能性について</p> <p>第4回 翻訳の実例比較検討</p> <p>第5回 復習テスト</p> <p>第6～13回 学生による翻訳プレゼンテーションとコメント交換</p> <p>第14回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		コメント、プレゼンテーション、復習テストなどの合計点で決定する。なお、4回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	翻訳 翻訳 b	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>翻訳言語における性別、階級、地域差、時代、民族などを考慮しながら、翻訳する際の問題点をさらに検証します。</p> <p>授業では、各学生の関心分野から自由に翻訳題材を選び、各自の仮説に基づいたプレゼンテーションを行なってもらいます。また、発表内容について毎回ディスカッションを行います。</p> <p>なお、後期のみ履修する学生を考慮し、初回授業はガイダンスおよび前期に行った内容についての復習とします。また、履修者の人数および習熟度に合わせて授業内容を変更します。初回授業には必ず出席してください。</p>		<p>第1回 前期テストの講評および後期授業のガイダンス</p> <p>第2回 日英および英日翻訳の実例検討 その1</p> <p>第3回 日英および英日翻訳の実例検討 その2</p> <p>第4～6回 プレゼンテーションおよびディスカッション</p> <p>第7回 復習テスト</p> <p>第8～13回 プレゼンテーションおよびディスカッション</p> <p>第14回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		コメント、プレゼンテーション、復習テストなどの合計点で決定する。なお、4回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	翻訳 翻訳 a	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文学作品や各種のエッセイや時事英語などを英文から日本語に翻訳します。日本語の特徴をよく生かした自然な日本語にする訓練、研究をします。授業は下準備を面倒がらずに必ずしておくことが不可欠です。そして自分の意見や質問や解釈があれば、それを発表してもらえれば授業が活性化します。</p> <p>英文を正確に読解する能力、読解した内容を適切に日本語に移し替える能力、その日本語もできるだけわかりやすい、読みやすい文章が望ましいのです。良い翻訳はしたがって普段から日本語の語彙を広げることや文体に関心興味を持っているような人でないとなかなか身に付きません。</p> <p>翻訳の基礎は英語の読解力の基本がしっかりしていることです。翻訳は購読とははっきり違います。その自覚を持たずに漫然と授業を受ける学生が少なくないようですが、それではあまり身につけません。</p> <p>教材には基礎的な能力養成に欠かせない語彙、文章構造を含んでいて、親しみやすいものを選んで使っていきます。</p> <p>平常点を重視しますから遅刻が多いようでは熱意のほどが疑われます。</p>		<p>最初の授業時に翻訳の心構え、辞書の使い方、授業の進め方などについて話します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。参考文献は適宜指示する。		平常点、提出物、出席を総合評価する。	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	翻訳 翻訳 b	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文学作品や各種のエッセイや時事英語などを英文から日本語に翻訳します。日本語の特徴をよく生かした自然な日本語にする訓練、研究をします。授業は下準備を面倒がらずに必ずしておくことが不可欠です。そして自分の意見や質問や解釈があれば、それを発表してもらえれば授業が活性化します。</p> <p>英文を正確に読解する能力、読解した内容を適切に日本語に移し替える能力、その日本語もできるだけわかりやすい、読みやすい文章が望ましいのです。良い翻訳はしたがって普段から日本語の語彙を広げることや文体に関心興味を持っているような人でないとなかなか身に付きません。</p> <p>翻訳の基礎は英語の読解力の基本がしっかりしていることです。翻訳は購読とははっきり違います。その自覚を持たずに漫然と授業を受ける学生が少なくないようですが、それではあまり身につけません。</p> <p>教材には基礎的な能力養成に欠かせない語彙、文章構造を含んでいて、親しみやすいものを選んで使っていきます。</p> <p>平常点を重視しますから遅刻が多いようでは熱意のほどが疑われます。</p>		<p>最初の授業時に翻訳の心構え、辞書の使い方、授業の進め方などについて話します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。参考文献は適宜指示する。		平常点、提出物、出席を総合評価する。	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	翻訳 翻訳 a	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英文和訳」と「翻訳」の違いを理解し、「翻訳」の実践的な練習をする。多少ぎこちない日本語でも誤読していないことがわかればとりあえず合格の「英文和訳」と、「翻訳」はまったく別物だ。この授業では英文を正確に解釈した上で、日本語でその意味を再構築し読者に伝えるための「翻訳」をする訓練を行う。また時事的な話題に関する英語と日本語それぞれの語彙や表現の意味を正しく理解し身につけることも、この授業の目標である。</p> <p>新聞、雑誌あるいは放送局のウェブページなどから選んだ英文記事を日本語に訳す。社会、政治、文化など、できるだけ広範囲の話題から、世界でたった今起きている出来事についての記事を、毎回、ある程度の長さ、日本語に翻訳してあらかじめメールで提出してもらおう。その学生たちの翻訳を添削したうえ、授業中にはそれぞれの翻訳の問題点や日本人がおかしがちな誤読、日本語にしにくい表現、表記のルールなどについて講義する。</p>		<p>第1回：概論「英文和訳」と「翻訳」 第2回：BBCの記事の翻訳(1)イギリス英語について 第3回：BBCの記事の翻訳(2)ヨーロッパのニュース 第4回：BBCの記事の翻訳(3)アジア・アフリカのニュース 第5回：The Guardianの記事の翻訳(1)イギリスの新聞 第6回：The Guardianの記事の翻訳(2)イギリスの政治 第7回：The Guardianの記事の翻訳(3)イギリスの文化 第8回：The New York Timesの記事の翻訳(1)アメリカの新聞 第9回：The New York Timesの記事の翻訳(2)アメリカの政治 第10回：The New York Timesの記事の翻訳(3)アメリカの文化 第11回：TIMEの記事の翻訳(1)署名記事と無署名記事 第12回：TIMEの記事の翻訳(2)科学的な話題 第13回：TIMEの記事の翻訳(3)書評・映画評の翻訳 第14回：まとめ「英文和訳」と「翻訳」（再考）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材は授業中に配布する。参考文献は適宜紹介する。		The New York Timesの記事の翻訳(2)、アメリカの政治	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	翻訳 翻訳 a	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいというものではなく、登場人物の性格はもちろんのことその作品自体が背負っている文化的背景まで読み込まなければいけません。</p> <p>春学期は Aimee Bender 著 <i>The Girl in the Flammable Skirt</i> をテキストとして使用します。この短編集には、日常を描いていながらどこか異次元を感じさせる作品が収められています。平易な言葉ですが翻訳しがいのある作品です。翻訳するにはまず作品と向き合うこと、つまり自分の解釈を固めてから翻訳することが求められます。その上で、自分が訳者であると同時に読者であることを忘れず、翻訳のみを読んで原作と同様の魅力を引き出す努力を怠らないように気をつけます。</p> <p>授業では毎回全員から、前もって課題文（1～2 ページ）を提出してもらいます。学生訳の抜粋と、あらかじめこちらでチェックした提出課題を授業時に配布・返却するので、それを見ながら意見を出し、良い訳にするためのアイデアを出していきましょう。</p> <p>辞書は必ず持参。忘れたら欠席とします。</p>		<p>1. イントロダクション 2-14. 演習</p> <p>進度は遅いかもしれませんが、その代わり一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布。 Aimee Bender 著 <i>The Girl in the Flammable Skirt</i>. New York: Anchor Books, 1999.</p>		授業内の提出課題、参加度、レポートの総合評価。	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	翻訳 翻訳 b	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同様のスタイルで、授業を進めます。テキストも同じものを使用する予定ですが、場合によっては他の作家の文章を訳し、言葉・語り手の口調等の違いを体験してみることもあるでしょう。</p>		<p>1. イントロダクション 2-14. 演習</p> <p>進度は遅いかもしれませんが、その代わり一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布。 Aimee Bender 著 <i>The Girl in the Flammable Skirt</i>. New York: Anchor Books, 1999.</p>		授業内の提出課題、参加度、レポートの総合評価。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	靱江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義は、<u>高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら</u>、同時に更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>春学期は、文の構成と文を構成する各要素について学習する。まず、文の構成について学ぶ(授業計画2～6参照)。次に、文の各要素について学ぶ(授業計画7～14参照)。</p> <p>この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 文 3. 主部・文型 4. 述語動詞 I 5. 述語動詞 II 6. 文の種類・8品詞 7. 名詞 8. 代名詞 9. 形容詞 10. 冠詞 11. 副詞・動詞 12. 助動詞 13. 接続詞 14. 前置詞 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 安井稔 (1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> 開拓社</p> <p>参考文献: 安井稔 (1996) 『英文法総覧 (改訂版)』開拓社</p>		<p>出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の2/3以上の出席が必要である。</p>	

書式変更: 両端揃え, 間隔 段落前: 2 pt, 行間: 固定値 8 pt

書式変更: フォント: (英) MS P明朝, (日) MS P明朝, 文字位置上げる / 文字位置下げる (なし)

書式変更: 両端揃え, 間隔 段落前: 2 pt, 行間: 固定値 12 pt

書式変更: フォント: (英) MS P明朝, (日) MS P明朝, 文字位置上げる / 文字位置下げる (なし)

書式変更: 両端揃え, 行間: 固定値 16 pt

書式変更: フォント: MS 明朝, 文字位置上げる / 文字位置下げる (なし)

書式変更: 両端揃え, 間隔 段落前: 1 pt, 行間: 固定値 12.5 pt

書式変更: フォント: MS 明朝, 文字位置上げる / 文字位置下げる (なし)

書式変更: 両端揃え, 行間: 固定値 16 pt

書式変更: フォント: MS 明朝, 文字位置上げる / 文字位置下げる (なし)

書式変更: 両端揃え, 行間: 固定値 16 pt

書式変更: フォント: (英) MS P明朝, (日) MS P明朝, 文字位置上げる / 文字位置下げる (なし)

書式変更: 両端揃え, 間隔 段落前: 2 pt, 行間: 固定値 12 pt

書式変更: フォント: (英) MS P明朝, (日) MS P明朝, 文字位置上げる / 文字位置下げる (なし)

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	靱江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p><u>高等学校までに学んだ英文法は</u>、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義は、<u>高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら</u>、<u>この基礎を確認し</u>、同時に更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>秋学期は、時制と構文について学習する。まず、時制について学ぶ(授業計画2～3参照)。次に、各構文について学ぶ(授業計画4～14参照)。</p> <p>この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。</p> <p>なお、春学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、春学期で単位取得</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 時制 3. 呼応と時制の一致 4. 不定詞 5. 分詞 6. 動名詞 7. 関係代名詞 8. 関係副詞 9. 態 10. 仮定法 11. 話法 12. 比較 13. 否定 (1) 14. 否定 (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 安井稔 (1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> 開拓社</p> <p>参考文献: 安井稔 (1996) 『英文法総覧 (改訂版)』開拓社</p>		<p>出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の2/3以上の出席が必要である。</p>	

書式変更: 両端揃え, 行間: 固定値 16 pt

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更: フォント: (英) MS P明朝

書式変更

書式変更: フォント: 斜体 (なし)

書式変更

06～09年度（春） 03～05年度（春）	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということが気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場をしたいと思いますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・移動が関与する構文（1） 4・移動が関与する構文（2） 5・移動が関与する構文（3） 6・補部と付加部の区別（1） 7・補部と付加部の区別（2） 8・補部と付加部の区別（3） 9・条件の副詞節（1） 10・条件の副詞節（2） 11・Be 動詞の機能（1） 12・Be 動詞の機能（2） 13・Be 動詞の機能（3） 14・総復習</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店</p>		<p>出席&授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということが気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場をしたいと思いますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・解釈の曖昧性（1） 4・解釈の曖昧性（2） 5・解釈の曖昧性（3） 6・SVOC 構文の下位区分（1） 7・SVOC 構文の下位区分（2） 8・SVOC 構文の下位区分（3） 9・一般動詞の意味特性（1） 10・一般動詞の意味特性（2） 11・一般動詞の意味特性（3） 12・情報構造（1） 13・情報構造（2） 14・総復習</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店</p>		<p>出席&授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、英文法に対する理解を深めること及び英文法に対する理解の深め方を修得することである。学期末には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という見方を身につけることを目標とした。また、英語と日本語の比較を通して、多くのものにとつての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。</p> <p>授業では、下記のテキストの第1章「動詞句の分類と意味」から第2章「あいまい性と意味」の前半部分の内容を講義する予定である。</p>		<p>第1回（4月9日）オリエンテーション（出席は必須） 第2回（4月16日）動詞句の分類と意味1 第3回（4月23日）動詞句の分類と意味2 第4回（4月30日）動詞句の分類と意味3 第5回（5月7日）動詞句の分類と意味4 第6回（5月14日）動詞句の分類と意味5 第7回（5月21日）動詞句の分類と意味6 第8回（5月28日）あいまい性と意味1 第9回（6月4日）あいまい性と意味2 第10回（6月11日）あいまい性と意味3 第11回（6月18日）あいまい性と意味4 第12回（6月25日）あいまい性と意味5 第13回（7月2日）あいまい性と意味6 第14回（7月9日）春学期の復習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>吉川洋・友繁義典（2008） 『入門講座 英語の意味とニュアンス』 東京：大修館書店</p>		<p>評価は定期試験期間中の試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である（ただし、出席そのものが加点の対象となることはない）。</p>	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、英文法に対する理解を深めること及び英文法に対する理解の深め方を修得することである。学期末には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という見方を身につけることを目標とした。また、英語と日本語の比較を通して、多くのものにとつての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。</p> <p>授業では、下記のテキストの第2章「あいまい性と意味」の後半部分から第3章「類似表現と意味」の内容を講義する予定である。</p>		<p>第1回（9月24日）オリエンテーション（出席は必須） 第2回（10月1日）あいまい性と意味1 第3回（10月8日）あいまい性と意味2 第4回（10月15日）あいまい性と意味3 第5回（10月22日）あいまい性と意味4 第6回（11月5日）あいまい性と意味5 第7回（11月12日）あいまい性と意味6 第8回（11月19日）類似表現と意味1 第9回（11月26日）類似表現と意味2 第10回（12月3日）類似表現と意味3 第11回（12月10日）類似表現と意味4 第12回（12月17日）類似表現と意味5 第13回（12月24日）類似表現と意味6 第14回（1月7日）秋学期の復習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>吉川洋・友繁義典（2008） 『入門講座 英語の意味とニュアンス』 東京：大修館書店</p>		<p>評価は定期試験期間中の試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である（ただし、出席そのものが加点の対象となることはない）。</p>	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	坂本 洋子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 読む・書く・話す・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする。また、英語の規則性を探求することを目的とする。</p> <p>講義概要: 英文法を学習する際に、トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である。文全体から句、句から語というような方式をとりながら、春学期ではまず、英文法の基本的な事項のうち、文というものはどのようなものであるかを考える。文は基本的な文、拡張的な文、派生的な文の三種類に分けられる。まず、基本的な文は5文型によって説明することが可能である。拡張的な文は一つの文に二つ以上の節(主語＋述語)を含む文であり、重文や複文として学習する。さらに、派生的な文の種類として、疑問文、感嘆文、命令文などを学習する。文の枠組みを捉えた上で、その構成要素である名詞、形容詞、冠詞、副詞などを扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 文:主部を欠く文,「主部 + 述部」,節・句・語 2. 主部:主部の要素と述部の要素 3. 文型:5文型, 5文型の拡張, 7文型 4. 述語動詞:述部, 述語動詞の種類, 等位叙述型, 補語 5. 述語動詞:自動詞型, 他動詞型, 他動詞型の述部 6. 文の種類:中心文型の文, 文の種類, 重文と複文 7. 文の種類:疑問文, 感嘆文, 命令文, 否定文 8. 名詞, 名詞の種類, 可算名詞の単数・複数形, 不可算名詞, 集合名詞, 名詞の複数形, 名詞の所有格 9. 代名詞, 代名詞の種類, 人称代名詞, 再帰代名詞 10. 指示代名詞, 疑問代名詞, 不定代名詞 11. 形容詞, 形容詞の用法, 形容詞の語順, 数詞 12. 冠詞, 不定冠詞, 定冠詞, 無冠詞の用法 13. 副詞, 副詞の種類, 副詞の用法, 副詞の位置 14. 助動詞, 助動詞の用法 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書: 安井稔(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)</p>		<p>出席状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる。</p>	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	坂本 洋子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: (春学期と同じ) 読む・書く・話す・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする。また、英語の規則性を探求することを目的とする。</p> <p>講義概要: (春学期の続き) 秋学期ではまず、不定詞・分詞・動名詞を学習する。さらに、不定詞と動詞の ing 分詞(いわゆる現在分詞)には名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法・動詞的用法の四つの用法があることを学習する。</p> <p>次に、関係代名詞、関係副詞を扱い、制限的用法と非制限的用法について学習する。また、英語において重要な時制を扱い、英語において時の概念がどのように理解されているかを学習する。さらに、英語の文の構成に重要な役割を果たしている比較表現、否定表現、強調表現、仮定法の用法を学習する。</p> <p>秋学期の後半では、複文に関わる現象として時制の一致や話法について学習する。最後に、強調・省略・挿入といった言語表現の情報構造に関わる構文を学習する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 不定詞 2. 分詞, 動名詞 3. 関係代名詞, 関係副詞 4. 時制:現在時制の用法, 過去時制の用法 5. 現在完了の用法, 過去完了の用法 6. 進行形の用法 7. 能動態と受動態 8. 呼応と時制の一致 9. 仮定法, 直説法と仮定法, to 不定詞・前置詞・接続詞を用いた仮定表現 10. 話法, 直接話法と間接話法 11. 比較, 原級の用法, 比較級の用法, 最上級の用法 12. 否定, 部分否定と全体否定, 否定語の位置, 二重の否定 13. 文の主語と情報構造 14. 強調, 省略・挿入 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書: 安井稔(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)</p>		<p>出席状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる。</p>	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 英文法は、英語の文の構成・内容を明らかにする仕組みである。文は語から構成され、複数の語が句を構成し、句が結合されて文となる。英文法は英語のすべての言語活動の基礎となっている。英語ができるようになるために、この授業では英文法を身に付けることを目的とする。さらに、英文法の実践的応用としてTOEICの文法問題を練習し、その解説を行う。</p> <p>講義概要: 英文法を学習する際に、トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である。文全体から句、句から語というような方式をとりながら、春学期ではまず、英文法の基本的な事項のうち、文というものはどのようなものがあるかを考える。文は基本的な文、拡張的な文、派生的な文の三種類に分けられ、基本的な文は5文型によって説明し、拡張的な文は一つの文に二つ以上の節(主語+述語)を含む文であり、重文や複文として学習する。さらに、文の種類として、疑問文、感嘆文、命令文、受動文、時制などを学習する。 毎回の授業のために相当な分量の教科書の予習とTOEICの宿題をすることが必要です。予習と宿題を行える学生諸君の受講を強く期待します。初回のテキストは配布します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 英文法の全体的構成: 文型・文法 2. 文: 主部を欠く文, 「主部 + 述部」, 節・句・語 3. 主部: 主部の要素と述部の要素 4. 文型(1): 5文型 5. 文型(2): 5文型の拡張, 7文型 6. 述語動詞(1): 述部, 述語動詞の種類, 等位叙述型, 補語 7. 述語動詞(2): 自動詞型, 自動詞・他動詞両用の動詞 8. 述語動詞(3): 他動詞型, 他動詞型の述部 9. 文の種類(1): 文の種類, 重文と複文 10. 文の種類(2): 疑問文, 感嘆文 11. 文の種類(3): 命令文, 否定文 12. 時制(1): 現在時制, 過去時制 13. 時制(2): 現在完了形, 過去完了形, 進行形 14. 態: 能動態と受動態の区別, 受動態の用法 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書: 安井稔(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)</p>		出席状況、予習と宿題の状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価します。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされます。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: (春学期と同じ) 英文法は、英語の文の構成・内容を明らかにする仕組みである。文は語から構成され、複数の語が句を構成し、句が結合されて文となる。英文法は英語のすべての言語活動の基礎となっている。英語ができるようになるために、この授業では英文法を身に付けることを目的とする。さらに、英文法の実践的応用としてTOEICの文法問題を練習し、その解説を行う。</p> <p>講義概要: 秋学期は、文構成に関わる、呼応や時制の一致、語法、否定、強調、省略、挿入などを含む文を扱う。さらに、時制を含まない節として、不定詞・分詞・動名詞を取り上げ、不定詞と動詞のing形には名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法・動詞的用法の四つの用法があることを学習する。さらに、埋め込み文の一つとして関係詞節を学習する。最後に、文を構成する要素として、名詞・代名詞・形容詞・冠詞を学習する。 春・秋学期の継続履修が認められており、お勧めします。毎回の授業のために相当な分量の教科書の予習とTOEICの宿題をすることが必要です。予習と宿題を行える学生諸君の受講を強く期待します。初回のテキストは配布します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼応と時制の一致: 時制の一致, 時制の一致の例外 2. 語法(1): 直接語法と間接語法 3. 語法(2): 疑問文と命令文の間接語法 4. 比較(1): 原級・比較級 5. 比較(2): 最上級 6. 否定: 部分否定と全体否定, 否定語の位置, 二重の否定 7. 非定形節(1): 不定詞 8. 非定形節(2): 分詞, 動名詞 9. 関係詞節(1): 関係代名詞節 10. 関係詞節(2): 関係副詞節 11. 名詞: 名詞の種類, 名詞の形, 名詞の特徴 12. 代名詞: 代名詞の種類, 代名詞の用法 13. 形容詞: 形容詞の用法, 形容詞の語順, 数詞 14. 冠詞: 不定冠詞, 定冠詞, 無冠詞の用法 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書: 安井稔(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)</p>		出席状況、予習と宿題の状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価します。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされます。	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の狙いは、専門学校ではなく、大学で英語を学ぶ学生として恥ずかしくない、きっちりとした語法の知識を身につけてもらうことです。そのためには「なぜそうは言っても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切で、そこから始めると、次第に英語という言語の学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む英語という言語の規則性を探っていく習慣を身につけていく方法が、結局は効率の良い学習方法である、ということがわかるようになります。この授業では、テキストを基にした講義と、無料のオンライン学習で通訳案内士英語試験などの実用試験対策問題を解くことを通じて、そのような規則性を探るにあたっての考え方のヒントをつかんでもらいたいと思っています。</p> <p>【秋学期はテキストが変わります】</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本文型—新しい視点から眺めて 2. 文の構造—文の多様性を探る (1) 3. 文の構造—文の多様性を探る (2) 4. 動詞—文の中心語句を解明 (1) 5. 動詞—文の中心語句を解明 (2) 6. 否定—否定の正しい意味解釈のために (1) 7. 否定—否定の正しい意味解釈のために (2) 8. 助動詞—文のニュアンスを表現する 9. 受動文—なぜ受動文は存在するのか 10. 準動詞—不定詞 11. 準動詞—動名詞・分詞 12. 名詞句と文構造の多様性 13. 代用表現 14. 関係詞 	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊藤健三・他『大学生のための現代英文法』開拓社		定期試験と課題および授業における参加度によります。	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【春学期とはテキストが異なります】</p> <p>この授業の狙いは、専門学校ではなく、大学で英語を学ぶ学生として恥ずかしくない、きっちりとした語法の知識を身につけてもらうことです。そのためには「なぜそうは言っても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切で、そこから始めると、次第に英語という言語の学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む英語という言語の規則性を探っていく習慣を身につけていく方法が、結局は効率の良い学習方法である、ということがわかるようになります。この授業では、テキストを基にした講義と通訳案内士英語試験のなどの実用試験対策問題を解くことを通じて、そのような規則性を探るにあたっての考え方のヒントをつかんでもらいたいと思っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 文（発話行為・疑問文・命令文・感嘆文） 2. 続き 3. 文の要素（意味役割） 4. 文の構造（動詞型） 5. 文の構造（形容詞型・名詞型） 6. 文の構造（主節・従節） 7. 時制と相（現在・過去・未来） 8. 時制と相（完了相・進行相） 9. 時制と相（語法） 10. 法助動詞 11. 否定 12. 態 13. 情報構造と主題構造 14. 前提と断定 	
テキスト、参考文献		評価方法	
村田勇三郎・他『英語の文法』大修館書店		定期試験と課題とおよび授業における参加度によります。	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちが母国語で表現したものを字義通り英語に直そうとすると英文にならないのは、誰しも経験することでしょう（英文を使っているが間違っているのに 90 パーセント以上が日本語に引きずられることと関連していると思われます）。ドイツ人やフランス人などが英語を学習するのと、たとえばトルコ人やモンゴル人、日本人が英語を学習するのでは、方法はまるで異ならねばならないと思います（言語体系がまるで違うのですから）。日本人学習者には文法の実践的知識は不可欠なものです。文法をいくら詳細に覚えても英語を使えませんが、ヒアリングをどれだけ訓練してもそれだけではやはりだめではないですか。両方面が必要なのです。日本語と英語の発想は大きく違いますから（しかも単語・語句・文章それぞれのレベルで違いますから）それらを比較検討する習慣を身につけるのは、英語を話し・書く能力を習得するのに不可欠な訓練だと思います。昔の学習法は、英語を一方向的に日本語にひきつけるやり方ですが、これは日本語に囲まれて暮らす私たちには自然な方法とも思えます。今度は、英語にひきつけて日本語を捉える努力をしていくと、両方の言語について気づけなかったことが分り、運用能力向上に大変役立ちます。</p> <p>ときにテキストを離れて、詩とかエッセイの英訳に取り組む予定です。</p>		<p>テキストに沿って進めますが、学生一人ひとりの能力が異なるため、個人指導が欠かせません。また、テキストは中身を消化吸収するのが肝心ですから、その進行状況を最初から機械的に振り当てるわけにもいきません。テキストは易しい章は手短に、難しいが大切な章は時間をかけて進めてゆきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト 慎重に検討中		平素の小テストと平常点。	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちが母国語で表現したものを字義通り英語に直そうとすると英文にならないのは、誰しも経験することでしょう（英文を使っているが間違っているのに 90 パーセント以上が日本語に引きずられることと関連していると思われます）。ドイツ人やフランス人などが英語を学習するのと、たとえばトルコ人やモンゴル人、日本人が英語を学習するのでは、方法はまるで異ならねばならないと思います（言語体系がまるで違うのですから）。日本人学習者には文法の実践的知識は不可欠なものです。文法をいくら詳細に覚えても英語を使えませんが、ヒアリングをどれだけ訓練してもそれだけではやはりだめではないですか。両方面が必要なのです。日本語と英語の発想は大きく違いますから（しかも単語・語句・文章それぞれのレベルで違いますから）それらを比較検討する習慣を身につけるのは、英語を話し・書く能力を習得するのに不可欠な訓練だと思います。昔の学習法は、英語を一方向的に日本語にひきつけるやり方ですが、これは日本語に囲まれて暮らす私たちには自然な方法とも思えます。今度は、英語にひきつけて日本語を捉える努力をしていくと、両方の言語について気づけなかったことが分り、運用能力向上に大変役立ちます。</p> <p>ときにテキストを離れて、詩とかエッセイの英訳に取り組む予定です。</p>		<p>テキストに沿って進めますが、学生一人ひとりの能力が異なるため、個人指導が欠かせません。また、テキストは中身を消化吸収するのが肝心ですから、その進行状況を最初から機械的に振り当てるわけにもいきません。テキストは易しい章は手短に、難しいが大切な章は時間をかけて進めてゆきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト 慎重に検討中		平素の小テストと平常点。	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	D. Bradley
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to help students build their English language skills, in particular their comprehension ability. Using a variety of materials (AV, audio, text, etc.) for language development and discussion we will work to consolidate and extend listening and speaking skills and students will have the opportunity to share and present their thoughts and opinions through pairworks and group discussions.</p> <p>There will be a project to watch some TV clips and produce a tapescript and translation.</p>		<p>Week 1 Introduction to the course Week 2 Consolidation Week 3 Giving opinions Week 4 Background introduction to the UK Week 5 Work and daily lives Week 6 Describing a place Week 7 Biographies: famous people Week 8 Biographies: famous people Week 9 Language development: conditionals Week 10 Roleplay: socializing Week 11 Language development: quiz Week 12 Listening project corrections Week 13 Listening project corrections Week 14 Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		Grades will be based on class participation (60%) and a final assignment (40%). In particular, good attendance (75%) is a prerequisite for a final grade.	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	D. Bradley
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to help students build their English language skills, in particular their comprehension ability. Using a variety of materials (AV, audio, text, etc.) for language development and discussion we will work to consolidate and extend listening and speaking skills and students will have the opportunity to share and present their thoughts and opinions through pairworks and group discussions.</p> <p>There will be a project to watch some TV clips and produce a tapescript and translation.</p>		<p>Week 1 Introduction to the course Week 2 Consolidation Week 3 Giving opinions Week 4 Discussion Week 5 Language development: phrasal verbs Week 6 Language and culture Week 7 Language and culture Week 8 Language development: social English Week 9 Language development: quiz Week 10 Some features of British culture Week 11 London taxi Week 12 Listening project corrections Week 13 Listening project corrections Week 14 Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		Grades will be based on class participation (60%) and a final assignment (40%). In particular, good attendance (75%) is a prerequisite for a final grade.	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	D. Baker
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one term once-a-week course is designed to take you “on a bit of a journey” as I like to put it. Along the way, it gives you the chance to develop the learning and communication skills you should have been exposed to in your Comprehensive English courses.</p> <p>Overall aims are to help you further:</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ Comprehension across a variety of media ➤ Critical thinking skills ➤ Active group discussion participation ➤ Multimedia presentation capabilities 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction & Orientation 2 Critical Thinking [CT] #1: What is the Matrix? 3 CT #2: WWTDD? 4 CT #3: Comedy & Truth 5 Mens Sana 6 In Corpore Sano 7 Self-actualization 8 Energy Vampires 9 Learn to learn 10 Accelerated learning 11 Research 12 Findings 13 Presentations 14 Review & Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no set textbook		Assessment is continuous and based on attendance, class participation and assignments	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	D. Baker
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one term once-a-week course is designed to take you “on a bit of a journey” as I like to put it. Along the way, it gives you the chance to develop the learning and communication skills you should have been exposed to in your Comprehensive English courses.</p> <p>Overall aims are to help you further:</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ Comprehension across a variety of media ➤ Critical thinking skills ➤ Active group discussion participation ➤ Multimedia presentation capabilities 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction & Orientation 2 Critical Thinking [CT] #1: What is the Matrix? 3 CT #2: WWTDD? 4 CT #3: Comedy & Truth 5 Mens Sana 6 In Corpore Sano 7 Self-actualization 8 Energy Vampires 9 Learn to learn 10 Accelerated learning 11 Research 12 Findings 13 Presentations 14 Review & Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no set textbook		Assessment is continuous and based on attendance, class participation and assignments	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	D. McCann
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations.</p> <p>A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.</p>		<p>Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.		Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	D. McCann
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations.</p> <p>A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.</p>		<p>Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.		Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	J. Gray
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to provide students with opportunities to improve their abilities in English Communication. Students will be given opportunities to lead a presentation and communicate with one another in English on a daily basis in order to build fluency and competence in interpersonal communication. Students will be working in groups and/or pairs in order to increase their individual communication time. Student presentations may include video projects using YouTube, movie maker, and/or power point will be assigned to individuals for presentation in class. Active participation by the individual is a must in order to develop confidence, improve ability, and enhance fluency in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction / Demonstration/Assignment Choose Topics Today 2. Presentation Demonstration 3. Quiz 1 Student Presentations and Discussions 4. Quiz 2 Student Presentations and Discussions 5. Quiz 3 Student Presentations and Discussions 6. Quiz 4 Student Presentations and Discussions 7. Quiz 5 Student Presentations and Discussions 8. Quiz 6 Student Presentations and Discussions 9. Quiz 7 Student Presentations and Discussions 10. Quiz 8 Student Presentations and Discussions 11. Quiz 9 Student Presentations and Discussions 12. Quiz 10 Student Presentations and Discussions 13. Quiz 11 Student Presentations and Discussions 14. Wrap-up of this semester's work. <p>Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To Be Announced		<p>Grading:</p> <p>Students will be graded according to their attendance, attitude, quizzes and tests, participation, homework, special presentations, and notebook.</p>	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	J. Gray
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to provide students with opportunities to improve their abilities in English Communication. Students will be given opportunities to lead a presentation and communicate with one another in English on a daily basis in order to build fluency and competence in interpersonal communication. Students will be working in groups and/or pairs in order to increase their individual communication time. Student presentations may include video projects using YouTube, movie maker, and/or power point will be assigned to individuals for presentation in class. Active participation by the individual is a must in order to develop confidence, improve ability, and enhance fluency in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction / Demonstration/Assignment Choose Topics Today 2. Presentation Demonstration 3. Quiz 1 Student Presentations and Discussions 4. Quiz 2 Student Presentations and Discussions 5. Quiz 3 Student Presentations and Discussions 6. Quiz 4 Student Presentations and Discussions 7. Quiz 5 Student Presentations and Discussions 8. Quiz 6 Student Presentations and Discussions 9. Quiz 7 Student Presentations and Discussions 10. Quiz 8 Student Presentations and Discussions 11. Quiz 9 Student Presentations and Discussions 12. Quiz 10 Student Presentations and Discussions 13. Quiz 11 Student Presentations and Discussions 14. Wrap-up of this semester's work. <p>Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To Be Announced		<p>Grading:</p> <p>Students will be graded according to their attendance, attitude, quizzes and tests, participation, homework, special presentations, and notebook.</p>	

06~09年度 (春) 03~05年度 (春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	K.Meehan
講義目的、講義概要		授業計画	
The objective of the course is develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussions. The course's integrated approach encourages students to share and comapare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.		1. Introduction 2.Exchanging personal information 3.Personality Types 4.Appearances 5.Attitudes 6.Comparing experiences 7.Getting information 8. Events 9. Quiz 10. Movies 11.Music 12Media 13 Education 14 Test	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Grades will be based on attendance, class participation, and tests.	

06~09年度 (秋) 03~05年度 (秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	K.Meehan
講義目的、講義概要		授業計画	
The objective of the course is to develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussion.The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.		1. Summer vacation 2.Personal opinions 3.Japan 4.Preferences 5. Religions 6.Film and TV 7. Language 8 Poverty 9 War and Peace 10. Diet and nutrition 11. Green issues 12. Natural Disasters 13. Sexism 14. Poster Presentation	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Grades will be based on attendance, class participation, and tests.	

06~09年度 (春) 03~05年度 (春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	L.K. Hawkins
講義目的、講義概要		授業計画	
The goal of this course is to expose the class to contemporary English vocabulary, grammar and idioms, and to imbue the students with the confidence necessary to use them. This shall be accomplished through the use of film clips, from which selected portions will be used to illustrate grammatical points, targeted vocabulary and idiomatic expressions. The students will also engage in discussions, both with each other and with the instructor, on topics related to the film clips and employing the language presented in the lesson		The weekly schedule will be provided after consultation with the class.	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text will be used for this class. All materials will be provided by the instructor.		Evaluation will consist of the following: attendance, participation, 2 tests and a presentation.	

06~09年度 (秋) 03~05年度 (秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	L.K. Hawkins
講義目的、講義概要		授業計画	
Same as 1 st semester.		Same as 1 st semester.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Same as the 1 st semester.		Same as the 1 st semester.	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	P. Horness
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory course to communication. Students will get a chance to improve their fluency through many speaking exercises. Much of the material is based on previously learned concepts to help improve individual aspects of fluency. The main goal of the course is for students to participate in a free-flowing conversation of approximately 15 minutes without using any Japanese. In addition, students will be able to build their vocabulary, work on pronunciation and review grammatical concepts.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Suprasegmentals 3. Suprasegmentals 4. Simple past review 5. Fluency exercise 6. Past perfect/ Fluency exercise 7. Be going to versus will 8. Fluency exercise 9. Comparisons and superlatives 10. Conditionals 11. Conditionals 12. Review 13. Instructor-led discussion 14. Instructor-led discussion <p>Subject to change based on class's needs.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Attendance, participation, written summaries, and speaking exercises	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	P. Horness
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is the second half of the introductory course to communication. In this semester, students will get more of chance to voice their opinions in different discussions. Most of the discussion topics will involve aspects of the English language or learning English. In weeks 9-11, students will have a chance to decide particular weekly topics. Although there is no assigned text for this course, students will be required to research for the discussion topics. The main goal of this class is for students to develop and form opinions on selected topics of discussion. Students should be able to express their opinions in English coherently without relying on Japanese for clarification.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Survey: Bilinguals 3. Survey: food 4. Survey: Dating 5. Culture Presentation: language & art 6. Halloween 7. Reading presentation 8. Survey: MASK 9. Survey: Travel 10. Culture Presentation 11. Culture Presentation 12. Culture Presentation 13. Christmas 14. Instructor-led discussion 	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Attendance, participation, written summaries, and discussions	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	P. Apps
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> To improve the students' knowledge of current English. To improve the students' critical thinking skills To improve the students' reading and speaking skills To improve discussion and presentation skills. <p>The topics studied in this course will be of current issues (Please note this will be an intermediate level course. Students will be expected to participate in the class)</p>		<p>As there is no textbook for the year the sequence on discussions will be decided by the students and the teacher.</p> <p>Most of the topics will be popular in the media. In 2009 we discussed topics such as</p> <ul style="list-style-type: none"> Gun Control Global Warming Japanese Population Japanese Education Homelessness in the World Religion <p>Also please note there is homework after every class.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.		1. Student Attendance 2. Student participation 3. Discussion test	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	P. Apps
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> To improve the students' knowledge of current English. To improve the students' critical thinking skills To improve the students' reading and speaking skills To improve discussion and presentation skills. <p>The topics studied in this course will be of current issues (Please note this will be an intermediate level course. Students will be expected to participate in the class)</p>		<p>As there is no textbook for the year the sequence on discussions will be decided by the students and the teacher.</p> <p>Most of the topics will be popular in the media. In 2009 we discussed topics such as</p> <ul style="list-style-type: none"> Gun Control Global Warming Japanese Population Japanese Education Homelessness in the World Religion <p>Also please note there is homework after every class.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.		1. Student Attendance 2. Student participation 3. Discussion test	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	P. Dore
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will ask you to take responsibility for one part of a semester long group project. Your group will need to submit drafts of your project at pre-determined times during the course.</p> <p>The general theme for the project will be given by the teacher, but your group will be able to choose the topic within that theme.</p> <p>Group members will be required to make short presentations on the progress of their project during class.</p> <p>You will begin your project by collecting ideas and background information and then develop your argument on your chosen topic.</p> <p>You will prepare a detailed outline and have it evaluated by your peers and then finally by the teacher.</p> <p>Finally, you will present your project to the class using power point.</p> <p>The other assessment items will be announced in the first class.</p>		<p>Week 1. Orientation</p> <p>Weeks 2 - 13 project and supplementary work in class.</p> <p>Supplementary work includes;</p> <ul style="list-style-type: none"> - vocabulary tests - homework reading assignments - draft evaluations - group discussion leadership <p>Weeks 14 & 15 Project presentation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No TEXT		Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises and written homework, and their project presentations.	

06~09年度(春) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II a	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an intermediate-level context based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an overview of British society, people & culture</p> <p>b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture</p> <p>c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues</p> <p>In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit an essay on any topic from British culture during the term.</p>		<p>UK Culture I</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introductory Class 2. Introduction to Britain 3. British Pop 4. London 5. The Train 6. Heathrow Airport 7. William Shakespeare 8. Tea 9. Climbers 10. Sherlock Holmes 11. The Purple Violin 12. An English Summer 13. Review 14. Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is also recommended.		30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 40% Presentation & Essay.	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an upper-intermediate context based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an overview of British society, people & culture</p> <p>b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture</p> <p>c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues</p> <p>In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit an essay on any topic from British culture during the term.</p>		<p>UK Culture II</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Preview 2. The Seven Wonders of Britain 3. Wales 4. BBC World Service 5. The Mini 6. The Village 7. Agatha Christie 8. The Sea 9. Taxi 10. Public School 11. Womad 12. A British Christmas 13. Review 14. Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is also recommended.		30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 40% Presentation & Essay.	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	R.Jones
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>First Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction to the course of studies. 2 Gender Issues. 3 Attitudes towards women. 4 The War on Terrorism. <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual and keep good attendance.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.</p>		<p>Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%</p>	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	R.Jones
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>Second Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Brief introduction/welcome back to class. 2 Computers and society 3 Ageing Society. 4 The Automobile <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual and keep good attendance.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.</p>		<p>Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%</p>	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	R.Durham
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss World Issues, from an International point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; and</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (perhaps) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p>		<p>(* Note: This is a <i>tentative</i> schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Introductions, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion.</p> <p>Week 2: Review/practice of Introductions, using aliases. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to International communication.)</i></p> <p>Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ" and how can we best use it, to have <i>more effective communication?</i> Expressing your opinions, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.)]</p> <p>Week 4: Communicating about future plans. "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?"</p> <p>Week 5: "How was your Golden Week?"/ "How was your Mother's Day?": communicating a past experience...and elaborating (explaining a lot). Song: Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day.</p> <p>Week 6: (Perhaps selecting and preparing for a class presentation.) Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two.</p> <p>Week 7: (Perhaps selecting and preparing for a class presentation.) Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating.</p> <p>Week 8: Discussing and communicating about your hobbies. Pair practice. Song: listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment.</p> <p>Week 9: (Perhaps Student research/discussion about a variety of themes which they choose, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more student-suggested topics of interest.) Pair practice, re: hobbies.</p> <p>Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about movies, books, music, food, etc., in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. (Perhaps: refining possible presentation topics.)</p> <p>Week 11: Examining & using of International vs. Domestic etiquette and manners. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. (Perhaps: preparations for making presentations.)</p> <p>Week 12: Continuous assessment. Ways to meet new people (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song/listening, and/or video exercise; with discussion thereof.</p> <p>Week 13: Body Language: Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. (Perhaps: preparations for class presentations.)</p> <p>Week 14: Ongoing assessment. Directions: asking for and communicating <i>street directions</i>, in international English. (Perhaps: student presentations.)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. If a textbook is truly necessary, one will be chosen.</p>		<p>You will be assessed often: the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you participate in class; how well you speak/elaborate (explain)/communicate in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you <i>work together</i> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p>Attendance is CRITICAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/3 absence)</p>	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	R.Durham
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss World Issues, from an International point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English;</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p>		<p>(* Note: This is a <i>tentative</i> schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break using modern English. Pair practice. Song: listening exercise, and/or News exercises.</p> <p>Week 2: "What do you usually do ...?": discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments.</p> <p>Week 3: "What do you usually do...?", part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion.</p> <p>Week 4: Halloween's: researching and discussing about this international 'festival'. Halloween video.</p> <p>Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Halloween. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Halloween video, continued.</p> <p>Week 6: Asking and communicating train & subway directions, in International English. Pair practice. Ongoing assessments.</p> <p>Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and <i>Fall/Winter festival</i> about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success.</p> <p>Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song: listening exercise. <i>"What are you thankful for?"</i></p> <p>Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English: listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments.</p> <p>Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations.</p> <p>Week 11: "How often do you ...?": discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations.</p> <p>Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song: listening activity and/or video, re: Christmas. Continuous assessments.</p> <p>Week 13: Christmas song-listening exercise, part two. Christmas cultures in various countries. Class presentations.</p> <p>Week 14: Asking others, and elaborating about, New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.</p>		<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you <i>work together</i> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p>Attendance is CRITICAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/3 absence)</p>	

06~09年度 (春) 03~05年度 (春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	T Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students develop critical thinking skills and the ability to discuss issues of contemporary importance.</p> <p>Using newspapers, students will build up their vocabulary in a number of content areas, and will develop the ability to express their own opinions in both written and spoken English.</p> <p>Students will be expected to participate actively in class, do research in the library and on the internet, and a number of short papers on the issues that interest them most.</p>		<p>Introduction</p> <p>2. Japanese politics</p> <p>3. Japanese politics</p> <p>4. World politics</p> <p>5. World politics</p> <p>6. Economics and business</p> <p>7. Economics and business</p> <p>8. Social issues</p> <p>9. Social issues</p> <p>10. Sport and Entertainment</p> <p>11. Sport and Entertainment</p> <p>12. Review I</p> <p>13. Review II</p> <p>14. Review III</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material will be taken from various news sources		Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, the submission of a class notebook, and a final examination	

06~09年度 (秋) 03~05年度 (秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	T Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students develop critical thinking skills and the ability to discuss issues of contemporary importance.</p> <p>Using newspapers, students will build up their vocabulary in a number of content areas, and will develop the ability to express their own opinions in both written and spoken English.</p> <p>Students will be expected to participate actively in class, do research in the library and on the internet, and a number of short papers on the issues that interest them most.</p>		<p>Introduction</p> <p>2. Japanese politics</p> <p>3. Japanese politics</p> <p>4. World politics</p> <p>5. World politics</p> <p>6. Economics and business</p> <p>7. Economics and business</p> <p>8. Social issues</p> <p>9. Social issues</p> <p>10. Sport and Entertainment</p> <p>11. Sport and Entertainment</p> <p>12. Review I</p> <p>13. Review II</p> <p>14. Review III</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material will be taken from various news sources and provided by the instructor.		Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, the submission of a class notebook, and a final examination	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	Communicative English Communicative English II a	担当者	M. Darling
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners.</p> <p>The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. The remainder of the class will be spent discussing issues from the textbook.</p>		<p>Week 1: Course Introduction Week 2: Small group discussion task Week 3: Assessing discussions Week 4: Language for discussions Week 5: Discussions & text - unit 1 Week 6: Discussions & text - unit 1 continued Week 7: Discussions & text - unit 2 Week 8: Discussions & text - unit 2 continued Week 9: Discussions & text - unit 3 Week 10: Discussion & text - unit 3 continued Week 11: Discussion & text - unit 4 Week 12: Discussion & text - unit 4 continued Week 13: Discussion & text - unit 5 Week 14: Discussion & text - unit 5 continued</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Impact Issues 3		Students will be evaluated on their active participation, their ability to lead group discussions, tests, vocabulary notebooks and attendance.	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	Communicative English Communicative English II b	担当者	M. Darling
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners.</p> <p>The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. The remainder of the class will be spent discussing issues in the textbook.</p>		<p>Week 1: Course Introduction Week 2: Small group discussion task Week 3: Assessing discussions Week 4: Language for discussions Week 5: Discussions & text - unit 1 Week 6: Discussions & text - unit 1 continued Week 7: Discussions & text - unit 2 Week 8: Discussions & text - unit 2 continued Week 9: Discussions & text - unit 3 Week 10: Discussion & text - unit 3 continued Week 11: Discussion & text - unit 4 Week 12: Discussion & text - unit 4 continued Week 13: Discussion & text - unit 5 Week 14: Discussion & text - unit 5 continued</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Impact Issues 3		Students will be evaluated on their active participation, their ability to lead group discussions, tests, vocabulary notebooks and attendance.	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Discussion (火2) Discussion a (火2)	担当者	C.B. Ikeguchi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The overall aim of this course is teach students some important but often overlooked techniques in face-to-face communication. In the class, the term communication will be used to refer to communication style, focusing on differences between that of the Japanese and non-Japanese.</p> <p>Classes in the first term will explore situations that show differences in thinking behavior and how these differences are reflected in the way people speak. Students will analyze and discuss different culture-style conversations.</p> <p>Classes in the second term will focus on various situations of virtue and polite manners. Students will analyze and discuss examples that illustrate these differences.</p> <p>The final goal of the course is to help improve fluency in the use of English language skills.</p>		<p>First Term:</p> <p>I. Orientation class objectives, method and evaluation</p> <p>II. How to avoid embarrassing conversation situations</p> <p>(1). Different Communication Styles</p> <p>(2) Sensitivity in conversations: does it help?</p> <p>(3) Be a Good Listener: a good advice?</p> <p>(4) Subtlety in Conversations: is it good?</p> <p>(5) Low-key expressions: do they help?</p> <p>(6) Frankness: when to and when not to?</p> <p>(7)Conversation Compliment: how to across cultures</p> <p>III. Summary and Evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced on the first day of class.		Summative evaluation of class participation: discussion and reports, as well as term-end exams. Students are highly recommended to review each lesson and study beforehand.	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Discussion (火2) Discussion b (火2)	担当者	C.B. Ikeguchi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The overall aim of this course is teach students some important but often overlooked techniques in face-face communication. In the class, the term communication will be used to refer to communication style, focusing on differences between that of the Japanese and non-Japanese.</p> <p>Classes in the first term will explore situations that illustrate difference behavior and why these differences exist. Students will analyze and discuss various themes related to interpersonal communication.</p> <p>Classes in the second term will focus on various situations of virtue and polite manners. Students will analyze and discuss examples that illustrate these differences.</p> <p>The final goal of the course is to help improve fluency in the use of English language skills.</p>		<p>Second Term</p> <p>I. Orientation: class objectives, method and evaluation</p> <p>II. Behavior differences</p> <p>(1) Identity: do you have a strong cultural identity?</p> <p>(2) Values: what are your lifestyle values?</p> <p>(3) Culture shock: what is your personality type?</p> <p>(4) Culture in language: do you believe in proverbs?</p> <p>(5) Body language and customs: do you know them?</p> <p>(6) Individualism: are you an individualist?</p> <p>(7) Politeness: are you a formal or a casual person?</p> <p>(8) Communication style: what's yours?</p> <p>(9) Gender and culture: are they different?</p> <p>(10) Diversity and culture: the changing Japan!</p> <p>III. Summary and Evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced on the first day of class.		Summative evaluation of class participation: discussion and reports, as well as term-end exams. Students are highly recommended to review each lesson and study beforehand.	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Discussion (火3) Discussion a (火3)	担当者	C.B. Ikeguchi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The overall aim of this course is teach students some important but often overlooked techniques in face-to-face communication. In the class, the term communication will be used to refer to communication style, focusing on differences between that of the Japanese and non-Japanese.</p> <p>Classes in the first term will explore situations that show differences in thinking behavior and how these differences are reflected in the way people speak. Students will analyze and discuss different culture-style conversations.</p> <p>Classes in the second term will focus on various situations of virtue and polite manners. Students will analyze and discuss examples that illustrate these differences.</p> <p>The final goal of the course is to help improve fluency in the use of English language skills.</p>		<p>First Term:</p> <p>I. Orientation class objectives, method and evaluation</p> <p>II. How to avoid embarrassing conversation situations</p> <p>(1). Different Communication Styles</p> <p>(2) Sensitivity in conversations: does it help?</p> <p>(3) Be a Good Listener: a good advice?</p> <p>(4) Subtlety in Conversations: is it good?</p> <p>(5) Low-key expressions: do they help?</p> <p>(6) Frankness: when to and when not to?</p> <p>(7)Conversation Compliment: how to across cultures</p> <p>III. Summary and Evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced on the first day of class.		Summative evaluation of class participation: discussion and reports, as well as term-end exams. Students are highly recommended to review each lesson and study beforehand.	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Discussion (火3) Discussion b (火3)	担当者	C.B. Ikeguchi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The overall aim of this course is teach students some important but often overlooked techniques in face-face communication. In the class, the term communication will be used to refer to communication style, focusing on differences between that of the Japanese and non-Japanese.</p> <p>Classes in the first term will explore situations that illustrate difference behavior and why these differences exist. Students will analyze and discuss various themes related to interpersonal communication.</p> <p>Classes in the second term will focus on various situations of virtue and polite manners. Students will analyze and discuss examples that illustrate these differences.</p> <p>The final goal of the course is to help improve fluency in the use of English language skills.</p>		<p>Second Term</p> <p>I. Orientation: class objectives, method and evaluation</p> <p>II. Behavior differences</p> <p>(1) Identity: do you have a strong cultural identity?</p> <p>(2) Values: what are your lifestyle values?</p> <p>(3) Culture shock: what is your personality type?</p> <p>(4) Culture in language: do you believe in proverbs?</p> <p>(5) Body language and customs: do you know them?</p> <p>(6) Individualism: are you an individualist?</p> <p>(7) Politeness: are you a formal or a casual person?</p> <p>(8) Communication style: what's yours?</p> <p>(9) Gender and culture: are they different?</p> <p>(10) Diversity and culture: the changing Japan!</p> <p>III. Summary and Evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced on the first day of class.		Summative evaluation of class participation: discussion and reports, as well as term-end exams. Students are highly recommended to review each lesson and study beforehand.	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Discussion Discussion a	担当者	D.L. Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this class students will form 4 groups each term to lead the talk in class about various topics that they choose, first from daily life-items like work experience and places to visit or tour. Later they will select either more challenging or more personal issues by means of brainstorming and on the basis of consensus, items like dating or social topics.</p> <p>Topics will be prepared in advance at a rate of one per week as the leader groups rotate. Also, the discussion format may vary: students may engage in simple debates, survey interpreting, opinion eliciting, and taking contrarian attitudes. The final two weeks will entail a full class discussion of some issue.</p> <p>You need to be proficient in spoken English, be interested in a variety of topics, very punctual in your attendance and able to hold your own in an English-only environment in the classroom.</p>		<p>Week 1: Introduction: how to have a discussion</p> <p>Week 2: Ways of handling a discussion topic</p> <p>Week 3: Group I: Daily life topic A</p> <p>Week 4: Group II: Daily life topic B</p> <p>Week 5: Group III: Daily life topic C</p> <p>Week 6: Group IV: Daily life topic D</p> <p>Week 7: Critique of methods and procedures</p> <p>Week 8: Group I: More "meaty" topic A</p> <p>Week 9: Group II: Meatier topic B</p> <p>Week 10: Group III: Meatier topic C</p> <p>Week 11: Group IV: Meatier topic D</p> <p>Week 12: Full class discussion, Part 1</p> <p>Week 13: Full class discussion, Part 2</p> <p>Week 14: Supplemental work as needed</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook, but the instructor and leader groups will provide handouts and/or visual aids. Certain prints will concern methods and procedure.		Grades will be compiled from weekly oral work (50%, including full class discussion), work within the lead group (25%) and Qs&As with the teacher (25%).	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Discussion Discussion b	担当者	D.L. Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this class students will form 4 groups each term to lead the talk in class about various topics that they choose, first from daily life-items like work experience and places to visit or tour. Later they will select either more challenging or more personal issues by means of brainstorming and on the basis of consensus, items like dating or social topics.</p> <p>Topics will be prepared in advance at a rate of one per week as the leader groups rotate. Also, the discussion format may vary: students may engage in simple debates, survey interpreting, opinion eliciting, and taking contrarian attitudes. The final two weeks will entail a full class discussion of some issue.</p> <p>You need to be proficient in spoken English, be interested in a variety of topics, very punctual in your attendance and able to hold your own in an English-only environment in the classroom.</p>		<p>Week 1: Regrouping of students and topics</p> <p>Week 2: Ways of handling a discussion topic</p> <p>Week 3: Group I: Daily life topic A</p> <p>Week 4: Group II: Daily life topic B</p> <p>Week 5: Group III: Daily life topic C</p> <p>Week 6: Group IV: Daily life topic D</p> <p>Week 7: Critique of methods and procedures</p> <p>Week 8: Group I: More meaty topic A</p> <p>Week 9: Group II: Meatier topic B</p> <p>Week 10: Group III: Meatier topic C</p> <p>Week 11: Group IV: Meatier topic D</p> <p>Week 12: Full class discussion, Part 1</p> <p>Week 13: Full class discussion, Part 2</p> <p>Week 14: Supplemental work as needed</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook, but the instructor and leader groups will provide handouts and/or visual aids. Certain prints will concern methods and procedure.		Grades will be compiled from weekly oral work (50%, including full class discussion), work within the lead group (25%) and Qs&As with the teacher (25%).	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Discussion Discussion a	担当者	Ed. Franco
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to provide friendly forums for student discussions in order to improve fluency in English communication skills.</p> <p>Students will complete weekly classroom activities using English newspaper articles covering current local and global issues in order to improve English and knowledge.</p> <p>The class seeks to provide an enjoyable and interesting environment to discuss current topics and issues. Students are expected to collaborate and engage in friendly pair and group discussions.</p>		<p>Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements & start topic # 1</p> <p>Week 2: Discussion Topic # 1</p> <p>Week 3: Discussion Topic # 2</p> <p>Week 4: Discussion Topic # 2</p> <p>Week 5: Discussion Topic # 3</p> <p>Week 6: Discussion Topic # 3</p> <p>Week 7: Discussion Topic # 4</p> <p>Week 8: Discussion Topic # 4</p> <p>Week 9: Discussion Topic # 5</p> <p>Week 10: Discussion Topic # 5</p> <p>Week 11: Discussion Topic # 6</p> <p>Week 12: Discussion Topic # 6</p> <p>Week 13: Discussion Topic # 7</p> <p>Week 14: Discussion Topic # 7</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Discussion notes and handouts will be provided every week.		Assessment will be based on weekly exercises, attendance, discussion involvement and class participation.	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Discussion Discussion b	担当者	Ed. Franco
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to provide friendly forums for student discussions in order to improve fluency in English communication skills.</p> <p>Students will complete weekly classroom activities using English newspaper articles covering current local and global issues in order to improve English and knowledge.</p> <p>The class seeks to provide an enjoyable and interesting environment to discuss current topics and issues. Students are expected to collaborate and engage in friendly pair and group discussions.</p>		<p>Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements & start topic # 8</p> <p>Week 2: Discussion Topic # 8</p> <p>Week 3: Discussion Topic # 9</p> <p>Week 4: Discussion Topic # 9</p> <p>Week 5: Discussion Topic # 10</p> <p>Week 6: Discussion Topic # 10</p> <p>Week 7: Discussion Topic # 11</p> <p>Week 8: Discussion Topic # 11</p> <p>Week 9: Discussion Topic # 12</p> <p>Week 10: Discussion Topic # 12</p> <p>Week 11: Discussion Topic # 13</p> <p>Week 12: Discussion Topic # 13</p> <p>Week 13: Discussion Topic # 14</p> <p>Week 14: Discussion Topic # 14</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Discussion notes and handouts will be provided every week.		Assessment will be based on weekly exercises, attendance, discussion involvement and class participation.	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Discussion Discussion a	担当者	P. Horness
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory course in discussion. The main goal to be accomplished is the students forming and expressing well formed ideas on specific topics. Students will select topics and research them for the discussions. For several weeks, students will develop their ideas in groups on a specific topic. Thereafter, each student will present his/her idea individually. Students should come to class ready to discuss material researched outside of class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction; select topics 2. Discussion 3. Discussion 4. Presentation 5. Discussion 6. Discussion 7. Presentation 8. Discussion 9. Discussion 10. Presentation 11. Discussion 12. Discussion 13. Presentation 14. Test <p>Subject to change based on class's needs.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook, but students should be familiar using the internet for research.		Attendance, participation, written summaries, discussion exercises, presentations, and test	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Discussion Discussion b	担当者	P. Horness
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Although this is the second half to the introduction of discussion, the first half semester is not a necessary requirement to participate in this class. The main goal to be accomplished is the students forming and expressing well formed ideas on specific topics. Students will select topics and research them for the discussions. For several weeks, students will develop their ideas in groups on a specific topic. Thereafter, each student will present his/her idea individually. Students should come to class ready to discuss material researched outside of class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction; select topics 2. Discussion 3. Discussion 4. Presentation 5. Discussion 6. Discussion 7. Presentation 8. Discussion 9. Discussion 10. Presentation 11. Discussion 12. Discussion 13. Presentation 14. Test <p>Subject to change based on class's needs.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook, but students should be familiar using the internet for research.		Attendance, participation, written summaries, discussion exercises, presentations, and test	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Discussion Discussion a	担当者	S. Rossitto
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Aims to improve</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. knowledge of social current issues in Japan 2. understanding about what nonprofit NGOs are doing to tackle these problems 3. ability to communicate about these issues 4. critical understanding 5. develop presentation skills <p>Weekly assignments: Each week students will complete short readings, which will form a based for class discussion.</p> <p>Class format Instructor presentation – key issues. Group work – discussion, review of readings and exercises. Participant presentation · present summaries, final project.</p>		<p>* Since we will be focusing on current issues – specific contents may change. * semester 1 will focus on Japan</p> <p>Class 1 Introduction to course, Overview of current social issues in Japan Class 2 What is a nonprofit NGO? Class 3 Aging in Japan Class 4 NGOs working on Aging Class 5 Youth issues Class 6 NGOs working with youth Class 7 Presentation skills #1 Class 8 Mid-term presentations Class 9 Home violence Class 10 Why we need more shelters and support systems Class 11 Homelessness and new poverty in Japan Class 12 New comers in Japan Class 13 Presentation skills #2 Class 14 Wrap up & Final Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Online readings Anyone without internet access should tell the instructor in class1</p>		<p>Active class participation, mid-term presentation, final project (paper and presentation) and regular completion of assignments. Attendance of 75% is required to pass.</p>	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Discussion Discussion b	担当者	S. Rossitto
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Aims to improve</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. knowledge of current global issues 2. understanding about what nonprofit NGOs are doing to tackle these problems 3. ability to communicate about these issues 4. critical understanding 5. develop presentation skills <p>Weekly assignments: Each week students will complete short readings, which will form a based for class discussion.</p> <p>Class format Instructor presentation – key issues. Group work – discussion, review of readings and exercises. Participant presentation · present summaries, final project.</p>		<p>* Since we will be focusing on current issues – specific contents may change. * semester 2 will focus on international issues</p> <p>Class 1 Introduction to course, Overview of issues Class 2 What is poverty? What is hunger? Class 3 What can we do about hunger and poverty? Class 4 Health issues Class 5 Education about AIDS Class 6 Presentation skills Class 7 Mid-term presentations Class 8 Youth making a difference around the world! Class 9 Conflict and peace Class 10 Refugees and asylum seekers Class 11 Environmental issues Class 12 Making your life more environmentally friendly Class 13 Smart shopping: Fair trade and organics Class 14 Wrap up & Final Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Online readings Anyone without internet access should tell the instructor in class1</p>		<p>Active class participation, mid-term presentation, final project (paper, presentation) and regular completion of assignments. Attendance of 75% is required to pass.</p>	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Public Speaking I Public Speaking I a	担当者	A.R Falvo
講義目的、講義概要		授業計画	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Public Speaking II Public Speaking I b	担当者	A.R Falvo
講義目的、講義概要		授業計画	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Public Speaking I Public Speaking I a	担当者	P. McKeவில்
講義目的、講義概要		授業計画	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Public Speaking II Public Speaking II b	担当者	P. McKeவில்
講義目的、講義概要		授業計画	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	Public Speaking I Public Speaking I a	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前半は様々な形態や状況でのスピーチの練習をします。 後半は、公的に発信するためのコミュニケーション戦略を映像制作プロジェクトとして立ち上げます。 現在の英語力よりも、コミュニケーションする積極性が問われます。 春と秋の組み合わせで計画されていますので、1年間継続する学生を想定したクラスです。</p>		<p>1～3 Public Speaking の基本（ミニ講義） 4～6 Oral Interpretation 7～9 Impromptu Speaking 10～14 Public Media Project I</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布予定		授業への積極的な参加のみです。（流暢に話せるかどうかは重要ではありません。）	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	Public Speaking II Public Speaking I b	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の履修が前提となります。 春学期からの継続的な内容です。</p>		<p>1. Mystery Speaking 2. More Theories（ミニ講義） 3. Consultation（相談日） 4～5 Informative Speaking 6. Consultation（相談日） 7～9 Persuasive Speaking 10～14 Public Media Project II</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布予定		授業への積極的な参加のみです。（流暢に話せるかどうかは重要ではありません。）	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	Public Speaking I Public Speaking I a	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 「異文化コミュニケーション」という言葉がよく聞かれる今日、どうしたら英語で上手くコミュニケーションがとれるようになるのでしょうか。この授業では、自分の伝えたい事を言葉のみでなく、Physical Message, Visual Message, Story Message によって如何により効果的にプレゼンテーションが出来るようになるかを学びます。</p> <p>講義概要： プレゼンテーションをする時のコミュニケーションの方法と段階を上記の三つに分けます。それぞれのメッセージは'What', 'Why', 'How', 'Practice' の四項目から成り、更に'Performance'と'Evaluation'のセクションで自分のプレゼンテーションを通じて、又クラスメイトのプレゼンテーションを聞き、如何に改善すべきかを自ら学びとります。</p> <p>カラーの愉快なイラストを使いながら、100パーセント学習者参加型の演習方法で授業を進めていきます。進度は皆さんの様子を見ながら必要に応じて調整していきます。DVDが大きな助けとなるでしょう。</p>		<p>1. Introduction</p> <p>2. [I] THE PHYSICAL MESSAGE: What is Physical Message?</p> <p>3. Posture and Eye Contact</p> <p>4. Informative Speech</p> <p>5. Performance</p> <p>6. Gestures</p> <p>7. Layout Speech</p> <p>8. Performance</p> <p>9. Voice Inflection</p> <p>10. Demonstration Speech</p> <p>11. Performance</p> <p>12. [II] THE VISUAL MESSAGE: Effective Visuals (1)</p> <p>13. Effective Visuals (2)</p> <p>14. Performance</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：Harrington, D. & LeBeau, C., <i>Speaking of Speech – New Edition Basic Presentation Skills for Beginners</i>. MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2009. 2500円 + 税</p>		<p>出席状況、授業への参加度、宿題、発表、試験などから総合的に評価します。主に授業中のプレゼンテーションを最重要視するので、出席は最も重要。</p>	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	Public Speaking II Public Speaking I b	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 春学期と同じ。</p> <p>講義概要： 春学期に引き続く。</p> <p>注意： 何らかの理由で秋学期から履修する場合は、春学期の授業内容を理解し、且つ実際にそこまでの段階のパフォーマンスが出来るようにしておく必要があります。秋学期の最初の授業で指導致します。</p>		<p>1. [II] THE VISUAL MESSAGE (前期の続き) Explaining Visuals (1)</p> <p>2. Explaining Visuals (2)</p> <p>3. Performance</p> <p>4. [III] THE STORY MESSAGE: What is Story Message? Presentation Structure</p> <p>5. Introduction What is the Story Message?</p> <p>6. Introductory Phrases Model Introduction</p> <p>7. Performance (Introduction)</p> <p>8. The Body Evidence</p> <p>9. Transitions</p> <p>10. Sequencers</p> <p>11. Performance (Body)</p> <p>12. The Conclusion – How to Make a Conclusion?</p> <p>13. Performance (Conclusion)</p> <p>14. Final performance</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期と同じ。</p>		<p>春学期と同じ。</p>	

06~09年度(春) 03~05年度(春)	Debate I Debate I a	担当者	J.N.Wendel
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will develop both the English language skills and strategies you need to make discussion and debate in English exciting and challenging. Every other week, we will read a newspaper item on a current topic and discuss the underlying issues and controversies. We will then flesh out arguments for and against a position related to the controversy. Finally, we will organize debate teams and hold debates in class. Throughout the semester, we will discuss debating techniques and strategies. Students will write a position paper of around 300 words on three of the debate topic that are featured.		1 Course introduction and orientation 2-3 Debate introductions and conclusions 4 Debate #1 5-6 Giving your opinions 7 Debate #2 8-9 Agreeing and disagreeing 10 Debate #3 11-12 Giving reasons by comparing and contrasting 13 Debate #4 14 Summary and reflection	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no set textbook. Instructional materials and handouts will be distributed to students throughout the semester.		Assessment will be based on classroom participation, your performance in the debates, and homework assignments.	

06~09年度(秋) 03~05年度(秋)	Debate II Debate I b	担当者	J.N.Wendel
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will develop both the English language skills and strategies you need to make discussion and debate in English exciting and challenging. Every other week, we will read a newspaper item on a current topic and discuss the underlying issues and controversies. We will then flesh out arguments for and against a position related to the controversy. Finally, we will organize debate teams and hold debates in class. Throughout the semester, we will discuss debating techniques and strategies. Students will write a position paper of around 300 words on three of the debate topic that are featured.		1 Course introduction and orientation 2-3 Debate introductions and conclusions 4 Debate #1 5-6 Challenging supports 7 Debate #2 8-9 Responding to attacks 10 Debate #3 11-12 Rebuttal speeches 13 Debate #4	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no set textbook. Instructional materials and handouts will be distributed to students throughout the semester.		Assessment will be based on classroom participation, your performance in the debates, and homework assignments.	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	Debate I Debate I a	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語発話能力の養成を目的とした言語教育活動には現在多くの方法があるが、4技能（聞く、話す、読む、書く）のみならず「考える」という第5の技能を磨くディベートこそ英語発話能力向上の最も効果的な学習方法のひとつといえる。ディベート実践に不可欠な一連の作業を通じて、英語発話能力を向上させていくことを目標とする。</p> <p>前期の最初に、ディベートの実践に必要な技術と評価の為のパロットの書き方を学ぶ。その後、グループに別れて、リサーチやブレインストーミングの段階を経て、ディベートの実践を行う。ディベートの命題としては社会的または政治的な問題を取り扱う予定である。ディベートの準備と実践を通して英語発信能力を、そして他グループの実践に対する評価をする事によって、聴き、理解し、更に発信するコミュニケーション能力を高めることができる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Orientation: What is Argument and What is Debate? 2. Analysis and Structure of Argument 3. Evidence as Support 4. Warrant 5. Refutation 6. How to Research a Topic 7. Case Construction I 8. Case Construction II 9. Structural and Language Considerations 10. 1st Debate I 11. 1st Debate II 12. 1st Debate III 13. Review of the First Debate and Reflections 14. Wrap Up 	
テキスト、参考文献		評価方法	
松本茂『頭を鍛えるディベート入門：発想と表現の技法』講談社ブルーバックス		総合的な評価はディベートのパフォーマンス（60%）、パロット（15%）、クラス内での積極的な参加度（15%）、出席（10%）、そして必要ならば、期末テストの成績を含めて総合的に判断する。	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	Debate II Debate I b	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に学習したディベートの技術に基づき、ディベート実践を反復する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientations 2. Preparation for the Second Debate 3. Preparation for the Second Debate 4. 2nd Debate I 5. 2nd Debate II 6. 2nd Debate III 7. Review of the Second Debate 8. Preparation for the Third Debate 9. Preparation for the Third Debate 10. 3rd Debate I 11. 3rd Debate II 12. 3rd Debate III 13. Review of the Third Debate 14. Course Summary 	
テキスト、参考文献		評価方法	
松本茂『頭を鍛えるディベート入門：発想と表現の技法』講談社ブルーバックス		総合的な評価はディベートのパフォーマンス（それぞれ30%--計60%）、パロット（15%）、クラス内での積極的な参加度（15%）、出席（10%）、そして必要ならば、期末テストの成績を含めて総合的に判断する。	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	通訳 I 通訳 I a	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>通訳の基礎訓練というのは、コミュニケーション能力としての総合的語学力をアップするためシステマティックなトレーニングにはかならない。</p> <p>このため、様々な方法で、リーディング、リスニング、スピーキングの技術を強化していくための練習を具体的に行っていく。</p>		<p>1～2回は通訳全般についての話。3回目以降から実際のトレーニングに入るが、その内容は次のとおり：</p> <p>リピーティング、クイック・レスポンス、シャドーイング、ボキャビル、サイト・トランスレーション、サラマイゼーション、ワンセンテンスからパラグラフ通訳、リテンション、通訳メモの取り方 etc.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用する予定		平常の授業での評価。授業はステップ・アップ形式で進むので欠席すると大変不利。	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	通訳 I 通訳 I b	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<p>同上</p> <p>ただし、春学期よりも内容の種類と難易度が増す。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	通訳 I 通訳 I a	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>☆通年での履修を前提として授業を行います。</p> <p>授業の目的は以下の二つです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 逐次通訳ができるようになる。 2. 聞いて理解できる語彙を増やす <p>教員が通訳訓練学校で受けた訓練方法をそのまま教室で再現し、逐次通訳の実践的トレーニングを行います。</p> <p>語彙が制限されている英語教材を用いるので、内容は聴き取れるのですが、聞きながらメモをとり、即座に日本語に通訳するのは簡単ではありません。毎週、メモを取る技術や、一瞬で日本語に訳す能力を習得していきます。一年後には、聞き取れた内容はすべて即座に通訳できるようになります。</p> <p>ニュースの英語はスピードが速く、単語も難しいので敬遠する学生が多いのが現状です。この度、丁度良いテキストが出版されたのを機に、そんな悩みを解決してみましょう。授業の一部として、少しずつ進みます。</p>		<p><第1回></p> <p>毎回皆さんの通訳は録音し、USBに保存します。一回目は、忘れてくる人がいるので注意して下さい。</p> <p><授業構成></p> <p>最初の20分は、指定したテキストを用いて、ニュースの語彙を学びます。語彙を増やすには、ニュース原稿を見ながらのシャドウイングが効果的です。少しずつですが、一年かけて、報道の語彙力を増やして行きます。</p> <p>残りの70分は、実践的なトレーニングを行います。各自、メモを取りながら、逐次通訳を行います。この時の教材は指定教科書とは別のもので、語彙が制限された教材です。(プリントで配布するので、購入の必要はなし)</p> <p>実際に通訳訓練を行う中で、メモの取り方や、通訳にふさわしい表現などを身につけて行きます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>NHK WORLD NEWS: A Guide to English Listening and Reading 木村友保 南雲堂（語彙の学習テキストとして使用）</p>		出席率、授業中の通訳、小テスト、定期試験の総合評価	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	通訳 I 通訳 I b	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>通年での履修を前提に授業を進めますので、後期から履修すると、授業についてこれられない可能性もあります。</p> <p>前期に引き続き、CALL教室で英語教材を放送し、各自メモを取りながら、実際に逐次通訳を行い、各自のパフォーマンスは録音する、という実践的な訓練を積み重ねます。</p> <p>後期になると、逐次通訳がそれなりに形になってきます。現場からの実況中継がそれらしい日本語で通訳できるようになるでしょう。クタクタになりながらも、緊張感と達成感を楽しんでいる学生が多いようです。</p>		<p><第1回></p> <p>各自、夏休みについてスピーチをし、誰かがそのスピーチの通訳を担当する。</p> <p><第2回以降～></p> <p>上記の春学期に準じます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
前期のテキストを引き続き使用します。		出席率、授業中の通訳、小テスト、定期試験の総合評価	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	通訳Ⅱ 通訳Ⅱa	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><内容の一新> 今年度からは、通訳教材の難易度は、通訳Ⅰと同じにします。</p> <p><講義の目的></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 簡単な同時通訳ができるようになる。 ② 逐次通訳が、通訳Ⅰより、長時間通訳し続けることができるようになる ③ 聞いて理解できる語彙を増やす <p>教員が通訳訓練学校で受けた訓練方法をそのまま教室で再現し、同時通訳や逐次通訳の実践的トレーニングを行います。</p> <p>ニュースの英語はスピードが速く、単語も難しいので敬遠する学生が多いのが現状です。この度、丁度良いテキストが出版されたのを機に、そんな悩みを解決してみましよう。通訳者が語彙を増やすのと同じやり方を用いて、字を目で追いながら放送と同時に声を出すことで語彙を増やします。授業の一部として、少しずつ進みます。</p>		<p>通訳Ⅰの履修が望ましいですが、TOEIC スコア 800 以上の力があれば「通訳Ⅱ」から始めても問題ありません。</p> <p>☆毎週 USB を持参して下さい。各自の通訳は録音し USB に保存します。</p> <p>通訳練習の教材は、語彙の難易度が制限されたものを使います。2 回メモを取った後、長い逐次通訳、内容が完全に把握できたところで、同時通訳の練習へと進みます。</p> <p>同時通訳はとても難しい印象があるようですが、お手本を聞いた後、真似してやってみると、驚くほど言えるようになります。教員の同時通訳を聞き、「どこを訳さないか」を盗んで下さい。</p>	
キスト、参考文献		評価方法	
NHK WORLD NEWS: A Guide to English Listening and Reading 木村友保 南雲堂（語彙の学習テキストとして使用）		出席率、授業中の通訳、小テスト、定期試験の総合評価	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	通訳Ⅱ 通訳Ⅱb	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に準ずる</p> <p>（ひとこと） 日本語と英語では、同じ内容を述べるのにかかる時間が大きく異なります。すべての情報を訳すと、日本語は、英語の 1、5 倍の時間が必要になります。</p> <p>したがって、同時に通訳するには、情報量を減らす工夫が必要となります。逐次通訳は「枝葉まで訳す」、同時通訳は「幹だけ訳す」と方針を定めるとよいでしょう。</p>		春学期に準ずる	
テキスト、参考文献		評価方法	
前期のテキストを引き続き使用します。		出席率、授業中の通訳、小テスト、定期試験の総合評価	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語ビジネス・コミュニケーション (火3) 英語ビジネス・コミュニケーションIa (火3)	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的・講義概要は春・秋学期共通です) 国際化時代にあつて、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、学生の大半が大学を卒業しても簡単な英文レター(メール)さえ書けないのが現状である。簡単なビジネスレターやメールを英語で書けたらどんなに素晴らしいことでしょう。「英語ビジネス・コミュニケーション」とあるように、「英語+ビジネス+コミュニケーション」の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者には「英文 Business Writing の基本」を一年間かけて分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>春学期14回の履修、或いは秋学期14回の履修では当然ながら社会に出て通用するような英語力はつきません。従つて、通年で履修する授業計画となっております。</p> <p>次に、外資系企業、航空業界、貿易業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル業界、観光業界等で英語を使用して働きたいという学生を対象に講義を進めていきたいと思っています。将来に役立つ実践的な英語ビジネス・コミュニケーションの講義であると同時に、(下に続く)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 「Business English を学ぶにあつて」と「ビジネスレターの形式(1)」 3. 「ビジネスレターの形式(2)」 4. 「ビジネスレターの形式(3)」と「練習問題」 5. 「効果的なビジネスレターを書くための10のポイント(1)」 6. 「効果的なビジネスレターを書くための10のポイント(2)」と「練習問題」 7. 「取引の申し込み(1)」 8. 「取引の申し込み(2)」 9. 「取引の申し込みに対する応答」 10. 「引合い(1)」 11. 「引合い(2)」 12. 「オファー(1)」 13. 「オファー(2)」 14. 春学期のまとめ <p>授業計画はあくまで通年で計画しておりますので、大体の目安とと考えてください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
海老沢 達郎著『Business Writing---英文ビジネスレター入門』金星堂		学期末の試験(90%)を中心にして、これに出席・授業への貢献度(10%)を参考にして総合的に評価する。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語ビジネス・コミュニケーション (火3) 英語ビジネス・コミュニケーションIb (火3)	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(上から続く) アカデミックな講義を目指します。</p> <p>具体的に講義を説明します。本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的なビジネスレター(メール)の書き方を指導する。また、Business English を国際語である英語を使用して、ビジネスを促進させるためのビジネス・コミュニケーションとしてとらえ、効果的なビジネスレターの書き方を例を挙げて説明・指導する。また、就職活動に必要な英文履歴書と英文カバーレターの書き方を分かりやすく説明・指導する。</p> <p>「英文 Business Writing 実践練習」と称して、授業で学習した知識を利用して英文 Business Writing の基本的な練習問題を行っていきます。実際に企業等でよく使用されている英文 Business Writing 能力を身につけられるように指導していきたいと思っています。尚、この練習は、春学期後半から行っていきます。</p> <p>メディア英語と併せて履修すると、国際コミュニケーションを体系的に学習することができます。一緒に年間勉強しましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 「英文履歴書の書き方(1)」 3. 「英文履歴書の書き方(2)」 4. 「英文カバーレターの書き方(1)」 5. 「英文カバーレターの書き方(2)」 6. 「オファーに対する応答(1)」 7. 「オファーに対する応答(2)」 8. 「信用状(1)」 9. 「信用状(2)」 10. 「積出し(1)」 11. 「積出し(2)」 12. 「クレーム(1)」 13. 「クレーム(2)」 14. 秋学期のまとめ <p>春学期と同じように「英文 Business Writing 実践練習問題」を秋学期中盤から行っていきます。尚、授業計画は通年で計画しておりますので、大体の目安とと考えてください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
上に同じ		学期末の試験(90%)を中心にして、これに出席・授業への貢献度(10%)を参考にして総合的に評価する。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語ビジネス・コミュニケーション (水3) 英語ビジネス・コミュニケーション I a (水3)	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的・講義概要は春・秋学期共通です) 「英文経済記事の読み方」をテーマにして授業を進めていきたい。国際化時代にあつて、外国からの経済情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことである。しかし、TOEICで900点を取得しても、英文の経済情報を英字新聞・雑誌・インターネット等で読みこなす英語力はほとんどないのが現状と言つてよいでしょう。英文経済記事のある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょうか。本講義では、「英文経済記事」に馴染みのない、全くの初心者である英語学科の学生に、「英語で初歩的な経済記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、一年間かけて分かりやすく、指導していきます。</p> <p>春学期14回の履修、或いは秋学期14回の履修では当然ながら社会に出て通用するような英語力はつきません。従つて、通年で履修する授業計画となっております。</p> <p>次に、外資系企業、航空業界、貿易業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル業界、観光業界等で英語を使用して働きたいという学生を対象に講義を進めていきたいと思つています。将来に役立つ実践的な英語ビジネス・コミュニケーションの講義であると同時に、アカデミックな講義を目指します。(下に続く)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 「英字新聞の特徴について(1)」 3. 「英字新聞の特徴について(2)」 4. 「Headlineの読み方実践練習(1)」と「経済用語解説」 5. 「Headlineの読み方実践練習(2)」と「経済用語解説」 6. 「Headlineの読み方実践練習(3)」と「経済用語解説」 7. 「Leadの読み方実践練習(1)」と「経済用語解説」 8. 「Leadの読み方実践練習(2)」と「経済用語解説」 9. 「Leadの読み方実践練習(3)」と「経済用語解説」 10. 「Leadの読み方実践練習(4)」と「経済用語解説」 11. 「広告欄の読み方(1)」と「経済用語解説」 12. 「広告欄の読み方(2)」と「経済用語解説」 13. 「求人欄の読み方(1)」と「経済用語解説」 14. 春学期のまとめ <p>春学期後半から「経済用語に関する語彙力増強練習」を行つていきます。これにより、「経済用語解説」と併せると、英文経済記事の読み方の基本を身につけることが出来ると思つています。</p> <p>授業計画はあくまで通年で計画しておりますので、大体的目安と考へてください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		学期末の試験(90%)を中心にして、これに出席・授業への貢献度(10%)を参考にして総合的に評価する。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語ビジネス・コミュニケーション (水3) 英語ビジネス・コミュニケーション I b (水3)	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(上から続く) 具体的に講義を説明します。春学期は、日本で発行されている英字新聞の国内の経済記事を中心として基本的な勉強をしていきます。即ち、英字新聞の特徴、Headline(見出し)の読み方、Lead(記事の第1節)の読み方、広告欄の読み方、求人欄の読み方等を分かりやすく説明・指導していきます。秋学期は、国際経済を交えて経済記事全般について本格的に勉強していきます。</p> <p>同時に、例えば、「current account(経常収支)」、「discount rate(公定歩合)」、「deflation(デフレ)」と言つた英文経済記事に出てきた「経済の専門用語」を英語学科の学生にも理解できるように分かりやすく説明していきます。経済の知識がないと、「英字新聞ビジネス欄」を一人ではまず学習できないと思つています。この講義の特色の一つと言えるでしょう。そしてこれが、就職活動の一助になればと思つています。また、春学期後半から、「経済用語に関する語彙力増強練習」を行つていきます。</p> <p>メディア英語と併せて履修すると、国際コミュニケーションを体系的に学習することができます。一緒に一年間勉強しましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 「求人欄の読み方(2)」と「経済用語解説」 3. 「経済記事の読み方実践練習(1)」と「経済用語解説」 4. 「経済記事の読み方実践練習(2)」と「経済用語解説」 5. 「経済記事の読み方実践練習(3)」と「経済用語解説」 6. 「経済記事の読み方実践練習(4)」と「経済用語解説」 7. 「国際経済記事の読み方実践練習(1)」と「経済用語解説」 8. 「国際経済記事の読み方実践練習(2)」と「経済用語解説」 9. 「国際経済記事の読み方実践練習(3)」と「経済用語解説」 10. 「国際経済記事の読み方実践練習(4)」と「経済用語解説」 11. 「英文雑誌経済記事の読み方(1)」と「経済用語解説」 12. 「英文雑誌経済記事の読み方(2)」と「経済用語解説」 13. 「英文雑誌経済記事の読み方(3)」と「経済用語解説」 14. 秋学期のまとめ <p>秋学期中盤から「経済用語に関する語彙力増強練習」を行つていきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
上に同じ		学期末の試験(90%)を中心にして、これに出席・授業への貢献度(10%)を参考にして総合的に評価する。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語ビジネス・コミュニケーション(木3) 英語ビジネス・コミュニケーションIa(木3)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階におけるビジネス通信文(Business Correspondence)を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。</p> <p>具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに(右記参照)、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元(春学期はUnit1～12)における実務知識、通信文のスケルトン・プラン(skeleton plan)、および専門語彙(technical terms)を学ぶとともに、通信文の読解(英文和訳)と作成(和文英訳)の訓練を行います。また、毎月1回(春学期は5月、6月、7月の最初の授業時)、テキストを出題範囲とする語彙力診断テスト(vocabulary check)を実施しますので、履修者は教室外で自主的に語彙力増強に努めなければなりません。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p>*注意: このシラバスは木曜日3時限の授業のもので、杉山担当のもう1つの同一名称科目とは内容が異なります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2 ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などについて詳しく説明します。 3 「市況」の実務知識と通信文の読解・作成 4 「取引先の発見」の実務知識と通信文の読解・作成(第1回語彙力診断テストを実施します) 5 「取引の申込み」の実務知識と通信文の読解・作成 6 「信用照会」の実務知識と通信文の読解・作成 7 「引合い」の実務知識と通信文の読解・作成 8 「引合いに対する返事」の実務知識と通信文の読解・作成(第2回語彙力診断テストを実施します) 9 「オファー」の実務知識と通信文の読解・作成 10 「カウンター・オファー」の実務知識と通信文の読解・作成 11 「注文」の実務知識と通信文の読解・作成 12 「注文の受諾と謝絶」の実務知識と通信文の読解・作成(第3回語彙力診断テストを実施します) 13 「成約」の実務知識と通信文の読解・作成 14 春学期の授業の総復習を行います。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(テキスト) 杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習21講』(三恵社、2007年)および配布プリント</p> <p>(参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メールパーフェクトブック』(すばる舎、2009年)</p>		出席状況、授業貢献度、語彙力診断テストの得点など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語ビジネス・コミュニケーション(木3) 英語ビジネス・コミュニケーションIb(木3)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階におけるビジネス通信文(Business Correspondence)を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。</p> <p>具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに(右記参照)、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元(秋学期はUnit13～21)における実務知識、通信文のスケルトン・プラン(skeleton plan)、および専門語彙(technical terms)を学ぶとともに、通信文の読解(英文和訳)と作成(和文英訳)の訓練を行います。また、毎月1回(秋学期は10月、11月、12月の最初の授業時)、テキストを出題範囲とする語彙力診断テスト(vocabulary check)を実施しますので、履修者は教室外で自主的に語彙力増強に努めなければなりません。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p>*注意: このシラバスは木曜日3時限の授業のもので、杉山担当のもう1つの同一名称科目とは内容が異なります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 秋学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2 ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などについて詳しく説明します。 3 「信用状の開設と訂正」の実務知識と通信文の読解・作成 4 「海上保険」の実務知識と通信文の読解・作成(第4回語彙力診断テストを実施します) 5 「輸出手配」の実務知識と通信文の読解・作成 6 「船積」の実務知識と通信文の読解・作成 7 「輸入手配」の実務知識と通信文の読解・作成 8 「決済」の実務知識と通信文の読解・作成(第5回語彙力診断テストを実施します) 9 「クレーム」の実務知識と通信文の読解・作成 10 「クレーム調整」の実務知識と通信文の読解・作成 11 「会社社交文」(推薦状)の実務知識と通信文の読解・作成 12 「会社社交文」(案内状)の実務知識と通信文の読解・作成(第6回語彙力診断テストを実施します) 13 「会社社交文」(礼状・見舞い状)の実務知識と通信文の読解・作成 14 秋学期の総復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(テキスト) 杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習21講』(三恵社、2007年)および配布プリント</p> <p>(参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メールパーフェクトブック』(すばる舎、2009年)</p>		出席状況、授業貢献度、語彙力診断テストの得点など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語ビジネス・コミュニケーション(木4) 英語ビジネス・コミュニケーションIa(木4)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業では、このうちの「カミ」、すなわち各種の貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書(Business Documents)の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得します。</p> <p>具体的には、工業製品(manufactured goods)の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。春学期は、<u>成約にいたるまでの段階</u>に登場する代表的なビジネス文書として、レター・オブ・インテント(letter of intent; LOI)、スポット売買契約書(one-shot sales contract)の表面約款と裏面約款、長期売買契約書(long-term sales contract)、取扱説明書(instruction manual)などを扱います。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 *注意：このシラバスは木曜日4時限の授業のものです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。 2 レター・オブ・インテントの意義と目的や作成上の注意点について説明し、実際のサンプルを検討します。 3 同上 4 レター・オブ・インテント作成の実習を行います。 5 同上 6 スポット販売契約書(売主側作成)とスポット購買契約書(買主側作成)の目的や作成上の注意点について説明し、実際の「表面約款」のサンプルを検討します。 7 一般取引条件(general terms and conditions)、すなわちスポット売買契約書の「裏面約款」の目的、作成上の注意点、書式の闘い(battle of forms)等について説明し、実際のサンプルを逐条的に検討します。 8 同上 9 長期売買契約書について説明し、実際のサンプルを実質条項を中心に検討します。 10 同上 11 製造物責任(Product Liability)の観点から、英文取扱説明書作成上の注意点について詳しく説明します。 12 Plain Englishでの取扱説明書の方略を検討します。 13 同上 14 春学期の授業の総復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
(テキスト) 当方で用意するプリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)		出席状況、授業貢献度、提出物の提出状況など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語ビジネス・コミュニケーション(木4) 英語ビジネス・コミュニケーションIb(木4)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業では、このうちの「カミ」、すなわち各種の貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書(Business Documents)の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得します。</p> <p>具体的には、工業製品(manufactured goods)の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。秋学期は、<u>履行および決済</u>の段階に登場する代表的なビジネス文書として、商業送り状(commercial invoice)、包装明細書(packing list)、船荷証券(bill of lading)、保険証券(insurance policy)等の船積書類、輸出申告書と輸入申告書、荷為替信用状(documentary letter of credit)などを扱います。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 *注意：このシラバスは木曜日4時限の授業のものです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 秋学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。 2 各種の船積書類(shipping documents; S/D)の意義と目的、作成上または読解上の注意点等を説明します。 3 商業送り状と梱包明細書の実際のサンプルを検討します。 4 商業送り状と梱包明細書を作成する実習を行います。 5 船荷証券と保険証券の実際のサンプルを検討します。 6 船荷証券と保険証券の記載事項を読解する実習を行います。 7 通関手続(customs clearance)について詳しく説明し、輸出申告書と輸入(納税)申告書の実際のサンプルを検討します。 8 輸出申告書(export declaration)を作成する実習を行います。 9 同上 10 輸入(納税)申告書(import declaration)作成する実習を行います。 11 同上 12 荷為替信用状による決済の仕組みを詳しく説明します。 13 荷為替信用状の実際のサンプルを検討し、信用状の記載事項を読解する実習を行います。 14 秋学期の授業の総復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
(テキスト) 当方で用意するプリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)		出席状況、授業貢献度、提出物の提出状況など、平常点を第一に尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語ビジネス・コミュニケーション(月1) 英語ビジネス・コミュニケーションIa(月1)	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語(English for business)である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント(英文ビジネスコラム)の3蘇構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使つての演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ビジネス英語の特徴 2 プリント①(英文ビジネスコラム) 3 国際取引概略I 4 プリント② 5 国際取引概略II 6 プリント③ 7 引合(inquiry) 8 プリント④ 9 オファーI(offer) 10 プリント⑤ 11 オファーII 12 プリント⑥ 13 授業時に説明 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス		受講姿勢 25%、発表/リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語ビジネス・コミュニケーション(月1) 英語ビジネス・コミュニケーションIa(月1)	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語(English for business)である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント(英文ビジネスコラム)の3蘇構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 契約1(contract) 2 プリント⑦ 3 契約II 4 プリント⑧ 5 クレームI(claim) 6 プリント⑨ 7 クレームII 8 プリント⑩ 9 企業内組織の英語 <p>授業と平行して、10月下旬からはリサーチペーパーの作成を予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス		受講姿勢 25%、発表/リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語ビジネス・コミュニケーション(月2) 英語ビジネス・コミュニケーションIa(月2)	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語(English for business)である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント(英文ビジネスコラム)の3蘇構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使つての演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ビジネス英語の特徴 2 プリント①(英文ビジネスコラム) 3 国際取引概略I 4 プリント② 5 国際取引概略II 6 プリント③ 7 引合(inquiry) 8 プリント④ 9 オファーI(offer) 10 プリント⑤ 11 オファーII 12 プリント⑥ 13 授業時に説明 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスライターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス		受講姿勢 25%、発表/リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語ビジネス・コミュニケーション(月2) 英語ビジネス・コミュニケーションIa(月2)	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語(English for business)である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント(英文ビジネスコラム)の3蘇構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 契約1(contract) 2 プリント⑦ 3 契約II 4 プリント⑧ 5 クレームI(claim) 6 プリント⑨ 7 クレームII 8 プリント⑩ 9 企業内組織の英語 <p>授業と平行して、10月下旬からはリサーチペーパーの作成を予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスライターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス		受講姿勢 25%、発表/リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語ビジネス・コミュニケーション実務 英語ビジネス・コミュニケーションIIa	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>豊富な参考資料を活用して、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。特に貿易や国際物流に興味のある人、貿易商社への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務の全体にわたって満遍なく、かつ細かく勉強することを狙いとしています。</p> <p>春学期には、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に6つのステージに区分して、右記のように、その前半(貿易マーケティング段階、取引関係創設段階、成約段階)を詳しく学習します。</p> <p>履修者はあらかじめ配布資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は資料の内容を敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書(信用調査報告書、一般取引条件、注文書、売買契約書、商業送り状、船荷証券、保険証券、輸出申告書、輸入申告書、荷為替信用状等々)に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。</p> <p>なお、右記の授業計画は、実際の授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春学期の授業内容および授業計画の説明 2 貿易の基本概念(1): 比較優位、貿易形態など 3 貿易の基本概念(2): 貿易関係機関、関税など 4 貿易の基本概念(3): 貿易実務の遂行手順の概観 5 貿易の基本概念(4): ビジネス・コミュニケーションが貿易取引の遂行と促進に果たしている役割 6 貿易マーケティング段階: 市場調査 (market research) と販売戦略調査 (marketing research) 7 取引関係創設段階(1): 取引先選定と引合い 8 取引関係創設段階(2): 銀行への信用照会 9 取引関係創設段階(3): 商業興信所への信用照会 10 成約段階(1): 一般取引条件 (general terms & conditions) のうち、いわゆる「主要5条件」(品質・数量・価格・船積・決済) と保険に関する規定 11 成約段階(2): 一般取引条件のうち、当事者関係、準拠法、定型貿易条件などに関する規定 12 成約段階(3): 一般取引条件のうち、不可抗力、クレーム、仲裁などに関する規定 13 成約段階(4): オファー、カウンター・オファー、発注と受注、各種契約関係書類など 14 春学期の授業の総復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
(テキスト) 配布プリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)		出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	英語ビジネス・コミュニケーション実務 英語ビジネス・コミュニケーションIIb	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>豊富な参考資料を活用して、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。特に貿易や国際物流に興味のある人、貿易商社への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務の全体にわたって満遍なく、かつ細かく勉強することを狙いとしています。</p> <p>秋学期には、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に6つのステージに区分して、右記のように、その後半(履行段階、決済段階、クレームおよびクレーム調整の段階)を詳しく学習します。</p> <p>履修者はあらかじめ配布資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は資料の内容を敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書(信用調査報告書、一般取引条件、注文書、売買契約書、商業送り状、船荷証券、保険証券、輸出申告書、輸入申告書、荷為替信用状等々)に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。</p> <p>なお、右記の授業計画は、実際の授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 秋学期の授業内容および授業計画の説明 2 履行段階(1): 信用状 (Letter of Credit; L/C) 3 履行段階(2): 他法令による許可、承認等の取得 4 履行段階(3): 一連の輸出通関手続き 5 履行段階(4): 海上貨物保険 (marine cargo insurance) 6 履行段階(5): 在来船 (conventional vessel) への船積の場合の一巡の手続き 7 履行段階(6): コンテナ船 (container vessel) への船積の場合の一巡の手続き 8 履行段階(7): 航空輸送の場合の一巡の手続き 9 履行段階(8): 各種船積種類 (shipping documents; S/D) 10 決済段階(1): 為替リスクの回避法(先物為替の予約、インパクト・ローン等) 11 決済段階(2): 荷為替手形 (documentary draft) 12 クレームおよびクレーム調整の段階(1): 苦情とクレーム、クレームの種類、クレームの予防など 13 クレームおよびクレーム調整の段階(2): 国際商事紛争の解決法(和解、訴訟、仲裁等) 14 秋学期の授業の総復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
(テキスト) 配布プリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)		出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	メディア英語 I メディア英語 I a	担当者	P. Narum
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course is to introduce students to the various types of English used in the media world: newspapers, magazines, other printed publications, radio news, TV news, the Internet, blogs, etc. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions, and to submit written papers as requested. There will be a midterm exercise to test students' knowledge to that point, and a final examination or presentation at the end of the term.</p> <p>Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year. Media English I is aimed at students with an intermediate-level ability.</p>		<p>1 Introduction, Student Selection</p> <p>2 Class</p> <p>3 Class</p> <p>4 Class</p> <p>5 Class</p> <p>6 Class</p> <p>7 Midterm Quiz/Paper</p> <p>8 Class</p> <p>9 Class</p> <p>10 Class</p> <p>11 Class</p> <p>12 Class</p> <p>13 Class</p> <p>14 Final Examination/Presentation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays/papers/midterm 25%, Final examination/presentation 25%	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	メディア英語 I メディア英語 I b	担当者	P. Narum
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course is to introduce students to the various types of English used in the media world: newspapers, magazines, other printed publications, radio news, TV news, the Internet, blogs, etc. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions, and to submit written papers as requested. There will be a midterm exercise to test students' knowledge to that point, and a final examination or presentation at the end of the term.</p> <p>Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year. Media English I is aimed at students with an intermediate-level ability. Preference will be given to students taking the first-semester course as well.</p>		<p>1 Introduction</p> <p>2 Class</p> <p>3 Class</p> <p>4 Class</p> <p>5 Class</p> <p>6 Class</p> <p>7 Midterm Quiz/Paper</p> <p>8 Class</p> <p>9 Class</p> <p>10 Class</p> <p>11 Class</p> <p>12 Class</p> <p>13 Class</p> <p>14 Final Presentation/Examination</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays/papers/midterm 25%, Final examination/presentation 25%	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	メディア英語 I メディア英語 I a	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的・講義概要は春・秋学期共通です) 国際化時代にあつて、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、TOEIC で900点を取得しても英字新聞を読みこなすことはできません。また、大半の学生が卒業しても、英字新聞を読めないのが現状であります。英字新聞をある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょう。本講義では、「英字新聞丸かじり」と称して、英字新聞に馴染みのない学生に「英字新聞の基本的な読み方」を一年間かけて分かりやすく解説し、指導していきます。 春学期14回の履修、或いは秋学期14回の履修では当然ながら社会に出て通用するような英語力はつきません。従つて、通年で履修する授業計画となっております。 次に、外資系企業、航空業界、貿易業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル業界、観光業界等で、英語を使用して働きたいという学生を対象に講義を進めていきたいと思つています。将来に役立つ実践的なメディア英語の講義であると同時に、アカデミックな講義を目指します。 具体的に講義を説明いたします。本講義では、プリントを使用して、英字新聞を読む意義、英字新聞の特徴、Headline(見出し)の読み方、(下に続く)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 「英字新聞を読む意義」と「英字新聞の特徴(1)」 3. 「英字新聞の特徴(2)」 4. 「英字新聞の特徴(3)」 5. 「Headlineの読み方実践練習(1)」 6. 「Headlineの読み方実践練習(2)」 7. 「Headlineの読み方実践練習(3)」 8. 「Headlineの読み方実践練習(4)」 9. 「Leadの読み方実践練習(1)」 10. 「Leadの読み方実践練習(2)」 11. 「Leadの読み方実践練習(3)」 12. 「Leadの読み方実践練習(4)」 13. 「Leadの読み方実践練習(5)」 14. 春学期のまとめ <p>尚、授業の第5回目あたりから、毎回「英字新聞に頻出する語彙練習問題」を実施し、受講生の語彙力増強を図ります。 授業計画はあくまで通年で計画しておりますので、大体の目安と考えて下さい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		学期末の試験(90%)を中心にして、これに出席・授業への貢献度(10%)を参考にして総合的に評価する。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	メディア英語 I メディア英語 I b	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(上から続く) Lead(記事の第1節)の読み方などの基本をまず指導していきます。次に、具体的に、社会面・政治面・経済面・国際面の記事の読み方、社説の読み方、コラムの読み方などを勉強していき、英字新聞全体をある程度読みこなす力を養成していきたいと思つています。見出しが読めれば、その記事の50%は理解できたと言ってよいでしょう。また、記事の第1節にはその記事の要約が書かれており、一番重要な部分となっております。従つて、「見出し」と「記事の第1節」が理解できれば、その記事を大理解したことになります。本講義ではこの部分の読み方を徹底的に指導し、英字新聞を読みこなす能力を養成いたします。 授業の最初に、「英字新聞の読み方のコツ」と称して、大きな問題となったトピックスを紹介し、英字新聞に頻出する語彙等を解説・説明いたします。同時に、「約400語の英字新聞に頻出する基本語彙集」のプリントを配布いたします。更に、「英字新聞に頻出する語彙練習問題」を行い、受講生の語彙力増強を図ります。これにより、秋学期の終わりには、英字新聞をある程度読めるようになっていくと確信しております。一緒に一年間勉強しましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 「英字新聞社会面の記事の読み方実践練習(1)」 3. 「英字新聞社会面の記事の読み方実践練習(2)」 4. 「英字新聞政治面の記事の読み方実践練習(1)」 5. 「英字新聞政治面の記事の読み方実践練習(2)」 6. 「英字新聞経済面の記事の読み方実践練習(1)」 7. 「英字新聞経済面の記事の読み方実践練習(2)」 8. 「英字新聞国際面の記事の読み方実践練習(1)」 9. 「英字新聞国際面の記事の読み方実践練習(2)」 10. 「英字新聞社説の読み方実践練習(1)」 11. 「英字新聞社説の読み方実践練習(2)」 12. 「英字新聞コラムの読み方実践練習(1)」 13. 「英字新聞コラムの読み方実践練習(2)」 14. 秋学期のまとめ <p>尚、授業の3回目あたりから、春学期と同じように毎回「英字新聞に頻出する語彙練習問題」を実施いたします。このように、本講義は「英字新聞丸かじり」の授業です。 また、英語ビジネスコミュニケーションと併せて履修すると、国際コミュニケーションを体系的に学習することができます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		学期末の試験(90%)を中心にして、これに出席・授業への貢献度(10%)を参考にして総合的に評価する。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	メディア英語 I (月4) メディア英語 Ia (月4)	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカ国内でのテレビニュースは、かなり速度がはやい。そこで使われる単語は一音節の短いものが多く、文章としては単文が多用される。また、緊張感・臨場感を持たせるために、不完全な文が使われる傾向がある。このような英語に慣れるため、授業ではDVDを用いて、アメリカのテレビニュースを聞き取る練習をする。何度も繰り返し聞くことによって、ニュースの内容をより多く把握できるようになること、それがこの授業の目標である。</p> <p>また、新聞で使われる英語も一種独特である。これに習熟しないと英字新聞を読むことはできない。この授業では、新聞英語の特徴を理解し、実際に記事を読んで、その特殊性に慣れるようにする。</p> <p>更に、ラジオ(AFN)や映画を活用して、ヒヤリングの上達を目指す。</p> <p>意外に難しいのがマンガである。英語圏の文化を熟知していないと完全な理解は難しい。マンガも扱う予定。</p> <p>また、英語らしい英語を書けるようになるにはどうすればよいのか。実は、留学をせずに作文力をアップする方法が存在するのである。翻訳の利用である。</p> <p>つまり、様々なメディアで使われる英語に慣れること、英語を聞き取る力を養うこと、これがこの授業の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の進め方、「英語」の学び方について 2 英字新聞の読み方。プリント配布 3 Unit 1 オバマ大統領が英語の先生 4 Unit 2 ソーダの飲み過ぎに注意 5 Unit 3 万能細胞の研究 6 新聞切り抜きを読む。マンガの利用 7 Unit 4 スーツとイギリス人 8 Unit 5 就職先を見つけて 9 映画を利用 10 Unit 6 パキスタンの子供たちと教育 11 Unit 7 オバマ夫人とイギリス 12 AFN、翻訳の利用 13 映画の活用 14 Unit 8 新しい仕事 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ABC World News 12 金星堂</p> <p>参考書は授業において適宜指示する。</p>		<p>出席状況、予習して授業に臨んだか否か(20点)、期末の試験(80点)、などにより評価が決定される。</p>	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	メディア英語 I (月4) メディア英語 Ib (月4)	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の進め方、「英語」の学び方について 2 英字新聞の読み方。プリント配布。「例」を読む 3 新聞切り抜きを読む。翻訳の活用 4 Unit 9 プロムと服装 5 Unit 10 遺伝子操作は許されるか 6 Unit 11 少女の命と犬 7 映画の利用 8 Unit 12 ジンバブエの現状 9 Unit 13 キャンパスと寄付 10 AFN、マンガの利用 11 Unit 14 刺激の強いコマーシャル 12 Unit 15 不況とテント村 13 映画の利用 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期と同じ</p>		<p>春学期と同じ</p>	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	メディア英語 I (木4) メディア英語 Ia (木4)	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカ国内でのテレビニュースは、かなり速度がはやい。そこで使われる単語は一音節の短いものが多く、文章としては単文が多用される。また、緊張感・臨場感を持たせるために、不完全な文が使われる傾向がある。このような英語に慣れるため、授業ではDVDを用いて、アメリカのテレビニュースを聞き取る練習をする。何度も繰り返し聞くことによって、ニュースの内容をより多く把握できるようになること、それがこの授業の目標である。</p> <p>また、新聞で使われる英語も一種独特である。これに習熟しないと英字新聞を読むことはできない。この授業では、新聞英語の特徴を理解し、実際に記事を読んで、その特殊性に慣れるようにする。</p> <p>更に、ラジオ (AFN) や映画を活用して、ヒヤリングの上達を目指す。</p> <p>意外に難しいのがマンガである。英語圏の文化を熟知していないと完全な理解は難しい。マンガも扱う予定。</p> <p>また、英語らしい英語を書けるようになるにはどうすればよいか。実は、留学をせずに作文力をアップする方法が存在するのである。翻訳の利用である。</p> <p>つまり、様々なメディアで使われる英語に慣れること、英語を聞き取る力を養うこと、これがこの授業の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の進め方、「英語」の学び方について 2 英字新聞の読み方。プリント配布 3 Unit 1 オバマ大統領が英語の先生 4 Unit 2 ソーダの飲み過ぎに注意 5 Unit 3 万能細胞の研究 6 Unit 4 スーツとイギリス人 7 映画を利用 8 Unit 5 就職先を見つけて 9 Unit 6 パキスタンの子供たちと教育 10 新聞切り抜きを読む。マンガの利用 11 Unit 7 オバマ夫人とイギリス 12 Unit 8 新しい仕事 13 AFN、翻訳の利用 14 映画の活用 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ABC World News 12 金星堂</p> <p>参考書は授業において適宜指示する。</p>		<p>出席状況、予習して授業に臨んだか否か (20点)、期末の試験 (80点)、などにより評価が決定される。</p>	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	メディア英語 I (木4) メディア英語 Ib (木4)	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の進め方、「英語」の学び方について 2 英字新聞の読み方。プリント配布 3 新聞切り抜きを読む。 4 Unit 9 プロムと服装 5 Unit 10 遺伝子操作は許されるか 6 映画の利用 7 Unit 11 少女の命と犬 8 Unit 12 ジンバブエの現状 9 AFN、マンガの利用 10 Unit 13 キャンパスと寄付 11 Unit 14 刺激の強いコマーシャル 12 映画の利用 13 Unit 15 不況とテント村 14 翻訳の活用 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期と同じ</p>		<p>春学期と同じ</p>	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	メディア英語 I メディア英語 I a	担当者	小林 愛明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>新聞やインターネット等に載せられている情報を通じて、様々な「メディア」の英語を読み・聴き・理解する術を習得していく。なお、“軸”としてはまだホットな(?)話題であろうオバマ大統領を中心として展開していく予定。同時にアメリカにおける人種間の軋轢を、映画などを通じて紹介していく。</p> <p>なお、発表を無断で欠席したり、同じ班の人に対して無責任な行動を取ったりした場合には評価対象外となるので要注意。</p>		<p>1. イントロダクション 2～15. メディア英語（実践）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>① テキストはプリントにて配布。 ② 辞書は毎回必ず持参してくること。 （『リーダーズ英和辞典』レベルのものが望ましい）</p>		<p>出席・発表・学期末のレポートを総合して決める。4回以上欠席した場合やレポートに不備（資料の無断盗用など）がある場合に関しては評価対象外となるので注意。</p>	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	メディア英語 I メディア英語 I b	担当者	小林 愛明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>新聞やインターネット等に載せられている情報を通じて、様々な「メディア」の英語を読み・聴き・理解する術を習得していく。なお、“軸”としてはまだホットな(?)話題であろうオバマ大統領を中心として展開していく予定。同時にアメリカにおける人種間の軋轢を、映画などを通じて紹介していく。</p> <p>なお、発表を無断で欠席したり、同じ班の人に対して無責任な行動を取ったりした場合には評価対象外となるので要注意。</p>		<p>1. イントロダクション 2～15. メディア英語（実践）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>① テキストはプリントにて配布。 ② 辞書は毎回必ず持参してくること。 （『リーダーズ英和辞典』以上のものが望ましい）</p>		<p>出席・発表・学期末のレポートを総合して決める。4回以上欠席した場合やレポートに不備（資料の無断盗用など）がある場合に関しては評価対象外となるので注意。</p>	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	メディア英語 II メディア英語 II a	担当者	A.R Falvo
講義目的、講義概要		授業計画	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	メディア英語 II メディア英語 II b	担当者	A.R Falvo
講義目的、講義概要		授業計画	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	メディア英語 II メディア英語 II a	担当者	P. Narum
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course is to introduce students to the various types of English used in the media world: newspapers, magazines, other printed publications, radio news, TV news, the Internet, blogs, etc. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions, and to submit written papers as requested. There will be a midterm exercise to test students' knowledge to that point, and a final examination or presentation at the end of the term.</p> <p>Students taking my Media English II course cannot take Media English I in the same year. Media English II is aimed at students with an advanced-level ability.</p>		<p>1 Introduction, Student Selection</p> <p>2 Class</p> <p>3 Class</p> <p>4 Class</p> <p>5 Class</p> <p>6 Class</p> <p>7 Midterm Quiz/Paper</p> <p>8 Class</p> <p>9 Class</p> <p>10 Class</p> <p>11 Class</p> <p>12 Class</p> <p>13 Class</p> <p>14 Final Examination/Presentation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays/papers/midterm 25%, Final examination/presentation 25%	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	メディア英語 II メディア英語 II b	担当者	P. Narum
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course is to introduce students to the various types of English used in the media world: newspapers, magazines, other printed publications, radio news, TV news, the Internet, blogs, etc. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions, and to submit written papers as requested. There will be a midterm exercise to test students' knowledge to that point, and a final examination or presentation at the end of the term.</p> <p>Students taking my Media English II course cannot take Media English I in the same year. Media English II is aimed at students with an advanced-level ability. Preference will be given to students taking the first-semester course as well.</p>		<p>1 Introduction</p> <p>2 Class</p> <p>3 Class</p> <p>4 Class</p> <p>5 Class</p> <p>6 Class</p> <p>7 Midterm Quiz/Paper</p> <p>8 Class</p> <p>9 Class</p> <p>10 Class</p> <p>11 Class</p> <p>12 Class</p> <p>13 Class</p> <p>14 Final Presentation/Examination</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays/papers/midterm 25%, Final examination/presentation 25%	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	メディア英語 II メディア英語 II a	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
英字新聞の記事を読む。いろいろな内容の報道記事や特集記事を読むことを通して一般社会で必要とされる英語の語彙力を養成する。予習してきた事を確認するために、毎回簡単な単語テストを行う。教材については、次の授業で使う記事のコピーを毎回配布するので、出来るだけ欠席しないことが大切である。授業では英文記事を和訳しながら内容理解に努めたい。		毎回、授業の初めに単語小テストを行う。授業では主に和訳をしながら記事を読み進める。	
テキスト、参考文献		評価方法	
次の授業で使う教材を毎回配布する。		主として単語小テストの結果の平均点により評価する。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	メディア英語 II メディア英語 II b	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
次の授業で使う教材を毎回配布する。		主として単語小テストの平均点により評価する。	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	シネマ英語 シネマ英語 a	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>百年前の映画も、ビデオで日常的に観ることができる世の中となった。こういう時代に生きて、「映画」を放っておくことはないと思う。芸術、教養として、また、娯楽として、映画をもう一度考え直してみる必要があるのではないだろうか。この授業では、映画に関する様々なことを学んでいく。そして、映画の歴史について学ぶことにより、アメリカ文化についての理解を深めるのが、この授業の目標の一つである。</p> <p>授業では、テキストの精読だけでなく、他の参考書(抜粋のプリント)もできる限り用いる予定。英語を読む力を培うのがこの授業のもう一つの大きな目標である。</p> <p>また、出来るだけビデオを利用して、映画について様々なことを学んで行く予定。少なくとも、映画が嫌いでない、できれば、映画が好き、という人に受講してもらいたい。</p>		<p>(初期の映写機；映画の誕生；特殊効果はどのようにして生まれたか；最初のスタジオ；トーキーの出現；初期のハリウッド；30年代に活躍した俳優たち) などについて学ぶ計画。</p> <p>また、過去の名画を数本鑑賞の予定である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『楽しい映画文化史』 成美堂		出席回数、予習をして授業に臨んだか否か、試験、などによって総合的に評価する。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	シネマ英語 シネマ英語 b	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
前期と同じ。		<p>(ハリウッドとスター・システム；検閲とヘイズコード；カラー映画の出現；アニメ映画の製作；セルの活用；ディズニー映画) などについて学んで行く予定。</p> <p>前期同様、過去の名画を鑑賞する計画である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『楽しい映画文化史』 成美堂		出席回数、予習をして授業に臨んだか否か、試験、などによって総合的に評価する。	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	シネマ英語 シネマ英語 a	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：</p> <p>公開後 60 年を経ても今尚その輝きを失わない名画、「カサブランカ」。(アカデミー賞受賞) 第二次世界大戦のヨーロッパ、モロッコを舞台に繰り広げられる物語をDVDで観賞し、生き生きとしたオーセンティックな使える英語を学び、発表などを通じて実際に使えるようにしていきます。時代的背景の中で深みのある台詞でつづられていくストーリーを楽しみながら学べると思います。</p> <p>講義概要：</p> <p>DVD を見てスクリプトをよく理解し、Exercise で確認します。チャプターごとに好きな表現を選び、ペアでスキットを作成し発表して、生きた英語を身につけていきます。</p>		<p>1. Introduction</p> <p>2. Unit 1. I'll Die in Casablanca</p> <p>3. Unit 2. Where Were You Last Night?</p> <p>4. Unit 3 Yeah? What's His Name? Afternoon Tea Break 1</p> <p>5. Unit 4. Play "As Time Goes By"</p> <p>6. Unit 5. Here's Looking at You, Kid.</p> <p>7. Unit 6. Kiss Me As If It Were the Last Time Afternoon Tea Break 2</p> <p>8. Unit 7. Your Story Had Me a Little Confused</p> <p>9. Unit 8. Nobody Ever Loved Me That Much</p> <p>10. Unit 9. This Café Is Closed Until Further Notice! Afternoon Tea Break 3</p> <p>11. Unit 10. I Wish I Didn't Love You So Much</p> <p>12. Unit 11. She Isn't Just Any Woman</p> <p>13. Unit 12. We Always Have Paris</p> <p>14. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ed. by Hiromi Akimoto/Mayumi Hamada. <i>Casablanca -- Cool and Unforgettable English</i> . Macmillan Languagehouse, ¥2500 +税		出席状況、授業への参加度、宿題、発表、エッセイ提出等から総合的に評価します。授業中のプレゼンテーションも重要視しますので、出席は最も重要。	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	シネマ英語 シネマ英語 b	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：</p> <p>3 つつの有名なアメリカ映画、マーガレット ミッチェルの「風と共に去りぬ」、ルイザ メイ オルコットの「若草物語」、ライマン フランク ボームの「オズの魔法使い」をとうしてアメリカの歴史的、社会的、文化的背景を理解し、アメリカの心を感じることが出来れば嬉しいと思います。</p> <p>講義概要：</p> <p>DVD を観て、練習問題をして内容の理解を確認します。それからその場面場面にちりばめられた多くの英語表現を学び、それらの表現を使い各自スキットを作成して発表することにより実際に使えるようにしていきます。</p>		<p>Introduction</p> <p>1. "Gone With the Wind" Unit 1. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Review</p> <p>3. Unit 2. Same as Above</p> <p>4. Unit 3. "</p> <p>5. Unit 4. Vocabulary Exercises/Scene 1,2, 3/Summary</p> <p>6. "Little Women" Unit 5. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Review</p> <p>7. Unit 6. Same as above</p> <p>8. Unit 7. "</p> <p>9. Unit 8 Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Summary</p> <p>10. "The Wizard of Oz" Unit 9. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Review</p> <p>11. Unit 10. Same as Above</p> <p>12. Unit 11. "</p> <p>13. Unit 12. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Summary</p> <p>13. まとめ (1)</p> <p>14. まとめ (2)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ed. by M. Ishizuka, M. Kobayashi, M. Maass, M. Nagasaki. <i>American Spirits in Movies</i> . Seibido. ¥2400.		春学期に同じ。	

06年度以降	英語学の世界	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、言語学の最近の発展から得られた知見を利用し、英語の特質を探り当てて英語そのものの理解を深め、英語についての知識を増やすことにあります。したがって、高校時代に習ってきた表現が「なぜそう言えるのに、こうは言えないの?」という素朴な疑問に対して、それなりに「なるほど!」と納得のいく理由のあることを説明していきます。</p> <p>この授業を受けると、例えば日本語で「ジョンにタバコをやめるよう説得したけれど、やめなかった」と言っても、“*I persuaded John out of smoking, but he didn’t quit smoking.”と言えない理由や、“I’m standing () the street.”のカッコにinもonも入るけど、意味が違うことが分かるようになります。役に立つ、本質的知識を身につけ、その過程で、ことばが人間であることの大事な証(あかし)であることを理解してほしいと思っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語と日本語の情報構造 2. 情報の新旧と冠詞 3. 情報構造と書き換え構文 4. 英語受動文 5. GET受身とBE受身 6. 動詞的受身と形容詞的受身 5. 自動詞構文と他動詞構文 6. 再帰代名詞の使い方 7. 動詞の意味と構文(結果構文) 8. 動詞の意味と構文(二重目的語構文) 9. 動詞の意味と構文(壁塗り構文) 10. 動詞の意味と構文(tough構文と中間構文) 11. 動詞の意味ネットワーク 12. 前置詞の意味 13. 続き 14. 前置詞の意味ネットワーク 15. アスペクト(進行相と完了相) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 本学の講義支援ポータルサイトを通じてプリントを配布する。</p> <p>参考書: 授業中に適宜紹介する。</p>		<p>課題と小テストおよび定期試験で決める。</p>	

06年度以降	英語学の世界	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的と内容は春学期と同じです。</p> <p>もう少し、この授業を受けると分かるようになる例を挙げておきます。</p> <p>(1) 沸くのは「やかん」ではなく「お湯」なのに、英語も日本語も「やかんが沸く」と言う。 a. The kettle is boiling. b. ヤカンが煮えくり返っている。</p> <p>(2) ‘write Mary a letter’ と ‘write a letter to Mary’ は同じ意味だと習ったのに、bは言えない。 a. John wrote a letter to Mary, but later he tore it up. b. *John wrote Mary a letter, but later he tore it up.</p> <p>(3) [疲れている人に向かって] 「一所懸命働いたから疲れを感じるのさ」という場合にはaのほうがよい。 a. You feel tired because you’ve worked hard. b. ??Because you’ve worked hard, you feel tired.</p> <p>(4) 受動文でgetとbeのどちらを使ったらよいのか。 a. Criminals must {get/?be} arrested to prove their machismo. b. Criminals must {?get/be} arrested to keep the streets safe.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語と日本語の情報構造 2. 情報の新旧と冠詞 3. 情報構造と書き換え構文 4. 英語受動文 5. GET受身とBE受身 6. 動詞的受身と形容詞的受身 5. 自動詞構文と他動詞構文 6. 再帰代名詞の使い方 7. 動詞の意味と構文(結果構文) 8. 動詞の意味と構文(二重目的語構文) 9. 動詞の意味と構文(壁塗り構文) 10. 動詞の意味と構文(tough構文と中間構文) 11. 動詞の意味ネットワーク 12. 前置詞の意味 13. 続き 14. 前置詞の意味ネットワーク 15. アスペクト(進行相と完了相) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 本学の講義支援ポータルサイトを通じてプリントを配布する。</p> <p>参考書: 授業中に適宜紹介する。</p>		<p>課題と小テストおよび定期試験で決める。</p>	

09年度以前 (春)	言語情報処理 I a	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] この授業では、言語が機械（コンピューター）可読の資料になったとき、それらをどのような方法で分析し、その結果をどのようなことに生かせるのかについて知り、考えることを目的とする。</p> <p>[概要] コンピューター・データベース化された大量の自然言語資料を「コーパス」といい、近年では数多くの辞書や文法書、外国語学習書にその分析結果が活かされている。コンピューターを利用することにより、人間の目あるいは直感では知りえないことがわかることがある。たとえば「この世の中で最も多く使われている英単語トップ 10 は何か」とか、「日本の高校で使われている単語は、英字新聞の何%をカバーしているのか」といったことである。 本授業は、さまざまなジャンル、モード、発話者から集められたコーパスを、専用のソフトウェアを用いて分析する演習を中心に進められる。</p> <p>※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. コーパスとは何か、身近な活用例 3. コンピューターの基本操作: テキストエディタ 4. コンピューターの基本操作: MS Excel 5. 高度な Web 検索方法 6. British National Corpus (BNC) の紹介 7. BNC を利用した語彙リストの作成 8. BNC を利用した語彙リストの比較 9. BNC を利用した語句検索 10. BNC を利用した共起検索 11. 品詞の特徴と分析 12. DIY コーパス (映画, 小説, 教科書, etc.) (1) 13. DIY コーパス (映画, 小説, 教科書, etc.) (2) 14. <u>最終レポート</u>の準備 	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。 欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める。	

09年度以前 (秋)	言語情報処理 I b	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] 春学期に引き続きコーパス分析を行うが、今学期は日本人英語学習者による話し言葉・書き言葉を集めた、「学習者コーパス」を分析の対象とする。私たち自身を含む英語学習者のアウトプットデータを分析することにより、どのような語彙・文法使用および誤り (エラー) がわれわれ日本人英語学習者の特徴なのかを知り、今後の学習や教育に活かすことを目的とする。</p> <p>[概要] 主に日本人 1200 人分の英語によるインタビューデータを収集し、コーパス化した NICT JLE Corpus を扱う (日本人中高生 1 万人の英作文を集めた JEFLL Corpus にも触れる)。このコーパスは異なる英語力を持つ学習者グループのデータを含んでいるため、「英語力が低い人と高い人は具体的に何が違うのか?」という疑問に対する答えを求めることができる。分析は、語彙、文法、談話、誤り等の観点から行う。</p> <p>※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい ※ 「言語情報処理 I a」を受講していることが望ましい</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 学習者コーパスとは何か、身近な活用例 3. NICT JLE Corpus の概要 4. 流暢さの分析 (1) 5. 流暢さの分析 (2) 6. 使用語彙の分析 (1) 7. 使用語彙の分析 (2) 8. 使用文法事項の分析 (1) 9. 使用文法事項の分析 (2) 10. 誤り分析 (1) 11. 誤り分析 (2) 12. 誤り分析 (3) 13. <u>最終レポート</u>の準備 (1) 14. <u>最終レポート</u>の準備 (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。 欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める。	

09年度以前(春)	言語情報処理 I a	担当者	吉成 雄一郎
講義目的, 講義概要		授業計画	
<p>(講義目的・講義概要は春・秋学期共通です)</p> <p>本講義では、最終的にはコンピュータというメガネを通して、「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば、皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時、どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ているとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが、必ずしも近くにいるとは限りませんし、聞く相手によって答えが揺れることもあります。</p> <p>そんな時に、一つのヒントを与えてくれるものが、「コーパス」です。コーパスというのは、コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで、普通の辞書では得られない例文を見つけたり、また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。</p> <p>本講義では、まず春学期に情報処理の基本的な考え方、発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析(下に続く↓)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か 2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り 3 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等) 4 Excel 関数(算術・統計関数を中心に) 5 Excel 関数(文字列操作関数を中心に) 6 Excel 関数(論理関数を中心に) 7 Excel 関数のネスト(1) 8 Excel 関数のネスト(2) 9 Excel 関数のネスト(3) 10 データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索) 11 データベース処理(クロス集計とピボットテーブル) 12 データベース上のデータの蓄積方法 13 自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など 14 まとめと演習 	
テキスト, 参考文献		評価方法	
<p>テキスト, 参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

09年度以前(秋)	言語情報処理 I b	担当者	吉成 雄一郎
講義目的, 講義概要		授業計画	
<p>には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが、それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。</p> <p>秋学期は、春学期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに、本格的なコーパス、約1億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は、コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましょう。</p> <p>本講義で修得したコンピュータを使った見方と、構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしよう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義のガイダンス：コーパスとその応用 2 Access 上にデータを格納 3 Access のデータを引き出して Excel で分析 4 コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。 5 コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。 6 コンコーダンスラインの利用(3)：演習 7 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。 8 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。 9 品詞の使われ方と英文の特徴 10 最先端のコーパスの現状：体験アクセス 11 「文体」をどうとらえるか。一文の長さ 12 文の長さが意味するもの—標準偏差・変動係数 13 語彙密度・K 特性値 14 まとめと演習 	
テキスト, 参考文献		評価方法	
<p>テキスト, 参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。</p>		<p>学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

09年度以前(春)	言語情報処理Ⅱa	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「言語情報処理Ⅱ」は「言語情報処理Ⅰ」の履修を前提としません。はじめての人も受講を歓迎します。</p> <p>現代社会にあつて、外国語を習得することと同様に学生時代に身につけておきたい能力が情報処理です。英語が使えることに加えて、コンピュータが使いこなせなければ、どのような分野で仕事をしていても、速く、正確に遂行することができます。</p> <p>この講義では、英語を使って、将来教職に就きたい人、ビジネスの第一線で働きたい人、研究職に就きたい人などを対象に、基本的な情報処理について学びます。単にスキルを身につけるというだけでなく、情報処理するということはどのようなことなのかをアカデミックに、しかも楽しく勉強します。できれば通年で履修してもらいたいと思います。もちろん、はじめての人にもわかりやすくゆっくりと進めます。</p> <p>春学期には、基本的な情報処理の考え方を学びます。使うソフトは主に、Microsoft Excel ですが、PowerPoint や Word などの連携などにも触れたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か 2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り 3 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等) 4 Excel 関数の扱い 5 Excel 関数のネスト 6 データベース処理 7 データベース上のデータの蓄積方法 8 PowerPoint や Word との連携 <p>*その他受講生の皆さんの理解度と反応によって、コンテンツを提供します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

09年度以前(秋)	言語情報処理Ⅱb	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「言語情報処理Ⅱ」ははじめての人の受講を歓迎します。ただし、Ⅱb から始めるのではなく、なるべくⅡa から履修することを推奨します。</p> <p>獨協大生の4人に一人は末っ子だ、と聞いて、驚きますか、納得しますか。実はこの数字が、獨協の友達4人に聞いたらそのうちの一人が末っ子を聞いて、それから導き出された結論だとしたらいかがですか。</p> <p>社会にはデータがあふれています。これらのデータをうまく処理することで、物事の本質の一面を正しくとらえることができるのです。逆にデータの処理の仕方を誤ると、間違った結論にもなってしまうわけです。</p> <p>本講義では、春学期に学んだ Microsoft Excel(以下 Excel)を使って、データの処理の仕方を学んでいきます。また、処理した結果をグラフ化したり、Word に貼り付けてレポートを作ったり、PowerPoint で表示させてみましょう。分からないことは何でも質問してください。</p> <p>この講義が終わることには、Excel の使い方に精通しているだけでなく、統計処理の基本概念が身についていることでしょう。この知識は将来、きっと様々なところで役に立つと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義のガイダンス：Excel と統計 2 統計って何？ 3 平均にだまされるな 4 ばらつきって何？ 5 度数分布 6 相関 7 「偏差値」とは何だったのか 8 検定 <p>*その他受講生の皆さんの理解度と反応によって、コンテンツを提供します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

09年度(春) 06~08年度(春)	実践英語音声学 英語発音教授法	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コミュニケーション重視の教育の中で、発音指導は欠かせないものになっており、英語習得の初期段階でしっかりと発音指導をしておかなければならない。そのためにも自分の発音を再確認し、自信をもって教えられるようにすることを目的とする。</p> <p>実践を通して、子音、母音、弱形、音の同化、接続、強勢とリズム、抑揚などについて発音仕方の再確認とその教授法を学ぶ。講義にはプリントを用いるが、中学校・高校の教科書も一部教材として用い、発音指導の実践をする。</p> <p>聞き取りの力をつけるために授業時に Quiz を行い、課外用に dictation の宿題を課す。USB を用意すること。</p> <p>英語教育に関心のある2年生以上を対象とする半期完結科目。免許課程登録者でなくても履修可。</p> <p>受講希望者は、英語音声学の基礎知識があること、発音記号を少なくとも読めることが必要である。</p> <p>定員は25名。受講希望者は春学期の最初の授業に必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Pre-test, 英語の母音の特徴 3. " 4. " (Presentation) 5. 英語の子音の特徴 6. " 7. " (Presentation) 8. まとめ(対話や散文等を用いた練習), 音声提出(1) 9. 英語の強勢とリズム 10. " (Presentation) 11. 英語のイントネーション 12. " (Presentation) 13. 英語の音変化 14. " (Presentation), 音声提出(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリントおよび『5分間 英語発音』南雲堂 参考文献：P. Avery and S. Ehrlich, <i>Teaching American English Pronunciation</i>, OUP. その他、授業中に随時紹介する。</p>		<p>出席状況 2/3以上出席していること 平常点：Presentation & Quiz 10%、宿題 20% 音声提出：30% 期末試験：40%</p>	

09年度(秋) 06~08年度(秋)	実践英語音声学 英語発音教授法	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コミュニケーション重視の教育の中で、発音指導は欠かせないものになっており、英語習得の初期段階でしっかりと発音指導をしておかなければならない。そのためにも自分の発音を再確認し、自信をもって教えられるようにすることを目的とする。</p> <p>実践を通して、子音、母音、弱形、音の同化、接続、強勢とリズム、抑揚などについて発音仕方の再確認とその教授法を学ぶ。講義にはプリントを用いるが、中学校・高校の教科書も一部教材として用い、発音指導の実践をする。</p> <p>聞き取りの力をつけるために授業時に Quiz を行い、課外用に dictation の宿題を課す。USB を用意すること。</p> <p>英語教育に関心のある2年生以上を対象とする半期完結科目。免許課程登録者でなくても履修可。</p> <p>受講希望者は、英語音声学の基礎知識があること、発音記号を少なくとも読めることが必要である。</p> <p>定員は25名。受講希望者は秋学期の最初の授業に必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Pre-test, 英語の母音の特徴 3. " 4. " (Presentation) 5. 英語の子音の特徴 6. " 7. " (Presentation) 8. まとめ(対話や散文等を用いた練習), 音声提出(1) 9. 英語の強勢とリズム 10. " (Presentation) 11. 英語のイントネーション 12. " (Presentation) 13. 英語の音変化 14. " (Presentation), 音声提出(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリントおよび『5分間 英語発音』南雲堂 参考文献：P. Avery and S. Ehrlich, <i>Teaching American English Pronunciation</i>, OUP. その他、授業中に随時紹介する。</p>		<p>出席状況 2/3以上出席していること 平常点：Presentation & Quiz 10%、宿題 20% 音声提出：30% 期末試験：40%</p>	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	シンタクス a 統語論 a	担当者	鈴木 英一
講義目的・講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 英語の文の基本的構造は述語動詞によって決定される。春学期は〈動詞中心の英文法〉というテーマで、動詞の特徴と文の基本的構造や文の派生的構造との関係を考察する。 特に、動詞の項構造を基にした主語決定操作による基本的文構造の決定と、動詞の特性や基本文構造に基づく変形規則適応可能性から派生的文構造の決定を考察する。</p> <p>講義概要: 英語の基本文型を説明する仕組みとして有力な〈5文型〉を検討し、7文型より優れていることを示す。その際に、補語の再検討と第5文型の〈目的語+目的格補語〉の多様性も検討する。次に、英語の基本文型を決定するために必要な、動詞の項構造のタイプを考察し、それに基づいて主語決定のメカニズムと受動可能性と受動文の特徴を明らかにする。さらに、非人称構文や主語・目的語繰り上げ構文や存在文を許す動詞を検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 5文型の概要 2. 5文型と7文型の比較 3. 動詞の項構造と補語の再定義 4. 第5文型の〈目的語+目的格補語〉の多様性 5. 動詞の項構造のタイプ(1) 6. 動詞の項構造のタイプ(2) 7. 主語決定のメカニズム(1) 8. 主語決定のメカニズム(2) 9. 英語の受動態: 受動態の特徴 10. 英語の受動態: 中間態の特徴 11. 非人称構文を許す動詞 12. 主語繰り上げを許す動詞 13. 目的語繰り上げを許す(例外的格付与)動詞 14. 存在文(There構文)の可能な動詞 15. まとめ: 英語の統語構造 	
テキスト・参考文献		評価方法	
<p>テキスト: プリントを使用。 参考文献: 鈴木英一・安井泉『動詞』研究社。鈴木英一『統語論』開拓社。影山太郎『動詞意味論』くろしお出版。藤田耕司・松本マサミ『語彙範疇(I)動詞』研究社。</p>		出席状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	シンタクス b 統語論 b	担当者	鈴木 英一
講義目的・講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 秋学期は、文の典型的な〈周辺の要素〉である様々な修飾語を取り上げ、〈英語副詞の世界〉というテーマで、副詞と副詞要素を中心に考察する。 副詞要素には、義務的副詞要素と呼ばれる文構造の核心的要素と考えられる用法から、いかなる共起制限もない自由付加詞と呼ばれる用法もある。英語の副詞の多様性を豊富な用例を用いて明らかにする。</p> <p>講義概要: まず、副詞という品詞にどのような語が含まれるかを考察し、形容詞と比較検討しながら、副詞の一般的な特徴を明らかにする。次に、副詞の機能と意味と文中での位置を考察し、それに基づいて、節外副詞と節内副詞を区別し、さらに、節外副詞の下位類と節内副詞の下位類の特徴を詳しく考察する。 Bowers, J. "Adjectives and Adverbs in English," <i>FL</i> 13. 1975. Cinque, G. <i>Adverbs and Functional Heads</i>. 1999. Emonds, J. <i>A Transformational Approach to English Syntax</i>. 1976. Ernst, T. <i>The Syntax of Adjuncts</i>. 2002. Greenbaum, S. <i>Studies in English Adverbial Usage</i>. 1969. Alexiadou, A. <i>Adverb Placement</i>. 1997. Travis, L. "The syntax of adverbs," 1988.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 副詞の種類 2. 副詞という品詞の混雑性 3. 副詞と形容詞(1): 修飾要素としての類似点と相違点 4. 副詞と形容詞(2): Bowers (1975)とTravis (1988)の主張 5. 副詞の機能: Quirk et al. (1985)とErnst (2002) 6. 副詞の意味: Greenbaum (1969) (郡司年男・鈴木英一(監訳)) 7. 副詞の位置: Emonds (1976)とAlexiadou (1997) 8. 節外副詞と節内副詞の区別: Cinque (1999) 9. 節外副詞(接続副詞・文副詞)の特徴(1): 意味・機能 10. 節外副詞(接続副詞・文副詞)の特徴(2): 文中の位置 11. 節外副詞(接続副詞・文副詞)の特徴(3): 共起制限 12. 節内副詞の特徴(1): 時・場所の副詞 13. 節内副詞の特徴(2): 主語・視点の副詞〔下接詞の特徴〕 14. 節内副詞の特徴(3): 様態・道具・手段の副詞 15. まとめ: 英語の副詞の体系 	
テキスト・参考文献		評価方法	
<p>テキスト: プリントを使用。 参考文献: Quirk, R., Greenbaum, S., Leech, G and Svartvik, J. <i>A Comprehensive Grammar of the English Language</i>. 1985.</p>		出席状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。	

09年度以前（春）	意味論 a	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、言語学・英語学における意味論と呼ばれる分野の基本的な考え方を身につけることである。そして、これにより、英語に対する理解が深まり、さらに、間違いない英語から英語らしい英語へと関心の持ち方が変わるはずである。また、英語に対する深い理解は、同時に、多くのものにとっての母語である日本語に対する理解をも深めることになるであろう。</p> <p>授業では、下記のテキストの第1章「ことばと意味」、第2章「語彙の中の意味関係」、第3章「文法と意味」及び第4章「意味とコンテキスト」の前半部分の内容を講義する。</p> <p>学期末には、たとえば、A large peach flowed down the river.という文が不適格であるという事実や I believe John honest. と I believe that John is honest.の間の意味の違いを知識として知るだけでなく、これらの事実に対する説明を与えることができるようになっていくはずである。英語に対するこのような接し方は、単なる暗記の対象としての英語、意思伝達の道具としての英語という見方を考え直す契機となるであろう。</p>		<p>第1回（4月6日）オリエンテーション（出席は必須）</p> <p>第2回（4月13日）ことばと意味1</p> <p>第3回（4月20日）ことばと意味2</p> <p>第4回（4月27日）ことばと意味3</p> <p>第5回（5月11日）語彙の中の意味関係1</p> <p>第6回（5月18日）語彙の中の意味関係2</p> <p>第7回（5月25日）語彙の中の意味関係3</p> <p>第8回（6月1日）文法と意味1</p> <p>第9回（6月8日）文法と意味2</p> <p>第10回（6月15日）文法と意味3</p> <p>第11回（6月22日）意味とコンテキスト1</p> <p>第12回（6月29日）意味とコンテキスト2</p> <p>第13回（7月6日）意味とコンテキスト3</p> <p>第14回（7月13日）春学期の復習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>池上嘉彦（2006） 『英語の感覚・日本語の感覚—（ことばの意味）のしくみ』 東京：日本放送出版協会</p>		<p>評価は定期試験期間中の試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である（ただし、出席そのものが加点の対象となることはない）。</p>	

09年度以前（秋）	意味論 b	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、言語学・英語学における意味論と呼ばれる分野の基本的な考え方を身につけることである。そして、これにより、英語に対する理解が深まり、さらに、間違いない英語から英語らしい英語へと関心の持ち方が変わるはずである。また、英語に対する深い理解は、同時に、多くのものにとっての母語である日本語に対する理解をも深めることになるであろう。</p> <p>授業では、下記のテキストの第4章「意味とコンテキスト」の後半部分、第5章「意味の変化のダイナミズム」、第6章「言語の普遍性と相対性」及び第7章「ことばの限界を越えて」の内容を講義する。</p> <p>学期末には、たとえば、I listened but heard nothing. という文が矛盾なく使えるという事実や“Where am I?”に対応する日本語が「ここはどこですか」であることを知識として知るだけでなく、これらの事実に対する説明を与えることができるようになっていくはずである。英語に対するこのような接し方は、単なる暗記の対象としての英語、意思伝達の道具としての英語という見方を考え直す契機となるであろう。</p>		<p>第1回（9月28日）オリエンテーション（出席は必須）</p> <p>第2回（10月5日）意味とコンテキスト1</p> <p>第3回（10月12日）意味とコンテキスト2</p> <p>第4回（10月19日）意味とコンテキスト3</p> <p>第5回（10月26日）意味の変化のダイナミズム1</p> <p>第6回（11月2日）意味の変化のダイナミズム2</p> <p>第7回（11月9日）意味の変化のダイナミズム3</p> <p>第8回（11月16日）言語の普遍性と相対性1</p> <p>第9回（11月23日）言語の普遍性と相対性2</p> <p>第10回（11月30日）言語の普遍性と相対性3</p> <p>第11回（12月7日）ことばの限界を越えて1</p> <p>第12回（12月14日）ことばの限界を越えて2</p> <p>第13回（12月21日）ことばの限界を越えて3</p> <p>第14回（1月11日）秋学期のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>池上嘉彦（2006） 『英語の感覚・日本語の感覚—（ことばの意味）のしくみ』 東京：日本放送出版協会</p>		<p>評価は定期試験期間中の試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である（ただし、出席そのものが加点の対象となることはない）。</p>	

09年度以前(春)	音声・音韻論 a	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>講義目的</u> 1年生の「英語音声学」で学んだことを基にさらに発展させ、英語と日本語を中心に様々な音の特徴や変化についてそのしくみや法則を考えていく。</p> <p>音声には音声的な側面と音韻的な側面が表裏一体となって存在する。音声は常に変化する量的なもので千差万別であり、空中に音波としての実体がある。一方、音韻はその変化する音声に、AならA、BならBという質的(非量的)な記号を当てて脳に格納されている抽象的実体である。</p> <p>音声の特徴や変化の法則性(音韻)について、その背後にある音声実態(音声)の多様性を紹介しながら、音声と音韻の関係という言語音声の表裏一体性について導入を試みる。</p> <p><u>講義概要</u> 毎回の読み課題や練習課題をもとに、解説・補足の講義をする。クイズで理解を確認する。予習、出席、提出などに積極的な参加が求められる。</p> <p><u>メッセージ</u> 2年秋に音声学ゼミ入志望(2, 3次希望でも)の可能性のある学生は是非学んで欲しい。(下欄に続く)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 第1章 音と文字 第2章 子音の調音 第3章 母音の調音 母音の有標性、子音の有標性、Exercises 第3章 音素と音素体系 第4章 音と意味 第5章 音声特徴 弁別素性、Exercises 第6章 音節と音の並び方(音韻的分節、音声的分節、分綴法) 音節とモーラ 第10章 語アクセント 語アクセント(2)、第二アクセント、無アクセント 第11章 リズムとイントネーション リズムとイントネーション(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
川越いつえ『英語の音声を科学する』大修館(1999)(ISBN4-469-21232-6)、その他 配布資料(参考書) 窪菌晴夫『音声学・音韻論』くろしお出版(1998)		出席、クイズ、課題、期末試験の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。	

09年度以前(秋)	音声・音韻論 b	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>講義目的</u> 春学期と同じ。</p> <p><u>講義概要</u> 春学期と同じ。</p> <p><u>メッセージ</u> 2年秋に音声学ゼミ入志望(2, 3次希望でも)の可能性のある学生は是非学んで欲しい。</p> <p>また、春学期と学習内容は変わるので秋のみの受講もあり得るし歓迎だが、春の内容が前提となることもあるので、その分、各自補足が必要になるかもしれない(春に足し算を学んで、秋に掛け算を学ぶと、秋に足し算なしでは問題が語りにくいようなもの)。</p>		<ol style="list-style-type: none"> Review セグメント、音節、フット、アクセント(語、句) 第7章 音韻現象を探る 音韻現象を探る(2) Exercises 第8章 同化現象 同化現象(2) 第9章 形態音素 音声と統語構造、意味構造とのインターフェース Review Exercises 音韻表示と音声実現(1) 音素と音響的特長 音韻と音声(2) 音声の知覚、音声から音韻へのマッピング 音韻と音声(3) 鼻母音と鼻音化母音 音韻と音声(4) 母音の脱落と調音重複、脱落と無声化 最適性理論 Review Exercises 	
テキスト、参考文献		評価方法	
川越いつえ『英語の音声を科学する』大修館(1999)(ISBN4-469-21232-6)、その他 配布資料(参考書) 窪菌晴夫『音声学・音韻論』くろしお出版(1998)		出席、毎回の課題、期末テスト・課題の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。	

09年度以前(春)	英語学特殊講義 a	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ドアをノックする」を英語で何と言うかと尋ねると、多くの高校生が knock the door と回答します。正解は knock on the door ですが、ではなぜそう言うのかと問うと、「そう習ったから」としか答えない学生がほとんどです。しかし、実はどうして on が必要なのかというような問い掛けこそが英語の勘を養う上でとても重要なことです。そしてこの間にたいする答(=理屈)に「なるほど、そうなのか!」と納得することができれば、英語を学ぶことの知的好奇心を満たすことになり、それがひいては英語学習の強い動機づけにつながります。そうやって動機づけられた学習者は、「そういえば、ああいう言い方をするのも同じ原理なのではないだろうか」という思考を通じ、例えば、「鉛筆を噛まないで」も Don't chew your pencil.ではなく on が必要になること、「雨に降られた」を It rained on me.とすること、どうして look には She looked me in the eye.の「他動詞」用法と She looked at me.の「自動詞」用法があるのかということ、また The hunter shot at the tiger dead (撃ち殺した)とは言えないけれども at を取れば言えるようになること等々、原理の拡張・応用を行えるようになります。[下へ続く]</p>		<ol style="list-style-type: none"> はじめに 認知言語学の基本的考え方 続き 続き 意味の拡張(多義性とネットワークモデル) 続き 続き 基本動詞の意味世界 続き 続き 前置詞の意味世界 続き 続き 続き 	
テキスト		評価方法	
田中茂範・ほか 2006.『英語感覚が身につく実践的指導 コアとチャンクの活用法』大修館書店		定期試験、課題、小テストによる。	

09年度以前(秋)	英語学特殊講義 b	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[上から続く] この授業では、ことばにたいする(認知)意味論的な見方を応用言語学的な視点から捉え直し、英語を日常的に使用する環境にない学習者が、「なぜそう言えるのか」という理由をきちんと知識として理解できるようにするために、教師として身につけなければならない、いわば「教育英文法」について考えていきます。そのためには、認知言語学の基本的な考え方を春学期に学び、その考え方と成果を踏まえたうえで、英語を教える側にも学ぶ側にも「かなり納得のいく」英語語法・文法の知識を身につけて貰いたいと思っています。</p> <p>第1回目の授業のプリントは、大学ホームページ「学習支援ポータルサイト」→交流文化学科→府川謹也→英語学特殊講義→講義支援→英語学特殊講義→「授業計画」から全日までに必ずダウンロード印刷してください。これができない人は、gamba_dokkyo@yahoo.co.jp に請求してください。ファイルを添付書類で送ります。</p> <p>なお、受講者数が不明で紙資源の無駄遣いを防ぐため、第1回目の授業にプリントを用意しませんので、必ず事前に上記方法で手に入れてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 新しい教育英文法: ①make, give, have, be 等 ②-ingのはたらき、進行相、 ③不定詞と動名詞 ④wh-構文: 疑問視か関係詞か ⑤冠詞の機能 続き ⑥法助動詞: 心的態度の表明 ⑦他動性と構文 続き ⑧二重目的語構文 続き チャンキング・メソッド—会話と読解 続き 続き 	
参考文献		評価方法	
河上誓作(編) 1996.『認知言語学の基礎』研究社出版 松本 曜(編) 2003.『認知意味論』大修館書店 Radden, et al. 2007. <i>Cognitive English Grammar</i> . Lee, D. 2001. <i>Cognitive Linguistics: An Introduction</i> .		定期試験、課題、小テストによる。	

09年度以前（春）	英語学特殊講義 a	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちは、自分が机と同じと考えないし、金魚と同じとも考えないでしょう。犬、チンパンジーとなるとかなり似ている（もしくは友達！）と考える人が多いかもしれませんが。しかし、やはり私たちは「人類」として無生物や他の生物とははっきり違う能力をもっています。この授業では人間の言語能力を中心に「私たちは何故こうなのか」という問いについて考えていきたいと思います。</p> <p>英語学入門の既習が前提ですが、学期の前半にシンタクスの基本的考えを解説します。後半は英語の疑問文に見られる制約とその普遍性について議論します。</p> <p>授業は講義形式ですが、毎回テキストもしくは授業内容に関する Worksheet に取り組んでもらいます。</p> <p>中間、期末試験はテキストと Worksheet 持ち込みで行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 私たちは何故こうなのか：遺伝と経験 (Worksheet 1) 2. 私たちは何故こうなのか：遺伝と経験 (Worksheet 2) 3. 頭の中にある言語の文法の概要 (Worksheet 3) 4. シンタクスの基本 (Worksheet 4) 5. シンタクスの基本(Worksheet 5) 6. シンタクスの基本(Worksheet 6) 7. 中間試験 8. 英語の疑問文 (Worksheet 7) 9. 英語の疑問文 (Worksheet 8) 10. 英語の疑問文 (Worksheet 9) 11. 英語の疑問文 (Worksheet 10) 12. 音楽の「文法」(Worksheet 11) 13. 視覚の「文法」(Worksheet 12) 14. 復習 <p>期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ray Jackendoff (1994) <i>Patterns in the Mind: Language and Human Nature</i> . Basic Books, Parts 1-4, 6, 13.		中間、期末試験（テキストと Worksheet 持ち込み）による。	

09年度以前（秋）	英語学特殊講義 b	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的は英語学特殊講義 a と同じです。</p> <p>授業は講義形式ですが、毎回テキストもしくは授業内容に関する Worksheet に取り組んでもらいます。</p> <p>中間、期末試験はテキストと Worksheet 持ち込みで行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 子供はどのように言語を獲得するか (Worksheet 1) 2. 子供はどのように言語を獲得するか (Worksheet 2) 3. 音の構造(Worksheet 3) 4. 単語の構造(Worksheet 4) 5. 日英語の文の基本構造 (Worksheet 5) 6. 日英語の文の基本構造 (Worksheet 6) 7. 中間試験 8. 日英語の照応形、代名詞などの比較 (Worksheet 7) 9. 日英語の照応形、代名詞などの比較 (Worksheet 8) 10. 日英語の照応形、代名詞などの比較 (Worksheet 9) 11. 日英語の照応形、代名詞などの比較 (Worksheet 10) 12. 特殊な言語獲得：失語症など (Worksheet 11) 13. 特殊な言語獲得：新しく作られる言語 (Worksheet 12) 14. 復習 <p>期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ray Jackendoff (1994) <i>Patterns in the Mind: Language and Human Nature</i> . Basic Books, Parts 5, 8-11.		中間、期末試験（テキストと Worksheet 持ち込み）による。	

08年度以前(春)	英語学文献研究 a	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、英語学に関する知識を単に増やすことではなく、英語学という知的営みに参加できるようになることである。先行研究の正確な理解に必要な読みの技術、単なる揚げ足取りでない問題点の捉え方、有意義な問題設定の仕方、説得力のある議論の仕方などを身につけることを目標としたい。合わせて、英語そのものについての理解を深めることも目指したい。</p> <p>授業では、下記のテキストを一行一行丹念に読み進めてゆく(プリントを配布する)。なお、ここでいう「読み」とは、「情報として読む」ということではなく、「古典として読む」ということである(この二通りの読みについては、内田義彦の『読書と社会科学』(岩波新書)を参照)。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>学期末には、たとえば、We saw Joan blink.と We saw Joan blinking.の間の意味の違いや、In this photograph you can see Joan blinking.とは言えるが In this photograph you can see Joan blink.とは言えないことなどについて説明を与えられるようになるであろう。</p>		<p>春学期 14回の授業でテキストを読み進める。以下に、進度の目安・目標となる予定をあげておく。</p> <p>第1回(4月9日)オリエンテーション(出席は必須) 第2回(4月16日)200ページから 第3回(4月23日) 第4回(4月30日) 第5回(5月7日) 第6回(5月14日) 第7回(5月21日)220ページまで 第8回(5月28日)221ページから 第9回(6月4日) 第10回(6月11日) 第11回(6月18日) 第12回(6月25日) 第13回(7月2日)240ページまで 第14回(7月9日)春学期の復習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kirsner, Robert S., Charles N. Li, and Sandra A. Thompson (1976) "The Role of Pragmatic Inference in Semantics: A Study of Sensory Verb Complements in English," <i>Glossa</i> 10.2: 200-240.		評価は定期試験期間中の試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である(ただし、出席そのものが加点の対象となることはない)。	

08年度以前(秋)	英語学文献研究 b	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、英語学に関する知識を単に増やすことではなく、英語学という知的営みに参加できるようになることである。先行研究の正確な理解に必要な読みの技術、単なる揚げ足取りでない問題点の捉え方、有意義な問題設定の仕方、説得力のある議論の仕方などを身につけることを目標としたい。合わせて、英語そのものについての理解を深めることも目指したい。</p> <p>授業では、下記のテキストの第9章と第10章を一行一行丹念に読み進めてゆく(プリントを配布する。テキスト購入は要しない)。なお、ここでいう「読み」とは、「情報として読む」ということではなく、「古典として読む」ということである(この二通りの読みについては、内田義彦の『読書と社会科学』(岩波新書)を参照)。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>学期末には、たとえば、This machine lacks a control lever.と This machine is lacking a control lever.の間の意味の違いや、He is being stupid.とは言えるが He is being tall.とは言えないことなどについて説明を与えられるようになるであろう。</p>		<p>秋学期 14回の授業でテキストを読み進める。以下に、進度の目安・目標となる予定をあげておく。</p> <p>第1回(9月24日)オリエンテーション(出席は必須) 第2回(10月1日)147ページから 第3回(10月8日) 第4回(10月15日) 第5回(10月22日) 第6回(11月5日) 第7回(11月12日)156ページまで 第8回(11月19日)157ページから 第9回(11月26日) 第10回(12月3日) 第11回(12月10日) 第12回(12月17日) 第13回(12月24日)169ページまで 第14回(1月7日)秋学期の復習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lee, David (2001) <i>Cognitive Linguistics: An Introduction</i> . Oxford: Oxford University Press.		評価は定期試験期間中の試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である(ただし、出席そのものが加点の対象となることはない)。	

08年度以前(春)	英語学文献研究 a (第二言語習得)	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>誰でも外国語を学習する際、効率よく、効果的にその言語を身につけたいと思う。しかし、母語(第1言語:L1)と第二言語(L2)の違い、学習者の年齢、動機、学習環境など、いくつもの要因が学習効果に影響を与えている。第二言語習得研究は、言語学以外にも社会学、心理学、教育学など学際的な研究が必要な分野である。今までの研究成果を踏まえ、現在どのようなことが研究されているかを知り、今後の研究課題を探る。</p> <p>第二言語習得(second language acquisition: SLA)理論と実践に関わる論文を読み、言語教育について考える。各トピックの最終回には、グループ別に発表をする。詳しくは最初の授業で説明する。</p> <p>SLA についての予備知識は特に求めないが、言語教育、言語習得研究に興味を持っていることが必要。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. What is Second Language Acquisition? 3. " 4. " 5. Krashen's Hypotheses 6. " 7. Developmental Sequences 8. " 9. Learner Language 10. " 11. " 12. Error Analysis 13. " 14. " 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリントを使用 参考文献： Rod Ellis: Second Language Acquisition, OUP 白畑知彦他 (2009)『英語教育用語辞典』大修館書店 その他、授業中に随時紹介する。</p>		<p>平常点 10% 個人研究レポート 40% 期末テスト 50%</p>	

08年度以前(秋)	英語学文献研究 b (第二言語習得)	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、第二言語習得に関するトピックをいくつか取り上げる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. L1/ L2 and Language Transfer 3. " 4. Learning Strategies 5. " 6. " 7. Motivation 8. " 9. " 10. Good Language Learner 11. " 12. Pragmatics and Learner Language 13. " 14. " 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリントを使用 参考文献： Rod Ellis: Second Language Acquisition, OUP 白畑知彦他 (2009)『英語教育用語辞典』大修館書店 その他、授業中に随時紹介する。</p>		<p>平常点 10% 個人研究レポート 40% 期末テスト 50%</p>	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	英語圏の文学・文化 英語圏の文学・文化概論 a	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>イギリスの歴史から3つの時代を取り上げ、それぞれの時代の文化について理解を深めることを目指す。3つの時代はいずれも女王が君主となり、新たな文化が生み出された時代である。それぞれの時代の文化について、文学、宗教、科学の3つの視点から論じる。</p> <p>取り上げる3つの時代は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エリザベス一世の時代 2. ヴィクトリアの時代 3. エリザベス二世の時代 <p>この3人の女王の治世は、初期近代(early-modern)、近代(modern)、ポストモダン(postmodern)と区分される時代にあっている。それぞれの時代の文化を理解することによって、近代がどのように成立し、変容してきたのかが見えてくる。それぞれの時代の様相を示す英文テキストを読みながら、各時代の文化について考えていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Elizabeth Iの時代(1): 宗教改革と近代の始まり 2. Elizabeth Iの時代(2): Shakespeareと近代英語 3. Elizabeth Iの時代(3): Shakespeareと大衆娯楽 4. Elizabeth Iの時代(3): Baconと近代科学 5. Victoriaの時代(1): 世界の工場と大英帝国 6. Victoriaの時代(2): Dickensを読んだ中流市民 7. Victoriaの時代(3): Dickensが描いた貧困層 8. Victoriaの時代(4): Darwinと進化論 9. Elizabeth IIの時代(1): Pax Britannicaの終焉 10. Elizabeth IIの時代(2): Becketと不条理演劇 11. Elizabeth IIの時代(3): The Beatlesと若者文化 12. Elizabeth IIの時代(4): 羊のDollyと遺伝子の時代 13. Elizabeth IIの時代(5): Bridget Jonesと消費文化 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。参考文献は追って知らせる。		学期末試験の成績で評価する。	

09年度以前(春)	英語圏の小説 a	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 イギリスを中心とした英語圏の小説に親しんでもらうことがねらいです。だれもが知っている有名なものから「問題作」まで、原則として一回一作品ずつ、できるだけ幅広く、年代順に取り上げます。また、少しずつですが、原文も味わいます。</p> <p>講義概要 毎回課題が出ます。作品の一部を和訳してもらい課題です。受講者には、知らない単語を自分で調べ、自分なりの訳を作って提出してもらいます。授業では、課題の答え合わせのあと、作者がどんな人で、作品のあらすじと読みどころはどこにあるのか、文化的背景はどんなものだったかを、担当者が解説します。一部映像を使用します。</p> <p>***注意事項*** ・ TOEIC600点程度かそれ以上の英語力を前提としています。600点以下でも受講できますが、その分、課題に時間をかけて取り組んでください。 ・ 作品の選択は、若干変更する可能性があります。 ・ 辞書を持参してください。電子辞書でかまいません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション English literature? Literature in English? 2. Daniel Defoe, <i>Robinson Crusoe</i> (1719) 3. Jane Austen, <i>Pride and Prejudice</i> (1813) 4. Charles Dickens, <i>Oliver Twist</i> (1837-39) 5. Charlotte Bronte, <i>Jane Eyre</i> (1847) 6. Lewis Carroll, <i>Alice's Adventures in Wonderland</i> (1865) 7. Arthur Conan Doyle, "<i>Adventure of the Speckled Band</i>" (1892) 8. J.M. Barrie, <i>Peter Pan</i> (1911) 9. Virginia Woolf, <i>Orlando</i> (1928) 10. D.H. Lawrence, <i>Lady Chatterley's Lover</i> (1928) 11. Jean Rhys, <i>Wide Sargasso Sea</i> (1966) 12. A.S. Byatt, <i>Possession</i> (1990) 13. Nick Hornby, <i>About a Boy</i> (1998) 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布します。 参考文献は授業中に提示します。</p>		<p>毎回の課題と学期末試験(英文和訳等を出題)。 欠席が四回を越える場合は評価の対象としません。</p>	

09年以前(秋)	英語圏の小説 b	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 アメリカ小説の特徴・概略を知り、「主要な」作家たちの作品にできるだけ直接触れる(小説、短編小説などの抜粋を実際に読んでもらう)ことで学生諸君にアメリカ小説の魅力を発見してもらい、小説を通じてアメリカの文化を考える。</p> <p>講義概要 まず、アメリカ小説の歴史、概略を解説し、その後、リアリズム小説、モダニズム小説、現代の多文化共生を意識した黒人作家・ユダヤ系作家などの代表的な小説を取り上げ、鑑賞、解説を試みる。配布された作品(抜粋)の理解を深めることに重点を置く。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1: アメリカ小説の概略(歴史・文化・社会) 2: アメリカ小説の創生期とアメリカン・ルネッサンス 3: リアリズム小説1(第一世代と第二世代のリアリズム作家たち) 4: リアリズム小説2(Mark Twain と <i>The Adventures of Huckleberry Finn</i>) 5: リアリズム小説3(<i>The Adventures of Huckleberry Finn</i>) 6: モダニズム小説1(アメリカ小説のモダニストたち) 7: モダニズム小説2(William Faulkner と "That Evening Sun") 8: モダニズム小説3(William Faulkner と <i>The Sound and the Fury</i>) 9: モダニズム小説4(William Faulkner の世界) 10: 多文化主義小説1(多文化主義とアメリカ小説) 11: 多文化主義小説2(黒人作家とユダヤ系作家) 12: 多文化主義小説3(Bernard Malamud と <i>The Assistant</i>) 13: 多文化主義小説4(Philip Roth と "The Conversion of the Jews") 14: まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: プリントを使用 参考書: 随時、授業にて紹介する</p>		<p>定期試験とメールによる作品理解のための複数回のミニレポート。定期試験を重視する。</p>	

09年度以前(春)	英語圏の詩 a (アメリカ詩入門)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「アメリカ詩史」をどこから始めるか、これは大問題だ。「アメリカ文学概論」などで耳にしたであろう Anne Bradstreet から始めるか? この授業では、Native American (いわゆるインディアン) の口承詩から始める。そして、着地点は、獨協に2度も来てポエトリー・リーディングをした、ピュリッツァー賞、ボリンゲン賞受賞の大詩人、Gary Snyder だ。さて、ネイティブ・アメリカンの詩と、Snyder の詩、その間になにがあったのか、それが重要だ。なぜ、Snyder とNative American の詩がつながるのか、そのあいだに、どのような詩が書かれてきたのか、それを考察する。もちろん、すべてを扱うことはできないので、代表的な詩人の作品を精読する。詩は、れっきとした言語芸術だ。「さくら、さくら、今、咲き誇る」といった表現に感動するのは、誰かが言ってから、日本文化の常套となったものを、再確認して安心しているだけだ。この授業では、太古、そして19世紀、20世紀の「前衛」、つまり、だれも言ったことのなかった表現をした詩人たちの言語表現を、現在まで、大まかにたどる。</p>		<p>授業へは予習をして、なにおかつ、頭をカラにしておくこと。受講生にはときおり、質問をする。7, 80人のまえでも、はっきりと自分の考えを、恥ずかしがらずに言えるようにすること。</p> <p>第1回: Introduction 第2回: Native American の詩 第3回: Walt Whitman, "Poets to Come!," "I Hear America Singing" など 第4回: Emily Dickinson, "Because I could not stop for Death," "I taste a liquor never brewed" など 第5回: Robert Frost, "Stopping by Woods on a Snowy Evening," "After Apple-Picking" など 第6回: Ezra Pound, Imagism 期の短詩, "Hugh Selwyn Mauberley I" など 第7回: Ezra Pound の The Cantos のいくつか 第8回: William Carlos Williams, "The Red Wheelbarrow," "Nantucket," "Poem" などの初期の短詩 第9回: Wallace Stevens, "The Snow Man," "Thirteen Ways of Looking at a Blackbird" 第10回: H. D., "Oread," "Heat" など 第11回: T. S. Eliot, "Preludes" など 第12回: Robert Lowell, "For the Union Dead" など 第13回: Sylvia Plath, "Daddy," "Lady Lazarus" 第14回: Gary Snyder, "Magpie's Song," "For the Children" など 第15回: モダニズムからポストモダンへの移行、そのまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
現在、検討中。プリントにするか、それともテキストを使うか、開講時に指示する。		2000字以上のレポート。	

09年度以前(秋)	英語圏の詩 b (イギリス詩入門)	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的 ワーズワス (W. Wordsworth 1770-1850) の『水仙』などの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る能力を身に付けることを目的とする。扱う題材は全てイギリス詩である。</p> <p>講義概要 初めは導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。次いで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。そして最後にグレイ、ミルトン、シェークスピアの代表的な詩について管見する。なるべく video などの視聴覚教材を利用する。</p> <p>参考文献 新井明著 『英詩鑑賞入門』 研究社 1987</p>		<p>1. 詩形について 2. <マザーグース> I 3. <マザーグース> II video 鑑賞、字幕なし、以下同 4. <現代英詩アラカルト> I T.S. Eliot (1888-1965) DVD, video 鑑賞 5. <同> II T. Hughes (1992-1985) など, video 鑑賞 6. Alfred Tennyson (1809-92), Robert Browning (1812-89) DVD 鑑賞 7. <ロマン派の曙> W. Blake (1757-1827), DVD, video 鑑賞 8. <ロマン派の詩> I ワーズワス, DVD, video 鑑賞 9. <ロマン派の詩> II S.T. Coleridge (1772-1834) と G.G. Byron (1788-1824) DVD 鑑賞 10. <ロマン派の詩> III P. B. Shelley (1792-1822) と J. Keats (1795-1821) DVD 鑑賞 11. <ロマン派の詩> 総括 解説と video 鑑賞 12. Thomas Gray (1716-1771), "Elegy Written in a Country Churchyard" (1751) を読む。 video 鑑賞 13. John Milton (1608-74) <i>Paradise Lost</i> (1667) のさわり、ソネット 23. DVD, video 鑑賞</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト: 薬師川虹一他編『マザーグースと美しい英詩』北星堂 1987 (プリント)		テストを課す。数回の video は、時に字幕なしなので、100%の理解は求めないが、リスニング・テストとして努力具合を見、平常点とする。	

09 年度以前 (春)	英語圏の演劇 a	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういふふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台でしゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人 3 回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を出したいと思います。</p> <p>なるべく実際の上演を観られるものをとりあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行つて、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知つて下さい。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。</p> <p>授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、原則として理由の如何を問わず、単位を認めません。</p>		<p>教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。</p> <p>レポートに関する事など、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。</p> <p>***注意事項*** 全学共通授業科目「おもしろまじめな芝居のミカタ a」は英語学科と国際教養学部の学生は「英語圏の演劇 a」として登録してください。</p> <p>毎回の課題（英文プリントを舞台台本用に翻訳）は TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。600 点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて課題に取り組んでください。他に作品読み解きレポートを授業時に提出してもらいます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。</p> <p>参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>観劇レポート（800 字）2 編で 60%。授業で 40%。学期末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位を認めません。</p>	

09 年度以前 (秋)	英語圏の演劇 b	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういふふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台でしゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人 3 回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を出したいと思います。</p> <p>なるべく実際の上演を観られるものをとりあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行つて、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知つて下さい。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。</p> <p>授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、原則として理由の如何を問わず、単位を認めません。</p>		<p>教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。</p> <p>レポートに関する事など、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。</p> <p>***注意事項*** 全学共通授業科目「おもしろまじめな芝居のミカタ b」は英語学科と国際教養学部の学生は「英語圏の演劇 b」として登録してください。</p> <p>毎回の課題（英文プリントを舞台台本用に翻訳）は TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。600 点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて課題に取り組んでください。他に作品読み解きレポートを授業時に提出してもらいます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。</p> <p>参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>観劇レポート（800 字）2 編で 60%。授業で 40%。学期末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位を認めません。</p>	

09年度以前（春）	英語圏の社会と思想 a	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アングロ＝サクソンの文化がキリスト教化されていく過程の在り方を述べる。</p> <p>なお、授業時には、名簿の番号順に着席していただく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（父性神と母性神） 2. ヘレニズムとヘブライズム 3. ローマン＝ブリテン：ケルト人とキリスト教 4. ローマ帝国のキリスト教化の過程：ドナティスト論争 5. イングランドのキリスト教化 6. デーン人とアルフレッド大王 7. カロリング王朝とイングランドのキリスト教 8. グレゴリウス7世の教会改革 9. イングランドの教会改革 10. 中世の異端 <ol style="list-style-type: none"> 11. 地獄落ちへの恐怖 12. 黒死病と農民一揆 13. 教皇権の栄光と下降 14. 中世末期：唯名論論争とイングランド宗教改革前史 <p>以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は必要とあれば授業中に示す。		出席の少ない者は不合格とする。 更に、出席合格者は試験の結果で評価する。	

09年度以前（秋）	英語圏の社会と思想 b	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に準じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ルター：我ここに立つ 2. ジュネーブの人カルヴァンとイングランド人 3. イングランドの宗教改革：ヘンリー8世 4. エドワード王のプロテスタント化とメアリー女王のカトリック教皇主義復興 5. エリザベス1世の宗教改革 6. ビューリタンの反撃と英国国教会の樹立 7. スチュワート王朝の国教会 8. 国王の処刑とビューリタニズム 9. ビルグリム＝ファーザーズ 10. 王政復古から名誉革命以降 <ol style="list-style-type: none"> 11. 啓蒙主義時代 12. 19世紀以降現代 13. アメリカの場合 14. まとめ <p>以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期に準じる。	

09年度以前（春）	英語圏の歴史 a	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際情勢の中で中東がかつてなかった程重みを増す今日、中東政策はアメリカ外交の大きな柱となっている。その米中東政策に力をふるっているのがユダヤ・ロビーである。春学期の授業ではこのユダヤ・ロビーを中心に同盟関係にあるキリスト教右派等に焦点をずえることで、これまで見えてこなかったアメリカ政治史の特質を解明する。「ユダヤの視点でみるアメリカ政治史」が春学期前半のテーマとなる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本とユダヤ 2. 検証、最強のユダヤ・ロビーAIPAC 3. ユダヤ・ロビーとオバマ政権 4. 反ユダヤ主義早わかり 5. ユダヤ・ビジネス早わかり 6. ユダヤの文化早わかり 7. ユダヤの宗教早わかり 8. イスラエルー建国と国防・戦争ー 9. イスラエルー等身大の実像ー 10. キリスト教右派との同床異夢の同盟 11. ユダヤ人議員団の実力 12. ユダヤ・マネーの仕組 13. 歴代政権とユダヤ人社会 FDR～LBJ 14. " " " ニクソン以後 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>佐藤唯行著『アメリカはなぜイスラエルを偏愛するのか』（2009年 新潮文庫）438円 佐藤唯行著、「雑学3分間、ビジュアル図解シリーズ、日本人が知らない！ユダヤの秘密」PHP 研究所、2009年）1,300円</p>		<p>評価はクイズ形式による筆記試験（8択20問）によるのみ決定する。試験はテキストの持ち込み可。出席はとらない。</p>	

09年度以前（秋）	英語圏の歴史 b	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>映画を入口にしながら、アメリカを代表するエスニックグループの歴史と現状を学ぶことをこの講義の目的とします。</p> <p>毎回10本近い映像ソフトを担当者が持参し、具体的場面をピックアップしながら、各エスニックグループが抱えているジレンマ、課題などを解説してゆきます。つまり、エスニック・ヒストリーの専門家からみた各映像作品のみどころ、眼目を紹介するというスタイルです。</p> <p>かつて高名な映画評論家は「映画を通じて人生を知った」と語ったことがあったが、人種関係史を専攻とする担当者にとって映画は自分の研究対象に対して構築してきたイメージを再確認するための手段といえるのです。この授業では20年間にわたる担当者の研究成果をあますところなくお伝えします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 先住民インディアン 3. 越境するヒスパニック 4. 今を生きる黒人 5. 歴史の中の黒人 6. " 7. 等身大のユダヤ人 8. 反ユダヤ主義とユダヤ系ギャングスター 9. 歴史の中のユダヤ人 10. アジア系ー日系、中国系、韓国系ー 11. ホワイト・エスニックーアイルランド系、イタリア系、など過去において蔑視された白人集団 12. 異人種・異教徒間カップル 13. " " 14. おわりに 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>佐藤唯行著、『映画で学ぶエスニック・アメリカ』（2008年 NTT 選書）1,600円</p>		<p>春学期と同じ</p>	

09年度以前(春)	英語圏のエリア・スタディーズ a	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語圏」は時代とともに大きく広がり、今や英語は実質的な lingua franca(共通語)として世界各地で用いられている。この授業では英語圏が時代とともに拡大していった経緯や、それぞれの地域で派生した政治的問題や地域文化の特性を、歴史の大きなパースペクティブの中でとらえることを目的とする。</p> <p>講義は複数の講師によるオムニバス形式で進められる。それぞれ1週ごとの講義は独立したものであるが、1回ごとに歴史上のある一日、そして地球上のある一都市あるいは一地域を講義内容の起点とする。そのとき、そこで何が起きたのか、そしてそれが、今日、大きく拡大した英語圏の中でいかなる意味を持ちうるのか。この問題意識が14回の講義に通底している。</p> <p>多岐にわたる視点から英語圏を考察し、英語圏が大きく拡大した歴史的ダイナミズムと、現在の英語圏の持っている多様性と複雑さへの理解を深めてほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1588年8月8日 Gravelines—島国のルネサンス(前沢) 1066年10月14日 Hastings—Norman Conquest が英語に与えた影響(清水) 1600年12月31日 London—東インド会社の誕生とスパイス貿易(竹田) 1607年5月14日 Jamestown—北米植民地開発開始(永野) 1620年11月21日 Cape Cod—巡礼始祖アメリカへ来る(高橋) 1649年1月30日 London—イギリス革命、イギリス事情—17世紀を中心に(白鳥) 1608年12月9日 London—ミルトン誕生、その人と作品(白鳥) 1841年7月5日 Leicester—トーマス・クックと近代ツーリズムの始まり(遠藤) 1887年12月1日 British Malaya and India—文化装置としてのホテル(須永) 1836年3月6日 San Antonio—テキサスの誕生とアラモ(島田) 2007年4月16日 Virginia—韓国人学生銃乱射事件とアメリカの銃規制問題(金子) 2009年1月20日 Washington—オバマ政権成立とユダヤ・ロビー(佐藤) 1972年11月17日 Washington—共和党とユダヤ人社会の同盟成立(佐藤) 1997年8月31日 Paris—Diana の死と Cool Britannia(前沢) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストとして授業中にハンドアウトを配布する。 参考書は授業中に適宜紹介する。</p>		<p>定期試験による。詳細は第1回目の授業で説明する。</p>	

09年度以前(秋)	英語圏のエリア・スタディーズ b	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期から引き続き、英語圏の政治的問題、文化、言語を取り巻く状況などについて考察する。</p> <p>秋学期も講義は複数の講師によるオムニバス形式で進められる。秋学期の講義は20世紀以降の英語圏に焦点を絞って構成されている。春学期同様、1週ごとの講義は独立したものであるが、14回の講義を通して、英語圏における20世紀の様々な変化について理解を深めるとともに、21世紀の展望について考え、広い視座を持つことを目指してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1901年1月22日 Isle of Wight—20世紀の始まり(前沢) 1996年3月25日 Beverley Hills—オスカー受賞監督人質事件(児嶋) 1997年7月4日 Sligo—アイルランド北西部の幽霊譚(児嶋) 1914年4月11日 London—音声学者が舞台上に登場(青柳) 1967年10月7日 Monaco—英語のユーモアについて(鍋倉) 1955年10月7日 San Francisco—Poetry Reading at the Six Gallery: The Birth of Beat Generation(原) 1967年1月12日 San Francisco—The Human Be-In: The Birth of Counterculture(原) 1963年5月25日 Addis Ababa—アフリカ統一に向けて(佐野) 2010年1月2日 Melbourne—インド人留学生 Nitin Garg の死(工藤) 1999年8月9日 Singapore—"Speak Good English" キャンペーンと多言語社会(浅岡) 2007年12月28日 Ithaca—Civic Agriculture (NY州の食・農・ツーリズム)(北野) 1973年1月22日 Washington—中絶合法化までのアメリカ(片山) 2009年5月31日 Wichita—産婦人科医が殺される(片山) 2005年7月7日 London—オリンピック開催決定と同時多発テロ(前沢) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストとして授業中にハンドアウトを配布する。 参考書は授業中に適宜紹介する。</p>		<p>定期試験による。詳細は第1回目の授業で説明する。</p>	

09年度以前(春)	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカのユダヤ系移民の第2世代作家、Bernard Malamud(1914-1986)の作品と生涯を概観することにより、この作家の重要性と20世紀のアメリカ社会・文化の諸問題・特質などを考察する。</p> <p>全長編小説と代表的な短編を時系列で紹介する。できるだけ、作品の抜粋を読んでもらい鑑賞・解説を試みる。また、伝記情報をもとに、作品が誕生する経緯を解き明かし、Malamudの作家としての成長と発表当時の社会状況を考察したい。貧しいブルックリンの食料品店に生まれた無名なユダヤ系移民の2世が、アメリカ社会で重要な作家としての地位を確立し、American Dreamを達成する過程を追うことにより、この作家の全体像とアメリカ社会・文化の一断面を明らかにしたい。</p>		<p>1: Bernard Malamud と初期の作品</p> <p>2: <i>The Natural</i> (1952)について</p> <p>3: <i>The Assistant</i> (1957) について(1)</p> <p>4: <i>The Assistant</i> (1957) について(2)</p> <p>5: <i>The Magic Barrel</i> (1958) について</p> <p>6: <i>A New Life</i> (1961) について</p> <p>7: <i>Idiots First</i> (1963) について</p> <p>8: <i>The Fixer</i> (1966) について</p> <p>9: <i>Pictures of Fidelman: An Exhibition</i> (1969) について</p> <p>10: <i>The Tenants</i> (1971)と <i>Rembrandt's Hat</i> (1973) について</p> <p>11: <i>Dubin's Lives</i> (1979) について(1)</p> <p>12: <i>Dubin's Lives</i> (1979) について(2)</p> <p>13: <i>God's Grace</i> (1982) について</p> <p>14: まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: プリント</p> <p>参考文献: Philip Davis, <i>Bernard Malamud: A Writer's Life</i>, (Oxford: Oxford Univ. Press, 2007)</p>		<p>定期試験とメールによる作品理解のための複数回のミニレポート。定期試験を重視する。</p>	

09年以前(秋)	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テーマ: イギリスの俳優たち</p> <p>“Reel Britannia”と呼ばれるほど、現在のハリウッドでは多くのイギリス人の映画関係者が大活躍している。イギリスには演劇の長い伝統があり、そこで育まれたしっかりとした演技をする役者たちが、シェイクスピア劇でイギリスの観客をうならせるだけではなく、ハリウッド映画のスクリーンを通して世界中の観客に大きな印象を残している。</p> <p>この授業では20世紀のイギリス演劇界を代表した俳優たちと、21世紀まさに活躍中の俳優たちから何人かを取り上げ、彼らの出演した戯曲、映画を論じていく。それぞれの役者の個性とともに、時代による演劇の変化、舞台と映画の関係、イギリス俳優とアメリカ映画の関係、1990年代以降のイギリス文化政策などへの理解を深めることを目的とする。</p>		<p>1. イギリス俳優と演劇教育</p> <p>2. 20世紀の巨星: Lawrence Olivier と John Gielgud</p> <p>3. 祖国を離れて: Charles Chaplin と Claire Bloom</p> <p>4. イギリス映画の再興: Ian Holm と Ben Kingsley</p> <p>5. 文芸作品の映画化: Emma Thompson</p> <p>6. Shakespeareの映画化: Kenneth Branagh</p> <p>7. 老いてますます元気なイギリス女優達 (1): Vanessa Redgrave と Judi Dench</p> <p>8. 老いてますます元気なイギリス女優達 (2): Maggie Smith と Helen Mirren</p> <p>9. Homosexuality とイギリス演劇界: Ian McKellen と Simon Russell Beale</p> <p>10. ハリウッド・スターと West End: Ralph Fiennes</p> <p>11. Broadway, West End, Hollywood で活躍する演出家: Sam Mendes と Trevor Nunn</p> <p>12. Cool Britannia と Reel Britannia: 1990年代以降のイギリス文化</p> <p>13. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布する。</p>		<p>コメント・カード: 40%</p> <p>学期末試験: 60%</p>	

08年以前(春)	英語圏の文学・文化文献研究 a	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ここで言う文献研究とは、英語で書かれた作品および文化的に重要な文章を理解するために不可欠な歴史的、文化的な変遷や文学的な側面としての英語を対象とする研究を意味する。</p> <p>この授業は大きく2つの部分からなる。第1には、文献研究を実際に行う実践していただく。初めに導入として、レポートの書き方や論文の書き方について若干講じ、次いで学生諸君に「自由レポート」として1000字程度のレポートを毎回書いてきてもらい、そしてそれを皆の前で発表し提出し、翌週には、文献をチェックして返される。</p> <p>第2には、西欧文化の1部である英語圏の文化の基盤となっている聖書、ギリシャ神話、マザー・グースなどを渉猟する。教材は全てプリントで配布され、授業の半分は、これの読解に当てられる。</p>		<p>1. 文献研究入門</p> <p>A. レポートの書き方、文献のつけ方</p> <p>B. 論文の書き方、A. 日本語 B. 英語</p> <p>2-14</p> <p>実践 A. 自由レポート</p> <p>B. プリント読解</p> <p>a. The Bible</p> <p>b. Greek Mythology</p> <p>c. Nursery rhymes</p> <p>d. Proverbs</p> <p>e. Miscellaneous</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント(授業の初めに配布する)		学期末のテスト(70%)と自由レポート(30%)による。	

08年以前(秋)	英語圏の文学・文化文献研究 b	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中世イングランドの歴史と文化を学ぶ。</p>		<p>学生同士でテキストを訳読する。進度は時として変化する。テキストの難易度などにもよる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Medieval and Tudor Britain またテキストの変更もありうる。</p>		<p>定期試験の結果による。</p>	

09年度 (春) 08年度以前 (春)	異文化間コミュニケーション論 b 異文化間コミュニケーション論 a	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「グローバル化時代」を生きる「私たち」にとって、「異文化間コミュニケーション」は「不可避な現象」であると広く捉えられているようです。しかし、「異文化間コミュニケーション」とは一体何を意味するのでしょうか。「異なる文化の間のコミュニケーション」という字面通りの意味でよいのでしょうか。あるいは、何か特別な知的・身体的営為なのでしょうか。そもそも「異文化」や「コミュニケーション」とは何でしょうか。「異文化(間)」と言う時、既に何らかの偏った前提が潜んではいないのでしょうか。そして、学問としての「異文化間コミュニケーション論」が目指すもの、「私たち」がこの学問をすることの意義とは何なのでしょうか。</p> <p>本講義では、講義担当者や受講生による語り、「異文化」体験、「異文化間コミュニケーション論」の解体と再構築という作業を通して、これらの問いについての考察を進めると共に、受講生の問題意識を触発してみたいと思います。講義内容についての意見を毎回求めますので、英文テキストの指定箇所を事前に読み、疑問点を明らかにしてから講義に出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Intercultural communication: A very short introduction 2. 異文化間コミュニケーション論の落とし穴 3. Key concepts (基本教材: pp. 2-5) 4. Communication and culture (基本教材: pp. 6-10) 5. Identity and cultural resources (基本教材: pp. 10-15) 6. Discourse, identity and agency (基本教材: pp. 16-20) 7. Otherisation and culturist traps (基本教材: pp. 21-25) 8. Language, meaning and culture (基本教材: pp. 25-30) 9. Power, identity and discourse (基本教材: pp. 30-35) 10. Representation: 'International understanding' as ideology (基本教材: pp. 36-41) 11. Dominant/counter discourse: 'Intercultural competence' (基本教材: pp. 41-47) 12. Disciplines for intercultural communication (基本教材: pp. 48-49) 13. ケース・スタディーズ 14. まとめ <p><主要参考文献> 伊佐雅子 監修(2007)『多文化社会と異文化コミュニケーション』(改訂新版) 三修社。 稲賀繁美 編著(2000)『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会。 津田幸男・関根久雄 編著(2002)『グローバル・コミュニケーション論』ナカニシヤ出版。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント教材を使用します。(講義支援システムより各種教材をダウンロードしてください。)		多数の受講者が見込まれるので、英語による学期末試験のみにて評価します。	

09年度以前 (秋)	異文化間コミュニケーション論 b	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「グローバル化時代」を生きる「私たち」にとって、「異文化間コミュニケーション」は「不可避な現象」であると広く捉えられているようです。しかし、「異文化間コミュニケーション」とは一体何を意味するのでしょうか。「異なる文化の間のコミュニケーション」という字面通りの意味でよいのでしょうか。あるいは、何か特別な知的・身体的営為なのでしょうか。そもそも「異文化」や「コミュニケーション」とは何でしょうか。「異文化(間)」と言う時、既に何らかの偏った前提が潜んではいないのでしょうか。そして、学問としての「異文化間コミュニケーション論」が目指すもの、「私たち」がこの学問をすることの意義とは何なのでしょうか。</p> <p>本講義では、講義担当者や受講生による語り、「異文化」体験、「異文化間コミュニケーション論」の解体と再構築という作業を通して、これらの問いについての考察を進めると共に、受講生の問題意識を触発してみたいと思います。講義内容についての意見を毎回求めますので、英文テキストの指定箇所を事前に読み、疑問点を明らかにしてから講義に出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Intercultural communication: A very short introduction 2. 異文化間コミュニケーション論の落とし穴 3. Key concepts (基本教材: pp. 2-5) 4. Communication and culture (基本教材: pp. 6-10) 5. Identity and cultural resources (基本教材: pp. 10-15) 6. Discourse, identity and agency (基本教材: pp. 16-20) 7. Otherisation and culturist traps (基本教材: pp. 21-25) 8. Language, meaning and culture (基本教材: pp. 25-30) 9. Power, identity and discourse (基本教材: pp. 30-35) 10. Representation: 'International understanding' as ideology (基本教材: pp. 36-41) 11. Dominant/counter discourse: 'Intercultural competence' (基本教材: pp. 41-47) 12. Disciplines for intercultural communication (基本教材: pp. 48-49) 13. ケース・スタディーズ 14. まとめ <p><主要参考文献> 伊佐雅子 監修(2007)『多文化社会と異文化コミュニケーション』(改訂新版) 三修社。 稲賀繁美 編著(2000)『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会。 津田幸男・関根久雄 編著(2002)『グローバル・コミュニケーション論』ナカニシヤ出版。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント教材を使用します。(講義支援システムより各種教材をダウンロードしてください。)		多数の受講者が見込まれるので、英語による学期末試験のみにて評価します。	

09年度以前 (春)	異文化間コミュニケーション論 a	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
異文化間コミュニケーション研究の重要性を理解していくことが当講座の目的。このため文化とコミュニケーションを広範囲な視点から見ていきたい。その大まかな内容は、文化と価値観、文化と言語行動、文化と非言語行動のかかわりについてである。		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. コミュニケーションとは何か 3. 異文化コミュニケーションから何を学ぶか 4. 異文化コミュニケーションと心理世界 5. 異文化コミュニケーションの難しさ 6. 異文化コミュニケーションの歴史 7. 異文化コミュニケーションの重要性 8. 異文化コミュニケーション研究のスタート 9. 異文化コミュニケーションの背景 10. 異文化コミュニケーションの現状 11. 異文化コミュニケーションの体験 12. 異文化コミュニケーションと国際英語の時代 13. 文化とグローバル化 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『異文化コミュニケーション入門』丸善ライブラリー		毎回の授業内容に関するターム・ペーパーによるので、欠席すると大変不利	

09年度 (秋) 08年度以前 (秋)	異文化間コミュニケーション論 a 異文化間コミュニケーション論 b	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
異文化間コミュニケーション研究の重要性を理解していくことが当講座の目的。このため文化とコミュニケーションを広範囲な視点から見ていきたい。その大まかな内容は、文化と価値観、文化と言語行動、文化と非言語行動のかかわりについてである。		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. コミュニケーションとは何か 3. 異文化コミュニケーションから何を学ぶか 4. 異文化コミュニケーションと心理世界 5. 異文化コミュニケーションの難しさ 6. 異文化コミュニケーションの歴史 7. 異文化コミュニケーションの重要性 8. 異文化コミュニケーション研究のスタート 9. 異文化コミュニケーションの背景 10. 異文化コミュニケーションの現状 11. 異文化コミュニケーションの体験 12. 異文化コミュニケーションと国際英語の時代 13. 文化とグローバル化 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『異文化コミュニケーション入門』丸善ライブラリー		毎回の授業内容に関するターム・ペーパーによるので、欠席すると大変不利	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	メディア・コミュニケーション論 a マス・コミュニケーション論 a	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講義の主目的は、多様なメディアが溢れ出る現代社会を理解する為に必要な理論とその歴史的考察を進めていく。メディアと現代社会の関係を考える際に注意しなくてはならないのは、コミュニケーションを単純にメッセージの送受信の過程や効果、もしくは伝達の技術装置として捉えてはいけない点にある。</p> <p>メディアはマイノリティを排除したり、規範を自然のこととして受け入れさせる力を持つと考えられることが多い。しかし、現代のメディア研究では、文化規範に抑圧的な力が備わっていると仮定することは出来ないことは常識である。</p> <p>したがって、メディア研究には、文化に批判的に介入する為の理論と歴史的考察の理解が肝心となる。メディアを1つのコミュニケーション実践としてとらえ、そこに見いだされる文化を批判的に読み解く必要がある。我々が日々接している情報や媒体を自明視させる文化の成り立ちに注目することで、文化を構成するコミュニケーションの書き換えの為の実践を学んでいく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コース概要 2. メディアとは何か(第1章) 3. メディアの時代 メディアの理論(第2章) 4. マス・コミュニケーション理論の展開とその限界(第4章) 5. メディア革命と知覚の近代(第5章) 6. カルチュラル・スタディーズの介入(第6章) 7. カルチュラル・スタディーズの介入(第6章) 8. カルチュラル・スタディーズの介入(第6章) 9. 新聞と近代ジャーナリズム(第7章) 10. 誰が映画を誕生させたのか(第9章) 11. テレビが家にやって来た(第11章) 12. 電話が誕生したのはいつだったのか(第8章) 13. ケータイが変える都市の風景(第12章) 14. パソコンとネットワーク化する市民社会(第13章) /グローバル・メディアとは何か(第14章) 前期総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
吉見俊哉『メディア文化論』有斐閣 2004年		評価は定期試験又はレポート及び不定期に課す課題等による総合評価。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	メディア・コミュニケーション論 b マス・コミュニケーション論 b	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期の講義を踏まえて、メディアを限定した上で、多様な分析の理論と手法を学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コース・オリエンテーション 2～14. 映像資料や文献を使用した具体的なメディアの分析と分析の為の理論の学習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示する。		評価は定期試験又はレポート及び不定期に課す課題等による総合評価。	

09年度以前 (春)	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
理論編 ①スピーチ・コミュニケーションとは、スピーチ（広義の「発話」）をコミュニケーション過程に投じることによって、既存の文化に「政治的」に参加する行為です。ここでいう「政治的」とは、「雄弁な政治家のように」という意味ではなく、批判精神を持って、既存の思考や行動様式、言説や規範などについて、自分の立ち位置を確立した上で、意見を述べていくという意味です。このようなことができれば、グローバル化によって様々な文化や思想がぶつかり合う社会生活において、日々の語学訓練の成果を十分活かすことはできないでしょう。このクラスでは、こうした認識に基づく理論（春学期）と実践（秋学期）を通じて、スピーチ・コミュニケーションを学んでいきます。 ②内容：批判的思考 (critical thinking) が必要となるため、批評理論を中心に学びます。理論解説の事例として、主にテレビ番組やテレビ CM、映画などの映像資料を用います。 ③その他：授業時間外でのグループ活動が必要となるため、活動に参加できる学生を対象とします。		1. 講義概要 2. 管理されるコミュニケーション 1 3. 管理されるコミュニケーション 2 4. 管理されるコミュニケーション 3 5. 言説・法・文化とコミュニケーション 1 6. 言説・法・文化とコミュニケーション 2 7. 言説・法・文化とコミュニケーション 3 8. 理論のまとめ、研究活動中間報告 9. コミュニケーション分析の進め方 10. 理論的分析：報告会 1 11. 理論的分析：報告会 2 12. 報告に対する講評 13. 応用分析セッション 1 14. 応用分析セッション 2 (研究グループ数によっては変更の可能性もあります)	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを配布する予定 参考文献：池田理知子編『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房）		①応用分析 (20%) ②研究活動 (参加+発表+審査 80%)	

09年度以前 (秋)	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
実践編 ①春学期の「スピーチ・コミュニケーション論 a (理論編)を受講した学生を対象にしますが、それ以外の学生でも努力をすれば十分についていけるはずですが。 ②今学期のキーワードは「工夫」です。このクラスでは、スピーチ（広義の「発話」）を通じて、異文化コミュニケーションを実践していきます。ここでいう「異文化コミュニケーション」とは、既存の文化のロジックでコミュニケーションしているであろう人々に対して、文化的に新しいことを工夫しながら提案していく行為です。また、「実践」とは、単なる個人の「実技」ではなく、社会に政治的に参加することを意味します。 ③授業時間外のループ活動が不可欠となるため、活動に参加できる学生を対象としています。 ④音(楽)・画像・動画・文字・環境をフル活用した制作活動や実演活動に向けて取り組んでいきます。 ⑤春学期に学ぶ批評理論を活用した発表が期待されます。		1. 概略説明 2. 論理の組み立て 1：問題 3. 論理の組み立て 2：立証 4. 論理の組み立て 3：提案 5. 論理の組み立て 4：構成 6. 事例研究 1、戦略会議 1 (企画案) 7. 事例研究 2、戦略会議 2 (再検討) 8. 事例研究 3、戦略会議 3 (決定) 9. 理論のまとめ、戦略会議 4 (リハーサル) 10. 発表と審査 1 11. 発表と審査 2 12. 発表に対する講評 13. 応用分析セッション 1 14. 応用分析セッション 2 (研究グループ数によっては変更の可能性もあります)	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを配布する予定 参考文献：鈴木 健 編著『説得コミュニケーション論を学ぶ人のために』（世界思想社）		①クイズ (不定期1～2回、20%) ②研究活動 (参加+発表+審査 80%)	

09年度以前 (春)	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 現代のコミュニケーション論の様々な方向性を概観する。権力概念を中心としたコミュニケーション論を基に、文化テキストを解説することを学ぶ。</p> <p>講義概要 取り上げられるトピックは我々のコミュニケーションを規定している権力の磁場を構成している。現代コミュニケーションの問題の中心は権力関係にある。そこで、メディアやレトリック等のスピーチ・コミュニケーション研究にとって重要な理論的概念を『現代コミュニケーション学』(有斐閣)を通じて講義する。コミュニケーションの分析にとって重要な権力概念を、<今>に生きる自らの問題として把握し批評する視点を学習する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：スピーチ・コミュニケーション研究の視点 2 時計時間の支配 3 空間と権力 4 アイデンティティの問い 5 レトリックと権力 6 レトリックと権力 7 家庭内コミュニケーション 8 ジェンダーとコミュニケーション 9 ジェンダーとコミュニケーション 10 テクノロジーとコミュニケーション 11 テクノロジーとコミュニケーション 12 メディアのレトリック 13 多文化主義とコミュニケーション 14 グローバル化と日本社会／前期総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
池田理知子編『現代コミュニケーション学』有斐閣、2006.		評価は定期試験又はレポート及び不定期に課す課題等による総合評価。	

09年度以前 (秋)	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 講義の目的は諸レトリック理論家の思想を学生が理解／実践できるようになることである。講義における学生の目標は以下の2点である。第一に口承、文学、さらには電子メディアを媒介した表象のレトリックを分析する為の多種多様な学術的前提を理解すること。第二にそれら前提に基づいた特定の理論を批評実践に応用できるようになることである。</p> <p>講義概要 本講義は様々なレトリック分析と批評理論を理解するための専門科目である。スピーチ・コミュニケーション論 bでは、20世紀のレトリック批評への諸アプローチを紹介する。これらの批評理論研究を通じて、現代のレトリックが実践される複雑な社会・文化状況を改めて識別することが促される。スピーチ・コミュニケーション論 aと継続性のある講義なので、すべての学生がスピーチ・コミュニケーション論 aの講義で学習したことを既に理解していることを前提に講義を進めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション／フェルディナン・ド・ソシュールと記号論 2 フェルディナン・ド・ソシュールと記号論 3 ルードリッヒ・ヴィトゲンシュタインと言語ゲーム／J.L.オースティンと発話行為理論 4 ルードリッヒ・ヴィトゲンシュタインと言語ゲーム／J.L.オースティンと発話行為理論 5 精神分析学とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・パーク 6 精神分析学とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・パーク 7 ミシェル・フーコーと表象 8 ミシェル・フーコーと表象 9 ミシェル・フーコーと表象 10 ミシェル・フーコーと表象 11 エドワード・サイードとオリエンタリズム 12 エドワード・サイードとオリエンタリズム 13 エドワード・サイードとオリエンタリズム 14 後期総括 	
参考文献		評価方法	
立川健二・山田広昭『現代言語論ーソシュール フロイト ヴィトゲンシュタイン』新曜社 土田土則・神郡悦子・伊藤直哉『現代文学理論ーテキスト・読み・世界』新曜社		評価は定期試験又はレポート及び不定期に課す課題等による総合評価。	

08年度以前(春)	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	小西 卓三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Argumentation(議論研究、討議論)はコミュニケーション研究、哲学、言語学で異なる発展を見せてきた。本講義は、歴史的な視点を用いて議論研究の理論的導入をおこなうことを通し、議論研究の諸理論を検討していく。前期は現在の議論研究に影響を与えているトゥールミン、ペレルマンのアプローチを簡単に紹介し、アメリカのコミュニケーション研究、(主に)カナダの非形式論理学、オランダの弁証論的語用論の理論的アプローチと研究・教育の実例を紹介する。これらの研究者のアプローチを理解するには、(1)議論とはなにか、(2)よい・望ましい議論とはどういったものか、(3)可能な研究・教育プログラムはどのような形をとった(とりうるのか)という点を取り上げるが、これらの理論的・教育的発展に社会・政治状況が及ぼした影響も講義する。</p> <p>議論研究という研究分野が余り発達していない現状もあり、読書課題はほとんど英語となる。受講生は授業前に課題を読み終え、意見・質問を考えてくることが求められる。</p>		<p>1 Course Overview</p> <p>2 Stephen Toulmin & Chaim Perelman</p> <p>3 Stephen Toulmin & Chaim Perelman</p> <p>4 Stephen Toulmin & Chaim Perelman</p> <p>5 American communication studies</p> <p>6 American communication studies</p> <p>7 American communication studies</p> <p>8 Informal logic</p> <p>9 Informal logic</p> <p>10 Informal logic</p> <p>11 Pragma-Dialectics</p> <p>12 Pragma-Dialectics</p> <p>13 Pragma-Dialectics</p> <p>14 Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
読書課題は配布する。		授業参加 20%、試験 40%、レポート 40%	

08年度以前(秋)	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	小西 卓三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本学は前期の講義に基づき、80年中盤以降の議論研究の発展を検討する。この時代においては、米国のコミュニケーション研究者、北米(特にカナダ)の哲学者、ヨーロッパ(特にオランダ)の語用論研究者の交流が進み、共通の研究課題に取り組むようになってきている。すべての研究課題を包括的に話すことは不可能であるため、推論・議論のパターン(argumentation schemes)、行為・目的を中核に捉える議論の理論(pragmatic theory)、視覚的議論(visual argument)、社会論争と公的議論に関する理論を取り上げて講義していく。</p> <p>議論研究という研究分野が余り発達していない現状もあり、読書課題はほとんど英語となる。受講生は授業前に課題を読み終え、意見・質問を考えてくることが求められる。</p>		<p>1 Retrospect and prospect</p> <p>2 Argumentation schemes</p> <p>3 Argumentation schemes</p> <p>4 Argumentation schemes</p> <p>5 Pragmatic argumentation theories</p> <p>6 Pragmatic argumentation theories</p> <p>7 Pragmatic argumentation theories</p> <p>8 Visual argument</p> <p>9 Visual argument</p> <p>10 Visual argument</p> <p>11 Controversies and public argument</p> <p>12 Controversies and public argument</p> <p>13 Controversies and public argument</p> <p>14 Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		授業参加 20%、試験 40%、レポート 40%	

08年度以前（春）	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>○講義目的 「よき日本人こそが よき世界人」(天野貞祐)を知っていますか。諸君が日本人であるというアイデンティティをどのように獲得するか分らないが、まずは日本の文化・社会を知ろう。</p> <p>○講義概要「コミュニケーション」という視点から日本文化・社会を再検討、再確認、再評価してみよう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要説明 2. コミュニケーション研究とは？ 3. 文化と社会 4. 社会的コミュニケーション 5. 文化的コミュニケーション 6. 言語的特徴① 7. 同上② 8. 非言語的特徴① 9. 同上② 10. ビジネスにおける特徴① 11. 同上② 12. 歴史的特徴① 13. 同上② 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材は随時配布する		<ul style="list-style-type: none"> ・個人レポート：20%、Gレポート：30% ・出席点：15%、定期試験：35% 	

08年度以前（秋）	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>○講義目的 春学期と同じ</p> <p>○講義概要 春学期と同じ</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要説明 2. 社会化とは？ 3. 文化化とは？ 4. 個人と集団① 5. 同上② 6. 同上③ 7. 同上④ 8. イノベーションの普及過程① 9. 同上② 10. 異文化屈折：日韓に横たわるもの 11. 同上② 12. 同上③ 13. 同上④ 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材は随時配布する		<ul style="list-style-type: none"> ・個人レポート：20%、Gレポート：30% ・出席点：15%、定期試験：35% 	

08年度以前(春)	コミュニケーション論文献研究 a	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、大学生がコミュニケーション研究を行う際に必要になるであろう、研究領域および研究方法論に関する基礎知識を習得すると共に、研究に不可欠な「(創造的に)考える力」を高めることを目的としています。具体的には、研究を行い論文を書くという目的を持った場合の参考文献の集め方や読み方、更にはプレゼンテーションや文章表現のコツについて実習形式で学びます。</p> <p>春学期は、本、定期刊行物、政策文書、ウェブサイトなど様々な種類の文献との付き合い方と、(異文化)コミュニケーション研究における3つの代表的な考え方(社会科学的、解釈的、批判的アプローチ)を理解することに主眼を置きます。それぞれのアプローチの特徴をもった日本語と英語の論文を講義担当者の解説のもと丁寧に読みます。同時に、論文の前提、特徴、長短に関するグループ発表やディスカッションを通して、コミュニケーション研究の深みや醍醐味を体感します。受講生は、授業出席の条件として、授業時に使用される教材の要旨(和文で200文字または英文で100語程度)を毎週執筆します。</p> <p>また、本講義では、普段から論文に親しむことを重視します。受講生は自らの関心にしたがって、学期中に最低5本以上の論文を集め、読み、短めのレビューを口頭発表および執筆します。この作業を通して、今学期の学習の成果と今後の学習課題を他の受講生と共に確認します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 研究領域を知る 3. 研究目的での文献の集め方 4. 研究目的での文献の読み方 5. 研究目的でのプレゼンテーションの仕方 6. レビュー(書評・論文評)を書く 7. 3つのアプローチを理解する 8. 社会科学的アプローチの論文を読む(和文) 9. 社会科学的アプローチの論文を読む(英文) 10. 解釈的アプローチの論文を読む(和文) 11. 解釈的アプローチの論文を読む(英文) 12. 批判的アプローチの論文を読む(和文) 13. 批判的アプローチの論文を読む(英文) 14. まとめ <p><主要参考文献></p> <p>石井敏・久米昭元 編(2005)『異文化コミュニケーション研究法』有斐閣。</p> <p>石井敏・久米昭元・遠山淳 監修(2001)『異文化コミュニケーションの理論』有斐閣。</p> <p>白井利明・高橋一郎(2008)『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント教材を使用します。*第2回講義時までに以下の本を読んでおいてください。荻谷剛彦(2002)『知的複眼思考法——誰でも持っている創造力のスイッチ』講談社。</p>		<p>レビュー(40%:和文で3,000文字または英文で1,500語程度)、教材要旨(20%)、グループ発表(20%)、授業参加(20%:「出席」と「参加」は意味が異なります。)</p>	

08年度以前(秋)	コミュニケーション論文献研究 b	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、春学期の学習成果を基に、論文を書くことを「出版」という文脈の中で考えてみたいと思います。これは、論文(先行研究)を読むことをより「そうぞう(想像・創造)的」な営為にするのに役立ちます。出版物には、「書き手」(生産者)対「読み手」(消費者)といった単純な二項対立の関係では捉えきれない、複雑な意思決定や意味の交渉が込められています。本講義では、講義担当者が国内学会誌や国際学術誌等に出版してきた実際の論文のアウトライン・草稿から出版に至るまでの思考の変化に焦点を当てながら、論文をより注意深く、且つ想像的・創造的に読むための練習をします。また、他の研究者による関連論文のレビューを執筆することで、(異文化)コミュニケーション論の専門用語や理論をより身近なものにします。</p> <p>本講義は多くの労力を受講生に課します。講義内容は極めて高度です。また、授業の準備の都合上、講義担当者の研究テーマ(若者の異文化体験、高等教育のグローバル化、留学生政策)が学習の題材に色濃く反映されますが、基本的には日本の若者の英語使用もしくは異文化体験など、受講生にとって身近なものを扱います。その他の注意点としては、教材の大部分は英語ですが、授業は主として日本語で行われること、既にある程度硬めの英文と和文が読めること、一学期あたり3回の遅刻もしくは欠席で不可(F)になること。以上を了解のうえ、履修をしてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入と春学期の復習 2. 出版することの意味 3. 原稿の種類と審査・評価 4. 論文執筆——英語が下手でも通用する? 5. 研究者の位置取り——研究者はずるい? 6. 論文1(着想から草稿まで) 7. 論文1(審査から出版まで) 8. 「英語で日本を伝える」とは、どういう意味か? 9. 論文2(着想から草稿まで) 10. 論文2(審査から出版まで) 11. 英語と日本人——損・得をしているのは、本当は誰? 12. 論文3(着想から草稿まで) 13. 論文3(審査から出版まで) 14. 英語で本を書く——勝負所は歴史にあり? <p><主要参考文献></p> <p>小島勝 編(2008)『異文化間教育の研究』ナカニシヤ出版。</p> <p>津田幸男・関根久雄 編著(2002)『グローバル・コミュニケーション論』ナカニシヤ出版。</p> <p>Asante, M., Miike, Y., & Yin, J. (Eds.). (2008). <i>The global intercultural communication reader</i>. New York: Routledge.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント教材を使用します。</p>		<p>レビュー(40%:和文で3,000文字または英文で1,500語程度)、教材要旨(20%)、グループ発表(20%)、授業参加(20%)</p>	

08年度以前 (春)	コミュニケーション論文献研究 a	担当者	小西 卓三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、コミュニケーション研究にとって重要な焦点のひとつである「記号・象徴・表象・言説・シンボル・サイン」といったことばで語られる概念を、異なる領域の研究者がどのように捉えてきたのかをクラスで討議し、さまざまなアプローチを把握していくことを目指す。</p> <p>前期はフェルディナン・ド・ソシュール、チャールズ・サンダース・パースという記号論(学)の創始者がどのように記号の問題を捉えていたのかを把握した後、コミュニケーション研究に大きな影響を与えたリチャード・ウィーバー、ケネス・パークのレトリック・象徴に関する理論を検討する。これらのアプローチを理解する際には、(1)理論的に重要な用語は何か、(2)どのようにしてその重要な用語を用いてコミュニケーションを分析・解釈していけるのかということを取り上げて検討していく。</p> <p>読書課題は日本語と英語で、受講生は授業前に課題を読み終え、意見・質問を考えてくることが求められる。主に一次文献を扱うので読みやすいとは限らないが、講義と授業内の討議を通してできる限り明確化していくことを試みる。</p> <p>定員 25名</p>		<p>1 Course Overview</p> <p>2 ソシュールの言語記号の理論</p> <p>3 ソシュールの言語記号の理論</p> <p>4 ソシュールの言語記号の理論</p> <p>5 パースの記号理論</p> <p>6 パースの記号理論</p> <p>7 パースの記号理論</p> <p>8 リチャード・ウィーバーのレトリック論</p> <p>9 リチャード・ウィーバーのレトリック論</p> <p>10 リチャード・ウィーバーのレトリック論</p> <p>11 ケネス・パークのレトリック論</p> <p>12 ケネス・パークのレトリック論</p> <p>13 ケネス・パークのレトリック論</p> <p>14 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
読書課題は配布する。		授業参加 40%, レポート 60%	

08年度以前 (秋)	コミュニケーション論文献研究 b	担当者	小西 卓三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に引き続いて「記号・象徴・表象・言説・シンボル・サイン」について検討します。この学期は、記号論やレトリックといったことばをことばを使わないにもかかわらず、コミュニケーション研究に影響を与えてきた研究者の理論をクラスで討議し、その成り立ちとコミュニケーション研究に対する影響の理解を目指す。</p> <p>最初の授業で前期に行ったことを振り返り研究上の課題を把握した後、表象と力について著作のあるミシェル・フーコー、その影響下にあるエドワード・サイードの文学論を検討する。この一連の流れの後、小説に関する理論を残したミハイル・バフチン、社会理論に関して独自のコミュニケーション論を構築してきたユルゲン・ハーバマスの理論と彼の理論への批判を検討する。</p> <p>読書課題は日本語と英語で、受講生は授業前に課題を読み終え、意見・質問を考えてくることが求められる。主に一次文献を扱うので読みやすいとは限らないが、講義と授業内の討議を通してできる限り明確化していくことを試みる。</p>		<p>1 Retrospect and Prospect</p> <p>2 ミシェル・フーコーの力と言説に関する理論</p> <p>3 ミシェル・フーコーの力と言説に関する理論</p> <p>4 ミシェル・フーコーの力と言説に関する理論</p> <p>5 エドワード・サイードの文学論</p> <p>6 エドワード・サイードの文学論</p> <p>7 エドワード・サイードの文学論</p> <p>8 ミハイル・バフチンの小説に関する理論</p> <p>9 ミハイル・バフチンの小説に関する理論</p> <p>10 ミハイル・バフチンの小説に関する理論</p> <p>11 ユルゲン・ハーバマスの公共圏に関わる理論</p> <p>12 ユルゲン・ハーバマスの公共圏に関わる理論</p> <p>13 ユルゲン・ハーバマスの公共圏に関わる理論</p> <p>14 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
読書課題は配布する。		授業参加 40%, レポート 60%	

09年度 (春) 06～08年度 (春) 03～05年度 (春)	グローバル社会論 b グローバル社会論 a 国際社会論 a	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目標は、学生が一年時に学習した国際関係論の基礎から更に理解を深めること、また国際政治理論を用いて国際社会を分析できるようになることである。</p> <p>本講義では、グローバル化の進む国際社会の本質的な動きを理解するための手がかりとして、国際社会の構成枠組みとしての主体、ならびに分析視点としての理論について学ぶ。その上で、安全保障、国際経済、環境問題など近年の国際社会が直面するさまざまな問題を具体的にに取り上げ、理論的アプローチを適用することでグローバル社会の実態の把握にせまる。</p>		<p>第1回 ガイダンス、グローバル化する国際社会</p> <p>第2回 国際政治の理論とは何か</p> <p>第3回 国際政治の分析枠組み①国際関係</p> <p>第4回 国際政治の分析枠組み②国家</p> <p>第5回 国際政治の分析枠組み③個人</p> <p>第6回 国際政治アプローチ①現実主義</p> <p>第7回 国際政治アプローチ②理想主義</p> <p>第8回 国際政治アプローチ③コンストラクティズム/小テスト</p> <p>第9回 安全保障</p> <p>第10回 国際経済関係</p> <p>第11回 地球環境</p> <p>第12回 人権</p> <p>第13回 貧困と開発</p> <p>第14回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指定する。		出席、中間テスト、学期末試験の総合評価とする。欠席は4回までとする。	

06～09年度 (秋) 03～05年度 (秋)	グローバル社会論 b 国際社会論 b	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目標は、学生が一年時に学習した国際関係論の基礎から更に理解を深めること、また国際政治理論を用いて国際社会を分析できるようになることである。</p> <p>本講義では、グローバル化の進む国際社会の本質的な動きを理解するための手がかりとして、国際社会の構成枠組みとしての主体、ならびに分析視点としての理論について学ぶ。その上で、安全保障、国際経済、環境問題など近年の国際社会が直面するさまざまな問題を具体的にに取り上げ、理論的アプローチを適用することでグローバル社会の実態の把握にせまる。</p>		<p>第1回 ガイダンス、グローバル化する国際社会</p> <p>第2回 国際政治の理論とは何か</p> <p>第3回 国際政治の分析枠組み①国際関係</p> <p>第4回 国際政治の分析枠組み②国家</p> <p>第5回 国際政治の分析枠組み③個人</p> <p>第6回 国際政治アプローチ①現実主義</p> <p>第7回 国際政治アプローチ②理想主義</p> <p>第8回 国際政治アプローチ③コンストラクティズム/小テスト</p> <p>第9回 安全保障</p> <p>第10回 国際経済関係</p> <p>第11回 地球環境</p> <p>第12回 人権</p> <p>第13回 貧困と開発</p> <p>第14回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指定する		出席、中間テスト、学期末試験の総合評価とする。欠席は4回までとする。	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	グローバル社会論 a 国際社会論 a	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>毎回、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。</p> <p>授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみましょう。</p> <p>国際ニュースに加えて、観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目し、CNN や BBC を楽しみます。</p> <p>国際ニュースを見た後、授業の後半では「グローバル社会を見る眼」を養いましょう。これに関連したトピックを取り上げ、用語の解説も行います。</p> <p>国際問題を「料理」に例えれば、食材（国際問題）をどのように料理（分析）するかが鍵となります。料理でもイタリアン、フレンチ、中華、日本料理では味覚が異なります。料理方法が異なれば、国際問題の見方も多様化します。この授業では、そのノウハウを伝えていきます。</p> <p>ご一緒に、国際問題を料理してみましょ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国際情報ツール「ニュースの見方」 2 グローバル社会を見る眼 3 国際システム 4 国際システム 5 国内社会と国際社会の相違 6 国内社会と国際社会の相違 7 政治過程：恋愛・結婚・ファミリー 権威：権力＋正統性 8 まとめ 9 米欧の世界観 10 イギリスの思想家 11 ヨーロッパの思想家 12 国際社会の比較 13 国際社会の比較 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『グローバル社会論資料集』		評価方法は、登録作業の出席点、中間テスト、期末試験の3点セットです。	

09年度（秋） 06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	グローバル社会論 a グローバル社会論 b 国際社会論 b	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>毎回、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。</p> <p>授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみましょう。</p> <p>国際ニュースに加えて、観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目し、CNN や BBC を楽しみます。</p> <p>国際ニュースを見た後、授業の後半では「グローバル社会を見る眼」を養いましょう。これに関連したトピックを取り上げ、用語の解説も行います。</p> <p>国際問題を「料理」に例えれば、食材（国際問題）をどのように料理（分析）するかが鍵となります。料理でもイタリアン、フレンチ、中華、日本料理では味覚が異なります。料理方法が異なれば、国際問題の見方も多様化します。この授業では、そのノウハウを伝えていきます。</p> <p>ご一緒に、国際問題を料理してみましょ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国際情報ツール「ニュースの見方」 2 グローバル社会を見る眼 3 国際システム 4 国際システム 5 国内社会と国際社会の相違 6 国内社会と国際社会の相違 7 政治過程：恋愛・結婚・ファミリー 権威：権力＋正統性 8 まとめ 9 米欧の世界観 10 イギリスの思想家 11 ヨーロッパの思想家 12 国際社会の比較 13 国際社会の比較 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『グローバル社会論資料集』		評価方法は、登録作業の出席点、中間テスト、期末試験の3点セットです。	

06～09年度（春） 03～05年度（春）	英語圏の国際関係 a 国際関係史 a	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義の問題意識】 日本が 21 世紀においてアジア太平洋地域の平和と安定に積極的に関わろうとするとき、日本とオーストラリアのパートナーシップはとりわけ重要である。それは、両国が自由主義的民主主義と市場経済という政治的・経済的基本理念、またアジア太平洋地域の平和と安定の実現という戦略的価値を共有すると同時に、こうした価値観とは必ずしも同調しないアジアの歴史と伝統のなかで生きていくというアイデンティティをも共有し、両国の連携のための基盤が存在しているからである。日豪両国がともに信頼できるパートナーとして、国際社会において共同行動をとり、平和と安定に積極的に貢献していかなければならない。</p> <p>【講義概要】 春学期の講義では、イギリスによるオーストラリア植民地の形成（18 世紀後半）から、第二次世界大戦終結までのオーストラリアの歴史を、イギリス（英帝国）やアメリカ、アジア地域との関係性のなかで概観していく。 本講義はパワーポイントを利用し、同時に簡単なレジメを配布する。必要に応じて、映像資料を用いる。なお、抜き打ち的にテキストの内容についての小テストを数回実施する。</p>		<p>第 1 回：イントロダクション～オーストラリアを学ぶ意義 第 2 回：植民地オーストラリア①～植民地の誕生と発展 第 3 回：植民地オーストラリア② ～大英帝国とオーストラリア 第 4 回：ゴールドラッシュと白豪主義政策 第 5 回：多文化主義社会オーストラリア 第 6 回：20 世紀初頭の戦争とオーストラリア ～「二つのナショナリズム」 第 7 回：20 世紀初頭の戦争とオーストラリア ～第一次世界大戦とアンザック精神 第 8 回：20 世紀初頭の戦争とオーストラリア ～第一次世界大戦とオーストラリア国内社会 第 9 回：第二次世界大戦～アジア国際関係と黄禍論 第 10 回：2 つの捕虜収容所①～アンボン捕虜収容所 第 11 回：2 つの捕虜収容所②～カウラ捕虜収容所 第 12 回：対日講和問題とオーストラリア 第 13 回：オーストラリアにおける先住民問題① ～1970 年代まで 第 14 回：オーストラリアにおける先住民問題② ～ラッド首相の「謝罪演説」まで 第 15 回：総括と質疑応答</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：竹田、森、永野編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。 参考文献：講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布</p>		不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	英語圏の国際関係 b 国際関係史 b	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義の問題意識】 日本が 21 世紀においてアジア太平洋地域の平和と安定に積極的に関わろうとするとき、日本とオーストラリアのパートナーシップはとりわけ重要である。それは、両国が自由主義的民主主義と市場経済という政治的・経済的基本理念、またアジア太平洋地域の平和と安定の実現という戦略的価値を共有すると同時に、こうした価値観とは必ずしも同調しないアジアの歴史と伝統のなかで生きていくというアイデンティティをも共有し、両国の連携のための基盤が存在しているからである。日豪両国がともに信頼できるパートナーとして、国際社会において共同行動をとり、平和と安定に積極的に貢献していかなければならない。</p> <p>【講義概要】 秋学期の講義では、第二次世界大戦後のオーストラリアの外交・安全保障を中心に見ていく。オーストラリアは、第二次世界大戦を契機に、イギリスからアメリカ合衆国へと自らの安全保障の拠り所を変換させ、さらに日本を含めたアジアとの関係を深化させていった。こうした流れに沿いながら、オーストラリアの歴史を概観していく。 本講義はパワーポイントを利用し、同時に簡単なレジメを配布する。必要に応じて、映像資料を用いる。なお、抜き打ち的にテキストの内容についての小テストを数回実施する。</p>		<p>第 1 回：イントロダクション ～オーストラリア外交を見る眼 第 2 回：チフリー労働党政権の外交 ～新たな国際関係構築の模索 第 3 回：アンザス同盟の実現 第 4 回：冷戦下のアジア① ～中国の誕生、マラヤ暴動、朝鮮戦争 第一次インドシナ危機 第 5 回：冷戦下のアジア② ～イギリスのアジアの戦争「対決政策」 第 6 回：冷戦下のアジア③ ～アメリカのアジアの戦争「ベトナム戦争」 第 7 回：ポストベトナムのオーストラリア外交 第 8 回：冷戦末期から冷戦後のオーストラリア外交 ～オーストラリアの「アジア化」 第 9 回：ミドルパワー外交①PKO、多国間主義 第 10 回：ミドルパワー外交②移民、難民、援助 第 11 回：ミドルパワー外交③核軍縮 第 12 回：ミドルパワー外交④国際テロとの戦い 第 13 回：日豪関係の歴史的展開～敵国から同盟国へ 第 14 回：ラッド労働党政権の政治と外交 第 15 回：21 世紀オーストラリア外交の行方&質疑応答</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>竹田、森、永野編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。 参考文献：講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布</p>		不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。	

06～09年度(春) 05年度以前(春)	国際開発論 国際開発協力論b	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、開発途上国における貧困および開発の実態を明らかにし、さらにグローバル化時代において開発途上国が直面する課題と可能性について検討します。</p> <p>講義は3つのシリーズから構成されます。第1の「開発途上国の貧困」では、貧困の実態を紹介するとともにその要因を多面的に捉えます。第2の「開発途上国の開発とその実態」では、途上国が独立以来歩んできた発展の過程を後付けたうえで、経済成長重視政策の問題点やグローバリゼーションが開発途上国に与えている影響に関して検討し、さらに近年目覚まし中国の経済発展の実態について、その弊害を含めて探ります。第3の「グローバル化時代の国際開発」では、グローバル化時代における開発の新たなトレンドを探りつつ、新たな開発の方向性やビジネスの可能性について考えます。</p> <p>なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。</p>		<p>1. イントロダクション：開発と国際関係</p> <p><開発途上国の貧困></p> <p>2. 貧困の現状／歴史的要因 (1)：植民地支配の影響</p> <p>3. 歴史的要因 (2)：アジアにおける植民統治</p> <p>4. 政治的要因 (1)：民主主義と開発</p> <p>5. 政治的要因 (2)：開発独裁体制</p> <p>6. 社会・文化的要因：インド・カースト制度</p> <p><開発途上国の開発とその実態></p> <p>7. 経済開発の方法とパターン</p> <p>8. 高度経済成長の要因と弊害</p> <p>9. 開発途上国にとってのグローバリゼーション</p> <p>10. 中国経済発展の光と影 (1) 発展の勢い</p> <p>11. 中国経済発展の光と影 (2) 弊害と矛盾</p> <p><グローバル化時代の国際開発></p> <p>12. 国際ビジネスの新展開 (1)：ポップカルチャー</p> <p>13. 国際ビジネスの新展開 (2)：ツーリズム関連産業</p> <p>14. 国際ビジネスの新展開 (3)：イスラム関連産業</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。</p>		<p>学期末試験の成績を中心に評価を行います。</p>	

06～09年度(春) 05年度以前(春)	国際協力論 国際開発協力論 a	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>毎回、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。</p> <p>授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみます。</p> <p>国際ニュースに加えて、観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目し、CNN や BBC を楽しみます。</p> <p>国際ニュースは授業の前半で見ますが、後半は国際協力に関連した2つのトピックを取り上げます。</p> <p>第1のトピックは、グローバル社会における先進国と発展途上国の関係を、オーストラリアに注目して、国際協力の視点から取り上げます。</p> <p>第2のトピックは、国際テロです。世界は9・11テロ事件によって大きく変化し、国際協力のあり方も見直されるようになりました。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国際情報ツール「ニュースの見方」 2 オーストラリアは、どんな国 <p><国際協力の表とウラ></p> <ol style="list-style-type: none"> 3 国境を越える 4 国境を越える 5 国内の紛争 6 国内の紛争 7 地域の協力 8 ニッチ外交 9 まとめ <p><国際リスクを考えてみよう></p> <ol style="list-style-type: none"> 10 国際テロ 11 国際テロ 12 国際テロ 13 テロ対策と国際協力 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
竹田いさみ『物語オーストラリアの歴史』(中公新書、2000年)、同『国際テロネットワーク』(講談社現代新書、2006年)の2冊。		評価方法は、登録作業の出席点、中間テスト、期末試験の3点セットです。	

06～09年度（春）	国際交流論	担当者	小松 諄悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、芸術交流、日本語教育、日本研究・知的交流の三分野における、国際文化交流事業の実践を検証します。</p> <p>分野ごとの文化交流事業の実践を学習しながら、文化交流政策、文化交流の目的についても、考察していきたいと思えます。</p> <p>国際環境の変化が、いかに文化交流に影響を与えるかも、検討したいと考えています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際文化交流の歴史 2. 国際交流基金の歴史 3. 芸術交流 4. 芸術交流の実践 5. 芸術交流の実践（2） 6. 日本語教育 7. 日本語教育の実践 8. 日本研究 9. 日本研究事業の実践 10. 知的交流 11. 知的交流の実践 12. 知的交流の実践（2） 13. 国際環境の変化と国際文化交流の変遷 14. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じ、授業でレジュメを配布		期末レポートによって評価（80%）するが、出席率も考慮に入れる（20%）。	

06～09年度（秋）	国際ツーリズム論	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 ツーリズムによる交流が持つ力は、国際収支改善、雇用促進、地域開発等の経済的側面のみならず社会、文化、教育、環境、国際親善など非常に広範囲な分野に強い影響力を及ぼしていることを学習する。</p> <p>講義概要 わが国の国家戦略としての観光立国政策を理解し、日本における国際観光の意義、国際観光の歴史的経緯を学びながら、経済的、文化的、社会的側面を考察し、その重要性を認識すること、日本人の海外旅行者数と訪日外国人旅行者数のアンバランスは重大問題として学習する。訪日外国人旅行者の動向、日本の観光魅力、主要国の国際観光の状況と日本との交流、国際観光マーケティングについても理解を深める。</p> <p>講義では、流動的な旅行業界や航空業界の動き等々、観光関連報道記事を適宜取り上げたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 国際観光の推移と概況 3. 訪日外国人旅行者誘致の歴史 4. 日本のソフトパワーと観光 5. ソフトパワーとしての国家の観光魅力 6. 国際観光立国の今日的意義 7. インバウンド観光（訪日外国人）の現状 8. 国際観光と観光マーケティング 9. 観光立国推進基本法と実施策（VJC） 10. インバウンド振興と観光政策 11. 日本の海外旅行市場動向 12. 日本の海外旅行市場振興 13. 国際観光の展望 14. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。</p>		<p>試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。</p>	

06～09年度（秋）	国際 NGO ・ ボランティア論	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル化、多極化、多様化といった現象が進む現代社会において、様々な面で国際協力の重要性が高まっています。また、国際協力を担う主体も多様化し、国家、国際機関、企業などとともに非政府組織（NGO）やボランティア組織にも注目が集まっています。本講義では、国際協力、とりわけ開発援助における NGO の機能と役割に注目しながら、現代の国際社会が抱える開発協力の諸問題について考えます。</p> <p>本講義は3つのシリーズから構成されます。第1の「開発援助の仕組みと展開」では、政府開発援助（ODA）の現状を把握するとともに、ODA の新たなトレンドと課題を探ります。第2の「NGO の役割と課題」では NGO やボランティア組織のあり方について歴史的背景を踏まえながら捉え、さらに開発と NGO との関係について具体的なケースを取り上げながら考えます。最後の「国際協力の新たなテーマと NGO」では、近年注目されている国際協力の幾つかの側面に着目しながら、新たな NGO の役割と課題について検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：国際協力・開発援助・NGO <開発援助の仕組みと展開> 2. ODA の仕組みとトレンド 3. 日本の ODA の特徴 4. 日本の援助実績と問題点 5. 日本の ODA の課題 <NGO の役割と課題> 6. 国際援助の新たなテーマと NGO 7. NGO の定義と歴史的経緯 8. NGO の機能と途上国での役割 9. 開発と NGO：ケーススタディ(1)バングラデシュ 10. 開発と NGO：ケーススタディ(2)マレーシア <国際協力の新たなテーマと NGO> 11. マイクロクレジットという方法 12. ジェンダー問題と開発 13. 地球環境問題と国際協力 14. 大規模自然災害と国際協力 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。</p>		<p>学期末試験の成績を中心に評価を行います。</p>	

06～09年度(春) 03～05年度(春)	国際関係特殊講義 a 国際関係論特殊講義 a	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【本講義の目標】 本講義の目的は、20世紀の国際関係の歴史の全体像を把握し、それを21世紀の国際関係の理解に役立てることである。国際政治の現象の理解に必要なのは、理論的な枠組みと歴史的背景である。前者の理論的枠組みについては、「グローバル社会論」(国際コース必修科目)を中心に講義がなされているが、歴史関連科目については、学生諸君が学ぶ機会は限られており、この講義が歴史的知識を習得する機会を与える一つとなるだろう。</p> <p>【講義概要】 本講義では、第二次世界大戦後の歴史を主として冷戦という観点から振り返っていくが、「核兵器」、「脱植民地化」、「経済」、「文化」、「市民社会」などテーマを絞って過去およそ50年間の歴史を振り返りたい。 本講義は、パワーポイントを利用し、同時に簡単なレジメを配布する。また必要に応じて映像資料を用いる。抜き打ちで出欠調査を兼ねたリアクションペーパーの提出を求める。</p>		<p>第1回：イントロダクション～歴史を学ぶとは？ 第2回：20世紀はどんな時代であったか ～ナショナリズムの時代 第3回：20世紀はどんな時代であったか ～大量破壊兵器の時代 第4回：20世紀はどんな時代であったか ～国際関係の多民族化・多文化化 第5回：20世紀はどんな時代であったか ～資本主義経済のグローバル化 第6回：冷戦とは何であったのか 第7回：冷戦の開始・冷戦の起源 第8回：冷戦の展開と激化 第9回：冷戦と日本 第10回：冷戦と経済 第11回：冷戦と文化 第12回：冷戦と市民社会 第13回：冷戦の終焉と21世紀の国際関係 第14回：まとめ(質疑応答)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。 講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布します。		抜き打ち的に実施するリアクションペーパーの提出(30%)と学期末試験(論述形式、70%)による。	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	国際関係特殊講義 b 国際関係論特殊講義 b	担当者	小松 諄悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「国際交流論」で分野ごとに検証した国際文化交流事業の実践を、この講義では、日本にとって重要な地域（アジア）・国（アメリカ）ごとの、国際文化交流事業の実践を検証します。</p> <p>アメリカ、北東アジア、東南アジアの、それぞれの現代史と特性、日本との関係史を考察しながら、その特性に応じた、適正な文化交流事業を検討していきたいと思えます。</p> <p>近年注目されている東アジア共同体の中核をなすべき「東アジア文化共同体」構想についての私論も展開する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際文化交流の歴史 2. アメリカの特性 3. 日米関係の近現代史 4. 日米文化交流の実践 5. 中国の近現代史 6. 日中関係の歴史 7. 日中文化交流の実践 8. 韓国の近現代史 9. 日韓関係の近現代史 10. 日韓文化交流の実践 11. 東南アジアの近現代史 12. 日本と東南アジアとの関係史 13. 東南アジアとの文化交流の実践 14. 東アジア文化共同体（授業のまとめ） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じ、授業でレジュメを配布		期末レポートによって評価（80%）するが、出席率も考慮に入れる（20%）。	

06～09年度（秋） 03～05年度（秋）	国際関係特殊講義 b 国際関係論特殊講義 b	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、サハラ以南アフリカ諸国に焦点を当て、政治、経済、社会などさまざまな側面からアフリカの実情を把握し、グローバル社会の中でのアフリカ諸国の位置づけを試みる。</p> <p>数多くのアフリカ諸国が独立を果たした 1970 年代は「アフリカの年」と呼ばれる。独立から四半世紀を経過した今なお、アフリカ諸国は良くも悪くも国際社会の関心の的となっている。</p> <p>国際社会の安全と平和の推進に大きな役割を担う国連安保理の議題の約 6 割がアフリカ関連事項であるという事実がこれを裏付ける。本講義では、現代アフリカを理解するのに必要な視点ならびに情報を提供する。映像資料を積極的に使用することで学生の理解向上に努めたい。</p>		<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 植民地政策とアフリカ</p> <p>第 3 回 独立後のアフリカ</p> <p>第 4 回 国際支援とアフリカ（1）構造調整計画</p> <p>第 5 回 国際支援とアフリカ（2）貧困削減政策</p> <p>第 6 回 紛争と平和構築（1）ソマリア</p> <p>第 7 回 紛争と平和構築（2）スーダン</p> <p>第 8 回 紛争と平和構築（3）コンゴ民主共和国</p> <p>第 9 回 民主主義とガバナンス</p> <p>第 10 回 天然資源と経済成長</p> <p>第 11 回 地域協力体制</p> <p>第 12 回 女性と人権</p> <p>第 13 回 環境問題</p> <p>第 14 回 日本の対アフリカ政策、まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜配布する。		出席と学期末試験の総合評価とする。4 回を超えて欠席したものは、単位修得の権利を失う。	

06～09年度(秋) 03～05年度(秋)	国際関係特殊講義 b 国際関係論特殊講義 b	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>毎回、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。 授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみましょう。 国際ニュースに加えて、観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目し、CNN や BBC を楽しみます。</p> <p>国際ニュースは授業の前半で見ますが、後半は国際リズム・リスクに関連したトピックを取り上げます。以下のようなトピックを予定しています。</p> <p>(1) エアライン時刻表を読む (2) 海外旅行パンフレットを読む (3) ディズニー映画「カリブの海賊」を見る (4) ソマリア海賊の BBC ニュースを見る (5) スパイ映画「007」を見る (6) コーヒー・紅茶・スパイスと海賊 (7) 宝石・ダイヤモンドと国際テロ</p>		<p>1 エアライン時刻表の読み方 2 海外旅行パンフレットの読み方</p> <p>3 ディズニー映画「カリブの海賊」を見て解説 4 ディズニー映画「カリブの海賊」を見て解説</p> <p>5 海賊 6 海賊 7 海賊：コーヒー・紅茶・スパイス 8 ソマリア海賊の BBC ニュースを見る 9 まとめ</p> <p>10 スパイ映画「007」を見て解説 11 テロネットワーク 12 テロネットワーク 13 テロネットワーク：宝石とダイヤモンド 14 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは最初の授業でお知らせします。		評価方法は、登録作業の出席点、中間テスト、期末試験の3点セットです。	

06～08年度(春) 03～05年度(春)	国際関係文献研究 a 国際関係論文研究 a	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、以下の3つの目標が設定されています。</p> <p>第1の目標は、英語圏の国際関係を、国際テロ問題に注目して討論することです。</p> <p>第2の目標は、英語の運用能力を高めることです。</p> <p>第3の目標は、受講生が積極的に発言する「場」を作り、受身ではなくて参加型の授業にすることです。</p> <p>テキストは、国際テロ問題に関して米国の特別調査委員会が作成した委員会レポートを扱う予定です。</p> <p>毎回の授業は、基本的にすべて英語で行います。とりわけ授業では、英語によるプレゼンテーション能力の開発に、力点が置かれています。</p> <p>課題テーマに関する発表資料を用意し、プレゼンテーションした受講生のみが、評価の対象となります。</p> <p>重複履修は原則として出来ません。</p>		<p>受講生の人数が確定した段階で、プレゼンテーションのテーマと発表者を決めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 テーマごとのプレゼンテーションと討論 3 同上 4 同上 5 同上 6 同上 7 同上 8 同上 9 同上 10 同上 11 同上 12 同上 13 同上 14 同上 	
テキスト、参考文献		評価方法	
The National Commission on Terrorist Attacks upon the United States, <i>The 9/11 Commission Report, Authorized Edition</i> , NY: W.W. Norton, 2004.		出席回数、プレゼンテーションの準備、授業への貢献度などで評価します。	

06～08年度(秋) 03～05年度(秋)	国際関係文献研究 b 国際関係論文研究 b	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、以下の3つの目標が設定されています。</p> <p>第1の目標は、英語圏の国際関係を、国際テロ問題に注目して討論することです。</p> <p>第2の目標は、英語の運用能力を高めることです。</p> <p>第3の目標は、受講生が積極的に発言する「場」を作り、受身ではなくて参加型の授業にすることです。</p> <p>テキストは、国際テロ問題に関して米国の特別調査委員会が作成した委員会レポートを扱う予定です。</p> <p>毎回の授業は、基本的にすべて英語で行います。とりわけ授業では、英語によるプレゼンテーション能力の開発に、力点が置かれています。</p> <p>課題テーマに関する発表資料を用意し、プレゼンテーションした受講生のみが、評価の対象となります。</p> <p>重複履修は原則として出来ません。</p>		<p>受講生の人数が確定した段階で、プレゼンテーションのテーマと発表者を決めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 テーマごとのプレゼンテーションと討論 3 同上 4 同上 5 同上 6 同上 7 同上 8 同上 9 同上 10 同上 11 同上 12 同上 13 同上 14 同上 	
テキスト、参考文献		評価方法	
The National Commission on Terrorist Attacks upon the United States, <i>The 9/11 Commission Report, Authorized Edition</i> , NY: W.W. Norton, 2004.		出席回数、プレゼンテーションの準備、授業への貢献度などで評価します。	

06～08年度（春） 03～05年度（春）	国際関係文献研究 a 国際関係論文研究 a	担当者	光辻 克馬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、国際関係について英語で書かれた研究論文、雑誌論文などを読むことで、(1) 国際関係についての基本的な見方を学び、(2) 国際関係分野に必要な英語能力を向上させ、(3) プレゼンテーション能力を身につけることを目指します。</p> <p>講義は、基本的には履修者による報告と討論で構成します。必要に応じて解説を加えます。テーマとしては、「国際社会の誕生」「大国の興亡」「国際平和と戦争」「自由貿易体制」などを予定しています。</p>		<p>第1回： イントロダクション：国際関係論&心得解説</p> <p>第2回-第13回： 履修者による報告と討論</p> <p>第14回： みんなで総括</p> <p>履修者の国際関係、世界史分野の知識量に応じて、適宜解説を加えながら進めます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
文献のコピーはこちらで用意します。		出席状況、プレゼンテーションの内容、討論への貢献度などにより評価します。単位取得のためには、2/3 以上の出席が必要です。	

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	国際関係文献研究 b 国際関係論文研究 b	担当者	光辻 克馬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、国際関係について英語で書かれた研究論文、雑誌論文などを読むことで、(1) 国際関係についての基本的な見方を学び、(2) 国際関係分野に必要な英語能力を向上させ、(3) プレゼンテーション能力を身につけることを目指します。</p> <p>講義は、履修者による報告と討論で構成します。単なる出席ではなく、討論への参加を要求します。テーマとしては、</p> <p>講義は、基本的には履修者による報告と討論で構成します。必要に応じて解説を加えます。テーマとしては、「国民国家」「民主主義」「環境問題」「アメリカ帝国論」などを予定しています。</p>		<p>第1回： イントロダクション：国際関係論&心得解説</p> <p>第2回-第13回： 履修者による報告と討論</p> <p>第14回： みんなで総括</p> <p>履修者の国際関係、世界史分野の知識量に応じて、適宜解説を加えながら進めます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
文献のコピーはこちらで用意します。		出席状況、プレゼンテーションの内容、討論への貢献度などにより評価します。単位取得のためには、2/3 以上の出席が必要です。	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	太田 勉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2008年の観光庁発足に象徴されるように、ツーリズムの振興は国家的戦略目標になっています。独自の豊かな文化を持つ国々や地域は多数の人々をひきつけてやみません。文化は国や地域の歴史、伝統、人々の行動様式や価値観の表れでもあります。オーランドやラスベガスにみられる巨大ツーリズム産業の成立は、アメリカの開拓者精神を抜きには語れません。アジア各地に展開する香港系高級ホテルチェーンの成功も、華人文化に脈々と流れる事業家精神の基礎の上に築かれています。</p> <p>若い世代の海外旅行離れは日本のツーリズム衰退につながる危険性をはらんでいます。メディアの発達により、海外の事情をいながらにして知ることが出来る時代になりました。東アジアの若い世代は、さまざまなメディア情報に触発され、海外を目指します。日本の同世代は疑似体験に満足し、内にこもります。自らの旅行体験に根ざした、グローバルな視野を持った若い世代が育つことが、インバウンド、アウトバウンドに限らず、日本のツーリズム振興にとって重要だと考えます。こうした考えに基づき講義を進めたいと思います。外国の基本的な地名、人名等の正しい英語表記使用を含め、一般授業を通じて英語力の裾野を広げる機会を提供するのも本講義のねらいの一つです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. インバウンドツーリストに見るツーリズム文化 2. インターネットとツーリズム 3. 外国政府観光局のツーリズムプロモーション 4. アメリカのツーリズム文化 5. 大自然の魅力を最大限に引き出し、環境にも配慮するアメリカの国立公園行政 6. オーランドやラスベガスに見る、巨大ツーリズム産業の成立 7. クルージングを楽しむ人々 8. 世界で宿泊産業をリードするホテルチェーン 9. アジアのツーリズムを支える頭脳集団 10. 旧暦の正月こそ本当の正月、東アジアの華人文化 11. 植民地遺産を活かす香港のツーリズム 12. アジアの大衆文化とツーリズム 13. 琉球文化とアメリカ文化の混合が独自の魅力を作り出す沖縄 14. 国家の総合力を試される MICE ツーリズムの行方 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		小テスト2回（40%）と期末試験（60%）を実施します。出席日数が少ない場合減点対象とすることがあります。	

09年度以降	交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、「市民参加のまちづくり論」として、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。</p> <p>まち（地域）づくりという言葉から何を連想しますか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、商店街を活性化させること、等々。本講義では、「まちづくり＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。なぜ「市民参加」が必要なのでしょう。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。取り上げる具体的な事例としては、ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、ニューヨークのドッグラン、インドネシアでのNGO活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。</p> <p>教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 地域の発展を理解するための視座 3. 内発的発展と外来型開発 4. 組織・制度化 (institutionalization) 5. 住民参加(participation)の意義と多義性 6. 事例研究：参加型開発 ※教室内ワークショップ 7. 内発的発展におけるキーパーソン 8. 共益から公益の創出へ：NYと東京のドッグランを例として 9. コミュニティマネー（ビデオ,坂本龍一『地域通貨の未来』） 10. コミュニティ開発とコミュニケーションエラー：インドネシアでのNGO援助を事例として 11. 過疎地の地域づくりと外部者のまなざし 12. 多文化共生と地域づくり 13. まちづくりと観光（ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』） 14. 大学とまちづくり 15. まとめ：「まちづくりは人づくり」 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>（テキスト） 北野収『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※各自で購入してください</p>		<p>期末試験（60%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（40%）。</p>	

09年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 ツーリズム産業の重要な役割を果たしている旅行業と宿泊業について、その歴史、組織と機能、経営の実態、社会的意義と役割について学習する。</p> <p>講義概要 旅行会社の業務を通して、旅行ビジネスの概略を学習する。旅行業の発展経緯と機能役割、マーケティングについて重点的に学習する。IT時代における旅行ビジネスの実態と今日的課題及び将来像についても把握する。 宿泊産業では旅館を含む全体の概略を学習するが、殊に、外資の進出が著しいホテルビジネスについて、その運営方法、マネジメント等を学び、併せて、ホスピタル産業としての側面よりホテル業のサービスの実態についても学習する。</p> <p>講義では、流動的な航空業界や旅行業界の動き等々観光関連報道記事も適宜取上げ、学習の参考にしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 旅行業の沿革① 3. 旅行業の沿革② 4. 旅行会社の意義と役割 5. 旅行会社の分類と商品 6. 旅行会社の業務 7. 旅行業界の現状と課題・展望 8. 宿泊業の沿革 9. 宿泊業の概要 10. ホテル業の種別 <ol style="list-style-type: none"> 11. ホテル業の運営経営形態 12. ホテル業のサービス 13. ホテル業界の現状と・展望 14. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。</p>		<p>試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。</p>	

09年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	遠藤 充信
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>講義目的 国際観光事業において重要な役割を担う国際航空産業は、各国の経済力や政策に左右される国際政治の影響を受けやすい。国際航空業の仕組みや成り立ちを、国際航空協定と航空ナショナリズムの流れを学習することにより把握する。併せて、わが国の航空政策の現状と課題、及び将来の展望について理解する。</p> <p>講義概要 国際線運航の原則、航空の国際的組織、国際航空の潮流、わが国の航空政策等々を学習することにより、国際航空運送の仕組みを理解する。又、各国の航空規制緩和がもたらした航空業界の変革について、アメリカの航空政策の規制緩和を中心に学習する。殊に、ローコストキャリア（新規低運賃航空会社）の台頭が著しい欧米、アジアの現状を検証する。一方、羽田の国際化問題で揺れるわが国の航空運送の現状について、空港問題を中心に航空政策の課題についても触れ、今後の展望を学習する。</p> <p>講義では、流動的な航空業界や旅行業界の動き等々観光関連報道記事も適宜取上げ、学習の参考にしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 国際線運航の原則 <ol style="list-style-type: none"> ①領空主権主義と運輸権 3. 国際線運航の原則 <ol style="list-style-type: none"> ②シカゴ条約と空の自由 4. 航空の国際的組織 ICAOとIATA 5. 米国の航空規制緩和 6. 航空規制緩和とLCC（ロー・コスト・キャリア） 7. 米国の新規航空企業 <ol style="list-style-type: none"> ①サウスウエスト航空の事例 8. 米国の新規航空企業 <ol style="list-style-type: none"> ②サウスウエスト航空の事例 9. 航空経営戦略の潮流（ハブ・アンド・スポークとアライアンス） 10. 日本の航空政策と規制緩和 <ol style="list-style-type: none"> 11. 日本の航空業の現状（JAL・ANA・新規企業） 12. 日本の空港の現状と課題① 13. 日本の空港の現状と課題② 14. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：航空産業入門（ANA総合研究所）東洋経済新報社、航空事業論（井上泰日子）日本評論社</p>		<p>試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。</p>	

09年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] 表象(representation)と文化の関係を考察する。</p> <p>[講義概要] テキストには、カルチュラル・スタディーズの主要な論客である Stuart Hall が、イギリスの Open University のために編纂した、<i>Representation: Cultural Representations and Signifying Practices</i> (London: Sage, 1997) から抜粋(pp. 13-74)を用いる。</p> <p>テキストは図書館の指定図書になっているので、各自でコピーするか、講義支援システムからダウンロードすることもできる。(但し、登録期間終了までは、各自のアカウントからは入れないので、高橋雄一郎の教員名から、授業科目を探すこと。)</p> <p>昨年度、英語学科の「英語圏の文学・文化特殊講義 a (高橋)」で単位を修得した学生は、内容が重複するので、履修が認められない。</p>		<p>第1回：セクション1 第2回：同上 第3回：同上 第4回：同上 第5回：同上 第6回：セクション2 第7回：同上 第8回：同上 第9回：セクション3 第10回：同上 第11回：セクション4 第12回：同上 第13回：同上 第14回：同上</p> <p>初回の授業には15分前から19分上半分までを予習してくること。初回から実質的な授業をおこなうので、充分注意して出席すること。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記テキスト以外の参考文献は、授業時に適宜、紹介する。		授業への積極的な参加と、課題による。	

09年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバルとローカルなものとの対抗・交渉は現代社会を考える重要な視座の1つです。</p> <p>近年、alternative（もう1つの）という言葉が時々耳にします。グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。</p> <p>この講義は、開発文化論として、グローバル化と国民国家に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の最新の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。</p> <p>開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。</p> <p>（参考文献） W.ザックス『脱「開発」の時代』、N.ローツェン他『フェアトレードの冒険』、J.フリードマン『市民・政府・NGO』、P.フレイレ『被抑圧者の教育学』、B.トムゼン『女の町フチタン』、H.ノーバークホッジ『ラダック：懐かしい未来』</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 開発と文化変容 （ビデオ『ラダック：懐かしい未来』） 3. 社会的構築物としての貧困とポスト開発思想 4. ある女性NGOワーカーの遍歴と教訓 5. フェアトレードの父の思想と哲学 6. 伝統文化と教育・学び 7. グローバル化・伝統・ジェンダー 8. 宗教と社会開発NGO 9. 地域メディアとアイデンティティ戦略 10. コミュニティと外部を結ぶ人材 11. 開発ワーカーと異文化適応 ※教室内ワークショップ 12. 構造調整と農民・先住民の自己防衛 13. 巨大開発計画と地域住民・NGO 14. 文化変容とグローバル公共空間 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的発展とNGO』勁草書房。※各自で購入してください</p> <p>（参考文献）上欄を参照。</p>		<p>期末試験（60%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（40%）。</p>	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ツーリズムがホスト社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など、多岐にわたる。それゆえツーリズムに学問的にアプローチする際の方法論も多様である。本講義は、そのなかでも文化人類学という学問を手がかりにしながら、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶ。</p> <p>本講義では、1. ツーリズムを作り出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指す。同時に、ツーリズム研究に関連する現代文化人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めることを目指す。</p> <p>受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ないが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明 2. グローバリゼーションの民族誌 1 3. グローバリゼーションの民族誌 2 4. 観光の誕生 5. ビデオ上映 6. 表象の政治学—情報資本主義と観光 7. メディアと観光—「楽園」ハワイの文化史 8. 植民地主義と観光—「神々の島」バリの誕生 9. 文化装置としてのホテル 10. 世界遺産の窮状—カンボジアの事例 11. セックス・ツーリズム—タイの事例 12. 少数民族と観光—タイの事例 13. 文化の著作権と「サンタクロース民族」 14. まとめ・予備日 <p>（なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。随時、文献リストを配布します。		授業毎のレスポンスペーパー+小レポート(50%)、期末テスト(50%)	

09年度以降	交流文化論（サステイナブル・ツーリズム論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の「市民参加のまちづくり論」との継続性を念頭におきつつ、「サステイナブル・ツーリズム論」の講義を行います。ただし、「市民参加のまちづくり論」未受講生も全く問題なく受講することができます。</p> <p>近年、環境や健康に配慮した持続可能（sustainable）なライフスタイルの一部として、グリーンツーリズムなど自然を楽しみ、学び、地域の人々と交流する新しいツーリズムの形態が注目されるようになってきました。この流れは、ドイツ、フランス、イギリスなど西欧に始まり、アメリカ、そして日本へと展開してきました。</p> <p>本講義は、「サステイナブル・ツーリズム論」として、欧米、日本のグリーンツーリズム、アグリツーリズム、エコミュージアムなどの歴史、事例、課題を知ることより、ポスト産業化社会における多様な価値実現の手法としてのツーリズムの意義を学びます。グローバルな視点から、ツーリズムを通して、地球環境や地域づくりの問題を考えていきます。</p> <p>なお、サステイナブル・ツーリズムには、途上国におけるエコツーリズム、エスノツーリズムなども含まれますが、本講義では、主として、先進国におけるサステイナブル・ツーリズムを取り上げます（他の講義との重複をさけるため）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. マスツーリズムとサステイナブルツーリズム 3. 開発と持続可能性概念 4. 開発と持続可能性概念（続き） 5. 地球環境問題 6. 自然・環境思想（国立公園・ナショナルトラスト・世界遺産） 7. エコツーリズム（歴史と概説） 8. エコツーリズムと野生動物保護（マレーシアの事例） 9. エコミュージアム（歴史と概説） 10. LOHAS（ロハス）と観光 11. 欧米のグリーンツーリズム 12. 日本のグリーンツーリズム（歴史・背景・展開） 13. グリーンツーリズムの二面性と矛盾 14. アクセシブル観光（ユニバーサル交流） 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはなし。 参考文献は適宜紹介。</p>		<p>期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。</p>	

09年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 今や、ツーリズムの重要な担い手であり、地域の文化交流や産業経済に刺激を与え、地域の活性化に貢献する国際会議やイベントについて学習する。</p> <p>講義概要 なぜ人は集うのか、その核心部分を探ることから始まり、国際会議やイベントとは何か、歴史的経緯、現状と市場を考える。 又、代表的な事例を取り上げ、その運営、仕組みや旅行業、宿泊業を含む観光関連産業との関連性を学ぶことにより、国際会議やイベントが現代社会における重要な役割を担っていることを理解する。 併せて、イベント・コンベンション推進機関や制度、課題と将来の展望についても学習する。</p> <p>講義では、旅行業界、航空業界等々観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要 2. イベント・コンベンションの発生と発展 3. イベント・コンベンションとは① 4. イベント・コンベンションとは② 5. 世界と日本のイベント・コンベンション動向 6. イベント・コンベンションの仕組みと実務① 7. イベント・コンベンションの仕組みと実務② 8. イベント・コンベンション産業① 9. イベント・コンベンション産業② 10. イベント・コンベンションの施設と付帯設備 11. コンベンション・ビューローの役割と機能 12. イベント・コンベンションの推進機関 13. イベント・コンベンションの課題と展望 14. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：イベント&コンベンション概論（JTB能力開発）その他は適宜指示する。</p>		<p>試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。</p>	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 観光政策と行政、観光に関する政府の具体的な施策、行政組織や「観光立国推進基本法」を学習することにより「観光立国」を目指す観光政策への理解を深める。</p> <p>講義概要 国際観光推進による外貨獲得と国際理解の増進は、わが国のみならず諸外国においても重要な国の政策である。観光現象は経済的、政治的、文化的に強い影響力を社会に及ぼし、近年は自然景観や環境との関係も注視されている。多様で影響力の強い観光現象に対して、国や地方自治体等の行政機関がどう関わるかはそれぞれの観光政策に基づいていることを理解する。 わが国の観光政策を明治時代から現代まで、それぞれの時代の状況に応じてどんな政策が講じられたかを学ぶことにより、なぜ今、観光立国を国策とすることの意味を認識する。併せて、観光行政組織や関連法規についても学習する。</p> <p>講義では、旅行業界、航空業界等々観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。</p>		<p>講義の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観光政策とは 2. 観光政策の課題①国際観光の推進・外貨獲得・国際理解 3. 観光政策の課題②国民の余暇と観光の健全な発展 4. 観光政策の課題③地域振興としての観光開発 5. 観光政策の変遷①明治時代・大正時代の観光政策 6. 観光政策の変遷②昭和時代の観光政策（戦前・戦後） 7. 観光政策の変遷③昭和時代の観光政策（海外旅行自由化と促進策） 8. 観光政策の変遷④昭和時代の観光政策（貿易外収支改善とテンミリオン計画） 9. 観光政策の変遷⑤昭和時代の観光政策（総合保養地整備法と内需拡大） 10. 現代の観光政策①観光立国推進とV J C 11. 現代の観光政策②観光立国推進基本法 12. 観光の行政組織・観光庁と政府観光局 13. 観光の関連法規 14. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：観光学入門（岡本伸之）有斐閣、観光行政と政策（進藤敦丸）明現社、その他適宜指示する。</p>		<p>試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。</p>	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 ツーリズム産業におけるマネジメントの基本であるマーケティングの基本概念や、観光市場調査の方法、観光行動の分析、観光需要予測、商品企画等をマーケティングの側面より学習する。</p> <p>講義概要 ツーリズム産業のマーケティングに関して、需要予測、市場分析、環境分析、価格戦略、販売促進戦略等のマーケティング手法を基に、各分野の具体的な事例を検証する。旅行業では旅行ブランドの実態、ブランドの定義、機能、確立条件、旅行商品とブランド等、ブランドに焦点を絞り考察する。又、宿泊業、航空業、観光地のマーケティング戦略について学習し、ツーリズム産業におけるマーケティングの重要性を理解する。</p> <p>講義では、旅行業界、航空業界等々観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要 2. マーケティングの定義 3. 需要予測・ニーズとウォンツ 4. 購買意思決定プロセス 5. 市場分析・セグメンテーション 6. マーケティングの環境分析とは（SWOT分析） 7. 市場成長率・相対的市場 8. 旅行商品の流通チャネル 9. マーケティングと価格戦略 10. ブランド構築 11. 販売促進戦略 12. マーケティングリサーチ 13. マーケティングの社会的役割 14. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：観光マーケティング入門（森下昌美）同友館 その他、適宜指示する。</p>		<p>試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。</p>	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	高橋 利男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、「ツーリズムとメディアの係わり方」をテーマに、メディアを通して、ツーリズム産業を俯瞰（ふかん。高所から見渡すこと。）し、その動向全体を把握する中で、その課題と方向性について検討すること、さらにはその新たな潮流の可能性について考えることです。</p> <p>講義内容としては、旅行業及び航空・宿泊等の関連産業について、新聞・業界紙等のメディアを通して、企業の広報・広告、消費者（旅行者）ニーズ、地域活性化等の様々な視点から、事例研究します。</p> <p>海外旅行、国内旅行、訪日旅行及び新しいツーリズムの各分野にわたり幅広く事例を取り上げ、時にはその表面と裏面についても比較研究することにより、ツーリズム産業を展望するにあたり必要な様々な基礎知識を習得するとともに、課題考察力を養うことを主眼としています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. ツーリズム・広報から見たメディア(1) 3. ツーリズム・広報から見たメディア(2) 4. ツーリズム・広報から見たメディア(3) 5. ツーリズム・販売促進から見たメディア(1) 6. ツーリズム・販売促進から見たメディア(2) 7. ツーリズム・販売促進から見たメディア(3) 8. メディアから見たツーリズム(1) 9. メディアから見たツーリズム(2) 10. メディアから見たツーリズム(3) 11. 業法・約款から見たツーリズム(1) 12. 業法・約款から見たツーリズム(2) 13. 業法・約款から見たツーリズム(3) 14. 講義のまとめ (日次の順序は前後します) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
新聞・業界紙等の記事コピー等		評価方法：期末定期試験（80%）＋平常授業における課題レポート等（20%）＝100点満点	

09年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>食べ物は私達にとって、もっとも身近で不可欠なものです。この授業では「食」という視点から、人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。</p> <p>現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみあることもあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。</p> <p>このような現状を踏まえ、「文化としての食」を手がかりとして、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えていきたいと思っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 文化を捉える視点：伝統・近代・グローバル化 3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』（予定） 4. 伝統の変容と越境（日本食、中華料理、エスニック料理などを例に） 5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6. 現代人の食：「マクドナルド化」概念を手がかりに 7. 現代のフードシステム：外食と中食（なかしょく） 8. 自給率問題とフードマイレージ 9. 食とグローバリズム（ビデオ『キング・コーン』） 10. 食とナショナリズム（捕鯨、コメ問題） 11. 食育と学校 12. フェアトレードの展開と現状 13. 有機農業運動、スローフード運動 14. 地球社会と「食」：食料廃棄物、食糧援助 15. まとめ：食の「再ローカル化」(re-localization)をめぐって 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介。		期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。	

09年度以降	交流文化論（パフォーマンス研究）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] パフォーマンスをより広い視野で捉え、トランスナショナルな立場から分析して、異文化理解に役立てる。</p> <p>[講義概要] 芸能・舞台芸術に限らず、世界のさまざまな地域の宗教儀礼や、国家の式典、オリンピックや万博などのイベント、ツアーリズム、日常生活におけるパフォーマンスなどについて、学際的に学ぶ。</p>		<p>第1回：イントロダクション 第2回：パフォーマンスとは何か 第3回：パフォーマンス研究とは何か 第4回：パフォーマンス研究の学問的構成 第5回：宗教祭祀の比較研究 第6回：世俗儀礼の比較研究 第7回：パフォーマンスと民族誌 第8回：パフォーマンスと遊戯 第9回：国際的パフォーマンス 第10回：アイデンティティとパフォーマンス 第11回：グローバリゼーションとパフォーマンス 第12回：演劇的パフォーマンスの比較研究 第13回：パフォーマンスとパフォーマンス・メディアリティ 第14回：パフォーマンスと現代思想 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：鈴木健・高橋雄一郎編著『クリティカル・カルチュラル・スタディーズ—パフォーマンス研究のキーワード』大阪、世界思想社、2010（予定）。 Richard Schechner, <i>Performance Studies: An Introduction</i>, New York: Routledge, 2006. 参考書：高橋雄一郎『身体化される知』東京、せりか書房、2005.</p>		<p>授業中に数回実施する小テストと、学期末に提出するレポートの合計による。</p>	

09年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業の目的は、グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の<u>越境現象の実際を知る</u>こと、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「<u>共生</u>」<u>概念の可能性を</u>考えること、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った複眼的な視点から、文化・社会・政治における諸現象を考えられるようになること、の3点です。</p> <p>21世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目し、グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。</p> <p>関連する理論・言説について講義するとともに、外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に取り上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 社会学とはどのような学問か 3. 国家と社会との関係、トランスナショナリズムとは 4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア 5. 国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路 6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム 7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本回帰 9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 11. アイデンティティ①：在日学生の手記（その1） 12. アイデンティティ②：在日学生の手記（その2） 13. 民際協力としての自治体国際協力 14. 学生研究に有用な調査方法 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはなし。参考文献は適宜紹介。主なものは以下のとおり。テッサ・モーリス鈴木『<u>辺境から眺める</u>』みすず書房、藤田結子『<u>文化移民</u>』新曜社、嘉本伊都子『<u>国際結婚論!?</u>』（歴史編・現代編）法律文化社、西川芳昭『<u>地域をつなぐ国際協力</u>』創成社</p>		<p>期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。</p>	

09年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討する。</p> <p>オルタナティブ・ツーリズムとは、ツーリズムの大衆化（マス・ツーリズム、近代観光）がもたらした、ホスト社会の生活文化や自然環境への弊害を克服するために登場したものである。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれてきた歴史的・社会的背景について概説する。そしてエコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどの「新しい」観光形態・開発実践について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考える。</p> <p>なお本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたい。その際に扱う地域は、主として東南アジア、ラテンアメリカ、オセアニアなどの非西洋地域が中心となる。</p> <p>なお、毎回小レポートを課すので、注意されたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明 2. オルタナティブ・ツーリズムの背景 3. ビデオ上映(ジャマイカの観光開発) 4. 場所性の商品化—アマンリゾーツの戦略 5. 環境主義の商品化—エコリゾート 6. 世界遺産と観光 1—ラオス・ルアンパバンの事例 7. 世界遺産と観光 2—中国・麗江の事例 8. ビデオ上映（バックパッカーの窮状） 9. 先住民と観光—北米イヌイトの事例 10. 先住民と開発—開発的遭遇 11. 先住民と環境主義 12. コミュニティ・ベース・ツーリズム 1—タイ北部の事例— 13. コミュニティ・ベース・ツーリズム 2—ソロモン諸島の事例— 14. まとめ・予備日 <p>(なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない		授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。	

09年度以降	交流文化論（メディア・ライティング論）	担当者	阿部 純一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「人に読ませる文章」を書くには、どのような訓練・思考・実践が必要なのかを論じる。マスコミ、メディア業界を志望する者のみならず、一般常識として必要とされる企画・起案書、報告書など、社会人として当然知識を備えているべき文書の書き方も講義する。実戦的な記事・文書執筆、その編集・校正・校閲などを、受講者に参加させる形で講義する。</p>		<p>実際の受講者数を見た上で授業のやり方・進め方を決める。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		未定（履修する学生の人数によって決定する）	

09年度以降	総合講座（グローバル化時代の人間形成①）	担当者	コーディネーター 工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講座は、人・モノ・カネ・情報等が国境を越えて移動することと、学習を通して人間が形成されることの両者の関係について、個人の成長や人生設計といったミクロな次元から、国家や国際組織にとっての人材の獲得や育成といったマクロな次元までを幅広く考察します。本学の建学理念である「学問を通じての人間形成」を、異なる文化や言語が交錯するグローバルな文脈に置くことにより、受講生の自己内省、特に、大学で学ぶことの意味の再構築に役立てればと考えています。</p> <p>本講座は、オムニバス形式です。各担当講師には自身の研究者・教育者・実務者・生活者としての経験から、独自にグローバル化や人間形成について語っていただきます。「グローバル化」とはそもそも何なのか？いつごろ始まったと言えるのか？「グローバル化時代を生きる」ためには何か特別な知的・身体的営為が必要なのか？「グローバル化」が多くの人に唱えられることによって（キャリア形成や人材育成などを含む）「人間形成」にどのような意味が生まれているのか？または、消えているのか？</p> <p>様々な分野の専門家の話に耳を傾けながら、「今ここにいる自分」を相対化するのに役立ててください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 工藤和宏（コーディネーター）導入 2. 木村佐千子（独語学科）ナチス・ドイツと音楽家たち 3. 林部圭一（独語学科）歌人ヴァルター・フォン・デア・フォーゲルヴァイデ 4. 浅岡千利世（英語学科）グローバル化時代の外国語教育と学習者のアイデンティティ 5. 北野収（交流文化学科）フェアトレードの誕生——ヴァンデルホフ神父の半生から 6. 杉山晴信（英語学科）法規範としての“Plain English”と消費者保護の思想 7. 田中善英（仏語学科）ことばを守るということ 8. 佐野康子（英語学科）グローバル社会の中の東アフリカ 9. 橋本博子（モナシユ大学人文学部）グローバル化と留学交流 10. 阿部仁（一橋大学国際教育センター）「異文化」を理解する 11. 堀越喜晴（明治大学政治経済学部）バリアオーバーコミュニケーション——コミュニケーションの本質を考える 12. 工藤和宏（英語学科）獨協大学と留学生——学生交流促進の試みから学んだこと 13. 原成吉（英語学科）詩と禅とエコロジーから見た環太平洋文化 14. 太田浩（一橋大学国際教育センター）グローバル化と高等教育——国境を跨ぐ学生と大学の動向 <p>*担当講師の都合により、変更になる場合があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当講師より紹介されます。（コーディネーター推薦図書：アマルティア・セン（2009）『グローバリゼーションと人間の安全保障』日本経団連出版。）		学期末試験の結果に平常点を加味した総合評価。（平常点は主として毎回のコメントカードの質にて評価されます。）	

09年度以降	総合講座（グローバル化時代の人間形成②）	担当者	コーディネーター 工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講座は、人・モノ・カネ・情報等が国境を越えて移動することと、学習を通して人間が形成されることの両者の関係について、個人の成長や人生設計といったミクロな次元から、国家や国際組織にとっての人材の獲得や育成といったマクロな次元までを幅広く考察します。本学の建学理念である「学問を通じての人間形成」を、異なる文化や言語が交錯するグローバルな文脈に置くことにより、受講生の自己内省、特に、大学で学ぶことの意味の再構築に役立てればと考えています。</p> <p>本講座は、オムニバス形式です。各担当講師には自身の研究者・教育者・実務者・生活者としての経験から、独自にグローバル化や人間形成について語っていただきます。「グローバル化」とはそもそも何なのか？いつごろ始まったと言えるのか？「グローバル化時代を生きる」ためには何か特別な知的・身体的営為が必要なのか？「グローバル化」が多くの人に唱えられることによって（キャリア形成や人材育成などを含む）「人間形成」にどのような意味が生まれているのか？または、消えているのか？</p> <p>様々な分野の専門家の話に耳を傾けながら、「今ここにいる自分」を相対化するのに役立ててください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 工藤和宏（コーディネーター）導入 2. 横地卓哉（仏語学科）グローバル化——負の側面 3. 古田善文（独語学科）グローバル化の波に翻弄される統一 20年後のドイツ 4. 若森栄樹（仏語学科）ヨーロッパから見たグローバリゼーション 5. 渡部重美（独語学科）ゲーテのイタリア旅行——詩人再生の旅 6. 田村毅（仏語学科）海を渡る女神たち——地中海文化圏の拡大と神話の習合 7. 鍋倉健悦（英語学科）自己成長と幸福 8. 日野克美（交流文化学科）ジョークを通しての人間観と国際関係 9. 山本淳（独語学科）ブルーノ・タウトと日本 10. 菅野直樹（防衛省防衛研究所）歴史研究所の所産と意義 11. 工藤和宏（英語学科）グローバル JAPAN、「日本人論」と日本の若者 12. A. Zollinger（英語学科）Teriyaki Beef and Rainbow Rolls: The Globalization of Japanese Cuisine 13. 柿沼義孝（独語学科）外国語学習と日本の伝統文化 14. 工藤和宏<総括>〇〇時代の人間形成——50年後の「私（たち）」 <p>*担当講師の都合により、変更になる場合があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当講師より紹介されます。（コーディネーター推薦図書：アマルティア・セン（2009）『グローバリゼーションと人間の安全保障』日本経団連出版。）		学期末試験の結果に平常点を加味した総合評価。（平常点は主として毎回のコメントカードの質にて評価されます。）	

03年度以降	総合講座（EUの歴史と現状2）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、戦前から今日までの欧州統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つEU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とします。</p> <p>地域統合の歴史的前例としてのEUについて学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、東アジア経済統合という課題をめぐる今日の日本とアジアの関係について考えるためのヒントにもなるでしょう。</p>		<p>講義の主な内容は以下のとおりです：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 第2次大戦以前のヨーロッパ構想 3~4. 戦後復興～1980年代 5~6. マーストリヒト条約以降のEU 7~8. EUの制度 9~11. EUの諸政策 12. 英・独・仏とEU 13. EU域外との関係 14. まとめ：EUの現在の課題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし</p> <p>参考文献：授業の際に指示します。</p>		<p>授業における小テスト（3回程度実施、30%）と期末レポートまたは試験（70%）</p>	

03年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要と目標、情報科学とは 2 データ表現、基数変換、論理演算 3 コンピュータの構成要素 4 ソフトウェアの役割、体系と種類 5 オペレーティングシステム (OS) OSの基礎概念、OSの役割と原理 6 プログラム言語 コンピュータ言語の分類と目的 7 データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木 8 アルゴリズム—アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9 コンピュータによる言語情報処理技術 (1) 10 コンピュータによる言語情報処理技術 (2) 11 機械翻訳システムの演習 12 自然言語質問応答システム 13 インターネット上の多言語処理技術 14 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

03年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [総合]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件: 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論 (情報処理演習)」の各科目、および [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [総合]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件: 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論 (情報処理演習)」の各科目、および [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [英語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件: 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論(情報処理演習)」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word(1) 4. Word(2) 5. Word(3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel(1) 9. Excel(2) 10. Excel(3) 11. PowerPoint(1) 12. PowerPoint(2) 13. PowerPoint(3) 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [英語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件: 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論(情報処理演習)」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word(1) 4. Word(2) 5. Word(3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel(1) 9. Excel(2) 10. Excel(3) 11. PowerPoint(1) 12. PowerPoint(2) 13. PowerPoint(3) 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[入門] 情報科学各論(情報処理演習) [ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件: 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論(情報処理演習)」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word(1) 4. Word(2) 5. Word(3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel(1) 9. Excel(2) 10. Excel(3) 11. PowerPoint(1) 12. PowerPoint(2) 13. PowerPoint(3) 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[入門] 情報科学各論(情報処理演習) [ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件: 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論(情報処理演習)」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word(1) 4. Word(2) 5. Word(3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel(1) 9. Excel(2) 10. Excel(3) 11. PowerPoint(1) 12. PowerPoint(2) 13. PowerPoint(3) 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要: この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件: 2008年度以前に「情報科学各論 (初級 表計算入門) (初級 プレゼンテーション入門) (中級 プレゼンテーション)」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)」を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数が増えることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要: この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件: 2008年度以前に「情報科学各論 (初級 表計算入門) (初級 プレゼンテーション入門) (中級 プレゼンテーション)」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)」を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数が増えることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008 年度に「情報科学各論 (中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008 年度に「情報科学各論 (中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるため、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

03年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるため、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

03 年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論 (HTML 入門) (HTML 応用 1) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論 (HTML 入門) (HTML 応用 1) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	情報科学各論(HTML 中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人 (FTP の理解を含む) を対象」に、一方の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、<u>ガイダンスには必ず出席すること。</u> 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTML と FTP の復習 (1) 3 HTML と FTP の復習 (2) 4 インタラクティブなページ (HTML と CGI) 5 プログラミングの基礎知識 6 JavaScript (1) 7 JavaScript (2) 8 JavaScript (3) 9 JavaScript (4) 10 JavaScript (5) 11 CGI の利用 12 総合課題 (1) 13 総合課題 (2) 14 鑑賞・報告会 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。</p>		<p>授業中に作成する課題と平常点 (課題の途中経過を含む) で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。 最低限のルールやマナー (禁飲食等) を守れない場合は、失格を含め厳しく対応します。</p>	

03年度以降	経済原論 a	担当者	井上 智弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要： 経済学を初めて学ぶ学生を対象として、経済学の基礎的な理論について講義する。春学期は、家計に代表される消費者と企業に代表される生産者の行動に焦点を当てるミクロ経済学の基礎理論について説明する。また、受講生の理解を測るために、講義中に問題演習や小テストを行う。講義は右の授業計画に沿って行う予定であるが、小テストの結果等を踏まえて、計画を一部変更する可能性はある。</p> <p>講義目的： ミクロ経済分析を行う上で、必要不可欠な基礎理論の習得を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学とは何か 2. 需要と供給 ① 3. 需要と供給 ② 4. 消費者行動 ① 5. 消費者行動 ② 6. 消費者行動 ③ 7. 生産者行動 ① 8. 生産者行動 ② 9. 生産者行動 ③ 10. 余剰分析 11. 価格規制、数量規制、課税の影響 12. 不完全競争 ① 13. 不完全競争 ② 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。		定期試験と講義内で行う小テストの成績で評価する。	

03年度以降	経済原論 b	担当者	井上 智弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要： 経済学を初めて学ぶ学生を対象として、経済学の基礎的な理論について講義する。秋学期は、一国全体の経済に焦点を当てるマクロ経済学の基礎理論について説明する。また、受講生の理解を測るために、講義中に問題演習や小テストを行う。講義は右の授業計画に沿って行う予定であるが、小テストの結果等を踏まえて、計画を一部変更する可能性はある。</p> <p>講義目的： マクロ経済分析を行う上で、必要不可欠な基礎理論の習得を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の全体像 2. 国民経済計算と GDP (国内総生産) 3. 国民所得の決定メカニズム ① 4. 国民所得の決定メカニズム ② 5. 財政政策 6. 貨幣の機能 ① 7. 貨幣の機能 ② 8. 金融政策 9. IS-LM 分析 ① 10. IS-LM 分析 ② 11. 物価変動と失業 ① 12. 物価変動と失業 ② 13. 経済成長 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。		定期試験と講義内で行う小テストの成績で評価する。	

